提出　令和６年９月

事後調査報告書（工事の施行中その 2）
ー(仮称)神宮外苑地区市街地再開発事業ー

調査項目　生物・生態系（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列））、自然との触れ合い活動の場、廃棄物

環境影響評価書の提出　　令和5年 1月10日
事後調査計画書の提出　　令和5年 1月17日

1.　事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

1.1　事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

名　称：三井不動産株式会社
代表者：代表取締役社長　植田 俊
所在地：東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

名　称：宗教法人明治神宮
代表者：宮司　九條　道成
所在地：東京都渋谷区代々木神園町1番1号

名　称：独立行政法人日本スポーツ振興センター
代表者：理事長　芦立　訓
所在地：東京都新宿区霞ヶ丘町四丁目1番

名　称：伊藤忠商事株式会社
代表者：代表取締役　小林　文彦
所在地：東京都港区北青山二丁目5番1号

1.2　代表する事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

名　称：三井不動産株式会社
代表者：代表取締役社長　植田 俊
所在地：東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

2. 対象事業の名称及び種類

名　称：(仮称)神宮外苑地区市街地再開発事業

種　類：高層建築物の新築、自動車駐車場の設置

3. 対象事業の内容の概略

本事業は、東京都港区北青山一丁目、北青山二丁目、新宿区霞ヶ丘町の各一部に位置する計画地面積約 174,700㎡の土地に、スポーツ施設、オフィス、商業、宿泊施設、駐車場等を主要な用途とする建築物を計画するものである。

対象事業の内容の概略は、表-1 に、建築計画の概要は、表-2 に、計画地の位置は、図-1 に、現況図は、図-2 に示すとおりである。

また、配置計画は、図-3 に、断面図は、図-4(1)～(4)に、緑化計画は、図-5 及び表-3 に示すとおりである。

表-1　対象事業の内容の概略

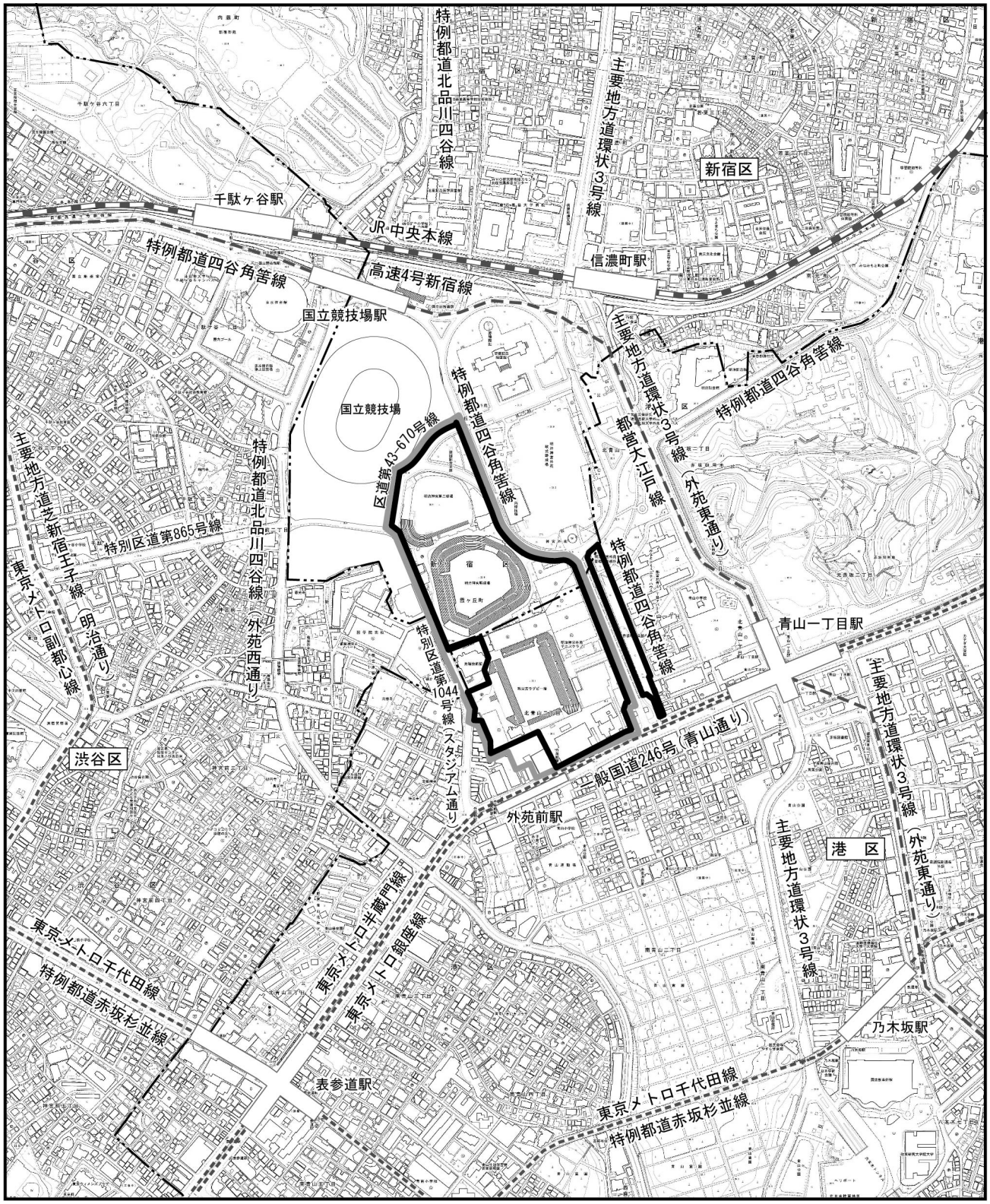
項　　目	内　　容
計　画　地	東京都港区北青山一丁目、北青山二丁目、新宿区霞ヶ丘町の各一部
計画地面積	約174,700㎡
延床面積	約565,000㎡
最高高さ	約190m
主要用途	スポーツ施設、オフィス、商業、宿泊施設、駐車場等
駐車台数	約1,070台
工事予定期間	2023年～2035年（令和5年～令和17年）
供用時期	2035年（令和17年）（全体供用予定）

注）今後、関係者協議等により変更になることがある。

表-2　建築計画の概要

項　　目	ラグビー場棟	複合棟A	複合棟B	文化交流施設棟	野球場棟及び球場併設ホテル棟	事務所棟
計画地面積	約174,700㎡					
延床面積	約76,700㎡	約127,300㎡	約30,300㎡	約2,000㎡	約115,700㎡	約213,000㎡
	合計　約565,000㎡					
最高高さ	約55m	約185m	約80m	約6m	約60m	約190m
主要用途	ラグビー場、文化交流施設、商業、駐車場等	オフィス、商業、駐車場等	宿泊施設、スポーツ関連施設、駐車場等	公園支援施設、商業等	野球場、宿泊施設、商業、駐車場等	オフィス、商業、駐車場等
階　　数	地上7階、地下1階	地上40階、地下2階、塔屋1階	地上18階、地下1階、塔屋1階	地上1階	地上14階、塔屋1階、地下1階	地上38階、地下5階
構　　造	RC造、SRC造、S造	S造、SRC造	S造、SRC造	S造、SRC造	RC造、SRC造	S造、SRC造
駐車台数	合計　約1,070台					

注）今後、関係者協議等により変更になることがある。



凡　例

- 計画地
- 神宮外苑地区地区計画に定める神宮外苑地区（b区域）の範囲
- 区界

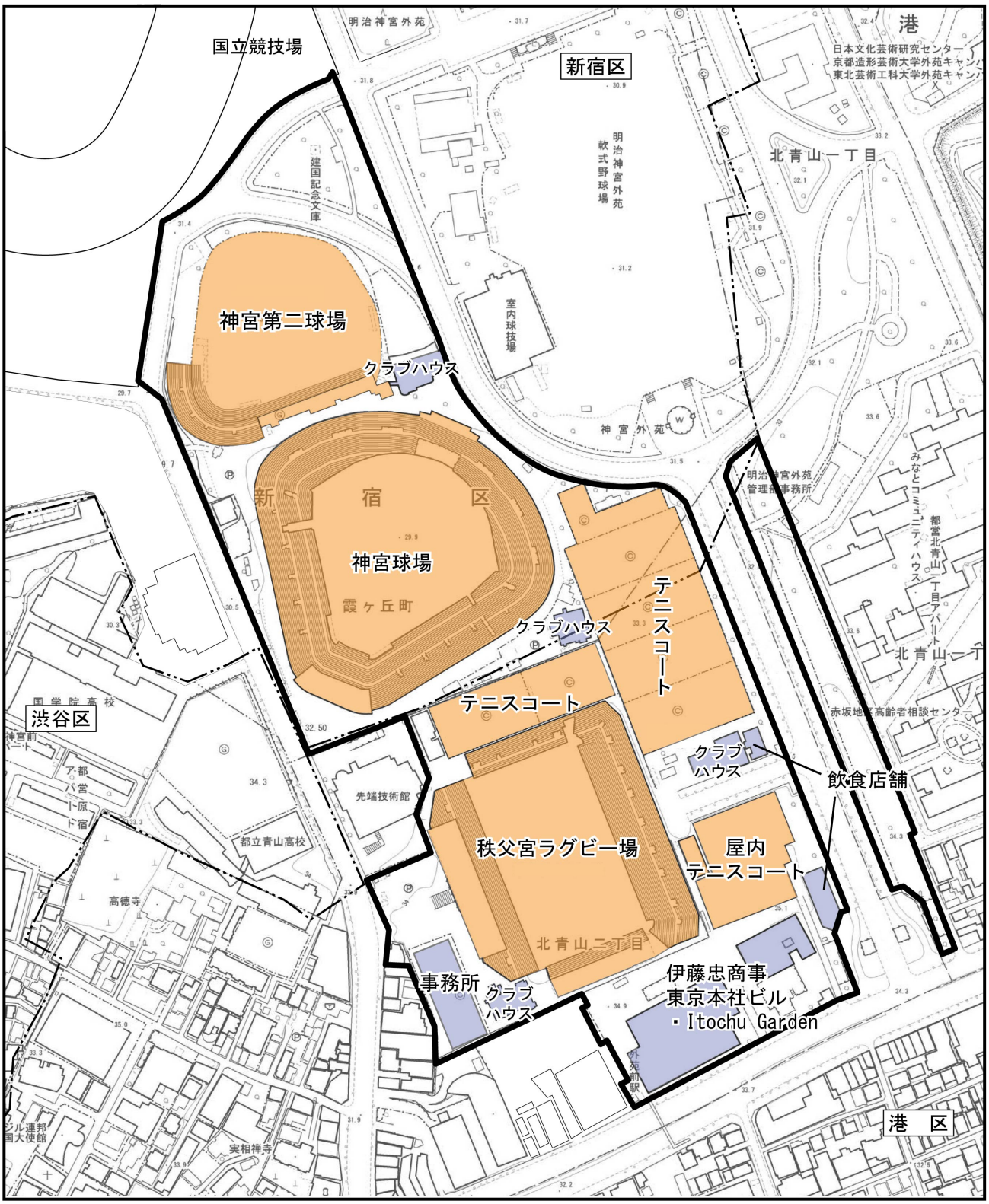
注）b区域とは、神宮外苑地区地区計画に定めた、神宮外苑地区内の緑豊かな風格ある都市景観を保全しつつ、スポーツクラスターと魅力ある複合市街地を実現することを目標に、既存スポーツ施設で現在行われている競技の継続に配慮しながら、関係者が相互に連携・協力してまちづくりを進める区域。

N

S＝1／12,000

0　100　200　300m

図-1　計画地位置図



凡　例

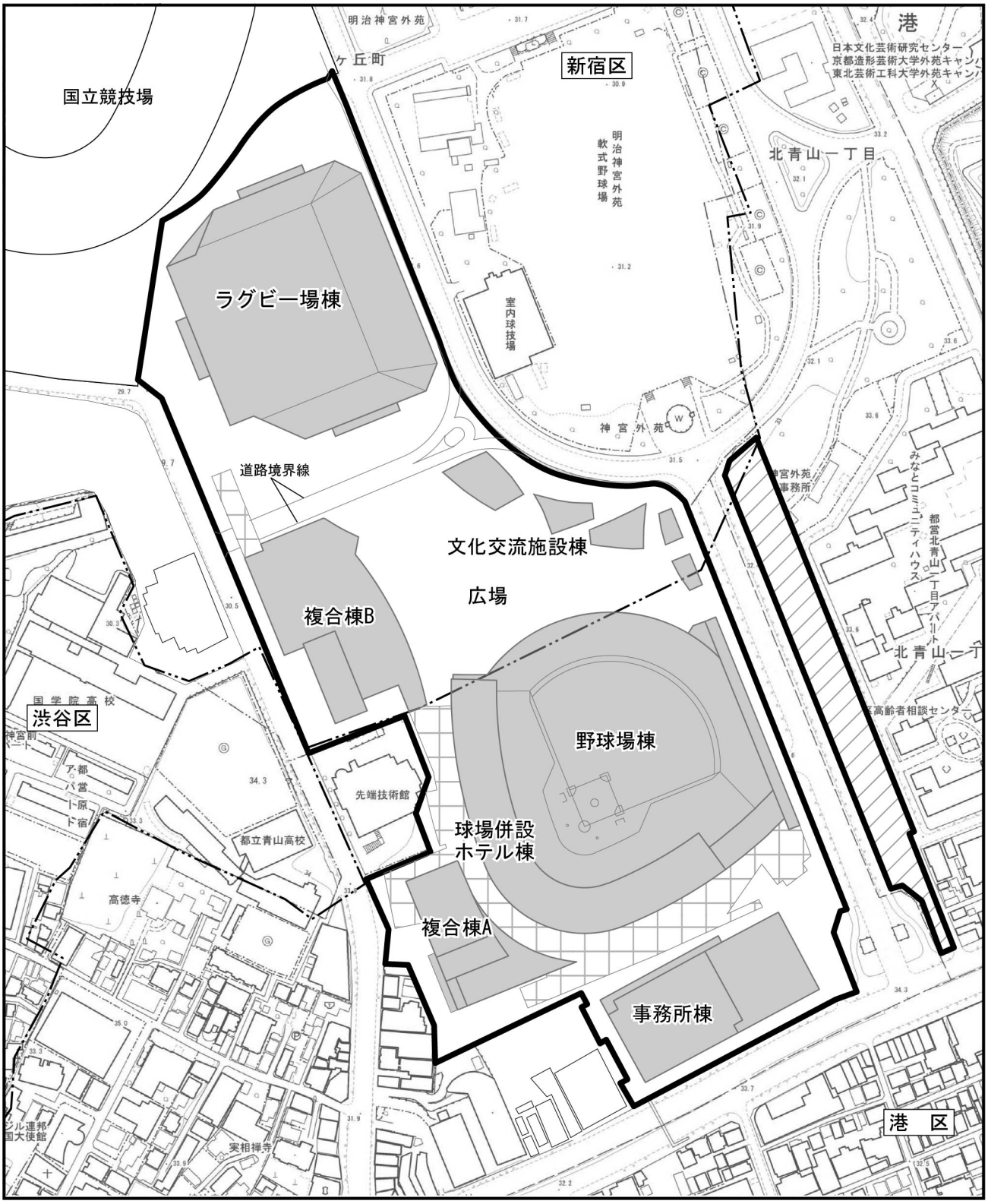
- 計画地
- 区界
- スポーツ施設
- スポーツ施設以外の施設

N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

図-2　現況図



凡　例

- 計画地
- 区界
- 建築物
- デッキ
- 緑地

注）計画については今後変更の可能性がある。

N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

図-3　配置計画図

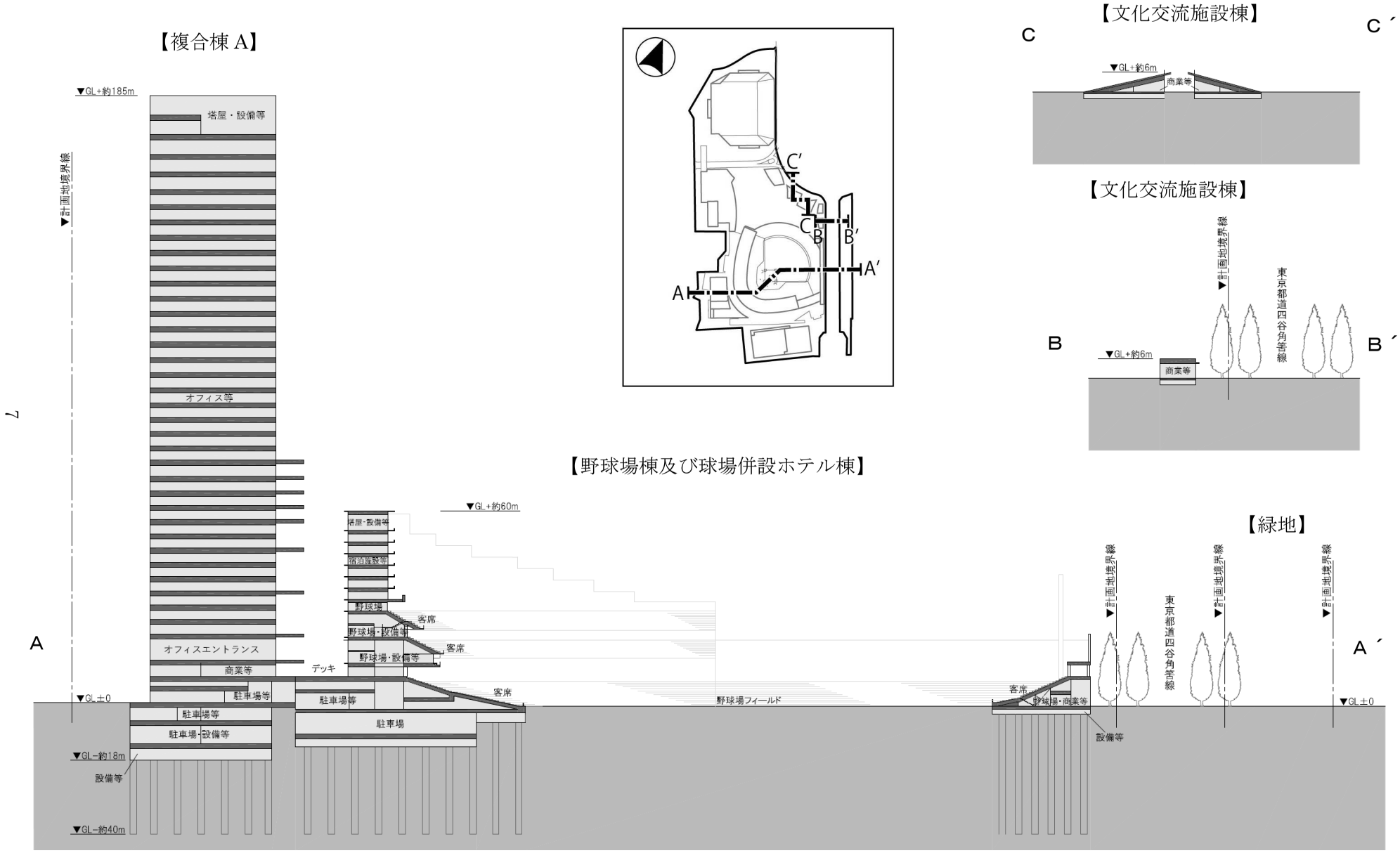
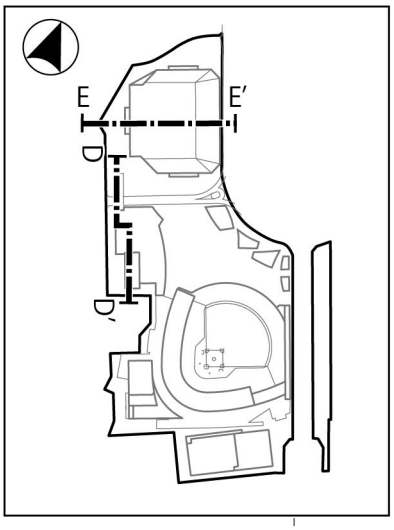


図-4(1)　断面図(A-A'、B-B'、C-C')　　S=1/1,600



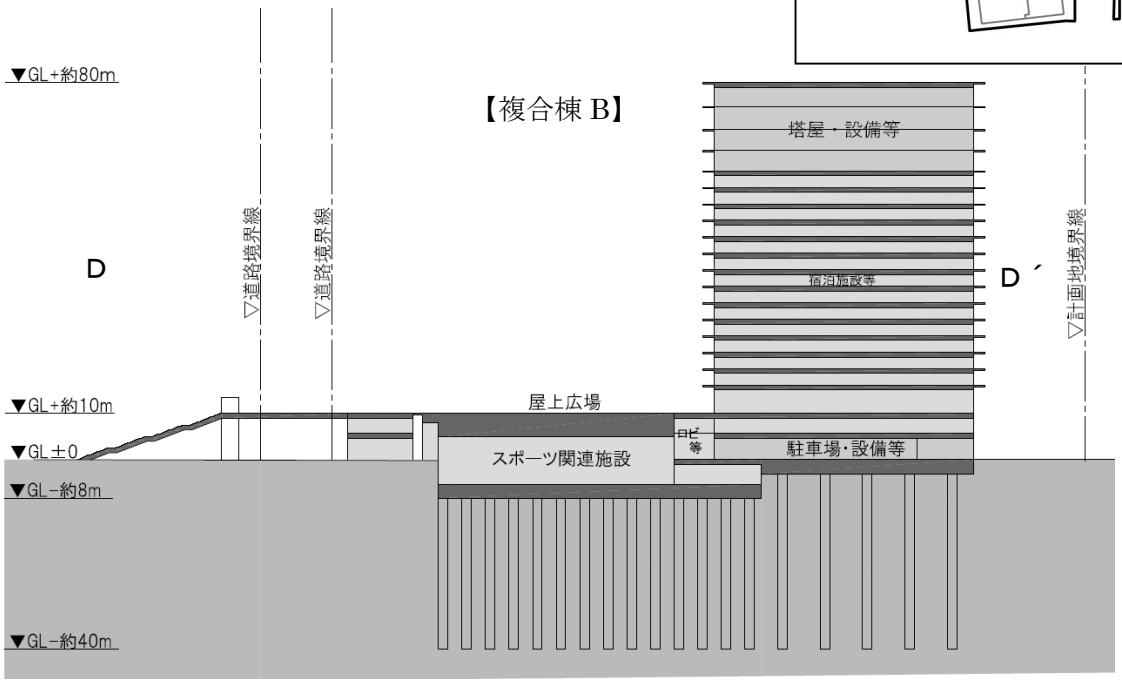


図-4(2)　断面図(D-D')　　S=1/1,600

【ラグビー場棟】

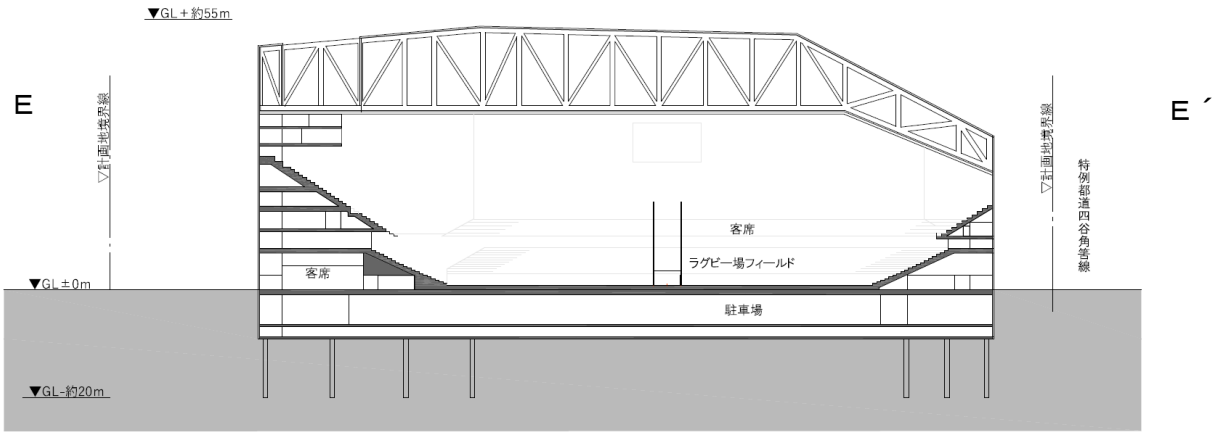
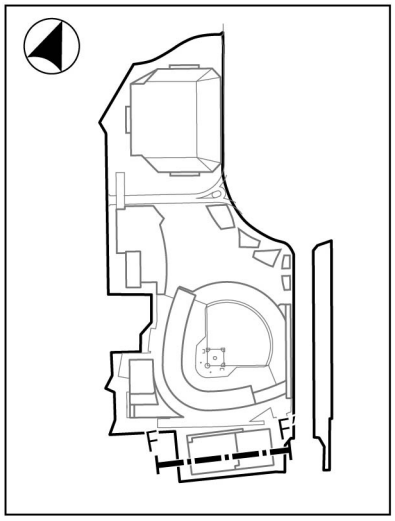


図-4(3)　断面図(E-E')　　S=1/1,600



【事務所棟】

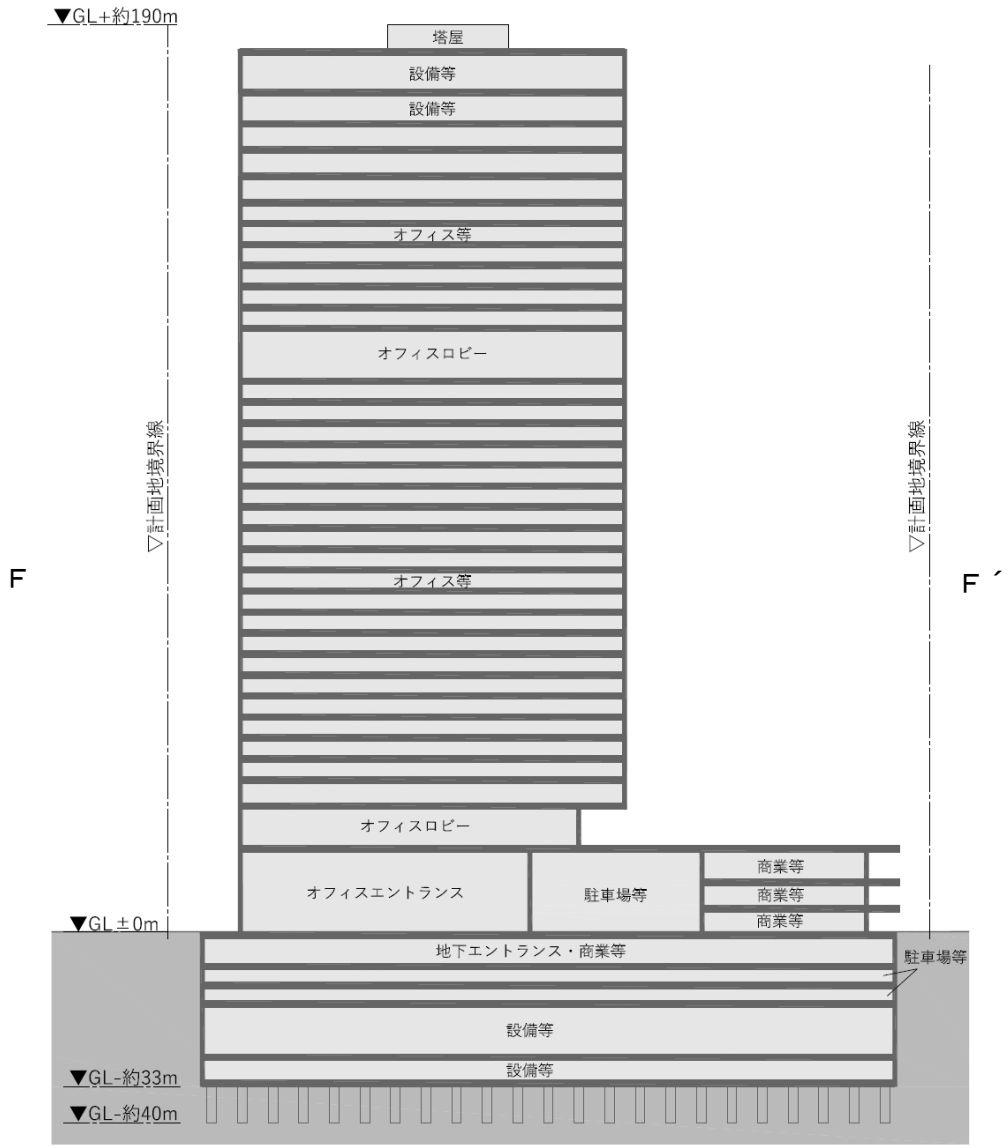


図-4(4)　断面図(F-F')　　S=1/1,600

凡　例

- 計画地
- 区界
- 地上部緑化（既存または移植）
- 地上部緑化（既存）注1)
- 地上部緑化（新規）
- 屋上緑化
- 芝生

N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

注1）既存のみどりを活用した緑地（並木東側）エリア。
注2）計画については今後変更の可能性がある。

図-5　緑化計画図

表-3　計画緑化面積及び必要緑化面積

根拠法令	計画緑化面積	必要緑化面積
「港区みどりを守る条例」	【緑化面積】 約 29,032m^2 注 2) 【地上部緑化面積】 約 18,554m^2 注 2) 【接道部緑化延長】 約 720m	・基準緑化面積 約 25,892m^2 ・基準接道部緑化延長 約 665m
「新宿区みどりの条例」	【緑化面積】 約 9,217m^2 【地上部緑化面積】 約 6,546m^2 【接道部緑化延長】 約 503m	・基準緑化面積 約 9,036m^2 ・基準接道部緑化延長 約 446m
「東京都都市開発諸制度に基づく再開発等促進区の緑化基準」 「東京 2020 大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」	【合計緑化面積】 約 31,701m^2 【建築物上緑化面積】 約 9,311m^2 注 1) 【地上部緑化面積】 約 22,390m^2	・合計緑化基準面積 約 29,423m^2 ・建築物上緑化基準面積 約 12,169m^2 ・地上部緑化基準面積 約 17,254m^2
「東京都風致地区条例による緑化基準」	【合計緑化面積】 約 30,705m^2 【建築物上緑化面積】 約 1,128m^2 【地上部緑化面積】 約 29,577m^2	・合計緑化基準面積 約 23,568m^2

注 1）東京都市開発諸制度に基づく再開発等促進区の緑化基準については、合計緑化面積が基準に適合しているかで判断される。
注 2）計画地全体の緑化面積を記載しているため、港区みどりを守る条例の対象とならない並木東側敷地の緑地面積も含む。
注 3）計画については今後変更の可能性がある。

4. 事後調査の結果

本事後調査は、工事施行中の令和5年2月から令和6年4月末までの生物・生態系（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4列））、自然との触れ合い活動の場、廃棄物の調査結果である。調査結果の概略を以下に示す。

4.1 生物・生態系

(1) 既存樹木の状況

計画地全体の既存樹木の状況については、下記の 1)～4)に示すとおりである。なお、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び4列いちょう並木の状況については、「(2)神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況」「(3)いちょう並木の保全状況（4列)」に記載のとおりである。

1) 既存樹木の本数

既存樹木の本数は、存置が 599 本、移植が 189 本、移植検討が 19 本、伐採が 532 本、枯損等が 42 本、合計 1,381 本である。既存樹木については本事業による伐採や移植を行っていないが、枯損等（立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木）により評価書の予測結果（存置が 615 本、移植が 191 本、移植検討が 19 本、伐採が 556 本、合計 1,381 本）より存置、移植、伐採予定の本数が減少している。

2) 既存樹木の活力度

既存樹木全体の活力度調査の結果は、活力度 A が 257 本、活力度 B が 978 本、活力度 C が 97 本、活力度 D が 7 本、枯損等が 42 本、合計 1,381 本である（表 1-9 参照)。活力度 A は「正常なもの」であり、活力度 B は「普通、正常に近い」ものであり、どちらも正常な状態の樹木である。活力度調査の結果は A や B の本数が多く、概ね良好である。

予測結果との比較については、評価書の調査結果のうち、樹勢等に関する調査と合わせて葉についての調査を行っている 2019 年春季調査と事後調査結果の比較を行った。既存樹木全体の活力度は活力度 A が 112 本減少、活力度 B が 81 本増加、活力度 C が 8 本減少、活力度 D が 3 本減少、枯損等が 42 本発生している。評価書の調査結果に対して活力度が変化した要因としては、「(3)いちょう並木の保全状況（4 列)」）に示すとおり、ほとんどがいちょうの活力度変化によるものと考えられる。

上記のうち移植樹木の活力度調査の事後調査結果は、活力度 A が 73 本、活力度 B が 114 本、活力度 C が 2 本、合計 189 本である。また、枯損等が 2 本発生している。2019 年春季調査と比較すると、活力度 A が 5 本増加、活力度 B が 8 本減少、活力度 C が 1 本増加、枯損等が 2 本発生している。

移植検討の樹木の活力度調査の事後調査結果は、活力度 A が 7 本、活力度 B が 12 本、合計 19 本である。2019 年春季調査と比較すると、活力度 A が 9 本減少、活力度

B が 9 本増加している。

3)　保全管理の状況及び保全管理方針

活力度 C や D など、樹勢が弱っている樹木に対して、施肥（2 年 1 回）を実施するとともに、害虫防除対策（キクイムシ侵入防除策）を実施している。

今後も保全管理方針として、樹勢が弱っている樹木に対して施肥の実施、定期巡回による病虫害被害状況を確認するとともに、病害防除対策の実施、定期剪定による樹木の生育環境の保全を実施する予定である。

4)　移植計画

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の移植予定樹木の仮移植先及び本移植先の計画について、「事後調査報告書（工事の施行中その 1)」で報告した計画を一部変更する。

ｱ) 変更の目的

樹木の保全を目的として、移植による樹木の負担を可能な限り軽減すべく移植回数を減らすため、聖徳記念絵画館前広場の計画を見直し、建物等の配置変更や規模を縮小することにより、「事後調査報告書（工事の施行中その 1)」で計画した移植場所に加えて新たに移植場所を確保することとした。これにより、移植回数が 1 回で済む本移植となる本数を増やし、樹木の保全を図ることとした。

ｲ) 移植時期

移植時期は、2024 年 10 月頃から開始し、落葉樹は 10 月～3 月頃、常緑樹は 3 月～6 月頃及び 9 月～11 月頃の移植に適した時期に行う計画である。

ｳ) 移植場所

神宮外苑広場（建国記念文庫）で根回しした樹木については、神宮外苑広場（建国記念文庫）内の北側や絵画館前及び神宮外苑広場（御観兵榎）へ本移植を行うとともに、神宮外苑苗圃へ仮移植する計画である。

神宮第二球場周辺で根回しした樹木については、ラグビー場棟敷地西側及び神宮外苑苗圃へ仮移植するとともに、絵画館前や神宮外苑広場（御観兵榎）及び絵画館周りへ本移植する計画である。

絵画館前及びラグビー場棟敷地西側については移植場所をまとまった範囲で確保し、植栽基盤としての植栽客土は面的に連続して敷設するよう計画する。既存樹群落内に移植するエリア（神宮外苑広場（御観兵榎)、絵画館周り）については、硬い土質が多いものの透水が良好で腐食も多い良質な土壌環境のため、根鉢径に対し余裕を持った植穴を確保したうえで、既存土壌とバーク堆肥を混合し埋め戻しを行う。

なお、神宮外苑苗圃とは、本事業に近接する場所に位置し、従来より明治神宮外苑の所有する樹木等の育成・管理が行われている苗圃である。

ｴ）移植本数及び樹種

移植樹木は、神宮外苑広場（建国記念文庫）の 44 本、神宮第二球場周辺の 50 本、合計 94 本を対象とする計画である。

移植樹木の樹種については、神宮外苑広場（建国記念文庫）内へヤエザクラ、モミジ、シラカシを、絵画館前へマテバシイ、シイノキ、ウバメガシ、ケヤキ、ヤマモモ、トウカエデ、シラカシ、フウ、クヌギ、クスノキ、ヒトツバタゴ、エノキを本移植する計画である。また、神宮外苑広場（御観兵榎）へヒトツバタゴ、シイノキ、カラタネオガタマ、モクセイ、サザンカ、モッコク、サンゴジュ、イヌグス、ツバキ、マテバシイ、ヤマモモを本移植する計画であり、絵画館周りにはシイノキ、ヤマモモを本移植する計画である。仮移植については、神宮外苑苗圃へヒトツバタゴを、ラグビー場棟敷地西側へマテバシイ、シイノキ、ケヤキ、サンゴジュ、コブシを仮移植する計画である。これらの樹種のうち、イヌグス（神宮外苑広場（御観兵榎））、ヤマモモ（絵画館前・神宮外苑広場（御観兵榎）・絵画館周り）、カラタネオガタマ（神宮外苑広場（御観兵榎））、クヌギ（絵画館前）を除く樹種については、移植先の現在の環境を維持するため、移植先に既に生育している樹種を移植する計画である。

ｵ）移植方法

移植方法としては、根回し周囲を掘削して畦シートを撤去し、環状剥皮を施した太根を切断しながら根巻きを行う。その後吊具をかける幹に麻布等を巻いて、樹木に傷が付かないように養生した上でクレーンにて吊り上げ、運搬用のトレーラー、トラックに積み込み、移植先まで運搬し、あらかじめ掘削しておいた植栽基盤植穴へクレーンにて吊り込み、植付けを行う。植付け後は十分に水極めを行い、根鉢高さまで客土を埋戻し、ワイヤー支柱等必要な支柱を設置する。なお、移植においては基盤ごと移植などの方法は行わず、一本ずつ根回しを行った上で移植する計画である。また、移植時の運搬に際し、必要と判断された剪定については、樹木医の立ち会い・指導の下クレーン、高所作業車を使用して剪定する計画である。

ｶ）移植にあたっての配慮事項

移植時の配慮事項としては、植栽基盤における蒸散抑制のため、稲藁によるマルチングを行うとともに、樹木支柱等の設置や、移植作業時に根鉢周辺を踏み固めないよう配慮する。神宮外苑広場（御観兵榎）への移植にあたっては、人の主要な動線には移植しないなどの踏み固め防止のための配慮を行う。移植後の樹木の管理においては、灌水と合わせて除草を行う。また、樹木医による毎年度のモニタリング（活力度調査）や、樹勢に変化がみられた場合の病虫害防除や液肥等の施用を実施

し、その状況について事後調査報告書で報告する。

なお、上記のとおり絵画館前へ本移植する樹木が増えたことにより、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りに移植予定の樹木が減少することとなる。しかしながら、神宮外苑広場（建国記念文庫）と同様の樹種を新植することにより、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹林及び生態系を復元する計画である。

(2) 神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場の移植樹木については、移植に向けて根回しを行っており、その状況は事後調査報告書（工事の施行中その 1）において報告を行った。

神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木については、活力度調査の結果、病虫害被害による樹勢の低下等により一部の樹木に枯損が生じているものの、根回しを行った樹木を含めて活力度は概ね良好であることを確認している。一部樹木の移植に備えた養生のため、仮囲いを設置し、閉鎖管理を行っている。養生の状況については、根鉢上に稲藁にてマルチング、養生を行うとともに、灌水を週 2 回実施している。これにより、根鉢周りの乾燥を防ぎ、土壌の温度調整を行っている。また、除草及び病害防除対策を適宜実施するとともに、巡回についても週 2 回実施している。

なお、保全エリア拡大の検討状況については、既存樹木の保全等に留意したデザインや配置、構造等を検討し設計を進めており、新ラグビー場敷地の既存樹木の伐採に着手する前までに、環境影響評価書で示した検討を行った結果としての樹木の保全に関する具体的な見直し案を示し、変更届として報告する。

(3) いちょう並木の保全状況（4 列）

1) いちょう並木の活力度等の状況

4 列いちょう並木の活力度調査は、事後調査計画では工事の施行中の毎年 6 月頃に調査を実施する予定であるが、2023 年については事後調査計画の調査計画を変更し、春（5 月）、夏（7 月）、秋（10 月）の 3 回調査を実施した。活力度の状況を詳細に把握するため、いちょう並木の景観を維持するため剪定をして樹形を整えている先端部（頂部）と、自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とした。

4 列いちょう並木の活力度は、2023 年 5 月時点では活力度 A（正常なもの）が 1 本、活力度 B（普通、正常に近い）が 125 本、活力度 C（悪化のかなり進んだもの）が 2 本、活力度 D（顕著に悪化の進んでいるもの）が 0 本であった。2023 年 7 月時点では活力度 A が 4 本、活力度 B が 119 本、活力度 C が 3 本、活力度 D が 2 本であった。2023 年 10 月時点では活力度 A が 52 本、活力度 B が 71 本、活力度 C が 1 本、活力度 D が 4 本であった。季節の異なる 3 回の調査で活力度が変化しているが、特に 5 月及び 7 月の調査結果を 2019 年春季調査と比較した場合、2019 年春季調査では活力度 A（正常なもの）が多い状態であったのに対し、5 月及び 7 月の調査では正常なもの、あるいは普通、正常に近い範囲の中で、活力度 B（普通、正常に近い）が多い状態へ変化している。この理由としては、2023 年春先の定期剪定による葉の出方の影響や、先端部（頂部）とそれ以外の部分（頂部以外）に分けてより詳細に調査を行った結果、活力度が変化したためと考えられる。その後 10 月に活力度 A が増加したが、枝葉の伸長、萌芽により樹勢が回復したためと考えられる。また、2019 年春季調査に比べて活力度 C や D が出現しているが、2023 年春先の定期剪定による葉の出方の影響や、2020 年代（2020 年～2023 年）の東京（千代田区）の 6 月～9 月の平均気温が過去 30 年間（1991 年～2020 年）に比べて 6 月は 1.4℃、7 月は 1.0℃、8 月は 1.7℃、9 月は 1.1℃上昇するなど、気候変動の影響等も考えられる。

4 列のいちょう並木のうち、東側 2 列は活力度 A または B である。西から 2 列目については概ね活力度 A または B であるが、西から 1 列目の一部で活力度 C または D が出現している。

活力度 C や D となっているいちょうは、他のいちょうと比較して落葉が早い状態であることを日常管理の際に認識しており、枝の伸長が短く、葉の褐変や葉が小さいなどの所見が確認されている。これらについて検査機関に照会した結果、原因は病虫害ではないことが確認されている。

活力度の低下したいちょうに対しては、いちょう周囲の灌水、液体肥料の施肥等を実施するとともに、4 列いちょう並木西側 1 列（縁石から約 10.5m まで）のうち秩父宮ラグビー場東側の港区道より北側部分について、下記に示す樹勢回復措置を実施した。

・ヘデラとの水分競合をなくすため、ヘデラを除去するとともに、土壌をほぐす等の土壌改良措置（水圧穿孔）を実施
・稲藁マルチングによる乾燥防止等の対応
・灌水装置の設置（4 列いちょう並木西側店舗前においては舗装ブロックを外し灌水装置を設置）
・埋設されている旧通路等を撤去し、根系域を確保
・4 列いちょう並木西側店舗テラス部分のインターロッキングを撤去し、根系への踏圧対策を目的とした浮き床構造のウッドデッキを設置

また、土壌水分の測定や成長量の把握及び樹勢回復措置に伴う効果の確認のため幹周を測定する観測装置（デンドロメーター）の設置を行い、定期的にモニタリングを実施するとともに、今後も活力度調査を継続して実施し、樹勢に応じた樹木の保育管理を継続し、保全していく計画である。

2)　根系調査

根系調査については、野球場棟の実施設計前に樹木医の判断を仰ぎながら根系調査を行い、その結果により設計者・施工者等と調整し、4 列のいちょう並木西側 1 列を保全するため詳細な建築計画及び施工計画の検討を行い、計画建物の地下躯体の配置をセットバックする等の配慮を行うこととしている。

今回根系調査を実施した結果、縁石から西側へ約 10.5m の位置で環状剥皮を実施する目安となる調査断面の 10 ㎝メッシュ内に直径 30㎜ 以上の根が 4 本以上ある箇所は見つからなかった。従って、環境影響評価書記載の判断基準に基づき、約 10.5m の位置で環状剥皮を行わなくても良いと判断できるが、4 列のいちょう並木の保全を最優先事項として、その根系への影響を最小限にしながらより良い生育環境を整えるため、環境影響評価書記載の判断基準に基づく約 10.5m の位置での根の切断は実施しないこととし、以下の更なる根の保全方針を検討した。

■更なる根の保全方針

今回の根系調査にて一部の調査地点及びその周辺で確認された太根（概ね直径 30㎜以上）のうち 5 本については、最大伸長範囲を確認するために追い掘りを実施した結果、地点 5 の直径 70 ㎜の太根が最も西側に伸長しており、その距離は縁石から約 22m であった。なお、当該根については、縁石から約 17m 以降の位置において、環状剥皮の実施の目安となる直径 30 ㎜より細くなることが確認され、また、その他の 4 本のうち、地点 3 と地点 10 の 2 本は西側への伸長が縁石から約 14～17m の位置までとなっていることが確認された。

4 列のいちょう並木の西側 1 列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、環境影響評価書においては約 8m としていたが、以上を踏まえ、いちょうの根系保全範囲は縁石から約 17m とし、約 17m 未満の位置に存在する根については

全て切断せずに保護する方針とする。

また、工事期間中の仮設工作物や地下躯体構築のための掘削、環状剥皮のための施工幅や更なる根系伸長余地を考慮し、野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体壁面位置は上記の約 17m からさらに約 1.3m 西側に設定する方針とする。

以上により、野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、環境影響評価書において約 8m としていた位置から更に約 10.3m セットバックし、約 18.3m となる。

なお、野球場棟の地下躯体の壁面位置セットバックに伴い、観客席の再配置などの見直しが必要となるため、施設計画については継続検討する。

■いちょうの保全のための具体策

1) 根系保全範囲である約 17m の位置で確認された根への対応

いちょうの根系保全範囲を縁石から約 17m に設定することに伴い、野球場棟や文化交流施設棟の着工の約 1 年前（2027 年予定）に、約 17m の位置での根の状況を手掘りにて確認し、事後調査報告書において報告する。手掘りの結果、根が確認された場合には、樹木医等と相談の上、折り曲げ可能な根があれば伸長方向を変え保存し、直径 30mm 以上の根は環状剝皮を行い、1 年後に切断する。直径 30mm 未満の根は、細根の発根を促すために鋭利に切断する。

根の環状剝皮及び切断の際には、発根促進剤や殺菌剤等の散布とその後の根系伸長域の確保を行う。

2) 土壌改良

4 列いちょう並木西側 1 列のある現植栽地の土壌については保全する。その西側の現在テニスコートとなっている土壌のうち、縁石から約 10.5m～17m の表層土（20～30 ㎝）については、良質客土に置換するとともに、養分や水分を吸収する根が多く分布する下層 1m まではいちょうの根を傷つけないように水圧式の土壌改良等を行う計画である。これにより、根系の伸長可能な領域を現在の緑地幅（約 10.5m）より 60～70%増加（約 18m）させることが可能となる。さらに、縁石から約 17m～18.3m の土壌について、バーク堆肥の施肥または良質客土への置換を行う。

3) 樹勢回復措置

4 列いちょう並木の西側 1 列（縁石から約 10.5m まで）のうち秩父宮ラグビー場東側の港区道より北側部分について、2023 年度の活力度調査結果を踏まえ、下記の樹勢回復措置を実施した。

・ヘデラとの水分競合をなくすため、ヘデラを除去するとともに、土壌をほぐす等の土壌改良措置（水圧穿孔）を実施
・稲藁マルチングによる乾燥防止等の対応
・灌水装置の設置（4 列いちょう並木西側店舗前においては舗装ブロックを外し灌水装置を設置）

・埋設されている旧通路等を撤去し、根系域を確保
・4 列いちょう並木西側店舗テラス部分のインターロッキングを撤去し、根系への踏圧対策を目的とした浮き床構造のウッドデッキを設置

上記のいちょうについて樹勢回復措置の効果を把握するため、以下の対応を行う。
・2024 年 4 月に 8 本のいちょうに対してデンドロメーターを設置済。デンドロメーターで幹周を測定することで、いちょうの生長量の把握及び樹勢回復措置に伴う効果を確認する。
・西側 1 列のいちょう付近において、定期的に土壌水分計による土壌水分を計測する。土壌水分の過剰・適湿・乾燥を把握し、灌水間隔・灌水量が適正かどうかを確認する。

また、毎年実施する 4 列いちょう並木の活力度調査結果を踏まえ、活力度の低下したいちょうを中心に、いちょう周囲の灌水、液体肥料の施肥や、必要に応じてヘデラ除去を実施するなど、樹勢に応じた樹木の保育管理を継続し、いちょうにとってより良い環境を作り、保全していく計画である。

4.2　自然との触れ合い活動の場

予測結果と同様に、神宮第二球場の解体工事のため、第二球場敷地への工事用車両の出入りはあるが、その周辺の歩道を閉鎖する際は、状況に応じて迂回路を設置するとともに交通整理員を配置し、歩行者の通行に支障がないように配慮している。

それ以外の場については、周辺の緑地や広場について改変は行われておらず、本事業により歩道の閉鎖は行っていないため、自然との触れ合い活動の場までの利用経路は確保されている。

以上のことから、予測結果のとおり、自然との触れ合い活動の場までの利用経路に著しい影響を及ぼしていないものと考える。

4.3　廃棄物

令和 6 年 4 月末時点では解体工事の途中段階であり、全ての解体工事が終了した時点で予測結果との比較を行うが、参考までに現時点で比較すると、建設廃棄物の総発生量は予測結果のコンクリート塊 150,560㎥、それ以外が 38,230t に対して事後調査結果がコンクリート塊 9,140㎥、それ以外が 126t であり、事後調査結果が予測結果を下回っている。

また、解体工事に伴い、石綿含有産業廃棄物が発生した。石綿含有産業廃棄物については、「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」（令和 3 年 3 月　厚生労働省、環境省）、「建築物の解体等に係る石綿（アスベスト）飛散防止対策マニュアル」（令和 4 年 3 月　東京都）等に基づき撤去し、適正に処分を行った。

5. その他

5.1 事後調査を実施した者及び受託者の名称、代表者の氏名並びに主たる事務所の所在地

［実施者］

名　称：三井不動産株式会社
代表者：代表取締役社長　植田 俊
所在地：東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

名　称：宗教法人明治神宮
代表者：宮司　九條　道成
所在地：東京都渋谷区代々木神園町1番1号

名　称：独立行政法人日本スポーツ振興センター
代表者：理事長　芦立　訓
所在地：東京都新宿区霞ヶ丘町四丁目1番

名　称：伊藤忠商事株式会社
代表者：代表取締役　小林　文彦
所在地：東京都港区北青山二丁目5番1号

［受託者］

名　称：株式会社　日建設計
代表者：代表取締役社長　大松　敦
所在地：東京都千代田区飯田橋二丁目 18 番 3 号

5.2 添付資料等一覧

5.2.1 事後調査結果

(1) 事後調査結果　生物・生態系（別紙 1）(p. 23～p. 82)
自然との触れ合い活動の場（別紙 2）(p. 83～p. 90)
廃棄物（別紙 3）(p. 91～p. 99)
(2) 環境影響評価手続等の状況(別添) (p. 101)
(3) 許認可の状況(別添) (p. 101)
(4) 工事及び事後調査の進捗状況(別添)　(p. 102～p. 113)
(5) 資料編 (p. 115～p. 316)

5.3 連絡先

名称：三井不動産株式会社
住所：東京都中央区日本橋室町 3-2-1
担当部署及び連絡先：神宮外苑地区まちづくり準備室　03-6695-0539

事後調査の結果

調 査 項 目：生物・生態系

予測した事項：植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列））

1. 調査地域

調査地域は、既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況については計画地内とし、いちょう並木の保全状況（4 列）については計画地内及び計画地周辺とした。

2. 調査手法

2.1 調査事項

(1) 予測した事項

1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列））

(2) 予測条件の状況

1) 緑地の保全状況
2) 計画地内の緑化の状況
3) 文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りの整備状況
4) 計画地周辺の緑地の分布状況

(3) 環境保全のための措置の実施状況

2.2 調査時点

(1) 予測した事項

1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列））

既存樹木の状況については、令和 5 年 4 月上旬～10 月下旬の期間とした。神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況については、令和 5 年 6 月上旬～令和 6 年 4 月下旬の期間とした。いちょう並木の保全状況（4 列）については、活力度等の状況は令和 5 年 5 月下旬～10 月下旬の期間とし、根系調査は令和 6 年 1 月上旬～2 月上旬とした。なお、根系調査は令和 5 年においても実施したが、コンクリート塊や石礫、塩化ビニル製パイプが出現したことから、引き続き調査を実施した。

(2) 予測条件の状況

1) 緑地の保全状況

「(1)予測した事項　1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度(既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列))」と同様とした。

2) 計画地内の緑化の状況

「(1)予測した事項　1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度(既存樹木の状況、

神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列))」と同様とした。

3) 文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りの整備状況

「(1)予測した事項 1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度(既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列))」と同様とした。

4) 計画地周辺の緑地の分布状況

「(1)予測した事項 1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度(既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列))」と同様とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

令和 5 年 6 月上旬から令和 6 年 4 月末までの工事施行中の随時とした。

2.3 調査地点

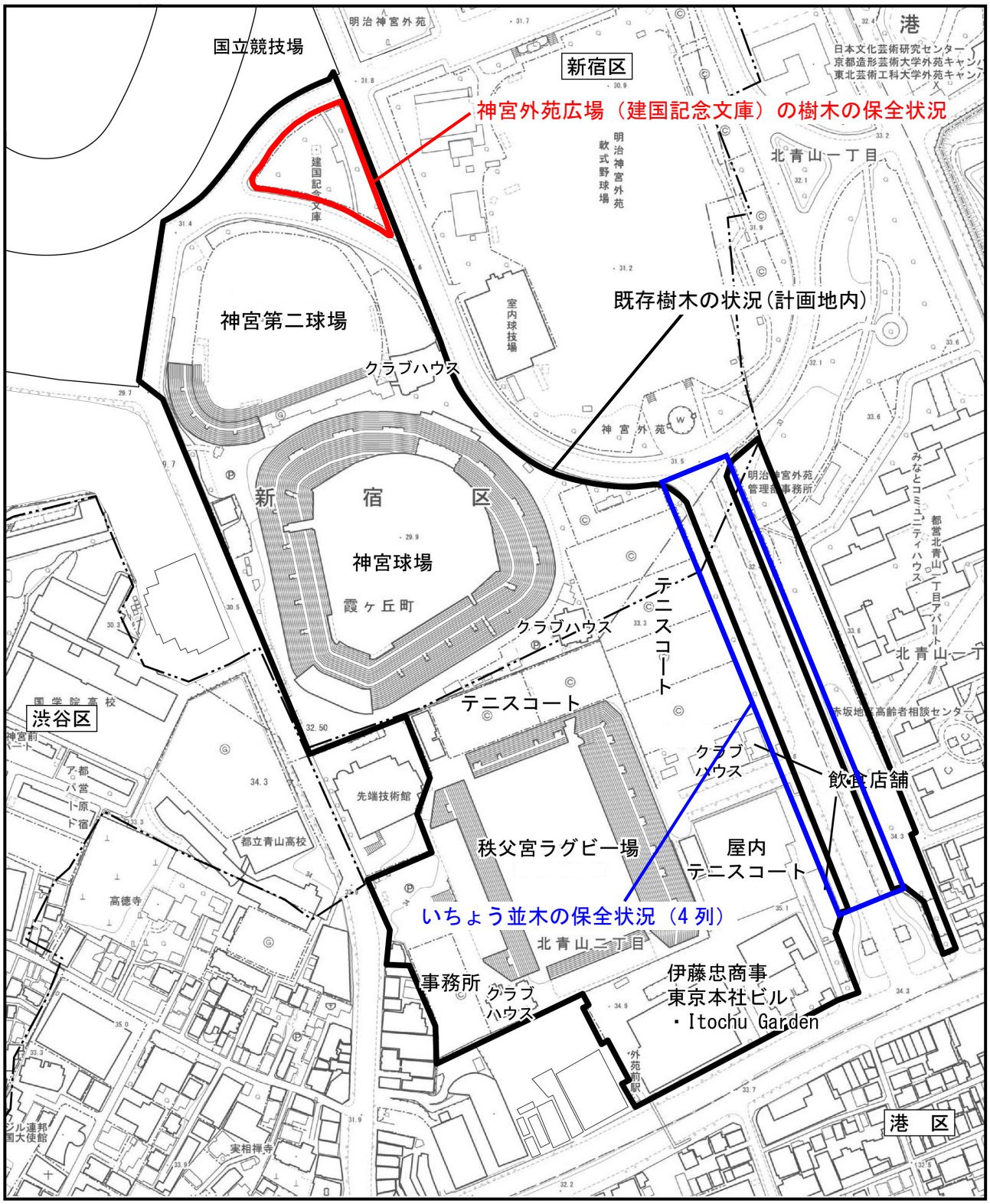
(1) 予測した事項

1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列))

調査地点は、図 1-1(1)に示したとおりである。

根系調査については、複数の樹木医から意見を聞き、立地条件や土壌条件、植栽時期等を考慮し、4 列のいちょう並木の西側 1 列の 30 本中 10 本を対象とした 10 箇所及び、いちょうの木の間の 2 箇所の計 12 箇所を調査対象とした（図 1-1(2)参照)。

なお、概ね縁石から10.5mに位置する、いちょう並木西側の緑地帯とテニスコートの境界部では土壌環境が大きく異なるため、根系調査断面の位置を令和5年の調査地点（縁石から約6.5m）よりさらに西側（縁石から約10.5m）に設定し調査を実施した（図1-1(3)参照)。



凡　例

計画地

区界

N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

図 1-1(1)　調査地点

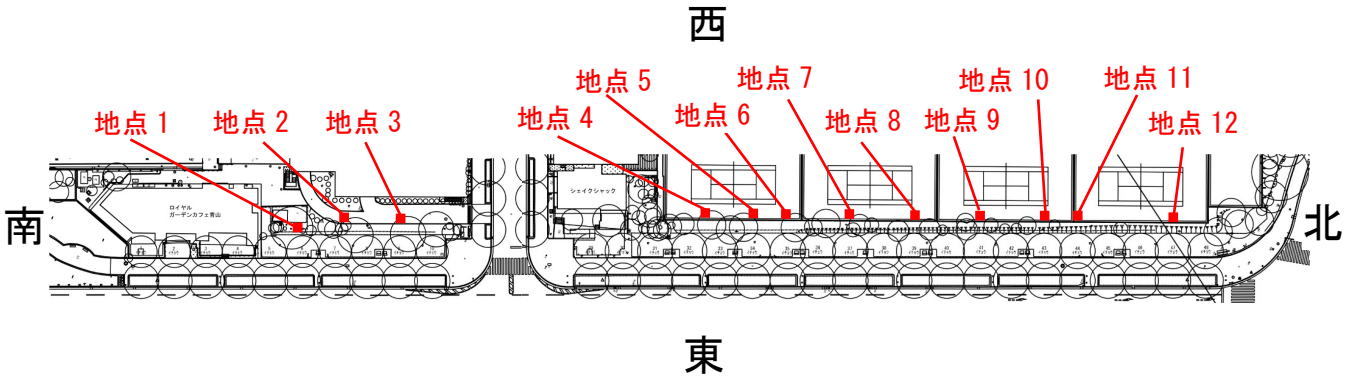


図 1-1(2)　根系調査地点（4 列いちょう並木西側）

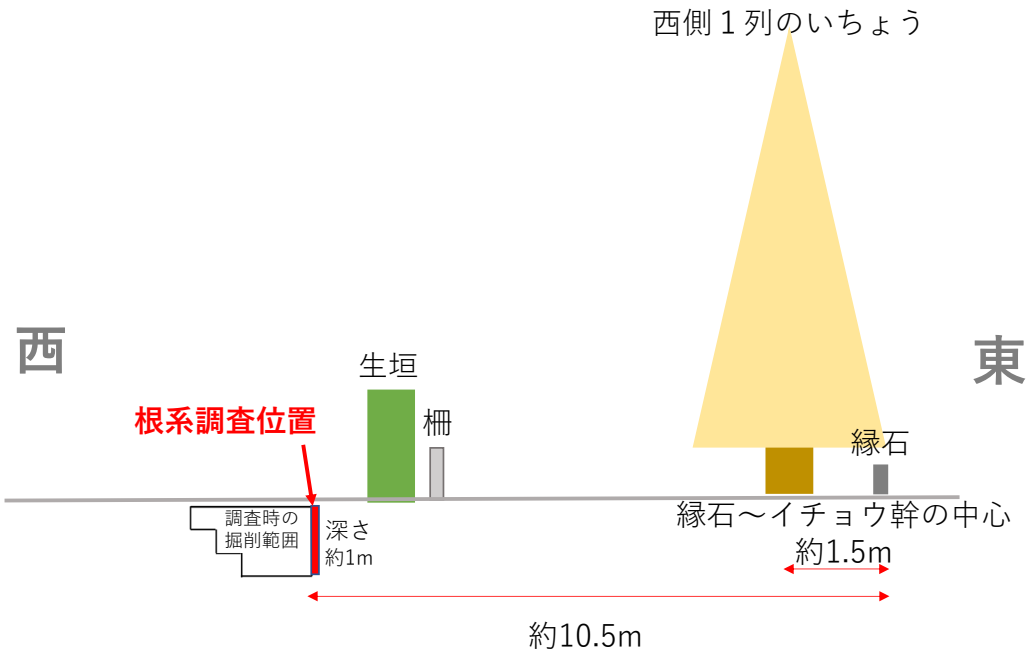


図 1-1(3)　根系調査地点（4 列いちょう並木西側）

(2) 予測条件の状況

1) 緑地の保全状況

計画地内とした。

2) 計画地内の緑化の状況

計画地内とした。

3) 文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りの整備状況

計画地内とした。

4) 計画地周辺の緑地の分布状況

計画地周辺とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

計画地内及び計画地周辺とした。

2.4 調査方法

(1) 予測した事項

1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

ア．既存樹木の状況

現地調査（写真撮影等）及び関連資料により、既存樹木（移植木を含む）の本数を整理する方法とした。また、既存樹木（移植木を含む）について科学技術庁資源調査会の基準等により活力度調査を行い、結果を反映した保全管理の状況、及びその状況に応じた保全管理方針を整理する方法とした。

イ．神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況

現地調査（写真撮影等）及び関連資料により、樹木の保全状況を整理する方法とした。

なお、神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全エリアの拡大のための計画建築物（ラグビー場棟）の設計等の配慮事項及び圧迫感の低減措置の検討状況については、今後、ラグビー場棟の詳細な形状について決定した時期に報告する。

ウ．いちょう並木の保全状況（4 列）

調査方法は、下記に示すとおりとした。

なお、計画建築物（野球場棟）の設計及び施工計画等（地下構造物、ネット及びフェンス等を含む）への配慮事項の検討状況については、今後、野球場棟の詳細な形状について決定した時期に報告する。

(ｱ) いちょうの活力度等の状況

いちょう並木の活力度の状況については、科学技術庁資源調査会の基準等による活力度調査によった。調査にあたっては、活力度の状況を詳細に把握するため、いちょう並木の景観を維持するために剪定をして樹形を整えている先端部（頂部）と、自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とする方法によった。また、それらの結果を反映した保育管理の状況について、関連資料の整理による方法とした。

(ｲ) 根系調査

根系調査については、4 列いちょう並木西側の緑地帯とテニスコートの境界部（縁石から約 10.5m の位置）において、幅約 1.0m 以上、深さ約 1.0m、奥行き約 1.5m 以上の穴（図 1-1(4)参照）を手掘りし、樹木医・専門土壌根系調査員により土壌断面における根の位置や太さを調査し、日本緑化センター樹木診断様式（資料編 p.304 参照）に準じて根量分布図及び根量分布表を作成した。

手掘りに際して出現した細根は、可能な限り残しながら掘り進めることとし、掘り進めるにあたりやむを得ず支障する場合は鋭利に切りながら掘り進めることとした。

また、一部の調査地点及び周辺で確認された太根（概ね直径 30mm 以上）のうち 5 本については、最大伸長範囲を確認するために追い掘りを実施した。

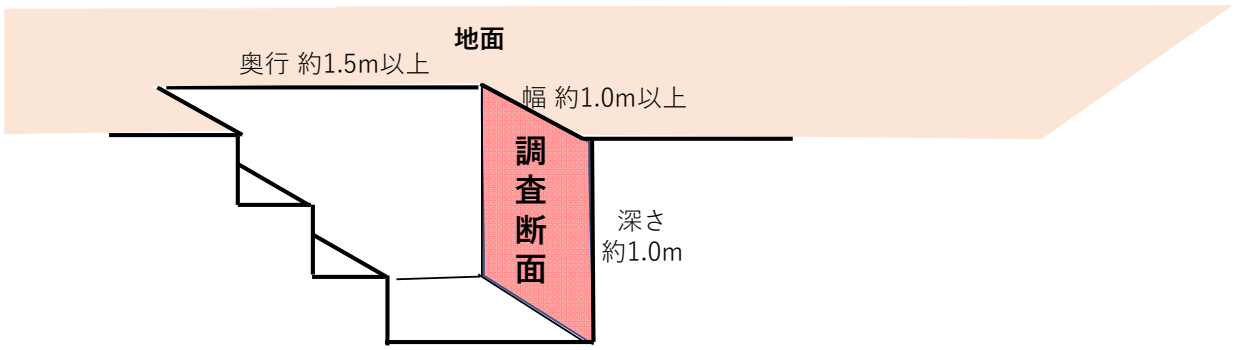


図 1-1(4)　根系調査断面イメージ

写真 1-1　根系調査の状況

(2) 予測条件の状況

1)　緑地の保全状況

現地調査(写真撮影等)及び関連資料(施設計画、施工計画、建設作業日報等)の整理による方法とした。

2)　計画地内の緑化の状況

現地調査(写真撮影等)及び関連資料(施設計画、施工計画、建設作業日報等)の整理による方法とした。

3)　文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りの整備状況

現地調査(写真撮影等)及び関連資料(施設計画、施工計画、建設作業日報等)の整理による方法とした。

4)　計画地周辺の緑地の分布状況

現地調査(写真撮影等)及び関連資料(施設計画、施工計画、建設作業日報等)の整理による方法とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

現地調査(写真撮影等)及び関連資料(施設計画、施工計画、建設作業日報等)の整理による方法とした。

3. 調査結果

3.1 事後調査の結果の内容

(1) 予測した事項

1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列））

ア．既存樹木の状況

計画地全体の既存樹木の状況については、下記の(ｱ)～(ｳ)に示すとおりである。なお、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び 4 列いちょう並木の状況については、「イ．神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況」「ウ.いちょう並木の保全状況（4 列)」に記載のとおりである。

(ｱ) 既存樹木の本数

既存樹木の本数については、表 1-1 に、毎木調査結果については、資料編 p.115～294 に示すとおりである。また、計画地内の樹木の活力度調査の結果は、図 1-2 に、保存、移植、伐採樹木の分布状況は、図 1-3 に示すとおりである。

既存樹木の本数については、存置が 599 本、移植が 189 本、移植検討が 19 本、伐採が 532 本である。なお、評価書時点以降、立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木（枯損等）が 42 本あり、これらを合計すると 1,381 本である。

(ｲ) 既存樹木の活力度

既存樹木全体の活力度調査の結果は、表 1-1 に示すとおりである。活力度 A が 257 本、活力度 B が 978 本、活力度 C が 97 本、活力度 D が 7 本、枯損等が 42 本、合計 1,381 本である。活力度 A は「正常なもの」であり、活力度 B は「普通、正常に近い」ものであり、どちらも正常な状態の樹木である。活力度調査の結果は A や B の本数が多く、概ね良好である。

上記のうち移植樹木の活力度調査の結果は、活力度 A が 73 本、活力度 B が 114 本、活力度 C が 2 本、枯損等が 2 本、合計 191 本である。また、移植検討の樹木の活力度調査の結果は、活力度 A が 7 本、活力度 B が 12 本、合計 19 本である。

(ｳ) 保全管理の状況及び保全管理方針

活力度 C や D など、樹勢が弱っている樹木に対しては、施肥（2 年 1 回）を実施するとともに、害虫防除対策（キクイムシ侵入防除策）を実施している（写真 1-2 参照)。

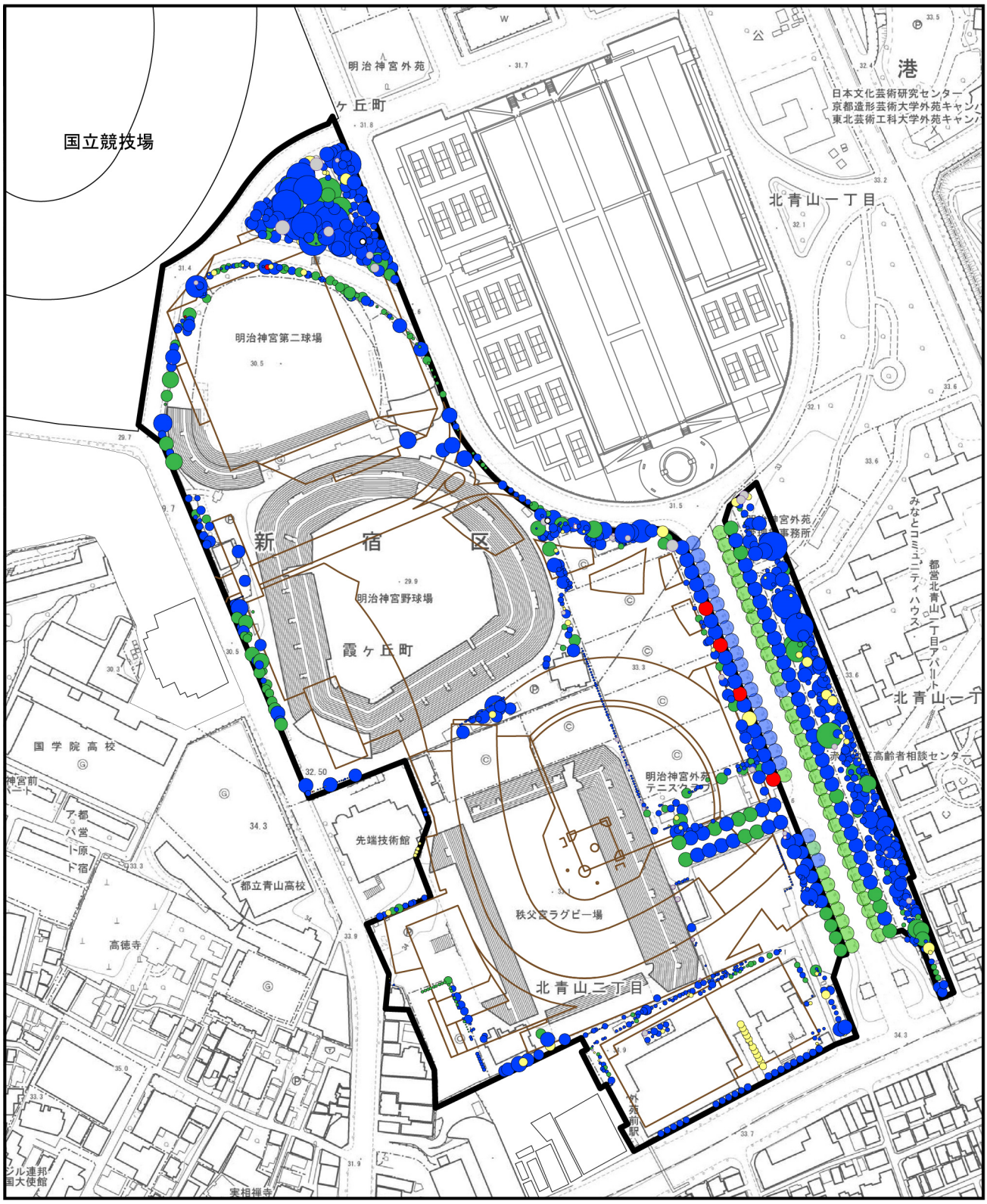
今後も保全管理方針として、樹勢が弱っている樹木に対して施肥の実施、定期巡回による病虫害被害状況を確認するとともに、病害防除対策の実施、定期剪定による樹木の生育環境の保全を実施する予定である。

表 1-1　既存樹木の本数及び活力度調査結果（2023 年調査）

活力度	存置	移植	移植検討	伐採	枯損等	合計
A	129 本	73 本	7 本	48 本		257 本
B	422 本	114 本	12 本	430 本		978 本
C	43 本	2 本	0 本	52 本	－	97 本
D	5 本	0 本	0 本	2 本		7 本
合計	599 本	189 本	19 本	532 本	42 本	1,381 本

注 1）活力度調査の対象樹木は、環境影響評価書で示した計画地内の樹高 3 m以上の樹木 1,381 本とする。
2）2023 年 4 月～5 月（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場においては 4 月～5 月及び 10 月）における調査結果。ただし、4 列いちょう並木及び既存区道のイチョウは 2023 年 10 月時点の調査結果。
3）軟式野球場における調査結果は含まない。

写真 1-2　害虫防除対策（キクイムシ侵入防除策）の状況



凡　例

計画地

活力度A

活力度B

活力度C

活力度D

枯損等

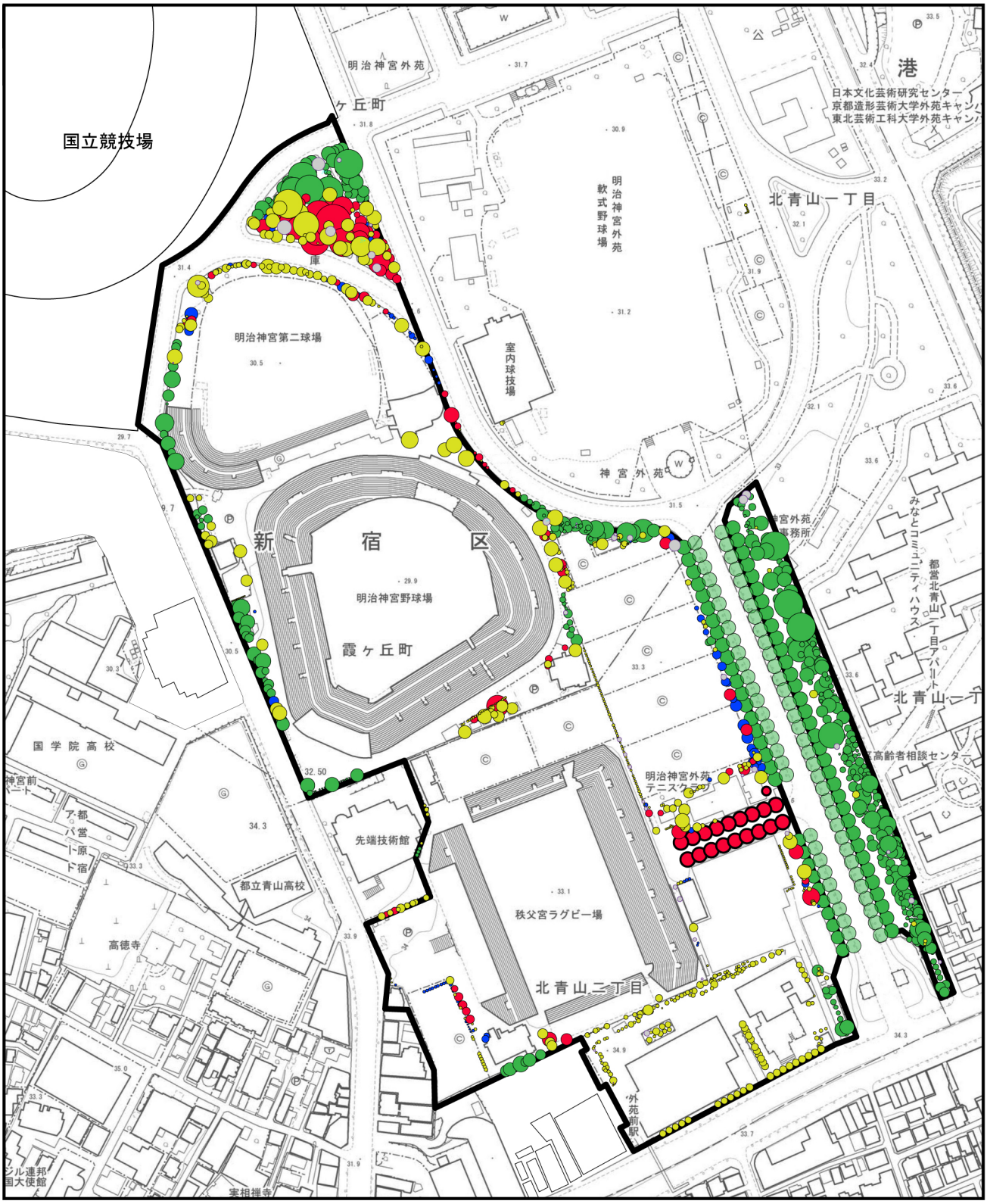
N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

注1）茶色の線は計画建築物等の概形線を示す。
注2）計画については今後変更の可能性がある。
注3）計画地外の樹木は薄い色で示している。
注4）4列いちょう並木及び既存区道のイチョウは2023年10月時点の調査結果である。

図 1-2　樹木の分布状況（活力度別）



凡　例

計画地

- 保存樹木
- 移植樹木
- 移植樹木(詳細調査により計画区域内で追加)
- 伐採樹木
- 枯損等

N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

注1）計画については今後変更の可能性がある。
注2）聖徳記念絵画館周辺については環境影響評価の対象外である。
注3）太線の丸で示す樹木(既存区道のイチョウ)は移植を検討している樹木である。

図 1-3　保存、移植、伐採樹木の分布状況

(ｴ) 移植計画※

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の移植予定樹木の仮移植先及び本移植先の計画について、「事後調査報告書（工事の施行中その 1)」で報告した計画を一部変更する。変更後の計画は、図 1-4 及び表 1-2 に示すとおりである。

ｱ) 変更の目的

樹木の保全を目的として、移植による樹木の負担を可能な限り軽減すべく移植回数を減らすため、聖徳記念絵画館前広場の計画を見直し、建物等の配置変更や規模を縮小することにより、「事後調査報告書（工事の施行中その 1)」で計画した移植場所に加えて新たに移植場所を確保することとした。これにより、移植回数が 1 回となる本移植の本数を増やし、樹木の保全を図ることとした。

ｲ) 移植時期

移植時期は、2024 年 10 月頃から開始し、落葉樹は 10 月～3 月頃、常緑樹は 3 月～6 月頃及び 9 月～11 月頃の移植に適した時期に行う計画である。

ｳ) 移植場所

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の移植樹木の移植先は、図 1-4 に示すとおりである。

神宮外苑広場（建国記念文庫）で根回しした樹木については、神宮外苑広場（建国記念文庫）内の北側や絵画館前及び神宮外苑広場（御観兵榎）へ本移植を行うとともに、神宮外苑苗圃へ仮移植する計画である。

神宮第二球場周辺で根回しした樹木については、ラグビー場棟敷地西側及び神宮外苑苗圃へ仮移植するとともに、絵画館前や神宮外苑広場（御観兵榎）及び絵画館周りへ本移植する計画である。

絵画館前及びラグビー場棟敷地西側については移植場所をまとまった範囲で確保し、植栽基盤としての植栽客土は面的に連続して敷設するよう計画する。既存樹群落内に移植するエリア（神宮外苑広場（御観兵榎)、絵画館周り）については、硬い土質が多いものの透水が良好で腐食も多い良質な土壌環境のため（資料編 p. 314～316 参照)、根鉢径に対し余裕を持った植穴を確保したうえで、既存土壌とバーク堆肥を混合し埋め戻しを行う。

なお、神宮外苑苗圃とは、本事業に近接する場所に位置し、従来より明治神宮外苑の所有する樹木等の育成・管理が行われている苗圃である。

ｴ) 移植本数及び樹種

移植樹木は、神宮外苑広場（建国記念文庫）の 44 本、神宮第二球場周辺の 50 本、合計 94 本であり、図 1-4 及び表 1-2 に示す移植先へ移植する計画である。

移植樹木の樹種については、神宮外苑広場（建国記念文庫）内へヤエザクラ、モミジ、シラカシを、絵画館前へマテバシイ、シイノキ、ウバメガシ、ケヤキ、ヤマモモ、トウカ

※ 事後調査計画書では「仮移植計画」としていたが、本移植となる樹木が増えたため、調査項目を「移植計画」に変更した。

エデ、シラカシ、フウ、クヌギ、クスノキ、ヒトツバタゴ、エノキを本移植する計画である。また、神宮外苑広場（御観兵榎）へヒトツバタゴ、シイノキ、カラタネオガタマ、モクセイ、サザンカ、モッコク、サンゴジュ、イヌグス、ツバキ、マテバシイ、ヤマモモを本移植する計画であり、絵画館周りにはシイノキ、ヤマモモを本移植する計画である。仮移植については、神宮外苑苗圃へヒトツバタゴを、ラグビー場棟敷地西側へマテバシイ、シイノキ、ケヤキ、サンゴジュ、コブシを仮移植する計画である。これらの樹種のうち、イヌグス（神宮外苑広場（御観兵榎））、ヤマモモ（絵画館前・神宮外苑広場（御観兵榎）・絵画館周り）、カラタネオガタマ（神宮外苑広場（御観兵榎））、クヌギ（絵画館前）を除く樹種については、移植先の現在の環境を維持するため、移植先に既に生育している樹種を移植する計画である（表 1-2 参照）。

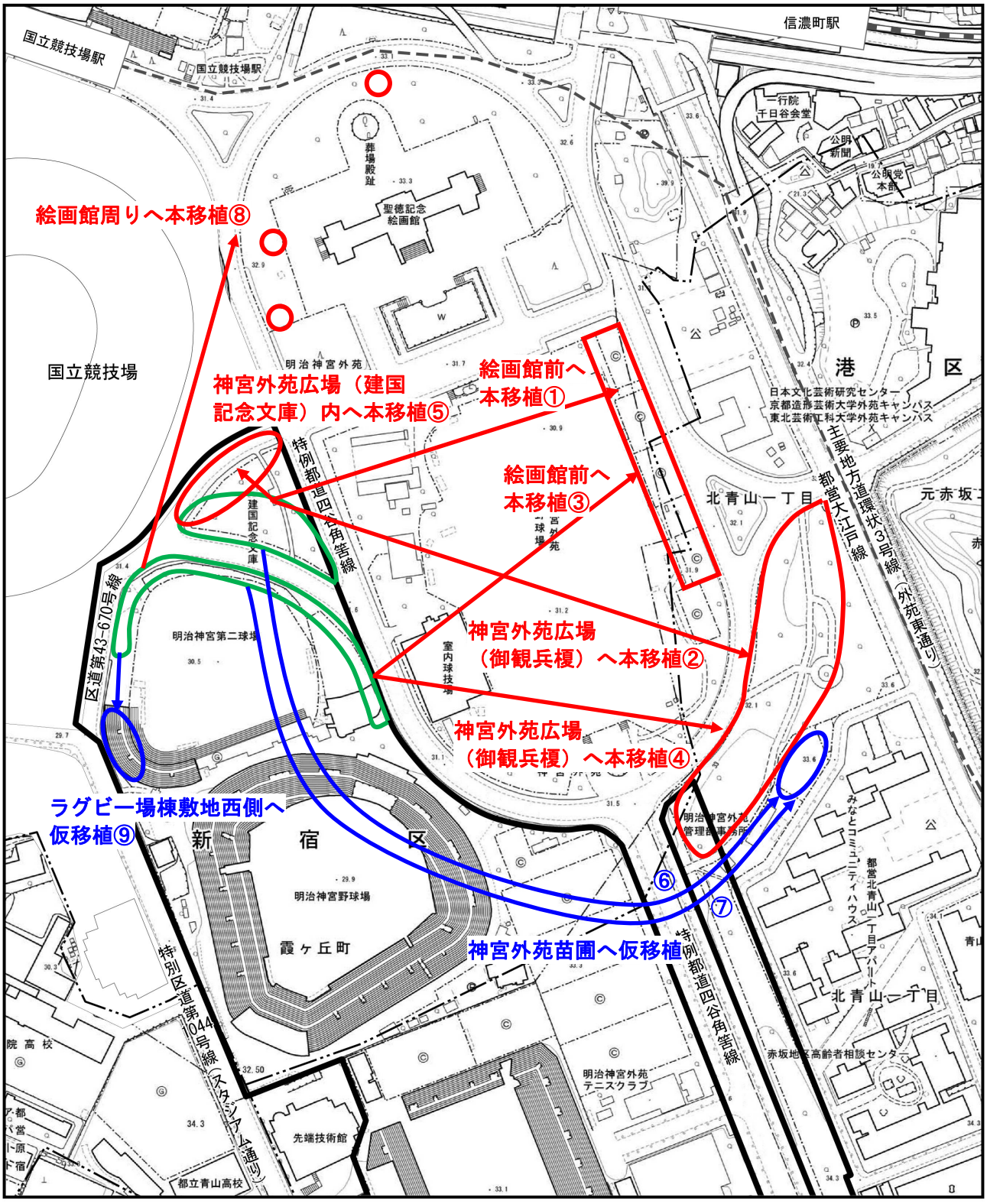
ｵ）移植方法

移植方法としては、根回し周囲を掘削して畦シートを撤去し、環状剥皮を施した太根を切断しながら根巻きを行う。その後吊具をかける幹に麻布等を巻いて、樹木に傷が付かないように養生した上でクレーンにて吊り上げ､運搬用のトレーラー､トラックに積み込み、移植先まで運搬し、あらかじめ掘削しておいた植栽基盤植穴へクレーンにて吊り込み、植付けを行う。植付け後は十分に水極めを行い、根鉢高さまで客土を埋戻し、ワイヤー支柱等必要な支柱を設置する。なお、移植においては基盤ごと移植などの方法は行わず、一本ずつ根回しを行った上で移植する計画である。また、移植時の運搬に際し、必要と判断された剪定については、樹木医の立ち会い・指導の下クレーン、高所作業車を使用して剪定する計画である。

ｶ）移植にあたっての配慮事項

上記の移植に際し、樹木に対する配慮事項及び養生計画としては、表 1-3 に示すとおりである。移植時の配慮事項としては、植栽基盤における蒸散抑制のため、稲藁によるマルチングを行うとともに（写真 1-3 参照）、樹木支柱等の設置や（写真 1-4 参照）、移植作業時に根鉢周辺を踏み固めないよう配慮する。神宮外苑広場（御観兵榎）への移植にあたっては、人の主要な動線には移植しないなどの踏み固め防止のための配慮を行う。移植後の樹木の管理においては、灌水と合わせて除草を行う。また、樹木医による毎年度のモニタリング（活力度調査）や、樹勢に変化がみられた場合の病虫害防除や液肥等の施用を実施し、その状況について事後調査報告書で報告する。

なお、上記のとおり絵画館前へ本移植する樹木が増えたことにより、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りに移植予定の樹木が減少することとなる。しかしながら、神宮外苑広場（建国記念文庫）と同様の樹種を新植することにより、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹林及び生態系を復元する計画である。



凡　例

- 計画地
- 区界
- 移植元
- 移植先（本移植）
- 移植先（仮移植）

注）丸番号は次頁の表に対応する。

N

S＝1／4,000

0　50　100　150m

図 1-4　神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の移植予定樹木の移植先の計画

表 1-2　移植予定の樹木

移植元：建国記念文庫エリア

移植先：
絵画館前へ本移植①

番号	樹種名
KE-010	ケヤキ
KE-014	トウカエデ
KE-016	シラカシ
KE-017	ケヤキ
KE-018	フウ
KE-019	フウ
KE-020	シイノキ
KE-022	クヌギ
KE-025	ケヤキ
KE-026	クスノキ
KE-031	クスノキ
KE-033	ケヤキ
KE-035	シラカシ
KE-036	シイノキ
KE-038	トウカエデ
KE-041	ヒトツバタゴ
KE-048	シイノキ
KE-084	シラカシ
KE-088	ウバメガシ
KE-136	シラカシ
KE-140	エノキ
KE-141	ケヤキ
KE-151	フウ
KE-158	エノキ

①計　24本

移植先：神宮外苑広場
（御観兵榎）へ本移植②

番号	樹種名
KE-009	シイノキ
KE-011	シイノキ
KE-012	シイノキ
KE-028	サンゴジュ
KE-040	イヌグス
KE-085	ヒトツバタゴ
KE-144	シイノキ

②計　7本

移植先：
神宮外苑広場（建国記念文庫）内へ本移植⑤

番号	樹種名
KE-002	ヤエザクラ
KE-003	ヤエザクラ
KE-156	モミジ
KE-157	シラカシ

⑤計　4本

移植先：神宮外苑苗圃へ仮移植⑥

番号	樹種名
KE-042	ヒトツバタゴ
KE-097	ヒトツバタゴ
KE-137	ヒトツバタゴ
KE-139	ヒトツバタゴ
KE-143	ヒトツバタゴ
KE-147	ヒトツバタゴ
KE-148	ヒトツバタゴ
KE-152	ヒトツバタゴ
KE-153	ヒトツバタゴ

⑥計　9本

移植元：第二球場エリア

移植先：
絵画館前へ本移植③

番号	樹種名
YG-024	マテバシイ
YG-028	マテバシイ
YG-064	シイノキ
YG-093	シイノキ
YG-101	シイノキ
YG-105	ウバメガシ
YG-134	ケヤキ
YG-135	ヤマモモ

③計　8本

移植先：神宮外苑広場
（御観兵榎）へ本移植④

番号	樹種名
YG-033	ヒトツバタゴ
YG-035	マテバシイ
YG-046	サザンカ
YG-050	ツバキ
YG-077	カラタネオガタマ
YG-081	ヒトツバタゴ
YG-082	モクセイ
YG-084	モクセイ
YG-087	モクセイ
YG-089	モクセイ
YG-094	マテバシイ
YG-103	モッコク
YG-110	モクセイ
YG-114	モクセイ
YG-115	ヤマモモ
YG-116	モクセイ
YG-120	モクセイ
YG-121	ヤマモモ
YG-122	モクセイ
YG-123	モクセイ
YG-124	モクセイ
YG-128	ヤマモモ
YG-129	モクセイ
YG-130	モクセイ
YG-131	モクセイ
YG-132	モクセイ
YG-133	カラタネオガタマ
YG-136	モクセイ

④計　28本

移植先：絵画館周りへ本移植⑧

番号	樹種名
YG-042	シイノキ
YG-111	ヤマモモ
YG-137	ヤマモモ

⑧計　3本

移植先：ラグビー場棟敷地西側へ仮移植⑨(又は神宮外苑苗圃へ仮移植⑦)

番号	樹種名
YG-020	マテバシイ
YG-031	マテバシイ
YG-047	マテバシイ
YG-053	シイノキ
YG-059	シイノキ
YG-061	ケヤキ
YG-066	マテバシイ
YG-072	マテバシイ
YG-102	サンゴジュ
YG-108	コブシ
YG-118	ケヤキ

⑨計　11本

注）評価書に記載の計画では伐採としていた樹木（資料編 p. 135～294 の伐採覧に「●」のある樹木）について、2023 年の活力度調査の結果等から移植に変更できる可能性のある樹木の選定を行っており、上記リストにはそうした樹木も含まれる。

表 1-3　移植時期、方法、植栽基盤確保の考え方、移植期間における養生計画等について

配慮事項	内容
①　移植時期について	建国記念エリア及び第二球場エリアの移植樹木の移植時期は、2024 年 10 月頃から開始し、落葉樹は 10 月～3 月頃、常緑樹は 3 月～6 月頃及び 9 月～11 月頃の移植に適した時期に行う計画である。
②植栽基盤の確保	絵画館前及びラグビー場棟敷地西側等にまとまった範囲で植栽基盤を確保し、植栽客土は面的に連続して敷設するよう計画する。
③灌水の実施と植栽基盤の蒸散抑制	根の発根を促進し、特に夏期の樹木からの蒸散が大きい時期においても適切に水が供給できるよう、灌水を実施する。また、移植樹木の根鉢周りには稲藁にてマルチングを行うことで乾燥には十分に注意を払う。（写真 1-3 参照） 【灌水の目安】 ・植栽後は 3～4 日に 1 回程度の灌水 ・冬期は雨が降らず乾燥が続く場合は週 1、2 回の灌水 ・夏期は 1 週間に 1～2 回程度の灌水
④樹木支柱等の設置	強風による倒木等の安全性への配慮と樹木の揺れの抑制を図るために樹木支柱等を設置する。（写真 1-4 参照）
⑤移植作業時の配慮事項	移植作業にあたっては、根鉢周辺を踏み固めないよう配慮する。また、移植先には関係者以外の立ち入りを制限する。
⑥適切な樹木管理の実施	上記③の灌水と合わせて、樹木の剪定、除草を行う。 ・剪定については、樹勢維持・回復を優先し、 移植後 1～2 年は徒長枝剪定程度に留め、その後通常の維持管理（年 1～2 回程度剪定）を行う。 ・稲藁にてマルチングを行うとともに、その周辺の雑草の除去を行う。
⑦モニタリングの実施	仮移植期間中及び本移植後においては毎年度、活力度調査を行い、必要な処置を講じた上で事後調査報告書にて報告する。（表 1-4 参照）
⑧樹勢に変化が見られた場合の処置	病虫害被害が見られた際は、状況を踏まえて対応する。また、活着と樹勢の状況に応じて液肥等の施用も行う。

写真 1-3　稲藁によるマルチングの状況（参考写真）

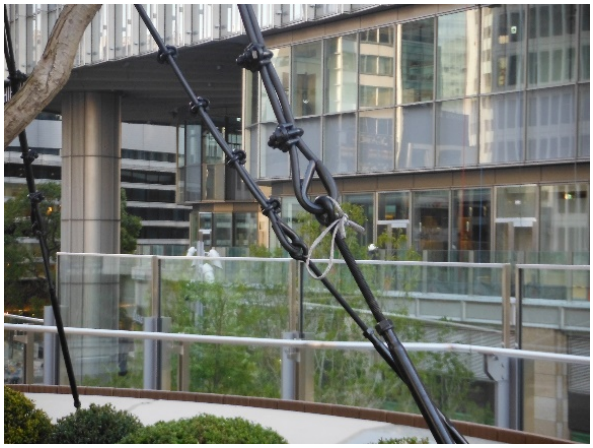


写真 1-4　樹木支柱等の状況（参考写真）

表 1-4　移植樹木のモニタリング記録表

移植樹モニタリング票			年　月　日		第　回	樹木医	
エリア		樹木番号		樹種		根回し日	

評価項目	1（優）	2(良)	3（やや不良）	4（不良）	5（枯死寸前）
樹勢	旺盛な生育・被害ほぼ無し	幾分被害・目立たない	軽微な異常あり	異常あり	ほぼ枯死
樹形	自然な樹形	軽微なみだれ・目立たない	多少みだれ	著しい乱れ	ほぼ崩壊
枝葉の密度	充分な枝葉	やや少ないが目立たない	やや少ない	著しく少ない	ほとんど無い
葉の色	濃い緑を保つ	やや薄いが緑	黄色・褐色がある	大半が黄色・褐色	ほぼ黄色・褐色
先端の衰弱枯損	なし	少しあるが目立たない	やや目立つ	かなり目立つ	ほぼ枯損
大枝の枯損	なし	ほぼなし	やや目立つ	かなり目立つ	ほぼ枯損
支柱状況	健全	やや不良	無し		
土壌状況					
その他					
コメント・対応					

注）調査項目については事後調査計画書に記載の科学技術庁資源調査会の基準をベースに、支柱・土壌状況等の項目を追加している。

イ．神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場の移植樹木については、移植に向けて根回しを行っており、その状況は事後調査報告書（工事の施行中その 1）において報告を行った。

神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木については、活力度調査の結果、病虫害被害による樹勢の低下等により一部の樹木に枯損が生じているものの、根回しを行った樹木を含めて活力度は概ね良好であることを確認している（図 1-2 参照）。一部樹木の移植に備えた養生のため、仮囲いを設置し、閉鎖管理を行っている。養生の状況については、根鉢上に稲藁にてマルチング、養生を行うとともに、灌水を週 2 回実施している。これにより、根鉢周りの乾燥を防ぎ、土壌の温度調整を行っている。また、除草及び病害防除対策を適宜実施するとともに、巡回についても週 2 回実施している。養生の状況は、写真 1-5 に示すとおりである。

なお、保全エリア拡大の検討状況については、既存樹木の保全等に留意したデザインや配置、構造等を検討し設計を進めており、新ラグビー場敷地の既存樹木の伐採に着手する前までに、環境影響評価書で示した検討を行った結果としての樹木の保全に関する具体的な見直し案を示し、変更届として報告する。

写真 1-5(1)　養生の状況（病害防除対策）

写真 1-5(2)　養生の状況（清掃写真）

ウ．いちょう並木の保全状況（4 列）

(ｱ) いちょうの活力度等の状況

4 列いちょう並木の活力度調査の結果は、表 1-5 に示すとおりである。

4 列いちょう並木の活力度調査は、事後調査計画では工事の施行中の毎年 6 月頃に調査を実施する予定であるが、2023 年については事後調査計画の調査回数を変更し、春(5 月)、夏（7 月）、秋（10 月）の 3 回調査を実施した。活力度の状況を詳細に把握するため、いちょう並木の景観を維持するため剪定をして樹形を整えている先端部（頂部）と、自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とした。

4 列いちょう並木の活力度は、2023 年 5 月時点では活力度 A（正常なもの）が 1 本、活力度 B（普通、正常に近い）が 125 本、活力度 C（悪化のかなり進んだもの）が 2 本、活力度 D（顕著に悪化の進んでいるもの）が 0 本であった。2023 年 7 月時点では活力度 A が 4

本、活力度Bが119本、活力度Cが3本、活力度Dが2本であった。2023年10月時点では活力度Aが52本、活力度Bが71本、活力度Cが1本、活力度Dが4本であった。

4列のいちょう並木のうち、東側2列は活力度AまたはBである。西から2列目については概ね活力度AまたはBであるが、西から1列目の一部で活力度CまたはDが出現している（図1-2参照）。

上記の活力度CやDとなっているいちょうは、他のいちょうと比較して落葉が早い状態であることを日常管理の際に認識しており、枝の伸長が短く、葉の褐変や葉が小さいなどの所見が確認されている。これらについて検査機関に照会した結果、病虫害ではないことが確認されている。（資料編p.300～303参照）。

また、活力度の低下したいちょうに対しては、いちょう周囲の灌水、液体肥料の施肥等を実施（写真1-6～8参照）するとともに、4列いちょう並木西側1列（縁石から約10.5mまで）のうち秩父宮ラグビー場東側の港区道より北側部分について、下記に示す樹勢回復措置を実施した。

- ヘデラとの水分競合をなくすため、ヘデラを除去（写真1-9参照）するとともに、土壌をほぐす等（写真1-10参照）の土壌改良措置（水圧穿孔）を実施
- 稲藁マルチングによる乾燥防止等の対応（写真1-11参照）
- 灌水装置の設置（4列いちょう並木西側店舗前においては舗装ブロックを外し灌水装置を設置、写真1-12参照）
- 埋設されている旧通路等を撤去し、根系域を確保（写真1-13参照）
- 4列いちょう並木西側店舗テラス部分のインターロッキングを撤去し、根系への踏圧対策を目的とした浮き床構造のウッドデッキを設置（写真1-14参照）

また、土壌水分の測定や成長量の把握及び樹勢回復措置に伴う効果の確認のため幹周を測定する観測装置（デンドロメーター）の設置を行い（写真1-15、16参照）、定期的にモニタリングを実施する計画である。

表 1-5　4 列いちょう並木の活力度調査結果

活力度	A	B	C	D	合計
事後調査結果 （2023 年 5 月時点）	1 本	125 本	2 本	0 本	128 本
事後調査結果 （2023 年 7 月時点）	4 本	119 本	3 本	2 本	128 本
事後調査結果 （2023 年 10 月時点）	52 本	71 本	1 本	4 本	128 本

注）2023 年 7 月、10 月時点で活力度 C、D となったいちょうの詳細は資料編 p. 295～299 参照。

写真 1-6　いちょう並木の保全状況（灌水の状況）

写真 1-7　いちょう並木の保全状況（4 列いちょう並木西側店舗前の灌水の状況）

写真 1-8　いちょう並木の保全状況（施肥（液体施肥））

写真 1-9　ヘデラの除去状況

写真 1-10　土壌改良措置（水圧穿孔により土壌をほぐす）の実施状況

写真 1-11　マルチングによる乾燥防止等の状況

写真 1-12　灌水装置の設置状況

写真 1-13　旧通路等の撤去状況

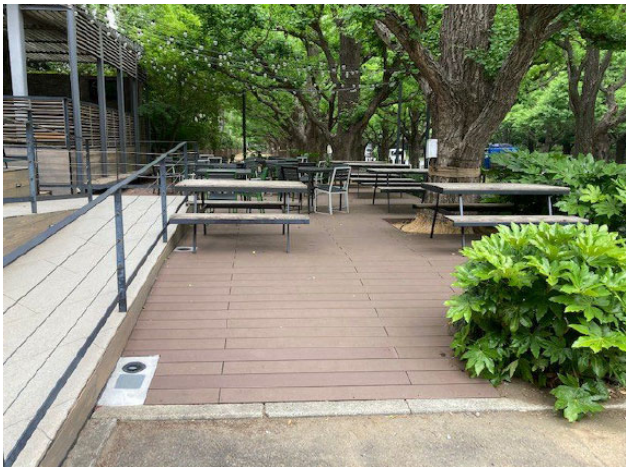


写真 1-14　4 列いちょう並木西側店舗テラス部分へのウッドデッキの設置状況

写真 1-15　幹周を測定する観測装置（デンドロメーター）の設置状況

写真 1-16　土壌水分の測定状況

(ｲ) 根系調査

根系調査により確認された根の数量は、表 1-6 に示すとおりである。また、地点ごとに 10cm メッシュでの調査を行った結果、根の太さと数量を示した根量分布図は、図 1-6(1)～(12)に、土壌断面状況は、写真 1-18(1)～(12)に、根量分布表は、資料編 p. 305～310 に示したとおりである。

今回根系調査を実施した結果は、表 1-6 に記載のとおり、評価書に示した環状剥皮施工を行う基準（資料編 p. 312 参照）である、調査断面の 10cm メッシュ内に直径 30mm 以上の根が 4 本以上ある箇所は見つからなかった。

また、今回の根系調査にて一部の調査地点及びその周辺で確認された太根（概ね直径 30mm 以上)のうち 5 本について、最大伸長範囲を確認するために追い掘りを実施した結果、地点 5 の直径 70 mmの太根が最も西側に伸長しており、その距離は縁石から約 22m であった。なお、当該根については、縁石から約 17m 以降の位置において、環状剥皮の実施の目安となる直径 30 mmより細くなることが確認された。また、その他の 4 本のうち、地点 3 と地点 10 の 2 本は西側への伸長が縁石から約 14～17m の位置までとなっている(図 1-7(2)参照)。地点 1 の 2 本については、コンクリートに沿って追い掘りを行ったが、コンクリートの下に太根が潜り込んでおり、最大伸長範囲は確認できなかった。そのため再度、縁石から約 15m の位置で調査を行ったが、太根は確認できなかった（図 1-7(1)参照)。

根系調査の状況は、写真 1-17 に示すとおりである。また、4 列いちょう並木の根系に対する配慮については、資料編 p. 311～313 に示すとおりである。

写真 1-17　根系調査写真

表 1-6　根系調査により確認された根の数量

地点番号	樹木番号	根系調査結果				追い掘り調査結果	
		30㎜未満			30㎜以上	対象とした根の太さ（㎜）	最大伸長範囲[注4]（m）
		1～10㎜未満	10～20㎜未満	20～30㎜未満			
1	6	87本	10, 14, 19 計3本	26 計1本	**30** **計1本**	84.7、64.8 （いずれも調査地点の枠外。）	不明
2	7-8間	21本	10 計1本	29 計1本	― **計0本**	―	―
3	9	68本	13, 14, 19 計3本	29 計1本	― **計0本**	29	約14
4	32-33間	29本	― 計0本	― 計0本	― **計0本**	―	―
5	34	55本	10 計1本	25 計1本	**34, 70** **計2本**	70	約22
6	35	15本	― 計0本	― 計0本	― **計0本**	―	―
7	37	34本	16 計1本	26 計1本	― **計0本**	―	―
8	39	35本	11 計1本	― 計0本	― **計0本**	―	―
9	41	61本	― 計0本	― 計0本	― **計0本**	―	―
10	43	47本	― 計0本	― 計0本	**77** **計1本**	77	約17
11	44	42本	― 計0本	20 計1本	― **計0本**	―	―
12	47	64本	13, 16 計2本	― 計0本	― **計0本**	―	―

注1）根量分布表（資料編 p. 305～310 参照）に示す根の太さ(㎜)×数量（本）。根量分布表の見方は p. 304 参照。
注2）調査地点は図 1-5 参照。
注3）日本緑化センター樹木診断様式（資料編 p. 304 参照）に準ずる。
注4）縁石からの距離。追い掘り調査の詳細は p. 60 に記載。

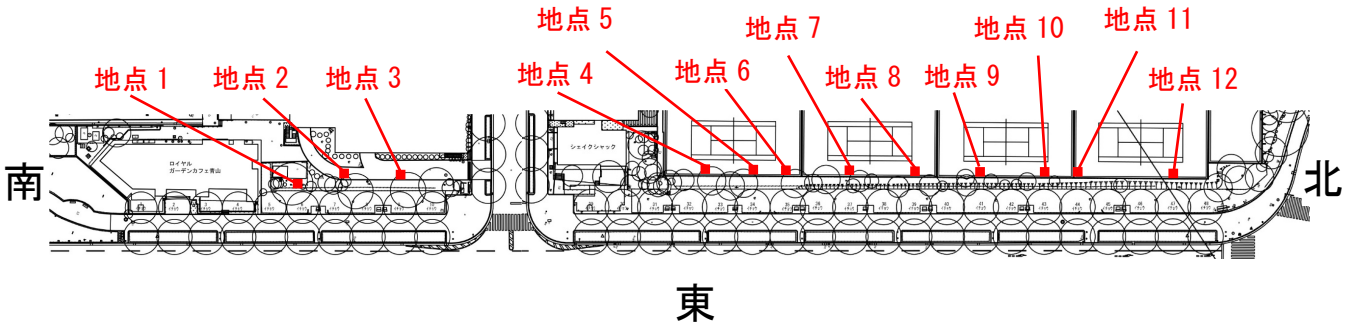
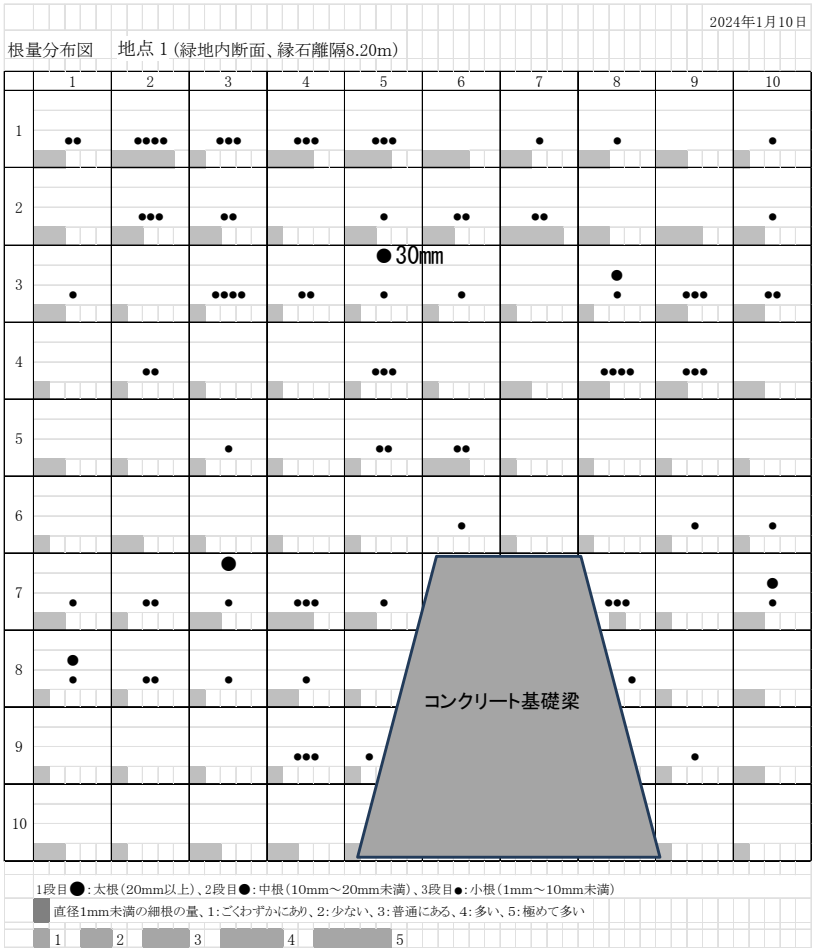


図 1-5　根系調査地点（4列いちょう並木西側）



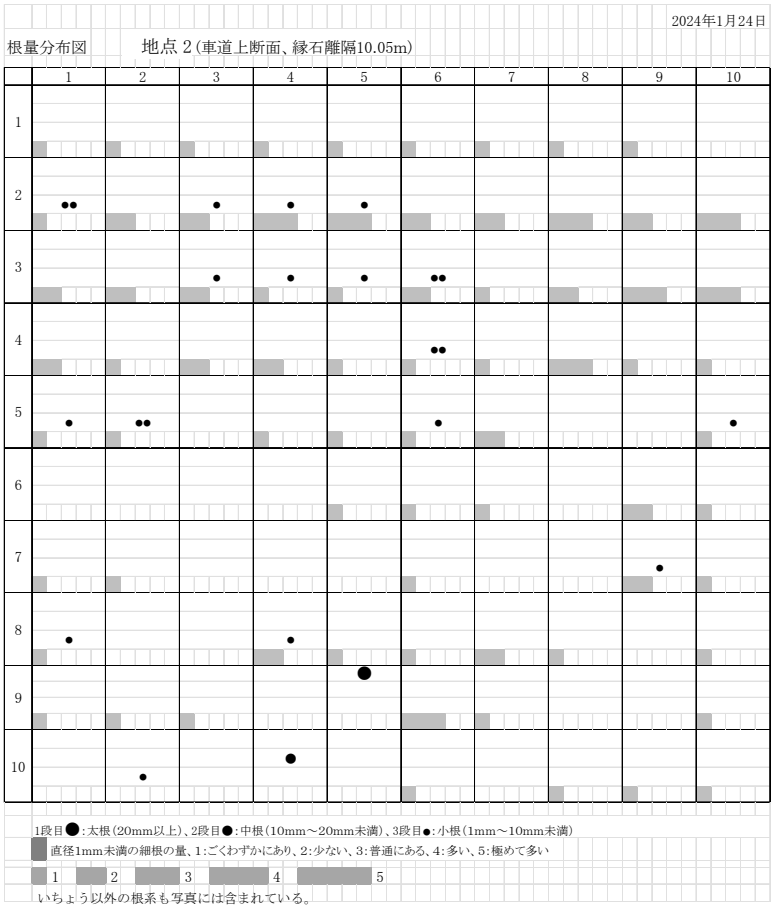
注 1)根量分布表の見方は、資料編 p. 304 参照。

注 2)調査地点の枠外に 84.7㎜、64.8㎜ の太根が確認されたため、それらについて追い掘り調査を行うこととしたが、コンクリートの下に太根が潜り込んでおり、最大伸長範囲は確認できなかった。そのため再度、縁石約 15m の位置で調査を行ったが、太根は確認できなかった。

図 1-6（1）　根量分布図（地点１）

地点１

写真 1-18(1)　土壌断面の状況

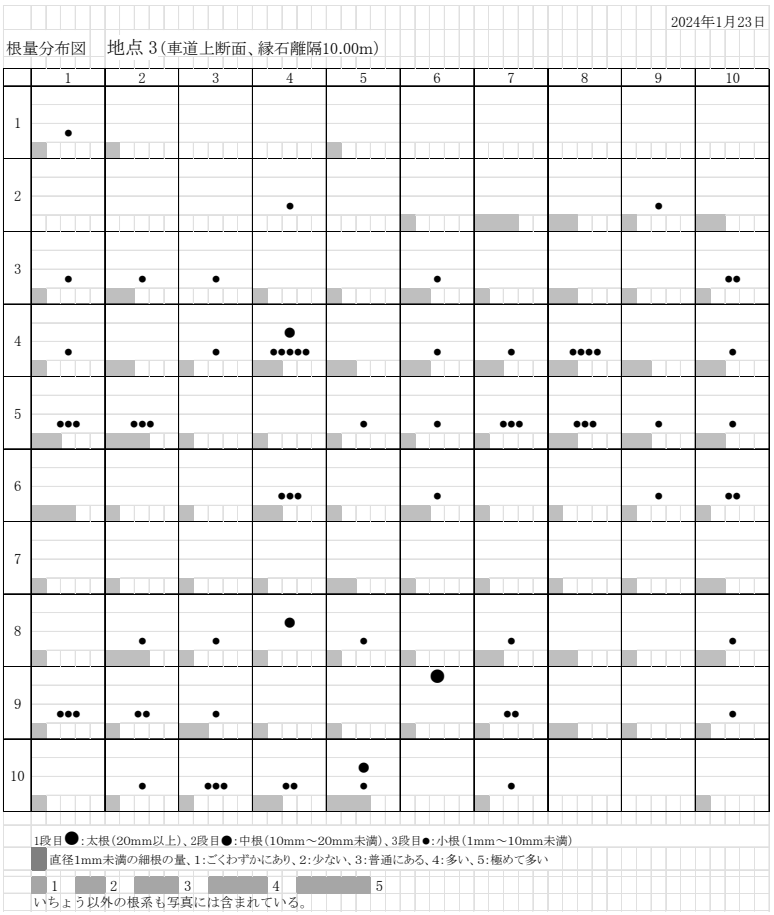


注)最も太い根は 29㎜ であるが、北に向かって伸びていることが確認されたため、追い掘りは行わなかった。

図 1-6（2）　根量分布図（地点２）

地点２

写真 1-18(2)　土壌断面の状況



注)最も太い根は 29㎜ であり、西に向かって伸びていることが確認されたため、追い掘りを実施した。

図 1-6（3）　根量分布図（地点３）

地点３

写真 1-18(3)　土壌断面の状況

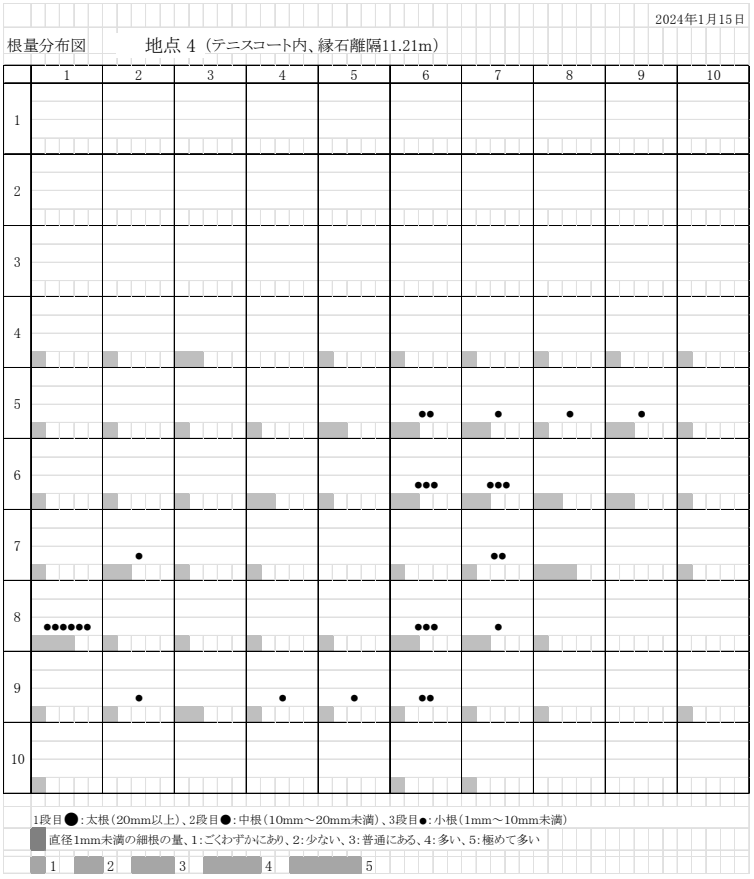
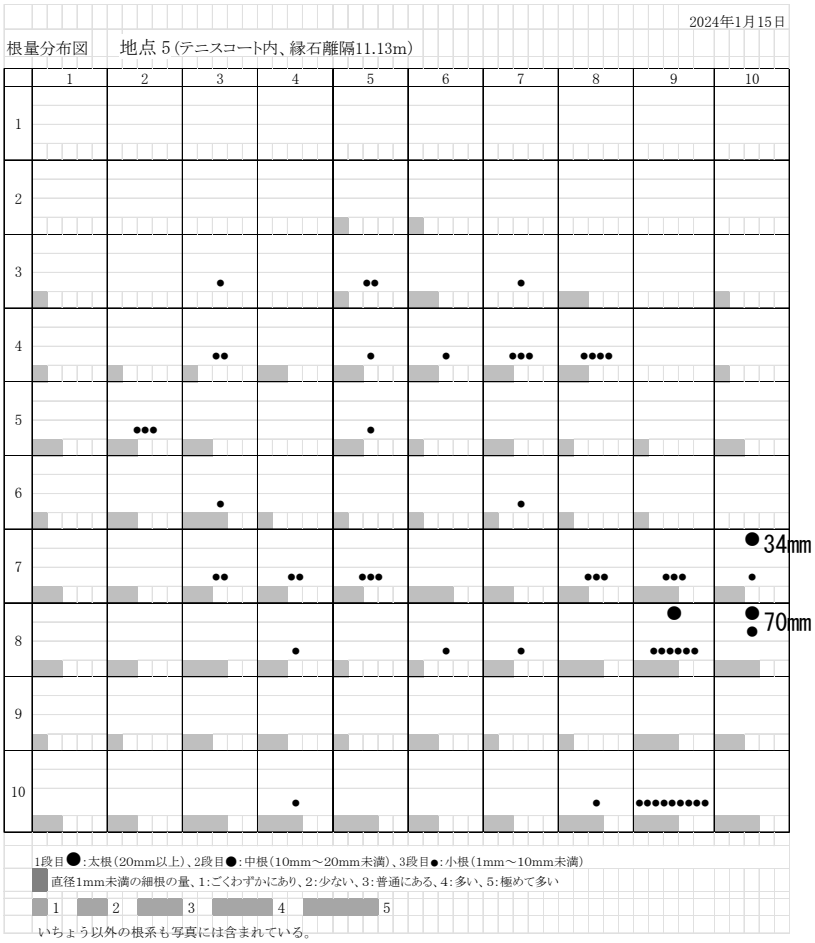


図 1-6（4）　根量分布図（地点４）

地点４

写真 1-18(4)　土壌断面の状況

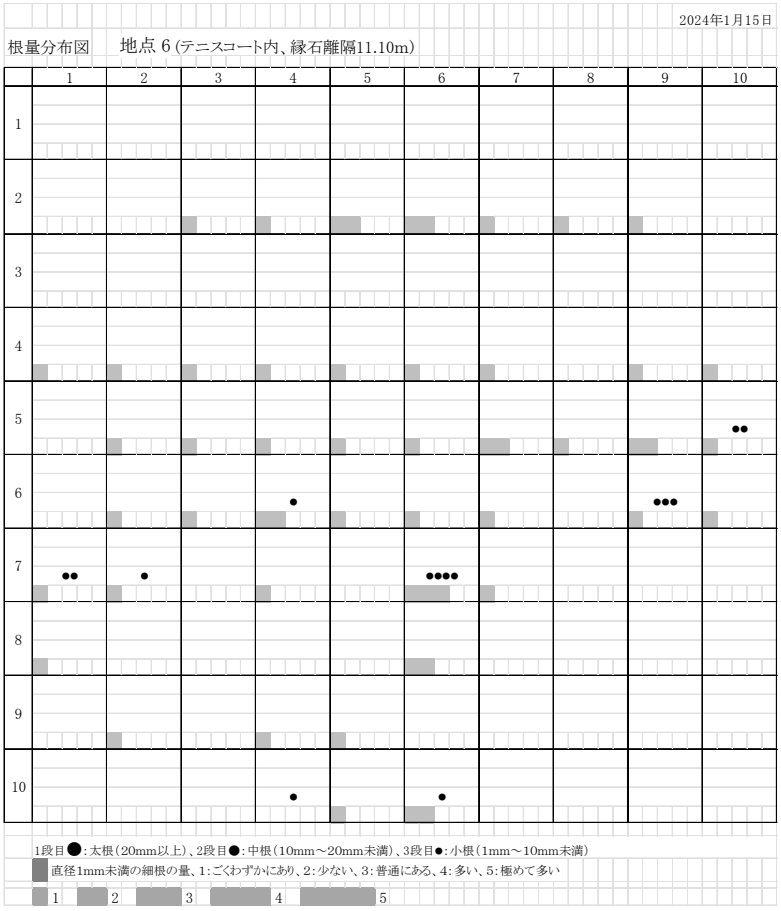


注)太根のうち、太い方（70㎜）の根を追い掘り調査することとした。

図 1-6（5）　根量分布図（地点５）

地点５

写真 1-18(5)　土壌断面の状況



いちょう以外の根系も写真には含まれている。

図 1-6（6）　根量分布図（地点６）

地点６

写真 1-18(6)　土壌断面の状況

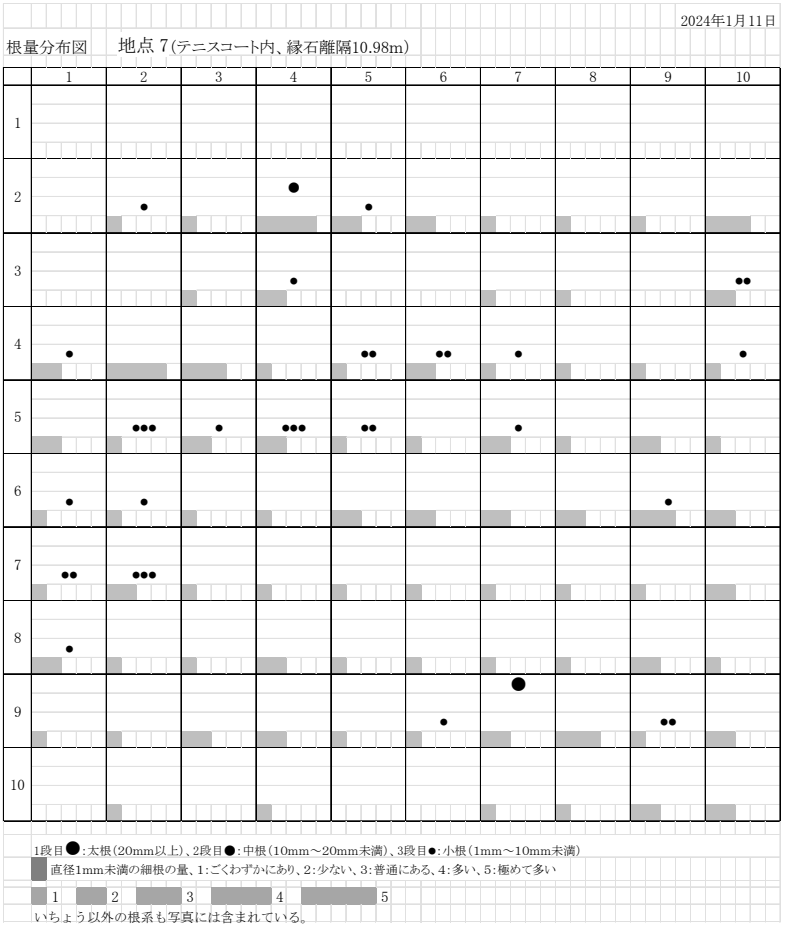
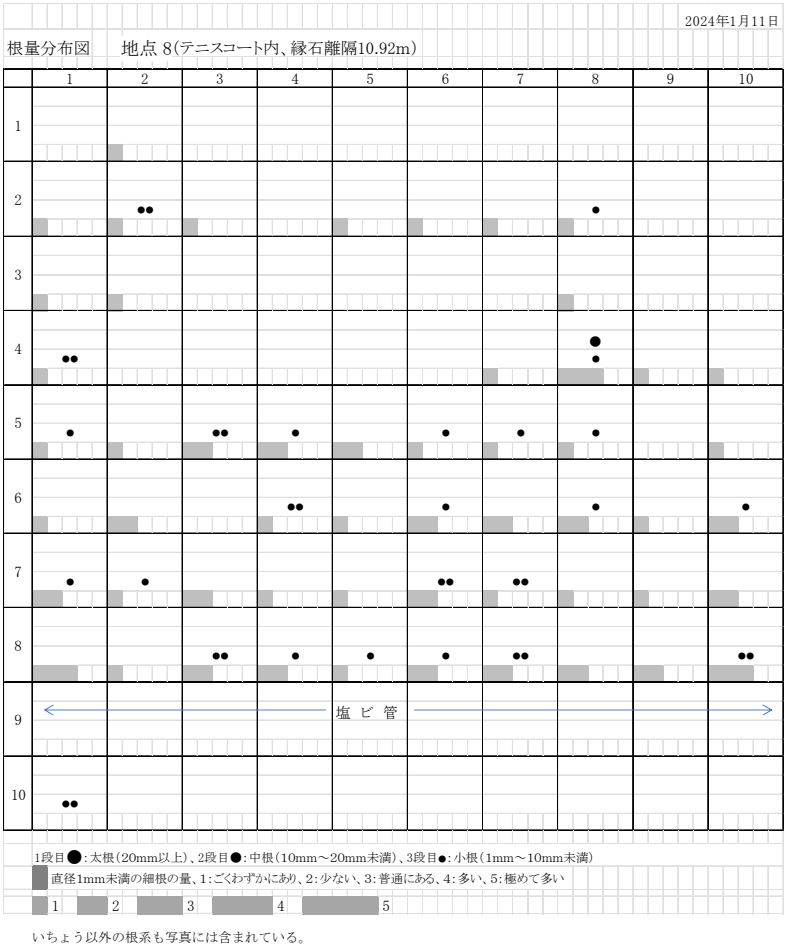


図 1-6（7）　根量分布図（地点７）

地点７

写真 1-18(7)　土壌断面の状況



いちょう以外の根系も写真には含まれている。

図 1-6（8）　根量分布図（地点８）

地点８

写真 1-18(8)　土壌断面の状況

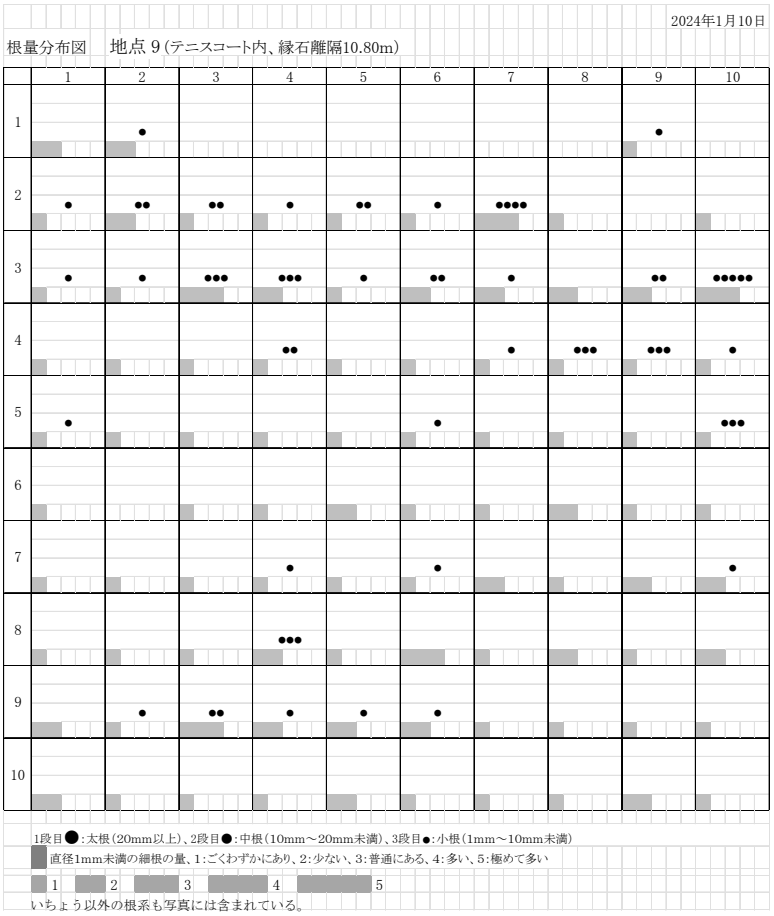
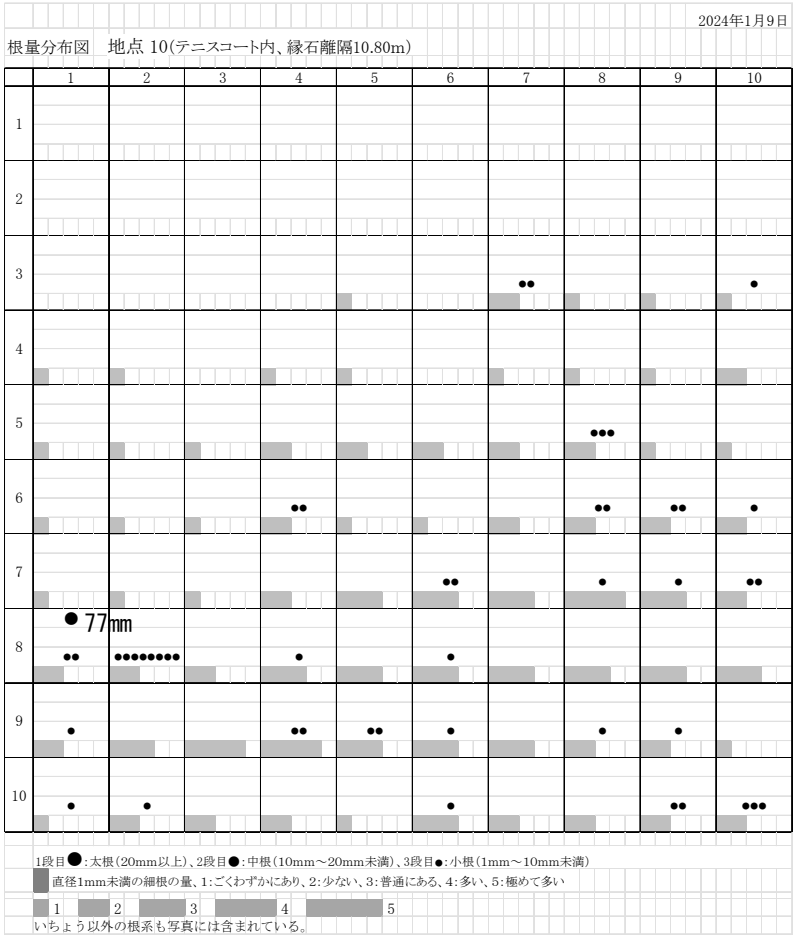


図 1-6（9）　根量分布図（地点９）

地点９

写真 1-18(9)　土壌断面の状況



注)太根（77㎜）について、追い掘り調査することとした。

図 1-6（10）　根量分布図（地点 10）

地点 10

写真 1-18(10)　土壌断面の状況

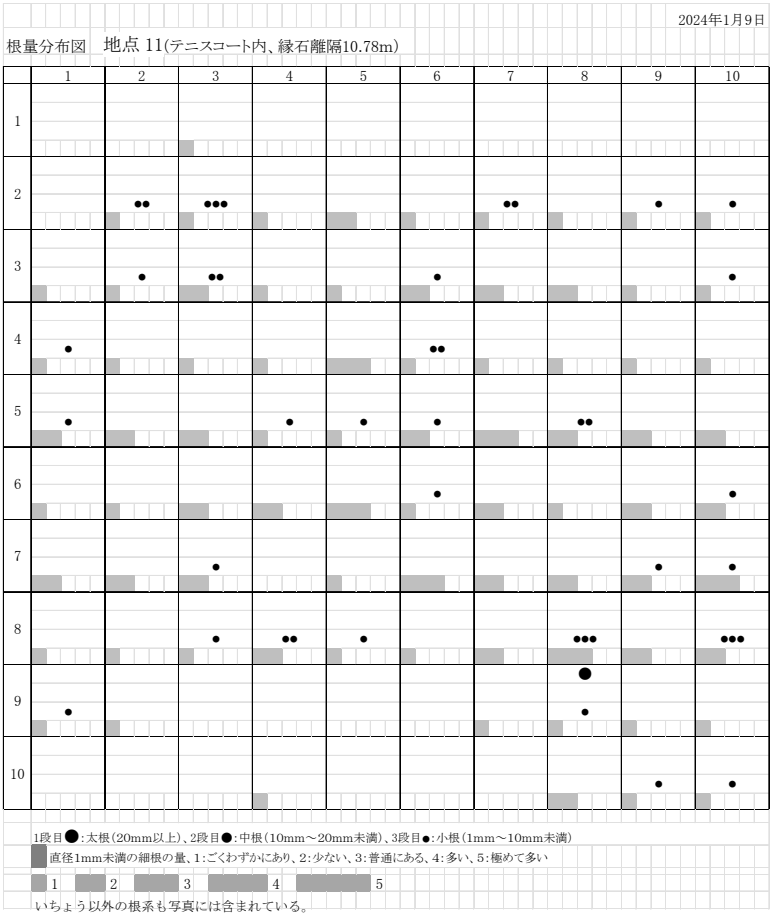
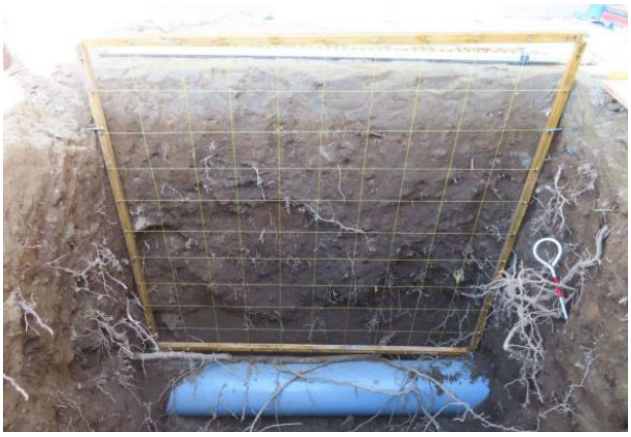
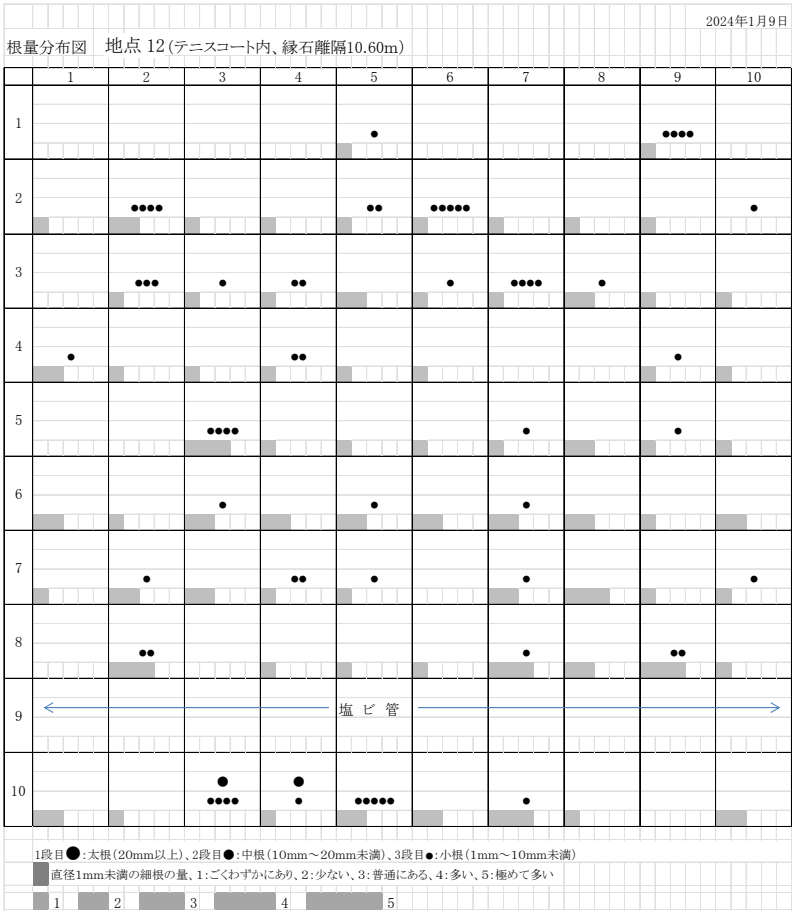


図 1-6（11）　根量分布図（地点 11）



地点 11

写真 1-18（11）　土壌断面の状況

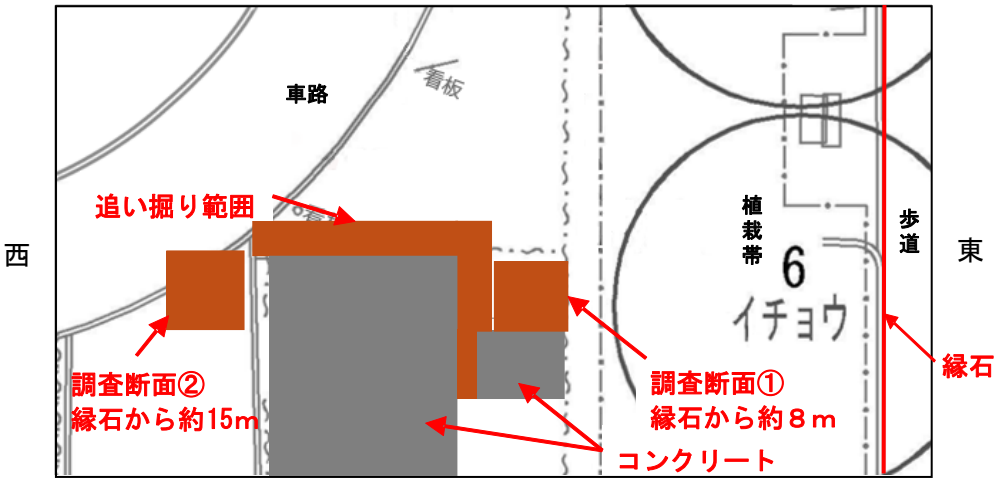


いちょう以外の根系も写真には含まれている。

図 1-6（12）　根量分布図（地点 12）

地点 12

写真 1-18(12)　土壌断面の状況



注）地点 1 の太根（84.7㎜、64.8㎜）については、コンクリートの下に太根が潜り込んでおり、最大伸長範囲は確認できなかった。そのため再度、縁石約 15m の位置で調査を行ったが、太根は確認できなかった。

図 1-7(1)　掘削位置図（地点 1）

■地点3

22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	縁石からの距離(m)	
									7		φ29		0	深さ(m)
													1	
													2	
													3	

■地点5

22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	縁石からの距離(m)	
4.9~8.7	12.8	10.6	15~18	19~21	32~43	29~39	28~38	38	61	84	φ70		0	深さ(m)
	30㎜以下												1	
													2	
													3	

■地点10

18	19	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	縁石からの距離(m)	
						36	42	54	66	58	67	φ77	0	深さ(m)
						34							1	
						5~10.7							2	
													3	

注）赤色の線は平面的な伸長状況を示す。図中の数値は縁石から 1m ごとの根の太さ（直径）を示す。

図 1-7(2)　いちょう根系の伸長範囲

(2) 予測条件の状況

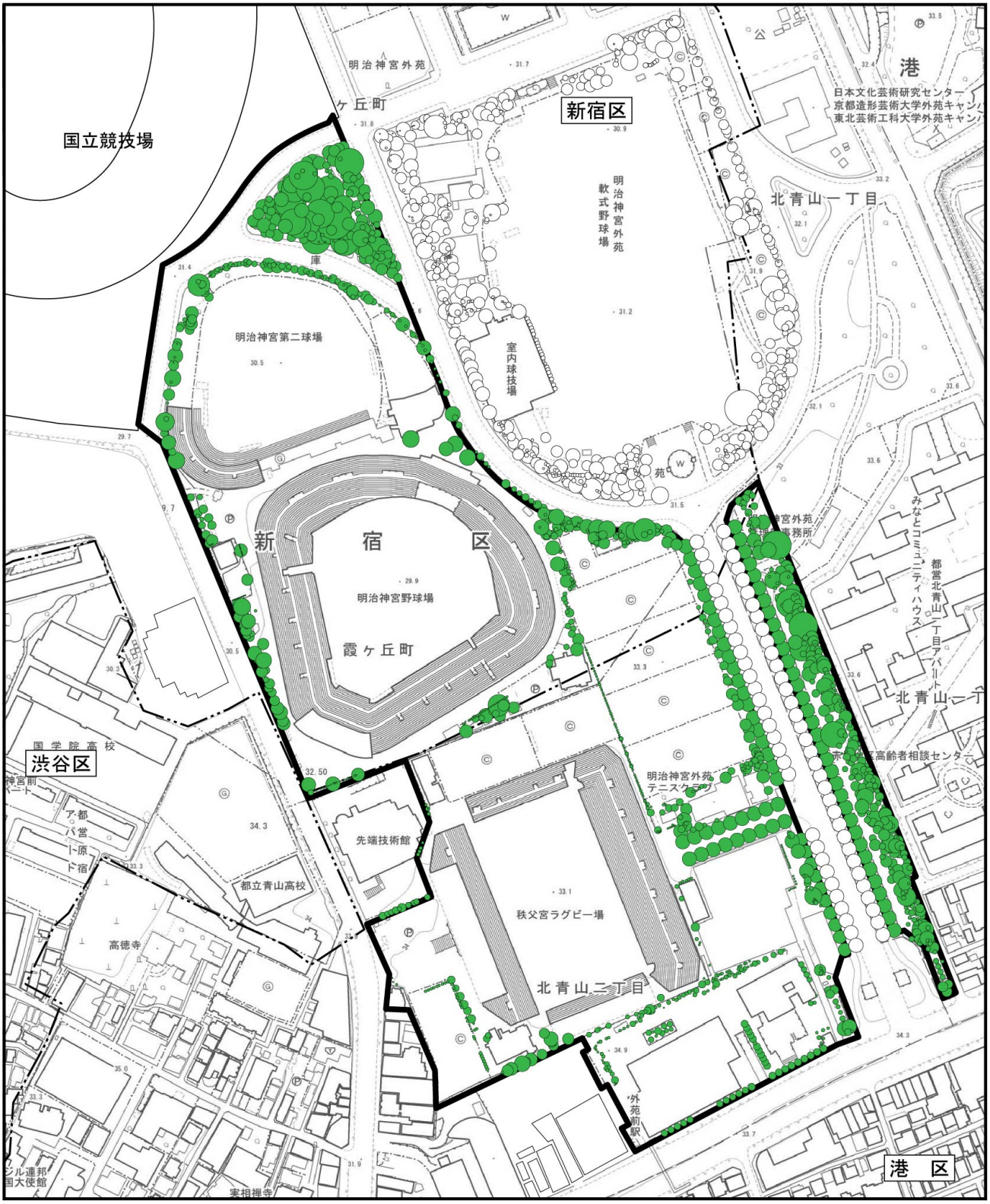
1) 緑地の保全状況

計画地内の現状の緑地については評価書時点と変わっておらず、保全されている（図 1-8 参照）。神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺については移植に向けた根回し作業及び養生のため仮囲いを設置し、閉鎖管理を行っている。また、神宮第二球場の解体工事を行っている（図 1-9 参照）。

なお、神宮外苑広場（建国記念文庫）の北側の保全エリアの樹木は、一部の樹木に病虫害被害により樹勢が低下し枯損等が生じたものの、樹林として保全されている。

また、「ウ．いちょう並木の保全状況（4 列） (ｱ) いちょうの活力度等の状況」に示したとおり、活力度の低下したいちょう等に対しては、いちょう周囲の灌水、液体肥料の施肥等を実施するとともに、4 列いちょう並木西側 1 列（縁石から約 10.5m まで）のうち秩父宮ラグビー場東側の港区道より北側部分について、下記に示す樹勢回復措置を実施した。

・ヘデラとの水分競合をなくすため、ヘデラを除去するとともに、土壌をほぐす等の土壌改良措置（水圧穿孔）を実施
・稲藁マルチングによる乾燥防止等の対応
・灌水装置の設置（4 列いちょう並木西側店舗前においては舗装ブロックを外し灌水装置を設置）
・埋設されている旧通路等を撤去し、根系域を確保
・4 列いちょう並木西側店舗テラス部分のインターロッキングを撤去し、根系への踏圧対策を目的とした浮き床構造のウッドデッキを設置



凡　例

計画地

区界

樹木

N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

図 1-8　緑地の分布状況

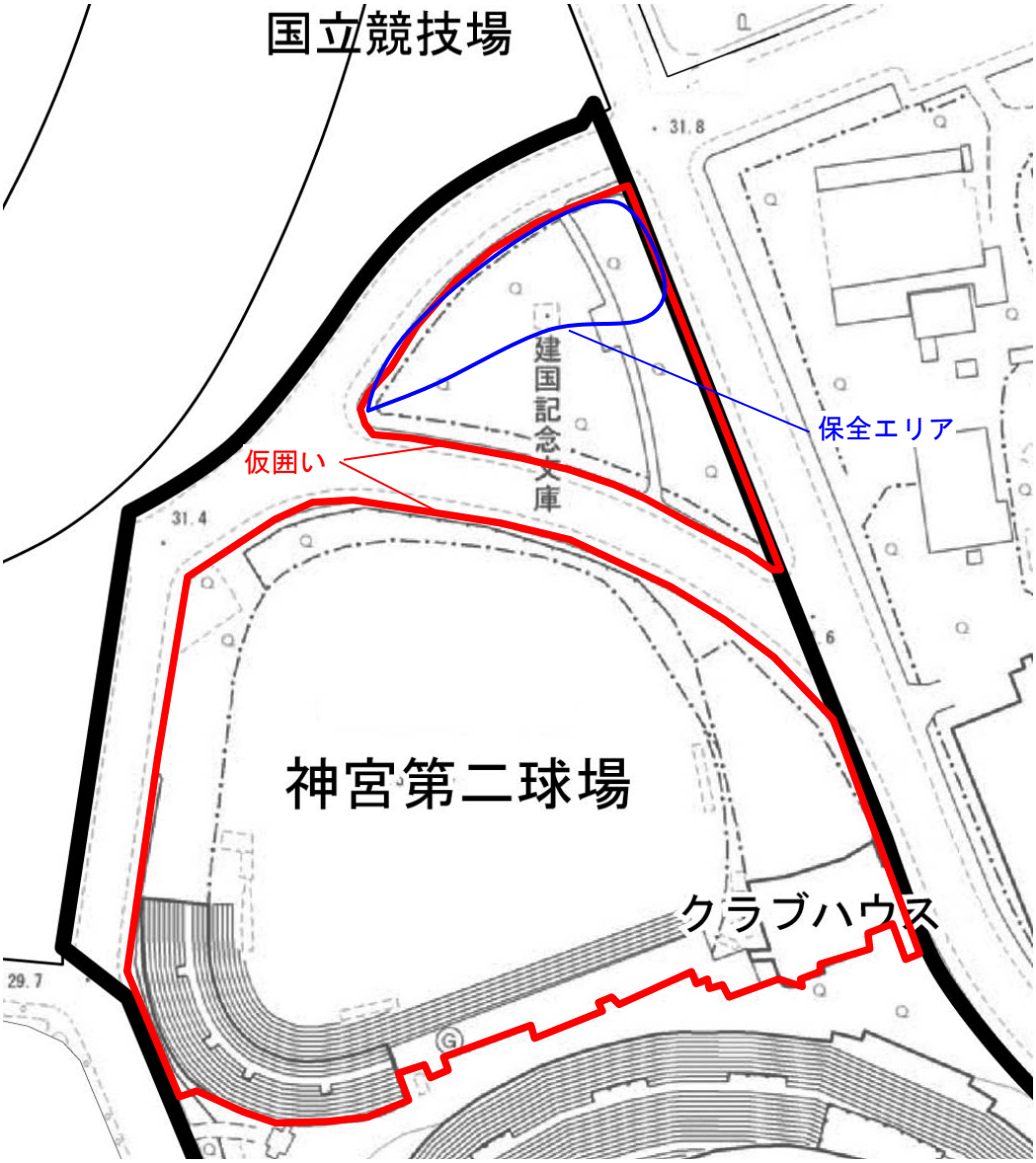


図 1-9　仮囲いの設置範囲（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺）

2)　計画地内の緑化の状況

計画地内の現状の緑化の状況について、「1)　緑地の保全状況」に記載のとおり、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺については移植に向けた根回し作業及び養生のため仮囲いを設置し、閉鎖管理を行っている。また、神宮第二球場の解体工事を行っている。

3)　文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りの整備状況

新たに創出する文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りの緑地について、現時点では整備に着手していない。

4)　計画地周辺の緑地の分布状況

計画地周辺の緑地の分布状況について、評価書時点からの変更はない。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 1-7 に示すとおりである。

表 1-7(1)　生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
（計画地全般に関する保全措置について）

環境保全のための措置		実施状況
今後詳細な設計を実施するにあたり、存置する既存樹林の生育に影響が及ばないよう、既存樹木の根鉢と計画建物の地下躯体との離隔を保持する等、計画建物の配置等に配慮する。		ラグビー場棟の詳細な形状については現在検討中であり、検討の結果は新ラグビー場敷地の既存樹木の伐採に着手する前までに、環境影響評価書で示した検討を行った結果としての樹木の保全に関する具体的な見直し案を示し、変更届として報告する。それ以外の施設については、今後詳細設計を実施する予定である。
計画地中央部に開放的な広場空間を整備し、その周辺の文化交流施設棟やラグビー場棟等も含め歩行者動線とも連携して芝生や高木等を配置するとともに、動植物の生息にも配慮した植栽計画とする。		計画地中央部に整備予定の広場空間や、その周辺の歩行者動線については工事に着手していない。
計画・設計に関する事項	今後、設計に際しては、樹木保全への配慮を施設設計仕様に盛り込むことや、詳細設計の前倒し等により文化交流施設棟などにおける隅切りや外形線の変更などの建物の形状、新たな緑地を創出する文化交流施設棟の設計などの工夫を行う。	ラグビー場棟の詳細な形状については現在検討中であり、検討の結果は新ラグビー場敷地の既存樹木の伐採に着手する前までに、環境影響評価書で示した検討を行った結果としての樹木の保全に関する具体的な見直し案を示し、変更届として報告する。それ以外の施設については、今後詳細設計を実施する予定である。
	保存する既存のまとまりのある緑について、緑地（並木東側）については改変を行わない。また、神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全エリアの拡大について、施設設計の深度化と併せて継続的に検討し、可能な限り保全エリアを拡大するとともに、ラグビー場の配置、構造等の詳細設計において生物・生態系への影響を回避・最小化する措置について具体的な内容を検討する。	緑地（並木東側）については改変を行っていない。 また、ラグビー場棟の詳細な形状については、既存樹木の保全等に留意したデザインや配置、構造等の検討を行っており、新ラグビー場敷地の既存樹木の伐採に着手する前までに、環境影響評価書で示した検討を行った結果としての樹木の保全に関する具体的な見直し案を示し、変更届として報告する。
	各施設の設計及び施工計画の詳細を決定していく中で、施工方法の工夫や樹木の保全に配慮した仕様とする。	ラグビー場棟の詳細な形状については現在検討中であり、検討の結果は新ラグビー場敷地の既存樹木の伐採に着手する前までに、環境影響評価書で示した検討を行った結果としての樹木の保全に関する具体的な見直し案を示し、変更届として報告する。それ以外の施設については、今後詳細設計を実施する予定である。
	詳細調査の結果、樹木の生育状況や周辺状況などを現地にてきめ細かく把握したうえで、樹木医が総合的に判断し、85 本の樹木については伐採から移植とする。	樹木の移植に備え、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の移植予定樹木について根回しを行うとともに、継続して養生を実施している。また、仮移植計画を策定し、「工事の施行中その1」で報告を行った。

表 1-7(2)　生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
（計画地全般に関する保全措置について）

環境保全のための措置		実施状況
計画・設計に関する事項	存置、移植の本数に加え、さらに 439 本の樹木を新植する計画である（詳細調査の結果反映後）。新植樹木については、植栽時の樹高は 3m～8m 程度とし、カシ、ケヤキ、サクラ、アオダモやモミジ類などに加え、神宮外苑の特徴ある樹種でもあるヒトツバタゴなどの樹種も取り入れる計画とする。	新植樹木も含めて樹種及び緑化計画の詳細設計を行っている。
	計画地内で確認された注目される植物種として、トサミズキ、ヒトツバタゴ、コムラサキ、シランが確認されている。4 種共に人為的に植栽しているものであり、このうちトサミズキ、コムラサキ及びシランについては緑地（並木東側）などに確認されており、計画建築物が建設される箇所では確認されていないことから、現位置で保全する計画であるが、今後、詳細な施工計画を決定する中で改変することとなった場合は移植する計画である。ヒトツバタゴについては計画建築物が建設される箇所で一部確認されているが、別の場所に継続して植栽を行うか、今後の緑化計画において検討する。	神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の移植により保全するヒトツバタゴ13本については根回しを実施済みであり、移植に向けた養生を行っている。 また、緑地（並木東側）など、トサミズキ、コムラサキ、シランが確認されている箇所については改変は行っていない。
	計画地中央部の広場空間と連続する文化交流施設棟及びラグビー場棟南側の緑地については、文化交流施設棟の高さを抑えることにより、日照の確保及び緑の生育促進に努める。	文化交流施設棟については評価書に記載のとおり高さ約6mで計画しており、高さを抑えることにより、日照の確保及び緑の生育促進に努める計画である。
	植栽樹種は、計画地の潜在自然植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木を保存、移植利用を行う。	樹種も含めて緑化計画の詳細設計を行っている。
施工に関する事項	施工に際しては、樹木医・設計者・施工者が一体となり設計及び施工計画の深度化を進める中で、樹木の伐採を回避し、保全を図る。保全が困難な場合には、可能な限り移植できるように努める。	神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全エリアを可能な限り拡大するよう、設計を進めている。
	工事の施行にあたっては存置樹木を傷つけないように、存置樹木近くに重機を通さないよう工事ヤードを設定するとともに、重機作業者に対して十分な離隔を確保するよう要請する。	神宮外苑広場（建国記念文庫）や神宮第二球場周辺の既存樹木については、工事エリアに仮囲いを設置しており、立ち入りによる踏み固めを制限している。

表 1-7(3)　生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
（計画地全般に関する保全措置について）

環境保全のための措置		実施状況
施工に関する事項	工事中においても適宜、樹木医等の立ち会い指導を受ける。	移植樹木の根回し及び養生においては樹木医の立合い指導の下、作業を実施している。
	樹木の状態を把握しながら、適切な時期に施行できるよう、工程に余裕をもって対応する。	樹木の移植に備えて、2023年2月～5月に根回しを行うとともに、継続して養生を実施している。
	透水性や硬度が適正かつ十分な植栽基盤（土壌）の厚み及び範囲を確保するとともに、作業時の踏み固めや雨天時の作業を控えるなどの配慮を行う。	根回しの実施に際し、作業時の踏み固めや雨天時の作業を控えるなどの配慮を行った。
	樹木の移植及び新植にあたっては、植付に適した時期に留意するとともに、事前に適切な時期に必要に応じて根回しを行う。	樹木の移植に備えて、適期である2023年2月～5月に根回しを行うとともに、継続して養生を実施している。
	工事発注に際し、上記の環境保全措置を特記仕様書に記載し、設計・施工者、樹木医、事業者が一体となり、環境・樹木保全への配慮を確実に遂行するよう設計・施工者に対して要請していく。	工事に際しては、環境影響評価書及び事後調査計画書に記載の環境保全のための措置の内容を踏まえ、作業を行っている。
管理に関する事項	移植樹及び新植樹には支柱を設置し、根の活着を図るとともに、倒木、傾き等を防止する。	移植樹については支柱を設置する予定である。
	既存（移植）樹木の根周りが歩行者等により踏み固められないよう、歩行可能な場所を限定し、樹木の保全に努める。	神宮外苑広場（建国記念文庫）や神宮第二球場周辺の工事エリアに仮囲いを設置しており、立ち入りによる踏み固めを制限している。
	存置・移植された既存樹木及び創出した緑地については、適正な管理育成を行い、豊かな樹林の形成に努める。	存置・移植された既存樹木及び創出した緑地については、剪定等の人為的な手入れは倒木、枝折れなど被害が発生する恐れがある場合や人の通行などに支障がある場合など必要最低限とし、自然な樹形や状態を維持するよう育成を進めることで、将来は高木等の成長によりまとまったみどり空間を創出する計画である。
	保全管理方針に基づきムラサキシジミが好む暗くて階層構造を有する樹林・林縁を保全するとともに、生物種のモニタリングと併せて状況に応じた維持管理（順応的管理）を行う。	存置・移植された既存樹木及び創出した緑地については、剪定等の人為的な手入れは倒木、枝折れなど被害が発生する恐れがある場合や人の通行などに支障がある場合など必要最低限とし、自然な樹形や状態を維持するよう育成を進めることで、将来は高木等の成長によりまとまったみどり空間を創出する計画である。 また、ラグビー場棟Ⅰ期工事及び野球場棟の完成後や、工事の完了後（全体竣工後）に動植物のモニタリングを行うとともに、その出現状況に応じた順応的管理を行い、その状況を事後調査報告書において報告する予定である。

表 1-7(4)　生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
（保存するいちょう並木について）

環境保全のための措置	実施状況
青山二丁目交差点から聖徳記念絵画館前へと続く特例都道四谷角筈線沿いの４列のいちょう並木を保存する。	青山二丁目交差点から聖徳記念絵画館前へと続く特例都道四谷角筈線沿いの4列のいちょう並木を保存する。
保存する４列のいちょう並木は既存建築物よりもセットバックして計画建築物を配置し、いちょう並木から離隔をとることにより、いちょうの生育に配慮する。	いちょう並木の根系調査結果を踏まえ、環境影響評価書においては約8mとしていた4列のいちょう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、更に約10.3mセットバックし、約18.3mとする（p.79～82参照）。
野球場棟のネットフェンスやスコアボード、照明やひさし等構築物による、日照及び景観への影響が懸念されることから、構築物の配置や素材・色彩の決定に当たっては十分配慮し、影響の低減に努める。	野球場棟による日照及び景観への影響を低減するため、ネットフェンス等の構築物の配置や素材・色彩の検討を行っている。
４列のいちょう並木の西側１列について根系調査を行い、事後調査報告書において報告する。	4列のいちょう並木の西側1列について、「工事の施行中その1」で記載したとおり、コンクリート塊や石礫、塩化ビニル製パイプ等が出現したことなどから、引き続き2024年1月・2月も根系調査を実施し、本事後調査報告書において報告を行った。なお、いずれの調査でも「10 cmメッシュ内に直径30 mm以上の根が4 本以上ある」箇所は見つからなかった。
根系調査の段階から、設計者、樹木医、事業者が一体となり、根系の状態に応じた基礎構造、施工方法等を精査する。	いちょう並木の根系調査結果を踏まえ、環境影響評価書においては約8mとしていた4列のいちょう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、更に約10.3mセットバックし、約18.3mとする（p.79～82参照）。
樹勢に応じた保育管理状況、及び根系調査の結果を踏まえ、建築計画及び施工計画における環境保全のための措置を具体的に示すとともに、事後調査報告書等において報告する。	樹勢に応じた保育管理として、ヘデラ除去、灌水、液体肥料の施肥を実施するとともに、本事後調査報告書において報告を行った。 また、いちょう並木の根系調査結果を踏まえ、環境影響評価書においては約8mとしていた4列のいちょう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、更に約10.3mセットバックし、約18.3mとする（p.79～82参照）。その旨、本事後調査報告書において報告を行った。
根系調査の結果、いちょうの健全な生育へ影響を与えるような根が複数確認された場合は、根を避けるため野球場棟の該当箇所の壁面後退等施設計画の工夫を行う。	いちょう並木の根系調査結果を踏まえ、環境影響評価書においては約8mとしていた4列のいちょう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、更に約10.3mセットバックし、約18.3mとする（p.79～82参照）。

表 1-7(5)　生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
（保存するいちょう並木について）

環境保全のための措置	実施状況
4 列のいちょう並木の西側に列植されている既存樹木については移植または伐採する計画であり、その掘り取りによるいちょうへの影響について、前述の根系調査により既存樹木の根系の状態についても合わせて確認を行い、樹木医などの専門家の指示を仰ぎながら必要に応じて対応を行う。	4列のいちょう並木の西側に列植されている既存樹木については、いちょう並木の根系調査結果及び既存樹木の根系の状態を踏まえ、樹木医などの専門家の指示を仰ぎながら必要に応じて対応を行っていく。
扁平基礎やピットの一部縮小などの構造上の対応により、計画建物の工事において杭工事を除き掘り返す深さは、4 列いちょう並木沿いについては 2 メートル程度に抑えられることから、2 メートルより深い部分にある根は保全することができる。ただし、既存施設の基礎は深さ 1.5 メートル程度となっており、また既存施設がない区域もあることから、1.5 メートルより浅い箇所に根が張っている可能性もある。この場合においては、樹木医等の見解を踏まえ、地下部への影響を最小限に抑える施工方法を採用する。このほか、太い根が長く伸びており切断する場合については、樹木医などの専門家の指示を仰ぎながら夏季期間を避ける時期に環状剥皮処理を行う等の検討を行うなど、設計・施工両面から精査し、4 列のいちょう並木を確実に保全する。	扁平基礎やピットの一部縮小などの構造上の対応により、計画建物の工事において杭工事を除き掘り返す深さは、4列いちょう並木沿いについては2メートル程度に抑えられることから、2メートルより深い部分にある根は保全することができる。ただし、既存施設の基礎は深さ1.5メートル程度となっており、また既存施設がない区域もあることから、1.5メートルより浅い箇所に根が張っている可能性もある。この場合においては、樹木医等の見解を踏まえ、地下部への影響を最小限に抑える施工方法を採用する。このほか、太い根が長く伸びており切断する場合については、樹木医などの専門家の指示を仰ぎながら夏季期間を避ける時期に環状剥皮処理を行う等の検討を行うなど、設計・施工両面から精査し、4列のいちょう並木を確実に保全する。
杭基礎の位置・間隔、断面積、断面形状については、根系調査等の結果を受けて、設計、施工計画に反映し柔軟に対応する。	杭基礎の位置・間隔、断面積、断面形状については、根系調査等の結果を受けて、設計、施工計画に反映し柔軟に対応する。
いちょうの健全な生育へ影響を与えるような根が複数確認され、環状剥皮処理が不適当な場合は、根を避けるため該当箇所の壁面を後退させる等の施設計画の工夫等を行い、いちょうを保全する。	いちょう並木の根系調査結果を踏まえ、環境影響評価書においては約8mとしていた4列のいちょう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、更に約10.3mセットバックし、約18.3mとする（p.79～82参照）。
基礎梁をプレキャスト化、杭は既成杭等を検討する。	基礎梁をプレキャスト化、杭は既成杭等を検討する。
環状剥皮処理を行う場合は、夏季期間を確実に避けられるよう、施工適期までに余裕を持った調査及び処理工程とする。	環状剥皮処理を行う場合は、夏季期間を確実に避けられるよう、施工適期までに余裕を持った調査及び処理工程とする。
樹木の生育に必要な根系範囲を設定し、この範囲内の根系を保護する。根系範囲内の掘削は、人力施工等により行い、根の切断を防ぐよう配慮する。	いちょう並木の根系調査結果を踏まえ、環境影響評価書においては約8mとしていた4列のいちょう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、更に約10.3mセットバックし、約18.3mとする（p.79～82参照）。 また、根系範囲内の掘削は、人力施工等により行い、根の切断を防ぐよう配慮する。

表 1-7(6)　生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
（保存するいちょう並木について）

環境保全のための措置	実施状況
樹木の周辺の舗装は浮き床方式を採用し、支持基礎についても最小限で検討する。	樹木の周辺の舗装は浮き床方式を採用し、支持基礎についても最小限で検討する。
工事中においても適宜、樹木医等の立ち会い指導を受ける。	現時点では野球場棟の工事に着手していないが、4列いちょう並木周辺の工事にあたっては適宜、樹木医の立合いを実施する計画である。
工事の施行にあたっては存置樹木を傷つけないように、存置樹木近くに重機を通さないよう工事ヤードを設定するとともに、重機作業者に対して十分な離隔を確保するよう要請する。	現時点では野球場棟の工事に着手していないが、4列いちょう並木周辺の工事にあたっては工事ヤードの設定など、踏み固めに配慮する計画である。
施工にあたっては根への負担を軽減するため、工事用車両の出入りに際しても、4 列のいちょう並木沿いの歩道を跨がないよう出入口を配置し、施工は球場の内側から行うことで、根への負担を軽減する。	現時点では野球場棟の工事に着手していないが、4列のいちょう並木沿いの歩道を跨がないよう出入口を配置し、施工は球場の内側から行う計画である。
仮囲いは置基礎タイプとして打ち込まず根に配慮する。	現時点では野球場棟の工事に着手していないが、4列いちょう並木周辺の仮囲いは置基礎タイプとする計画である。
野球場棟の防球ネットによる4列のいちょう並木への日影の影響については、今後、安全性も考慮した上で防球ネットの透過性等の詳細を検討する中で日影についても配慮し検討を行う。	野球場棟による日影への影響を低減するため、防球ネットの透過性等の検討を行っている。
工事の施行中及び完了後の一定期間にわたり、いちょう並木の活力度調査などモニタリングを実施し、状況に応じた環境保全のための措置を継続し、保育管理を実施することで、将来にわたり4列のいちょう並木を健全に育成する。	4列いちょう並木については工事中の毎年及び工事の完了後において活力度調査を実施する計画であり、2023年分（5月、7月、10月）については本事後調査報告書において報告する。 また、現在テニスコートとなっている土壌のうち、縁石から約10.5m～17mの表層土（20～30cm）について、良質客土に置換するとともに、その下層1mまでは水圧式の土壌改良等を行う計画であり、これにより根系の伸長可能な領域を現在の緑地幅(約10.5m)より60～70%増加させることが可能となる。さらに、毎年実施する4列いちょう並木の活力度調査結果を踏まえ、活力度の低下したいちょう等に対しては、いちょう周囲の灌水、液体肥料の施肥や、必要に応じてヘデラ除去を実施するなど、樹勢に応じた樹木の保育管理を継続し、保全していく計画である。

表 1-7(7)　生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
（神宮外苑広場（建国記念文庫）等の緑地について）

環境保全のための措置	実施状況
神宮外苑広場（建国記念文庫）等の植栽樹は、存置もしくは移植により極力残す計画とする。	ラグビー場棟の詳細な形状については、既存樹木の保全等に留意したデザインや配置、構造等を検討を行っており、新ラグビー場敷地の既存樹木の伐採に着手する前までに、環境影響評価書で示した検討を行った結果としての樹木の保全に関する具体的な見直し案を示し、変更届として報告する。
神宮外苑広場（建国記念文庫）等の緑地が一部改変されるが、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りにおいて、神宮外苑広場（建国記念文庫）等から約 112 本の樹木を移植し、新たに新植樹木も配置することで神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹林及び生態系を復元するとともに、次の 100 年に受け継ぐ緑地環境を整備する。	神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の既存樹木の移植に向けて、根回し及び養生を実施している。 これらの樹木の一部は仮移植を経て、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りに本移植し、次の100年に受け継ぐ緑地環境を整備する計画である。
仮移植期間中及び本移植後においては定期的に樹木医によるモニタリングを行い、必要な処置を講じた上で事後調査報告書にて報告する。	仮移植期間中及び本移植後においては毎年度、活力度調査を行い、必要な処置を講じた上で毎年度、事後調査報告書にて報告する。
計画の深度化に伴い、移植時期、方法、現況の土壌環境の状況を踏まえた植栽基盤確保の考え方、仮移植期間における養生計画及び養生期間中のモニタリング結果を反映した本移植計画等については今後、事後調査報告書等において報告する。	ラグビー場棟敷地内において、移植時期、方法、現況の土壌環境の状況を踏まえた植栽基盤確保の考え方、仮移植期間における養生計画について、事後調査報告書(工事の施行中その1)に掲載した。

表 1-7(8)　生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
（神宮外苑広場（建国記念文庫）等の緑地について）

環境保全のための措置	実施状況
ラグビー場の詳細な形状については今後、新ラグビー場設計者に対して、圧迫感や閉鎖性の緩和、既存樹木の保全等に留意したデザインなどを、引き続き検討するよう要請する。また、改めて既存樹木について設計・施工の両面からの工夫等により保存又は移植を検討し、自然環境の保全に努めるよう要請する。	圧迫感や閉鎖性の緩和及び、伐採樹木の更なる削減に向けて、ラグビー場棟の詳細な形状について検討を進めている。
ラグビー場棟の東側及び北側には都市計画上地区施設として定められている緑道を整備するほか、既存樹木の保存や移植による保全、新植による緑量の確保や質の向上にも配慮し、設計・建設等の各段階において関係機関と協議を行う。	ラグビー場棟の東側及び北側には緑道を整備する計画であり、既存樹木を追加で保存、移植できるよう、ラグビー場棟の詳細な形状について検討を進めている。

表 1-7(9)　生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
（予測に反映しなかった措置）

環境保全のための措置	実施状況
植栽後の樹木の状況（植栽状況、生育状況等）について確認するとともに、灌水や剪定等適切な管理を実施することにより、動植物の生育・生息環境の維持に配慮する。	樹木の移植及び新植に向けて準備を行っており、移植樹木を含めて予測対象とした全数の樹木については活力度調査を実施し、その結果を本事後調査報告書に掲載するとともに、調査結果を受けて病害防除対策等の処置を実施した。また、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺については樹木の保全及び安全対策のため仮囲いを設置して閉鎖管理を行うとともに、養生として灌水や稲藁によるマルチングを敷設して乾燥防止に努めている。
陸上植物、陸上動物及び生育・生息環境、生態系への影響の程度は不確実性を伴うことから、事後調査により事業の実施による影響を確認し、必要に応じて一層の環境保全措置を講じるとともに、その内容を事後調査報告書において報告する。	植物相及び動物相についてはラグビー場棟、野球場棟の竣工後、及び工事の完了後に事後調査を実施する計画である。また、ラグビー場棟の竣工後については神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全管理方針を、野球場棟の竣工後についてはいちょう並木（4列）の保全管理方針を事後調査報告書において報告する計画である。

3.2　予測結果と事後調査の結果との比較検討

(1) 予測した事項

1)　植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列））

ア．既存樹木の状況

計画地全体の既存樹木の状況については、下記の(ｱ)～(ｳ)に示すとおりである。なお、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び 4 列いちょう並木の状況については、「イ．神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況」「ウ.いちょう並木の保全状況（4 列)」に記載のとおりである。

(ｱ) 既存樹木の本数

既存樹木の本数について、予測結果と事後調査結果の比較は、表 1-8 に示すとおりである。既存樹木の本数は、存置が 599 本、移植が 189 本、移植検討が 19 本、伐採が 532 本、枯損等が 42 本、合計 1,381 本である。既存樹木については本事業による伐採や移植を行っていないが、枯損等（立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木）により評価書の予測結果（存置が 615 本、移植が 191 本、移植検討が 19 本、伐採が 556 本、合計 1,381 本）より存置、移植、伐採予定の本数が減少している。

(ｲ) 既存樹木の活力度

既存樹木全体の活力度調査の結果は、活力度 A が 257 本、活力度 B が 978 本、活力度 C が 97 本、活力度 D が 7 本、枯損等が 42 本、合計 1,381 本である（表 1-9 参照)。活力度 A は「正常なもの」であり、活力度 B は「普通、正常に近い」ものであり、どちらも正常な状態の樹木である。活力度調査の結果は A や B の本数が多く、概ね良好である。

予測結果との比較については、評価書の調査結果のうち、樹勢等に関する調査と合わせて葉についての調査を行っている 2019 年春季調査と事後調査結果の比較を行った。既存樹木全体の活力度は活力度 A が 112 本減少、活力度 B が 81 本増加、活力度 C が 8 本減少、活力度 D が 3 本減少、枯損等が 42 本発生している。評価書の調査結果に対して活力度が変化した要因としては、「ウ.いちょう並木の保全状況（4 列)」(p.77～82 参照）に示すとおり、ほとんどがいちょうの活力度変化によるものと考えられる。

上記のうち移植樹木の活力度調査の事後調査結果は、活力度 A が 73 本、活力度 B が 114 本、活力度 C が 2 本、合計 189 本である。また、枯損等が 2 本発生している。2019 年春季調査と比較すると、活力度 A が 5 本増加、活力度 B が 8 本減少、活力度 C が 1 本増加、枯損等が 2 本発生している（表 1-10 参照)。

移植検討の樹木の活力度調査の事後調査結果は、活力度 A が 7 本、活力度 B が 12 本、合計 19 本である。2019 年春季調査と比較すると、活力度 A が 9 本減少、活力度 B が 9 本増加している（表 1-11 参照)。

(ｳ) 保全管理の状況及び保全管理方針

活力度Ｃ やＤ など、樹勢が弱っている樹木に対して、施肥（2 年 1 回）を実施するとともに、害虫防除対策（キクイムシ侵入防除策）を実施している。

今後も保全管理方針として、樹勢が弱っている樹木に対して施肥の実施、定期巡回による病虫害被害状況を確認するとともに、病害防除対策の実施、定期剪定による樹木の生育環境の保全を実施する予定である。

表 1-8　既存樹木の本数

本数	存置	移植	移植検討	伐採	枯損等	合計
評価書における予測結果	615 本	191 本	19 本	556 本	－	1,381 本
事後調査結果	599 本	189 本	19 本	532 本	42 本	1,381 本
差分	－16 本	－2 本	0 本	－24 本	＋42 本	0 本

表 1-9　既存樹木全体の活力度調査結果

活力度		A	B	C	D	枯損等	合計
①	評価書における予測結果	220 本	894 本	227 本	40 本	－	1,381 本
②	2019 年春季調査	369 本	897 本	105 本	10 本	－	1,381 本
③	事後調査結果	257 本	978 本	97 本	7 本	42 本	1,381 本
③－②	**2019 年春季調査との差分**	**－112 本**	**+81 本**	**－8 本**	**-3 本**	**+42 本**	**－**

注 1)事後調査結果は 2023 年 4 月～5 月（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場においては 4 月～5 月及び 10 月）における調査結果。ただし、4 列いちょう並木及び既存区道のイチョウは 2023 年 10 月時点の調査結果。
注 2)②は葉に関する項目（葉形、葉の大きさ、葉色、ネクロシス）を調査しており、①では左記の調査を行っていないため、事後調査結果（③）を②と比較した。

表 1-10　移植樹木の活力度調査結果

活力度		A	B	C	D	枯損等	合計
①	評価書における予測結果	40 本	142 本	8 本	1 本	－	191 本
②	2019 年春季調査	68 本	122 本	1 本	0 本	－	191 本
③	事後調査結果	73 本	114 本	2 本	0 本	2 本	191 本
③－②	**2019 年春季調査との差分**	**+5 本**	**－8 本**	**+1 本**	**0 本**	**+2 本**	**－**

注 1)事後調査結果は 2023 年 4 月～5 月（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場においては 4 月～5 月及び 10 月）における調査結果。
注 2)②は葉に関する項目（葉形、葉の大きさ、葉色、ネクロシス）を調査しており、①では左記の調査を行っていないため、事後調査結果（③）を②と比較した。

表 1-11　移植検討の樹木の活力度調査結果

活力度		A	B	C	D	枯損等	合計
①	評価書における予測結果	13 本	5 本	1 本	0 本	－	19 本
②	2019 年春季調査	16 本	3 本	0 本	0 本	－	19 本
③	事後調査結果	7 本	12 本	0 本	0 本	0 本	19 本
③－②	**2019 年春季調査との差分**	**－9 本**	**+9 本**	**0 本**	**0 本**	**0 本**	**－**

注 1)事後調査結果は 2023 年 10 月における調査結果。
注 2)②は葉に関する項目（葉形、葉の大きさ、葉色、ネクロシス）を調査しており、①では左記の調査を行っていないため、事後調査結果（③）を②と比較した。

(ｴ) 移植計画

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の移植予定樹木の仮移植先及び本移植先の計画について、「事後調査報告書（工事の施行中その 1)」で報告した計画を一部変更する。

ｱ) 変更の目的

樹木の保全を目的として、移植による樹木の負担を可能な限り軽減すべく移植回数を減らすため、聖徳記念絵画館前広場の計画を見直し、建物等の配置変更や規模を縮小することにより、「事後調査報告書（工事の施行中その 1)」で計画した移植場所に加えて新たに移植場所を確保することとした。これにより、移植回数が 1 回となる本移植の本数を増やし、樹木の保全を図ることとした。

ｲ) 移植時期

移植時期は、2024 年 10 月頃から開始し、落葉樹は 10 月～3 月頃、常緑樹は 3 月～6 月頃及び 9 月～11 月頃の移植に適した時期に行う計画である。

ｳ) 移植場所

神宮外苑広場（建国記念文庫）で根回しした樹木については、神宮外苑広場（建国記念文庫）内の北側や絵画館前及び神宮外苑広場（御観兵榎）へ本移植を行うとともに、神宮外苑苗圃へ仮移植する計画である。

神宮第二球場周辺で根回しした樹木については、ラグビー場棟敷地西側及び神宮外苑苗圃へ仮移植するとともに、絵画館前や神宮外苑広場（御観兵榎）及び絵画館周りへ本移植する計画である。

絵画館前及びラグビー場棟敷地西側については移植場所をまとまった範囲で確保し、植栽基盤としての植栽客土は面的に連続して敷設するよう計画する。既存樹群落内に移植するエリア（神宮外苑広場（御観兵榎)、絵画館周り）については、硬い土質が多いものの透水が良好で腐食も多い良質な土壌環境のため（資料編 p. 314～316 参照)、根鉢径に対し余裕を持った植穴を確保したうえで、既存土壌とバーク堆肥を混合し埋め戻しを行う。

なお、神宮外苑苗圃とは、本事業に近接する場所に位置し、従来より明治神宮外苑の所有する樹木等の育成・管理が行われている苗圃である。

ｴ) 移植本数及び樹種

移植樹木は、神宮外苑広場（建国記念文庫）の 44 本、神宮第二球場周辺の 50 本、合計 94 本を対象とする計画である。

移植樹木の樹種については、神宮外苑広場（建国記念文庫）内へヤエザクラ、モミジ、シラカシを、絵画館前へマテバシイ、シイノキ、ウバメガシ、ケヤキ、ヤマモモ、トウカエデ、シラカシ、フウ、クヌギ、クスノキ、ヒトツバタゴ、エノキを本移植する計画である。また、神宮外苑広場（御観兵榎）へヒトツバタゴ、シイノキ、カラタネオガタマ、モクセイ、サザンカ、モッコク、サンゴジュ、イヌグス、ツバキ、マテバシイ、ヤマモモを本移植する計画であり、絵画館周りにはシイノキ、ヤマモモを本移植する計画である。仮

移植については、神宮外苑苗圃へヒトツバタゴを、ラグビー場棟敷地西側へマテバシイ、シイノキ、ケヤキ、サンゴジュ、コブシを仮移植する計画である。これらの樹種のうち、イヌグス（神宮外苑広場（御観兵榎））、ヤマモモ（絵画館前・神宮外苑広場（御観兵榎）・絵画館周り）、カラタネオガタマ（神宮外苑広場（御観兵榎））、クヌギ（絵画館前）を除く樹種については、移植先の現在の環境を維持するため、移植先に既に生育している樹種を移植する計画である。

ｵ）移植方法

移植方法としては、根回し周囲を掘削して畦シートを撤去し、環状剥皮を施した太根を切断しながら根巻きを行う。その後吊具をかける幹に麻布等を巻いて、樹木に傷が付かないように養生した上でクレーンにて吊り上げ､運搬用のトレーラー､トラックに積み込み、移植先まで運搬し、あらかじめ掘削しておいた植栽基盤植穴へクレーンにて吊り込み、植付けを行う。植付け後は十分に水極めを行い、根鉢高さまで客土を埋戻し、ワイヤー支柱等必要な支柱を設置する。なお、移植においては基盤ごと移植などの方法は行わず、一本ずつ根回しを行った上で移植する計画である。また、移植時の運搬に際し、必要と判断された剪定については、樹木医の立ち会い・指導の下クレーン、高所作業車を使用して剪定する計画である。

ｶ）移植にあたっての配慮事項

移植時の配慮事項としては、植栽基盤における蒸散抑制のため、稲藁によるマルチングを行うとともに、樹木支柱等の設置や、移植作業時に根鉢周辺を踏み固めないよう配慮する。神宮外苑広場（御観兵榎）への移植にあたっては、人の主要な動線には移植しないなどの踏み固め防止のための配慮を行う。移植後の樹木の管理においては、灌水と合わせて除草を行う。また、樹木医による毎年度のモニタリング（活力度調査）や、樹勢に変化がみられた場合の病虫害防除や液肥等の施用を実施し、その状況について事後調査報告書で報告する。

なお、上記のとおり絵画館前へ本移植する樹木が増えたことにより、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りに移植予定の樹木が減少することとなる。しかしながら、神宮外苑広場（建国記念文庫）と同様の樹種を新植することにより、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹林及び生態系を復元する計画である。

イ．神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場の移植樹木については、移植に向けて根回しを行っており、その状況は事後調査報告書（工事の施行中その 1）において報告を行った。

神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木については、活力度調査の結果、病虫害被害による樹勢の低下等により一部の樹木に枯損が生じているものの、根回しを行った樹木を含めて活力度は概ね良好であることを確認している。一部樹木の移植に備えた養生のため、仮囲いを設置し、閉鎖管理を行っている。養生の状況については、根鉢上に稲藁にてマルチング、養生を行うとともに、灌水を週 2 回実施している。これにより、根鉢周りの乾燥を防ぎ、土壌の温度調整を行っている。また、除草及び病害防除対策を適宜実施するとともに、巡回についても週 2 回実施している。養生の状況は、写真 1-19 に示すとおりである。

なお、保全エリア拡大の検討状況については、既存樹木の保全等に留意したデザインや配置、構造等を検討し設計を進めており、新ラグビー場敷地の既存樹木の伐採に着手する前までに、環境影響評価書で示した検討を行った結果としての樹木の保全に関する具体的な見直し案を示し、変更届として報告する。

写真 1-19(1)　養生の状況（病害防除対策）

写真 1-19(2)　養生の状況（清掃写真）

ウ．いちょう並木の保全状況（4 列）

(ｱ) いちょうの活力度等の状況

4 列いちょう並木の活力度調査は、事後調査計画では工事の施行中の毎年 6 月頃に調査を実施する予定であるが、2023 年については事後調査計画の調査計画を変更し、春(5 月)、夏（7 月)、秋（10 月）の 3 回調査を実施した。活力度の状況を詳細に把握するため、いちょう並木の景観を維持するため剪定をして樹形を整えている先端部（頂部）と、自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とした。

4 列いちょう並木の活力度は、2023 年 5 月時点では活力度 A（正常なもの）が 1 本、活力度 B（普通、正常に近い）が 125 本、活力度 C（悪化のかなり進んだもの）が 2 本、活力度 D（顕著に悪化の進んでいるもの）が 0 本であった。2023 年 7 月時点では活力度 A が 4 本、活力度 B が 119 本、活力度 C が 3 本、活力度 D が 2 本であった。2023 年 10 月時点では活力度 A が 52 本、活力度 B が 71 本、活力度 C が 1 本、活力度 D が 4 本であった。季節の異なる 3 回の調査で活力度が変化しているが、特に 5 月及び 7 月の調査結果を 2019 年春季調査と比較した場合、2019 年春季調査では活力度 A（正常なもの）が多い状態であった

のに対し、5 月及び 7 月の調査では正常なもの、あるいは普通、正常に近い範囲の中で、活力度 B（普通、正常に近い）が多い状態へ変化している。この理由としては、2023 年春先の定期剪定による葉の出方の影響や、先端部（頂部）とそれ以外の部分（頂部以外）に分けてより詳細に調査を行った結果、活力度が変化したためと考えられる。その後 10 月に活力度 A が増加したが、枝葉の伸長、萌芽により樹勢が回復したためと考えられる。また、2019 年春季調査に比べて活力度 C や D が出現しているが、2023 年春先の定期剪定による葉の出方の影響や、2020 年代（2020 年～2023 年）の東京（千代田区）の 6 月～9 月の平均気温が過去 30 年間（1991 年～2020 年）に比べて 6 月は 1.4℃、7 月は 1.0℃、8 月は 1.7℃、9 月は 1.1℃上昇するなど、気候変動の影響等も考えられる。

4 列のいちょう並木のうち、東側 2 列は活力度 A または B である。西から 2 列目については概ね活力度 A または B であるが、西から 1 列目の一部で活力度 C または D が出現している。

活力度 C や D となっているいちょうは、他のいちょうと比較して落葉が早い状態であることを日常管理の際に認識しており、枝の伸長が短く、葉の褐変や葉が小さいなどの所見が確認されている。これらについて検査機関に照会した結果、原因は病虫害ではないことが確認されている（資料編 p.300～303 参照）。

活力度の低下したいちょうに対しては、いちょう周囲の灌水、液体肥料の施肥等を実施するとともに、4 列いちょう並木西側 1 列（縁石から約 10.5m まで）のうち秩父宮ラグビー場東側の港区道より北側部分について、下記に示す樹勢回復措置を実施した。

- ヘデラとの水分競合をなくすため、ヘデラを除去するとともに、土壌をほぐす等の土壌改良措置（水圧穿孔）を実施
- 稲藁マルチングによる乾燥防止等の対応
- 灌水装置の設置（4 列いちょう並木西側店舗前においては舗装ブロックを外し灌水装置を設置）
- 埋設されている旧通路等を撤去し、根系域を確保
- 4 列いちょう並木西側店舗テラス部分のインターロッキングを撤去し、根系への踏圧対策を目的とした浮き床構造のウッドデッキを設置

また、土壌水分の測定や成長量の把握及び樹勢回復措置に伴う効果の確認のため幹周を測定する観測装置（デンドロメーター）の設置を行い、定期的にモニタリングを実施するとともに、今後も活力度調査を継続して実施し、樹勢に応じた樹木の保育管理を継続し、保全していく計画である。

表 1-12　4 列いちょう並木の活力度調査結果

活力度		A	B	C	D	合計
①	2019 年春季調査	126 本	2 本	0 本	0 本	128 本
②	事後調査結果 （2023 年 5 月時点）	1 本	125 本	2 本	0 本	128 本
③	事後調査結果 （2023 年 7 月時点）	4 本	119 本	3 本	2 本	128 本
④	事後調査結果 （2023 年 10 月時点）	52 本	71 本	1 本	4 本	128 本
④－①	2019 年春季調査と 2023 年 10 月時点 との差分	－74 本	＋69 本	＋1 本	＋4 本	－

注）事後調査結果（②～④）のいちょう並木の活力度について、上部は一般的ではないイチョウの樹形で維持されているため、剪定をして樹形を整えている先端部（頂部）と自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて詳細に調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とする方法によった。

（ｲ）根系調査

根系調査については、野球場棟の実施設計前に樹木医の判断を仰ぎながら根系調査を行い、その結果により設計者・施工者等と調整し、4 列のいちょう並木西側 1 列を保全するため詳細な建築計画及び施工計画の検討を行い、計画建物の地下躯体の配置をセットバックする等の配慮を行うこととしている。

今回根系調査を実施した結果、縁石から西側へ約 10.5m の位置で環状剥皮を実施する目安となる調査断面の 10cm メッシュ内に直径 30mm 以上の根が 4 本以上ある箇所は見つからなかった。従って、環境影響評価書記載の判断基準に基づき、約 10.5m の位置で環状剥皮を行わなくても良いと判断できるが、4 列のいちょう並木の保全を最優先事項として、その根系への影響を最小限にしながらより良い生育環境を整えるため、環境影響評価書記載の判断基準に基づく約 10.5m の位置での根の切断は実施しないこととし、以下の更なる根の保全方針を検討した。

■更なる根の保全方針

今回の根系調査にて一部の調査地点及びその周辺で確認された太根（概ね直径 30mm 以上）のうち 5 本については、最大伸長範囲を確認するために追い掘りを実施した結果、地点 5 の直径 70 mmの太根が最も西側に伸長しており、その距離は縁石から約 22m であった。なお、当該根については、縁石から約 17m 以降の位置において、環状剥皮の実施の目安となる直径 30 mmより細くなることが確認され、また、その他の 4 本のうち、地点 3 と地点 10 の 2 本は西側への伸長が縁石から約 14～17m の位置までとなっていることが確認された（図 1-10 参照）。

4 列のいちょう並木の西側 1 列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、環境影響評価書においては約 8m としていたが、以上を踏まえ、いちょうの根系保全範囲は縁石から約 17m とし、約 17m 未満の位置に存在する根については全て切断せずに保護する方針とする。

また、工事期間中の仮設工作物や地下躯体構築のための掘削、環状剥皮のための施工幅

や更なる根系伸長余地を考慮し、野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体壁面位置は上記の約 17m からさらに約 1.3m 西側に設定する方針とする。

以上により、野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、環境影響評価書において約 8m としていた位置から更に約 10.3m セットバックし、約 18.3m となる（図 1-11 参照）。

なお、野球場棟の地下躯体の壁面位置セットバックに伴い、観客席の再配置などの見直しが必要となるため、施設計画については継続検討する。

■地点3

22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	縁石からの距離(m)	
									7		φ29		0	深さ(m)
													1	
													2	
													3	

■地点5

22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	縁石からの距離(m)	
4.9~8.7	12.8	10.6	15~18	19~21	32~43	29~39	28~38	38	61	84	φ70		0	深さ(m)
	30㎜以下												1	
													2	
													3	

■地点10

18	19	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	縁石からの距離(m)	
						36	42	54	66	58	67	φ77	0	深さ(m)
						34							1	
						5~10.7							2	
													3	

注）赤色の線は平面的な伸長状況を示す。図中の数値は縁石から 1m ごとの根の太さ（直径）を示す。

図 1-10　いちょう根系の伸長範囲

■いちょうの保全のための具体策

1)根系保全範囲である約 17m の位置で確認された根への対応

いちょうの根系保全範囲を縁石から約 17m に設定することに伴い、野球場棟や文化交流施設棟の着工の約 1 年前（2027 年予定）に、約 17m の位置での根の状況を手掘りにて確認し、事後調査報告書において報告する。手掘りの結果、根が確認された場合には、樹木医等と相談の上、折り曲げ可能な根があれば伸長方向を変え保存し、直径 30mm 以上の根は環状剝皮を行い、1 年後に切断する。直径 30mm 未満の根は、細根の発根を促すために鋭利に切断する。

根の環状剝皮及び切断の際には、発根促進剤や殺菌剤等の散布とその後の根系伸長域の確保を行う。

2)土壌改良

4 列いちょう並木西側 1 列のある現植栽地の土壌については保全する。その西側の現在テニスコートとなっている土壌のうち、縁石から約 10.5m～17m の表層土（20～30 ㎝）については、良質客土に置換するとともに、養分や水分を吸収する根が多く分布する下層 1m まではいちょうの根を傷つけないように水圧式の土壌改良等を行う計画である。これにより、根系の伸長可能な領域を現在の緑地幅（約 10.5m）より 60～70%増加（約 18m）させることが可能となる。さらに、縁石から約 17m～18.3m の土壌について、バーク堆肥の施肥または良質客土への置換を行う。

3)樹勢回復措置

4 列いちょう並木の西側 1 列（縁石から約 10.5m まで）のうち秩父宮ラグビー場東側の港区道より北側部分について、「(2)予測条件の状況　1)緑地の保全状況」(p.61)に記載したとおり、2023 年度の活力度調査結果を踏まえ、下記の樹勢回復措置を実施した。

- ヘデラとの水分競合をなくすため、ヘデラを除去するとともに、土壌をほぐす等の土壌改良措置（水圧穿孔）を実施
- 稲藁マルチングによる乾燥防止等の対応
- 灌水装置の設置（4 列いちょう並木西側店舗前においては舗装ブロックを外し灌水装置を設置）
- 埋設されている旧通路等を撤去し、根系域を確保
- 4 列いちょう並木西側店舗テラス部分のインターロッキングを撤去し、根系への踏圧対策を目的とした浮き床構造のウッドデッキを設置

上記のいちょうについて樹勢回復措置の効果を把握するため、以下の対応を行う。

- 2024 年 4 月に 8 本のいちょうに対してデンドロメーターを設置済。デンドロメーターで幹周を測定することで、いちょうの生長量の把握及び樹勢回復措置に伴う効果を確認する。
- 西側 1 列のいちょう付近において、定期的に土壌水分計による土壌水分を計測する。土壌水分の過剰・適湿・乾燥を把握し、灌水間隔・灌水量が適正かどうかを確認する。

また、毎年実施する４列いちょう並木の活力度調査結果を踏まえ、活力度の低下したいちょうを中心に、いちょう周囲の灌水、液体肥料の施肥や、必要に応じてヘデラ除去を実施するなど、樹勢に応じた樹木の保育管理を継続し、いちょうにとってより良い環境を作り、保全していく計画である。

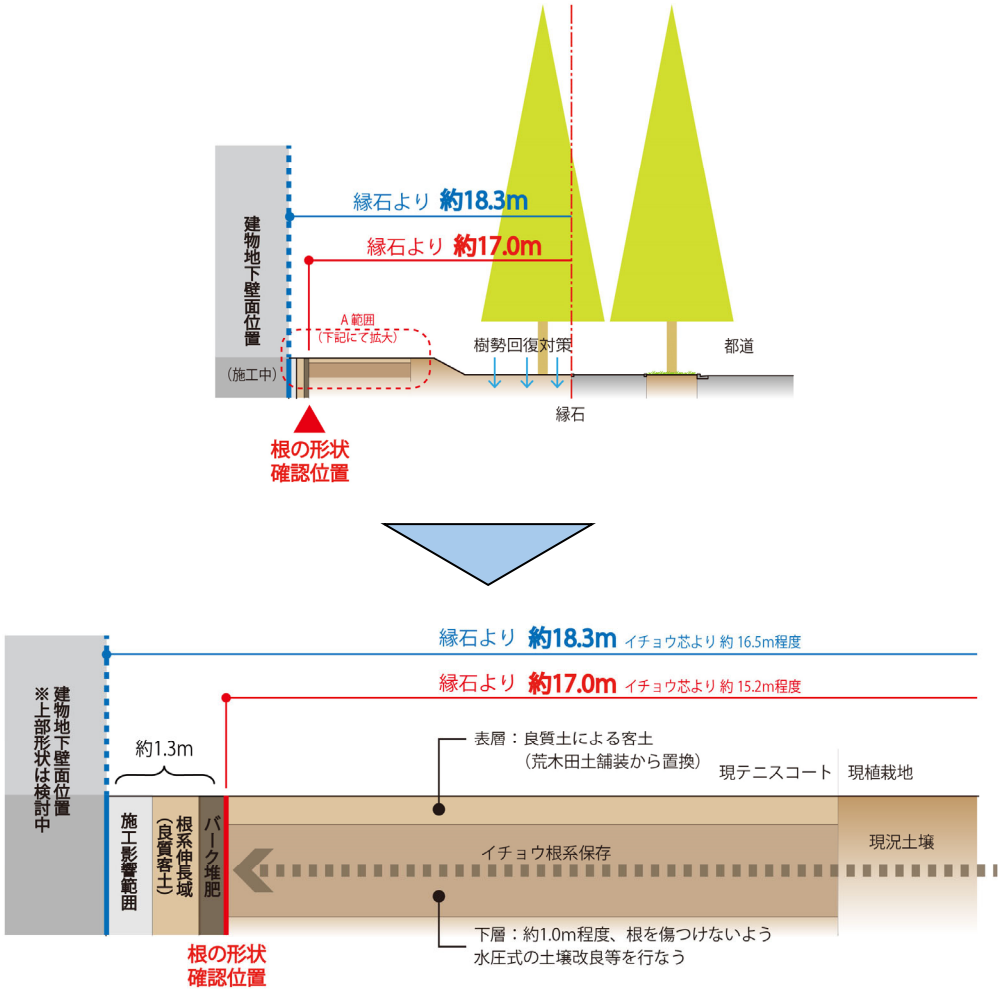


図 1-11　いちょう根系保全範囲断面模式図（施工中）

事後調査の結果

調 査 項 目：自然との触れ合い活動の場

調査した事項：自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

1. 調査地域

計画地内及びその周辺とした。

2. 調査手法

2.1 調査事項

(1) 予測した事項

1) 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

(2) 予測条件の状況

1) 緑地の保全状況及び緑化の状況

2) 工事の実施状況

3) 歩行者動線の状況

(3) 環境保全のための措置の実施状況

2.2 調査時点

(1) 予測した事項

1) 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

令和 5 年 2 月から令和 6 年 4 月末までの期間とした。

(2) 予測条件の状況

1) 緑地の保全状況及び緑化の状況

令和 5 年 2 月から令和 6 年 4 月末までの期間とした。

2) 工事の実施状況

「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」と同様とした。

3) 歩行者動線の状況

「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」と同様とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

令和 5 年 2 月から令和 6 年 4 月末までの工事の施行中の随時とした。

2.3 調査地点

(1) 予測した事項

1) 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

計画地内及びその周辺とした。

(2) 予測条件の状況

1) 緑地の保全状況及び緑化の状況

計画地内及びその周辺とした。

2) 工事の実施状況

「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」と同様とした。

3) 歩行者動線の状況

「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」と同様とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

計画地内及びその周辺とした。

2.4 調査方法

(1) 予測した事項

1) 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

計画地内及びその周辺の歩行者動線等を踏査し、目視で確認する方法とした。

(2) 予測条件の状況

1) 緑地の保全状況及び緑化の状況

現地調査(写真撮影等)及び関連資料（施工計画、建設作業日報等）の整理による方法とした。

2) 工事の実施状況

「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」と同様とした。

3) 歩行者動線の状況

「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」と同様とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

現地調査(写真撮影等)及び関連資料（施工計画、建設作業日報等）の整理による方法とした。

3. 調査結果

3.1 事後調査の結果の内容

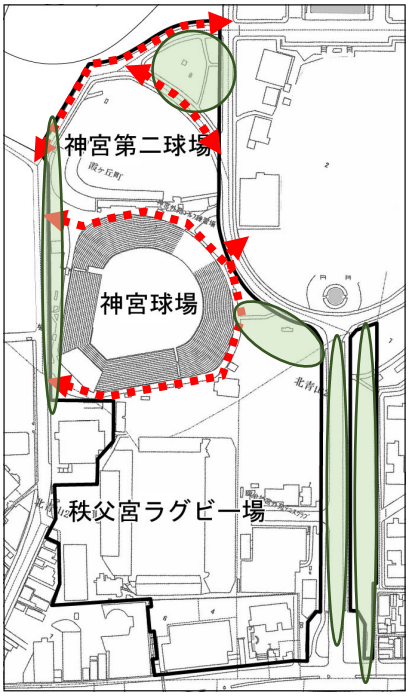
(1) 予測した事項

1) 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

神宮第二球場の解体工事のため、第二球場敷地への工事用車両の出入りはあるが、その周辺の歩道を閉鎖する際は、状況に応じて迂回路を設置するとともに交通整理員を配置し、歩行者の通行に支障がないように配慮している（写真 2-1 参照）。

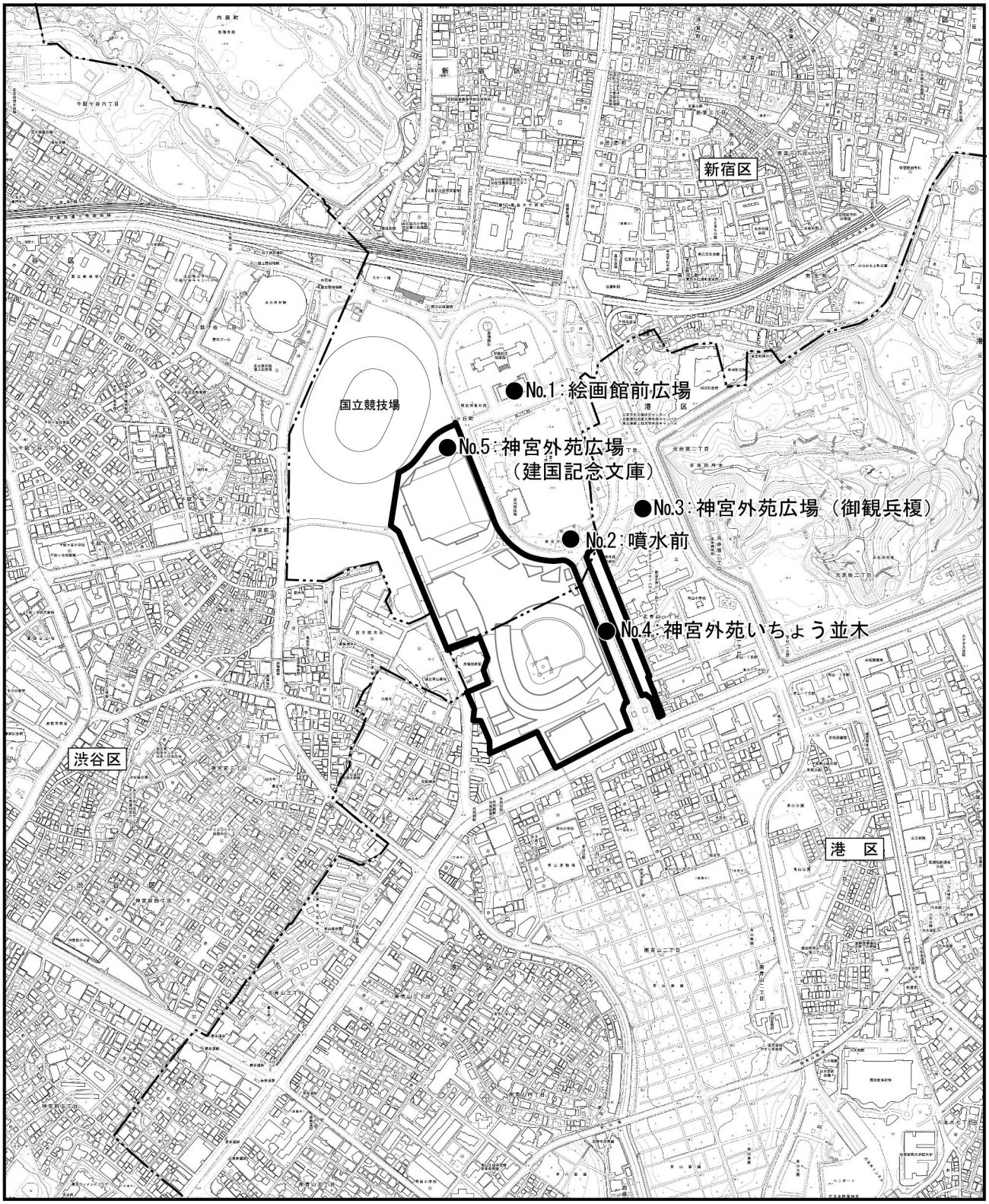
それ以外の場については、周辺の緑地や広場について改変は行われておらず（図 2-2 及び写真 2-2 参照）、本事業により歩道の閉鎖は行っていないため、自然との触れ合い活動の場までの利用経路は確保されている（図 2-1 参照）。

写真 2-1　迂回路の設置及び交通整理員の配置状況



：歩行者動線（地上レベル）　　：緑地

図 2-1　歩行者動線及び広場の状況



凡　例

計画地

区界

● 自然との触れ合い活動の場の調査地点(No.1～5)

N

S＝1／12,000

0　100　200　300m

図 2-2　自然との触れ合い活動の場の調査地点

No.1：絵画館前広場

No.2：噴水前

No.3：神宮外苑広場（御観兵榎）

No.4：神宮外苑いちょう並木

No.5：神宮外苑広場（建国記念文庫）

写真2-2　計画地及び周辺の自然との触れ合い活動の場の状況

(2) 予測条件の状況

1) 緑地の保全状況及び緑化の状況

計画地内の現状の緑地のうち、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の一部の樹木については移植に備えて根回しの処置を行っており、養生のため仮囲いを設置し、閉鎖管理を行っている。

根回し後の養生の状況については、根鉢上に稲藁にてマルチング、養生を行うとともに、灌水を週 2 回実施している。これにより、根鉢周りの乾燥を防ぎ、夏季の温度調整を行っている。また、除草を適宜実施するとともに、巡回についても週 2 回実施している。

上記以外の緑地については評価書時点と変わっておらず、保全されている。

2) 工事の実施状況

「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」に記載したとおり、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の一部の樹木については移植に備えて根回しの処置を行っており、養生のため仮囲いを設置し、閉鎖管理を行っている。

また、神宮第二球場について除却作業を行っている。周辺の緑地や広場について改変は行われておらず、本事業により歩道の閉鎖は行っていないため、自然との触れ合い活動の場までの利用経路は確保されている。

3) 歩行者動線の状況

「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」に記載したとおり、神宮外苑広場（建国記念文庫）については仮囲いを設置しており、歩行者の通行が出来ない状況となっている。

それ以外の場については、本事業により歩道の閉鎖は行っておらず、自然との触れ合い活動の場までの利用経路は確保されている。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 2-1 に示すとおりである。

令和 5 年 2 月から令和 6 年 4 月末までの間に、自然との触れ合い活動の場に関する苦情はなかった。

表2-1　自然との触れ合い活動の場に係る環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置	実施状況
工事用車両の出入口に交通整理員を配置することにより、周囲の歩道を利用する一般の歩行者の円滑な通行を確保する。	工事用車両の出入口には交通整理員を配置し、一般の歩行者の円滑な通行を確保している。
工事の施行により周辺の歩道が通行できなくなる場合は迂回路を設置し、歩行者の通行に支障がないよう配慮する。	神宮第二球場の解体工事のため、その周辺の歩道を閉鎖する場合は、状況に応じて迂回路を設置するとともに交通整理員を配置し、歩行者の通行に支障がないように配慮している（写真 2-1 参照）。
今後詳細な設計を実施するにあたり、存置する既存樹林の生育に影響が及ばないよう、既存樹木の根鉢と計画建物の地下躯体との離隔を保持する等、計画建物の配置等に留意する。	ラグビー場棟の詳細な形状については現在検討中であり、新ラグビー場敷地の既存樹木の伐採に着手する前までに、環境影響評価書で示した検討を行った結果としての樹木の保全に関する具体的な見直し案を示し、変更届として報告する。それ以外の施設については、今後詳細設計を実施する予定である。
既存（移植）樹木の根周りが歩行者等により踏み固められないよう、歩行可能な場所を限定し、樹木の保全に努める。	神宮外苑広場（建国記念文庫）や神宮第二球場周辺の工事エリアに仮囲いを設置しており、立ち入りによる踏み固めを制限している。

3.2　予測結果と事後調査の結果との比較検討

(1) 予測した事項

1)　自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

予測結果と同様に、神宮第二球場の解体工事のため、第二球場敷地への工事用車両の出入りはあるが、その周辺の歩道を閉鎖する際は、状況に応じて迂回路を設置するとともに交通整理員を配置し､歩行者の通行に支障がないように配慮している。

それ以外の場については、周辺の緑地や広場について改変は行われておらず、本事業により歩道の閉鎖は行っていないため、自然との触れ合い活動の場までの利用経路は確保されている。

以上のことから、予測結果のとおり、自然との触れ合い活動の場までの利用経路に著しい影響を及ぼしていないものと考える。

事後調査の結果

調 査 項 目：廃棄物

調査した事項：解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用量及び処理・処分の方法

建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用量及び処理・処分の方法

1. 調査地域

計画地内とした。

2. 調査手法

2.1 調査事項

(1) 予測した事項

1) 解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用量及び処理・処分の方法

2) 建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用量及び処理・処分の方法

(2) 予測条件の状況

1) 掘削工事等の状況（掘削部分の面積、深度等）

2) 撤去建造物等の状況

3) 事業計画（延床面積）

4) 再資源化・再利用等の状況

(3) 環境保全のための措置の実施状況

2.2 調査時点

(1) 予測した事項

1) 解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用量及び処理・処分の方法

令和 5 年 2 月から令和 6 年 4 月末までの期間とした。

2) 建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用量及び処理・処分の方法

令和 5 年 2 月から令和 6 年 4 月末までの期間とした。

(2) 予測条件の状況

1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）

令和5年2月から令和6年4月末までの期間とした。

2) 撤去建造物等の状況

「1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等)」と同様とした。

3) 事業計画（延床面積）

「1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等)」と同様とした。

4) 再資源化・再利用等の状況

「1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等)」と同様とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

令和5年2月から令和6年4月末までの工事の施行中の随時とした。

2.3 調査地点

(1) 予測した事項

1) 解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用量及び処理・処分の方法

計画地内とした。

2) 建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用量及び処理・処分の方法

計画地内とした。

(2) 予測条件の状況

1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）

計画地内とした。

2) 撤去建造物等の状況

「1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等)」と同様とした。

3) 事業計画（延床面積）

「1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等)」と同様とした。

4) 再資源化・再利用等の状況

「1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等)」と同様とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

計画地内とした。

2.4 調査方法

(1) 予測した事項

1) 解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用量及び処理・処分の方法

関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

2) 建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用量及び処理・処分の方法

関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

(2) 予測条件の状況

1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）

関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

2) 撤去建造物等の状況

関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

3) 事業計画（延床面積）

関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

4) 再資源化・再利用等の状況

関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

現地調査（写真撮影等）及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

3. 調査結果

3.1 事後調査の結果の内容

(1) 予測した事項

1) 解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用量及び処理・処分の方法

解体工事等に伴い生じる廃棄物の排出量は、表 3-1 に示すとおりである。工事開始時の令和 5 年 2 月から令和 6 年 4 月末までに発生した建設廃棄物の排出量は、コンクリート塊 9,140m³、それ以外が 1,614t であった。建設廃棄物は分別収集し、再資源化を行った。建設廃棄物の再資源化率は、アスベストを除いて 100%であった。アスベストの処理状況は写真 3-1 に示すとおりである。

表3-1 建設（解体）廃棄物の排出量

種 別	発生量(t)	再資源化量(t)	再資源化率(%)
コンクリート塊	9,140m³ 注)	9,140m³ 注)	100%
アスコン塊	475t	475t	100%
建設汚泥	2t	2t	100%
廃油	1t	1t	100%
木くず	42t	42t	100%
廃プラスチック	115t	115t	100%
繊維くず	1t	1t	100%
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	70t	70t	100%
石膏ボード	31t	31t	100%
アスベスト	95t	－	－
その他がれき類	694t	694t	100%
その他（蛍光灯等）	4t	4t	100%
混合廃棄物	84t	84t	100%
合 計	1,614t (1,519t 注3))	1,519t	100%

注 1) コンクリートの比重（2.3t/m³）を用いて m³に換算した。
2) 金属くずは分別を行い、全て有価物として売却しているため、廃棄物としての発生はない。
3) アスベストを除く発生量。アスベストは再資源化の対象外であり、再資源化率の算出の際の発生量から除く。
4) 合計はコンクリート塊を除く。

写真3-1 アスベスト処理状況（剥離、飛散防止剤塗布状況）

2)　建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用量及び処理・処分の方法

現時点では建設工事（新築工事）には着手しておらず、建設工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出はない。

(2) 予測条件の状況

1)　掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）

現時点では建設工事（新築工事）には着手しておらず、建設工事に伴う掘削は行っていない。

2)　撤去建造物等の状況

計画地内の建造物のうち、神宮第二球場について除却作業を行っている。

3)　事業計画（延床面積）

延床面積は約 565,000㎡であり、評価書の記載に変更はない。

4)　再資源化・再利用等の状況

撤去した解体廃棄物はアスベストを除き、100％再資源化を行っている。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 3-2 に示すとおりである。

令和 5 年 2 月から令和 6 年 4 月末までの間に、廃棄物に関する苦情はなかった。

表3-2(1)　廃棄物に係る環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置	実施状況
計画建築物の建設に伴い発生する建設廃棄物については、分別収集し、再利用可能なものについては、極力、再利用を図る。	現時点では神宮第二球場の解体工事を行っており、新築工事には着手していない。解体廃棄物については、コンクリート塊などの品目別にトラックに積載して搬出を行い、分別収集し再資源化の徹底を図った。
建設廃棄物の分別を徹底し、種類に応じて保管、排出、再利用促進及び不要材の減量等を図る。再利用できないものは、運搬・処分の許可を得た業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認する。	建設廃棄物管理責任者を選任し、現場内の廃棄物置場には、分別用ごみコンテナを設置して分別収集し、再資源化の徹底を図った。また、再利用可能なものについては、極力、再利用を図ることとしている（写真 3-2 参照)。 建設廃棄物の運搬・処理処分にあたっては、マニフェストにより適正処理を確認した。
既存建築物に使用されているアスベストについては、解体工事に先立ち、「石綿障害予防規則」、「建築物の解体等に係る石綿（アスベスト）飛散防止対策マニュアル」、「港区建築物の解体工事等の事前周知等に関する要綱」に従い、既存建築物設計図による調査、現地での目視調査等を実施し、必要に応じて材質分析調査を併用して、状況に応じた対策を講じながら除去作業を実施する。	解体工事に伴い、石綿含有産業廃棄物が発生した。 石綿含有産業廃棄物については、「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」（令和 6 年 2 月改正　厚生労働省、環境省)、「建築物の解体等に係る石綿（アスベスト）飛散防止対策マニュアル」（令和 4 年 3 月　東京都)等に基づき撤去し、適正に処分を行った。
除去したアスベストについては、「石綿障害予防規則」、「建築物の解体等に係る石綿（アスベスト）飛散防止対策マニュアル」に従い、粉じんが発生しないよう、堅固な容器や確実な包装を施し、運搬するまでの間、隔離作業場外に設けた一時保管場所に適切に保管する。	
アスベストの運搬・処分にあたっては、「建築物の解体又は改修工事において発生する石綿を含有する廃棄物の適正処理に関する指導指針」に従い、許可を得た業者に委託するとともに、マニフェストにより確認する。	

表3-2(2)　廃棄物に係る環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置	実施状況
伐採樹木については計画地内での利活用を行うほか、チップ化して堆肥や土壌改良剤等としてリサイクルする等、適切に処理する。	伐採樹木については計画地内での利活用を行うほか、チップ化して堆肥や土壌改良剤等としてリサイクルする等、適切に処理する計画である。
伐採した樹木のストックの方法については、計画地内で保管できる容量を超えるものについては計画地外で保管することとし、工事計画に沿って適切な保管が可能な場所において保管を行う。	伐採した樹木のストックの方法については、計画地内で保管できる容量を超えるものについては計画地外で保管することとし、工事計画に沿って適切な保管が可能な場所において保管を行う計画である。
コンクリート型枠材については、非木材系型枠の採用や部材のプレハブ化等により木材系型枠材の使用量を低減する。	現時点では建設工事（新築工事）には着手しておらず、建設工事に伴うコンクリート型枠材の使用はない。
建設廃棄物の排出量を低減するような施工計画を検討し、施工業者に遵守させる。	朝礼での全体講習会のほか、廃棄物管理責任者による勉強会等、廃棄物のさらなる発生抑制の指導を徹底させることを施工計画に盛り込み、廃棄物の低減化に努めた。
「建設リサイクル法」に基づく特定建設資材廃棄物については現場内で分別解体を行い、可能な限り現場内利用に努め、現場で利用できないものは現場外で再資源化を行う。	コンクリート塊及び木くず等については分別を徹底し、産業廃棄物処理業者に委託して再資源化に努めた。
施設整備にあたっては、リサイクル材料を積極的に使用する。	道路やコンクリート構造物の整備にあたって、再生アスファルト合材や再生骨材の利用を検討する計画である。
特別管理廃棄物について、工事の実施にあたりその存在が確認された場合には、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等関係法令に基づき、適切に処理する。	ＰＣＢ製品の使用やＰＣＢ廃棄物など、アスベスト以外の特別管理廃棄物の保管は確認されなかった。

写真3-2　コンクリート塊分別状況

3.2　予測結果と事後調査の結果との比較検討

(1) 予測した事項

1)　解体工事に伴い生じる廃棄物の発生量

建設廃棄物の排出量の予測結果と事後調査結果との比較は、表 3-3 に示すとおりである。令和 6 年 4 月末時点では解体工事の途中段階であり、全ての解体工事が終了した時点で予測結果との比較を行うが、参考までに現時点で比較すると、建設廃棄物の総発生量は予測結果のコンクリート塊 150,560m^3、それ以外が 38,230t に対して事後調査結果がコンクリート塊 9,140m^3、それ以外が 126t であり、事後調査結果が予測結果を下回っている。

また、解体工事に伴い、石綿含有産業廃棄物が発生した。石綿含有産業廃棄物については､「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」(令和 6 年 2 月改正　厚生労働省、環境省)､「建築物の解体等に係る石綿（アスベスト）飛散防止対策マニュアル」(令和 4 年 3 月　東京都)等に基づき撤去し、適正に処分を行った。

表3-3　予測結果と事後調査結果との比較（解体廃棄物）

種　別	予測結果		事後調査結果	
			工事の施行中その 2	
	廃棄物 発生量	再資源化量	廃棄物 発生量	再資源化量
コンクリート塊	150,560m^3	149,054m^3	9,140m^3 注 1)	9,140m^3 注 1)
木くず	5,646t	5,590t	42t	42t
金属くず	18,820t	18,444t	－	－
混合廃棄物	3,764t	3,124t	84t	84t
伐採樹木	10,000t	－	－	－
合　計 (コンクリート塊以外)	38,230t	27,158t	126t	126t

注 1) コンクリートの比重 (2.3t/m^3) を用いて m^3 に換算した。

2) 金属くずは分別を行い、全て有価物として売却しているため、廃棄物としての発生はない。

環境影響評価手続等の状況

(1) 環境影響評価手続の状況

環境影響評価の手続の状況は、別添表-1 に示すとおりである。

別添表-1　環境影響評価の手続の状況

環境影響評価の手続	提出年月日	備　　考
環境影響評価書	令和 5 年 1 月 10 日	－
事後調査計画書	令和 5 年 1 月 17 日	－
工事着手届（着工届）	令和 5 年 1 月 17 日	－
事後調査報告書(工事の施行中その 1)	令和 5 年 7 月 6 日	生物・生態系（根回しの状況、養生の状況、仮移植計画）

(2) 許認可の状況

本事業に係る許認可の状況は、別添表-2 に示すとおりである。

別添表-2　本事業に係る許認可の状況

許認可等	根拠法令	年月日
建築物の確認	建築基準法　第 6 条第 1 項または　第 6 条の 2	－
第一種市街地再開発事業	都市再開発法　第 7 条の 9	令和 5 年 2 月 17 日　告示
地区計画	都市計画法　第 12 条の 5	令和 4 年 3 月 10 日　告示

(3) 工事及び事後調査の進捗状況

工事工程及び事後調査の工程は、別添表-3～5 に示すとおりである。

工事の施行中その 2 では工事施行中の生物・生態系（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列））、自然との触れ合い活動の場、廃棄物の状況を報告する。

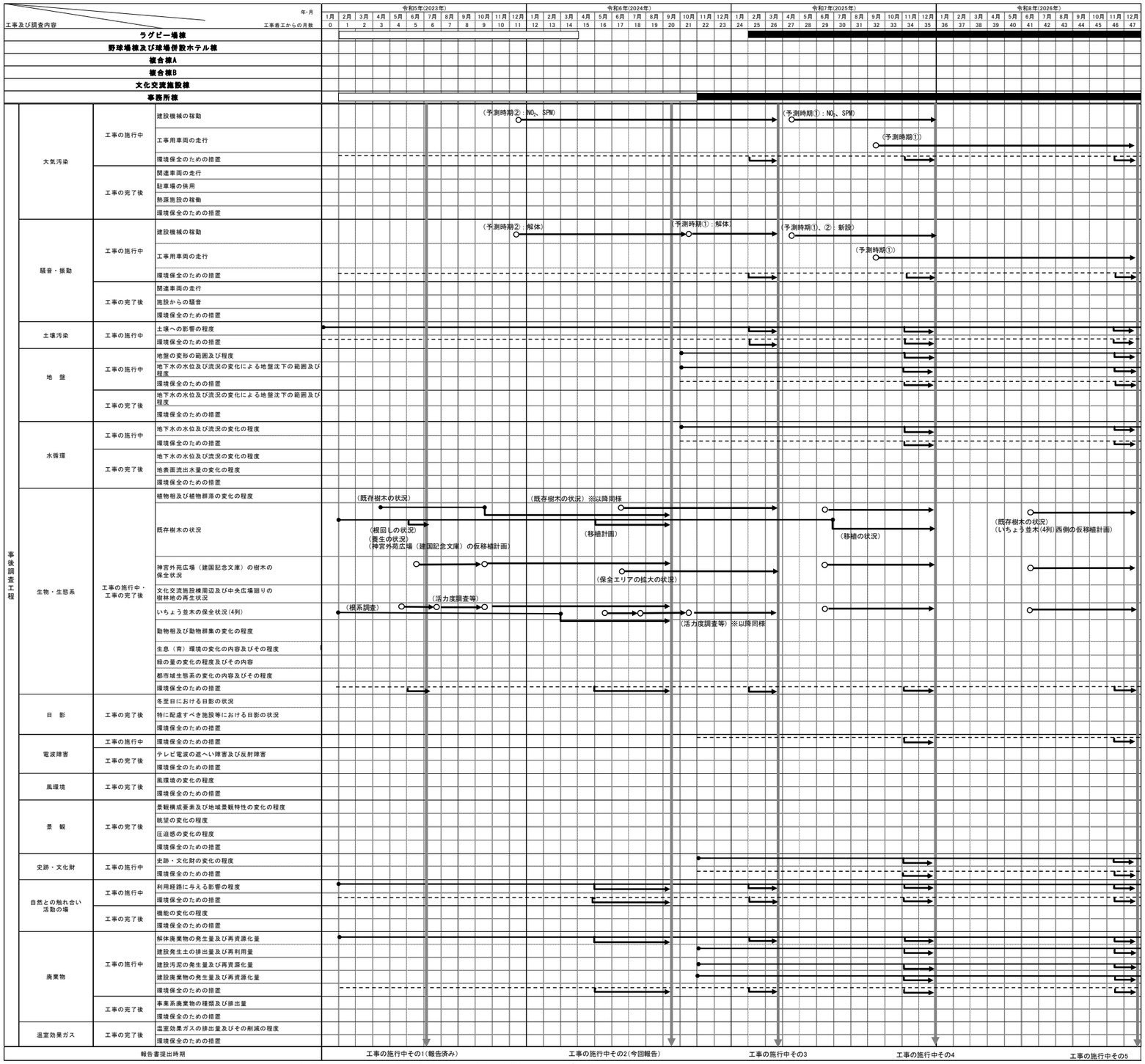
既存樹木の状況及び 4 列いちょう並木の活力度調査について、事後調査計画書では 2023 年 6 月に実施する予定としていたが、2023 年 10 月まで調査を行ったこと等により、2023 年 10 月に予定していた本事後調査報告書（工事の施行中その 2）の提出が遅れたため、「工事の施行中その 3」で予定していた根系調査の結果と合わせて、2024 年 9 月に提出することに変更した。合わせて、2024 年度についても 4 列いちょう並木の活力度調査を 2024 年 10 月まで実施することとしたため、「工事の施行中その 3」の提出時期を 2024 年 9 月から 2025 年 3 月に変更する。

また、本事後調査報告書において、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の移植の状況を報告する予定であったが、移植を実施していないため事後調査報告書（工事の施行中その 4）以降に報告することとした。

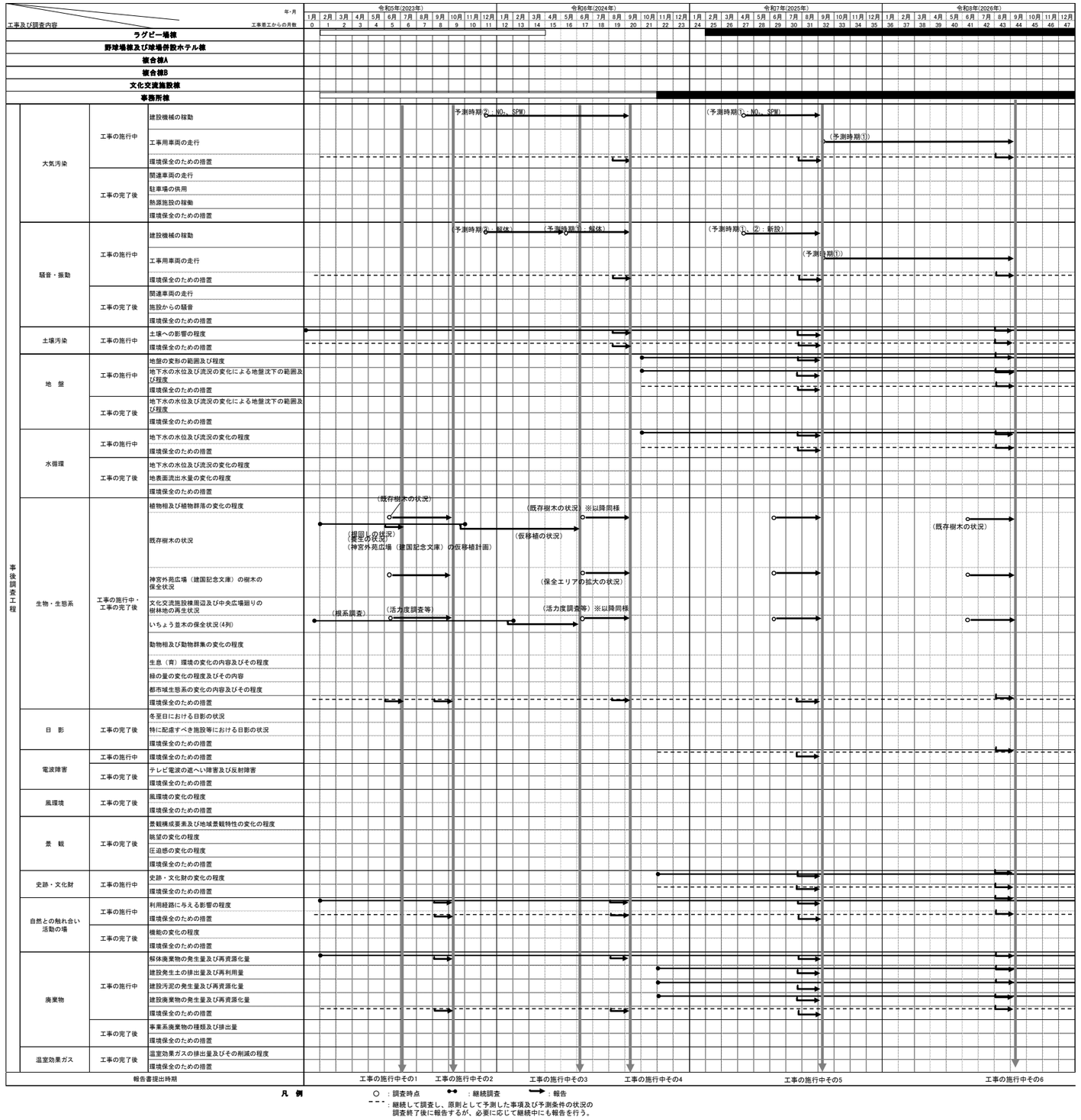
なお、今後、移植場所や 4 列いちょう並木の代表的な地点において定期的に土壌水分量のモニタリングを実施する予定である。

また、事務所棟については現時点では既存解体を含む新築工事に着手していない。工程が明らかになった時点で変更届を提出する予定である。

別添表-3(1)　事後調査のスケジュール【変更後】



別添表-3(2)　事後調査のスケジュール【変更前】



別添表-4(1)　事後調査のスケジュール【変更後】

工事及び調査内容			年・月 / 工事着工からの月数	令和9年(2027年)												令和10年(2028年)												令和11年(2029年)												令和12年(2030年)												令和13年(2031年)											
				1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107
ラグビー場棟																																																																			
野球場棟及び球場併設ホテル棟																																																													
被合棟A																																																													
被合棟B																																																													
文化交流施設棟																																																													
事務所棟																																																													
事後調査工程	大気汚染	工事の施行中	建設機械の稼動																		（予測時期③：NO2、SPM）																																											
			工事用車両の走行																			（予測時期②）																																									
			環境保全のための措置																																																											
		工事の完了後	関連車両の走行																																																										
			駐車場の供用																																																										
			熱源施設の稼働																																																									
			環境保全のための措置																																																									
	騒音・振動	工事の施行中	建設機械の稼動																																																									
			工事用車両の走行																																																									
			環境保全のための措置																																																									
		工事の完了後	関連車両の走行																																																								
			施設からの騒音																																																								
			環境保全のための措置																																																								
	土壌汚染	工事の施行中	土壌への影響の程度																																																								
			環境保全のための措置																																																								
	地　盤	工事の施行中	地盤の変形の範囲及び程度																																																							
			地下水の水位及び流況の変化による地盤沈下の範囲及び程度																																																						
			環境保全のための措置																																																							
		工事の完了後	地下水の水位及び流況の変化による地盤沈下の範囲及び程度																																																					
			環境保全のための措置																																																						
	水循環	工事の施行中	地下水の水位及び流況の変化の程度																																																					
			環境保全のための措置																																																						
		工事の完了後	地下水の水位及び流況の変化の程度																																																				
			地表面流出水量の変化の程度																																																				
			環境保全のための措置																																																				
	生物・生態系	工事の施行中・工事の完了後	植物相及び植物群落の変化の程度																																																							
			既存樹木の状況																																																							
			神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況																																																						
			文化交流施設棟周辺及び中央広場周りの樹林地の再生状況																																																					
			いちょう並木の保全状況(4列)																																																					
			動物相及び動物群集の変化の程度																																																				
			生息（育）環境の変化の内容及びその程度																																																			
			緑の量の変化の程度及びその内容																																																			
			都市域生態系の変化の内容及びその程度																																																			
			環境保全のための措置																																																					
	日　影	工事の完了後	冬至日における日影の状況																																																							
			特に配慮すべき施設等における日影の状況																																																			
			環境保全のための措置																																																				
	電波障害	工事の施行中	環境保全のための措置																																																					
		工事の完了後	テレビ電波の遮へい障害及び反射障害																																																				
			環境保全のための措置																																																				
	風環境	工事の完了後	風環境の変化の程度																																																				
			環境保全のための措置																																																				
	景　観	工事の完了後	景観構成要素及び地域景観特性の変化の程度																																																			
			眺望の変化の程度																																																			
			圧迫感の変化の程度																																																			
			環境保全のための措置																																																			
	史跡・文化財	工事の施行中	史跡・文化財の変化の程度																																																			
			環境保全のための措置																																																			
	自然との触れ合い活動の場	工事の施行中	利用経路に与える影響の程度																																																		
			環境保全のための措置																																																		
		工事の完了後	機能の変化の程度																																																		
			環境保全のための措置																																																	
	廃棄物	工事の施行中	解体廃棄物の発生量及び再資源化量																																																		
			建設発生土の排出量及び再利用量																																																		
			建設汚泥の発生量及び再資源化量																																																	
			建設廃棄物の発生量及び再資源化量																																																
			環境保全のための措置																																																	
		工事の完了後	事業系廃棄物の種類及び排出量																																																	
			環境保全のための措置																																																	
	温室効果ガス	工事の完了後	温室効果ガスの排出量及びその削減の程度																																																	
			環境保全のための措置																																																
報告書提出時期														工事の施行中その6												工事の施行中その7												工事の施行中その8												工事の施行中その9											工事の施行中その10

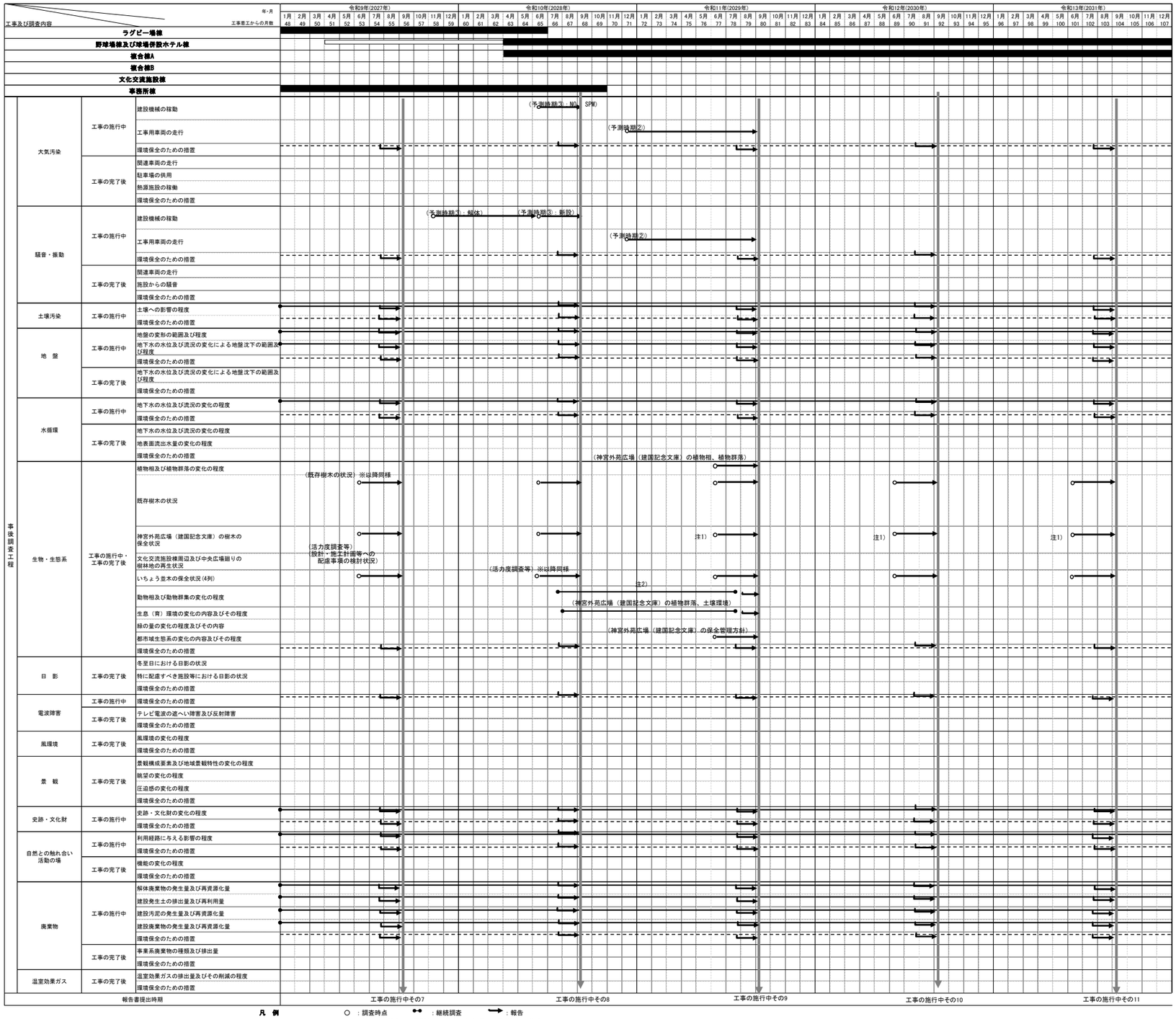
凡　例

○：調査時点　　●→：継続調査　　→：報告

- - -：継続して調査し、原則として予測した事項及び予測条件の状況の調査終了後に報告するが、必要に応じて継続中にも報告を行う。

注1）ラグビー場棟一期工事の完了後5年間、神宮外苑広場(建国記念文庫)において既存樹木の活力度調査を行う。
注2）ラグビー場棟一期工事の完了後の四季に神宮外苑広場(建国記念文庫)の動物相調査を行う。
注3）野球場棟の工事の完了後の四季にいちょう並木(4列)の動物相調査を行う。
注4）工事の施行中の事後調査報告書の番号は変更後の番号である。なお、報告項目等に変更はない。

別添表-4(2)　事後調査のスケジュール【変更前】



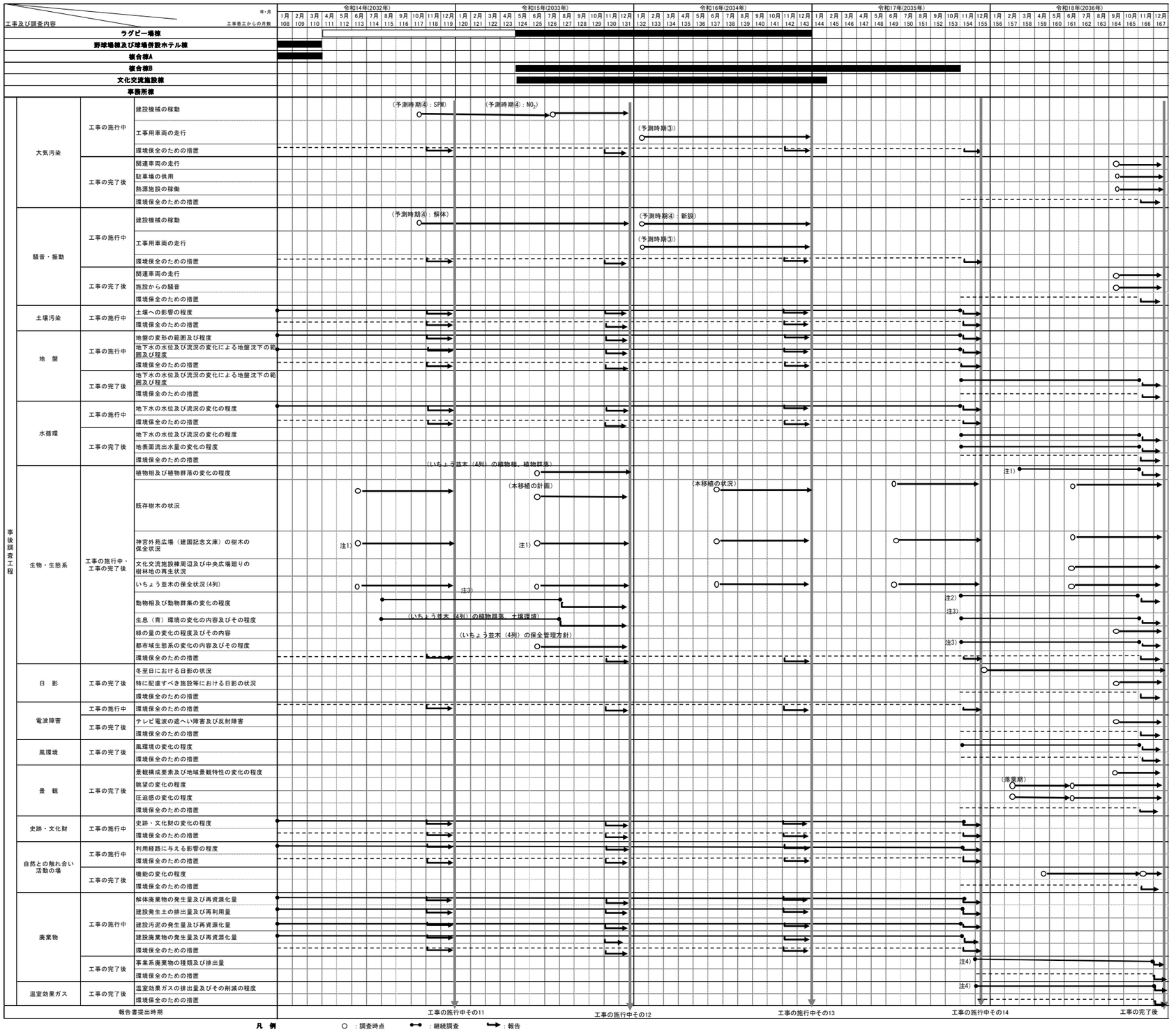
凡 例

○：調査時点　　●●：継続調査　　→：報告

- - -：継続して調査し、原則として予測した事項及び予測条件の状況の調査終了後に報告するが、必要に応じて継続中にも報告を行う。

注1）ラグビー場棟一期工事の完了後5年間、神宮外苑広場(建国記念文庫)において既存樹木の活力度調査を行う。
注2）ラグビー場棟一期工事の完了後の四季に神宮外苑広場(建国記念文庫)の動物相調査を行う。
注3）野球場棟の工事の完了後の四季にいちょう並木(4列)の動物相調査を行う。
注4）工事の施行中の事後調査報告書の番号は変更後の番号である。なお、報告項目等に変更はない。

別添表-5(1)　事後調査のスケジュール【変更後】



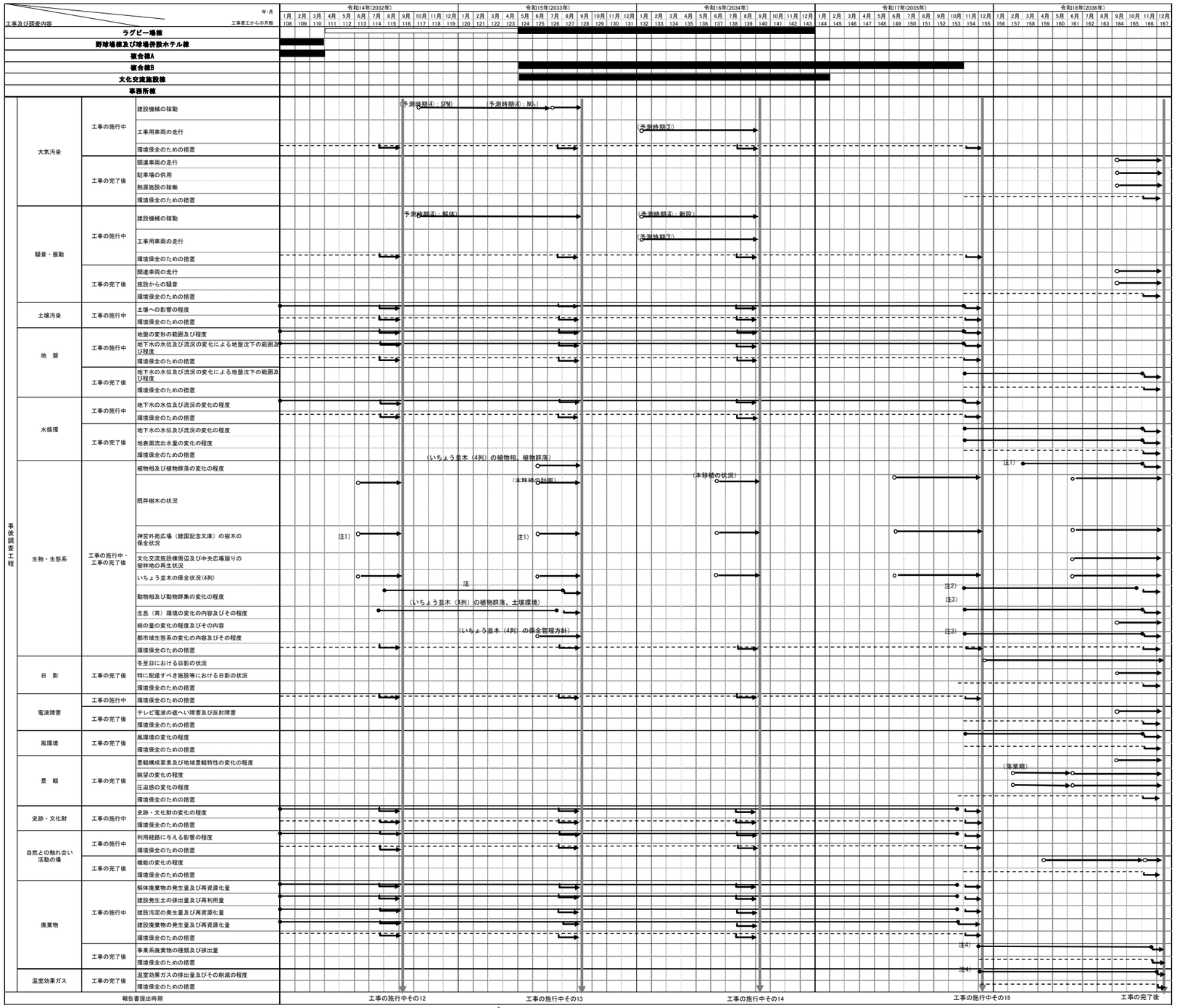
凡　例

○　：調査時点　　●―●　：継続調査　　→　：報告

- - -　：継続して調査し、原則として予測した事項及び予測条件の状況の調査終了後に報告するが、必要に応じて継続中にも報告を行う。

注1）秋季、春季、夏季に調査。植物群落については夏季に調査。
注2）四季に調査。
注3）環境保全のための措置の効果が確認できる時期に調査。
注4）段階供用のため、各施設の供用時期が異なるが、全施設の供用が通常状態となった時期に調査。
注5）工事の施行中の事後調査報告書の番号は変更後の番号である。なお、報告項目等に変更はない。

別添表-5(2)　事後調査のスケジュール【変更前】



凡　例

○：調査時点　●―●：継続調査　―▶：報告

- - -：継続して調査し、原則として予測した事項及び予測条件の状況の調査終了後に報告するが、必要に応じて継続中にも報告を行う。

注1）秋季、春季、夏季に調査。植物群落については夏季に調査。
注2）四季に調査。
注3）環境保全のための措置の効果が確認できる時期に調査。
注4）段階供用のため、各施設の供用時期が異なるが、全施設の供用が通常状態となった時期に調査。
注5）工事の施行中の事後調査報告書の番号は変更後の番号である。なお、報告項目等に変更はない。

資　料　編

― 目次 -

■毎木調査エリア図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 115～132

■樹木調査診断・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 133

■毎木調査結果一覧

・毎木調査結果の見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 134

・A エリア：秩父宮ラグビー場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 135～140

・B エリア：銀杏並木、C エリア：銀杏並木東 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 141～187

・野球場三塁側・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 188～192

・野球場一塁側・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 193～207

・第二球場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 208～215

・テニス場北コート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 216～225

・テニス場室内コート・御台場西（T02-126 以降）・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 226～230

・建国記念文庫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 231～241

・伊藤忠ビル周り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 242～253

・軟式野球場西側・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 254～279

・軟式野球場東側・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 280～294

■2023 年 10 月時点で活力度 C、D となったいちょうの詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 295～299

■イチョウ　葉の褐変症状調査報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 300～303

■根量分布表（令和 6 年調査）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 304～310

■【参考】評価書より抜粋（4 列いちょう並木の保全に向けた根系に対する配慮について）・p. 311～313

■【参考】事後調査報告書（工事の施行中その１）より抜粋（土壌環境調査結果）・・・・・p. 314～316

保存樹木
移植樹木
伐採樹木
枯損等
移植検討樹木

※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

N

軟式野球場東側エリア
（参考調査範囲）

軟式野球場西側エリア
（参考調査範囲）

銀杏並木東
Cエリア

銀杏並木
Bエリア

テニス場室内
コート・御台場西
エリア

テニス場北コート
エリア

伊藤忠ビル周り
エリア

秩父宮ラグビー場
Aエリア

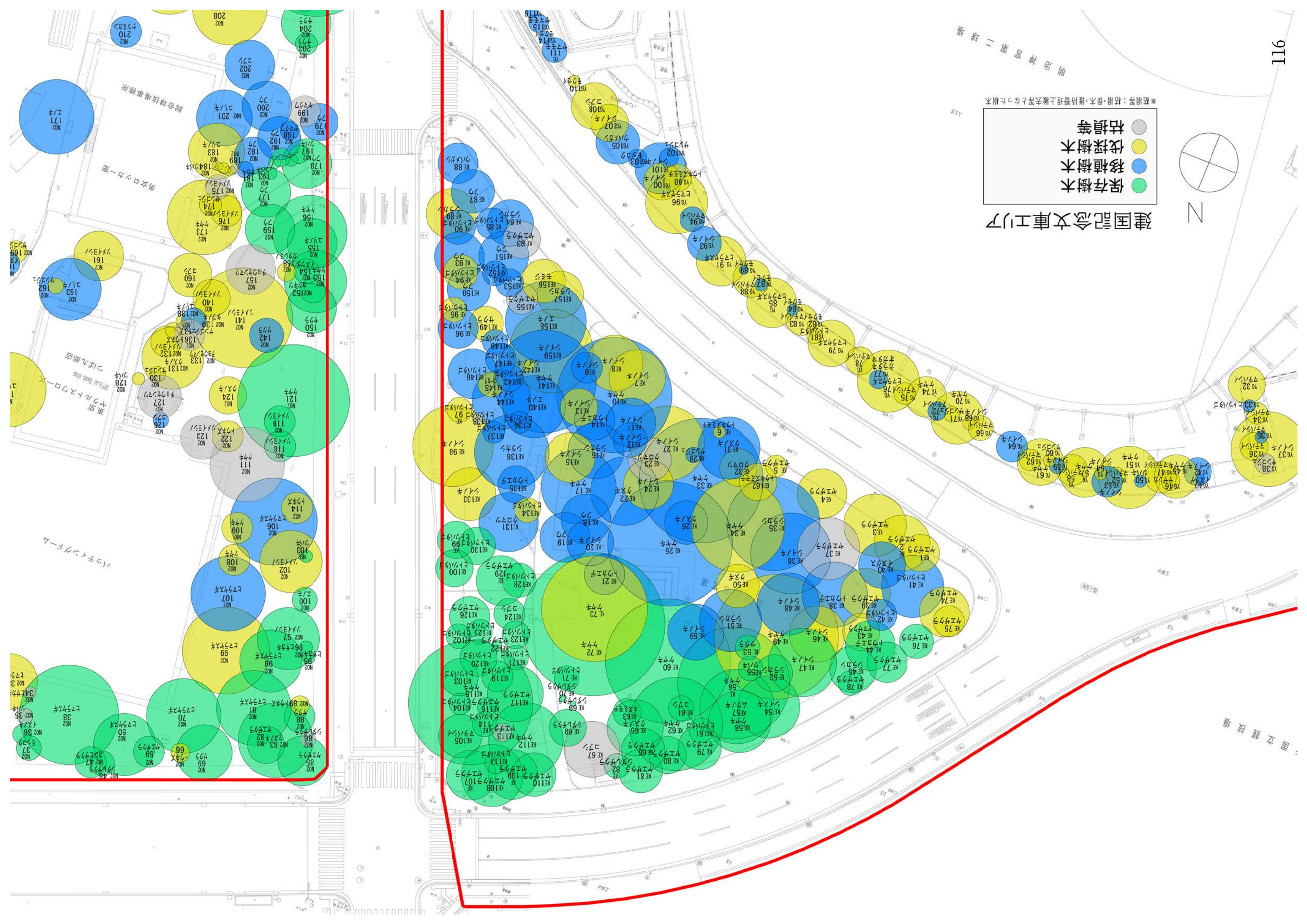
建国記念文庫
エリア

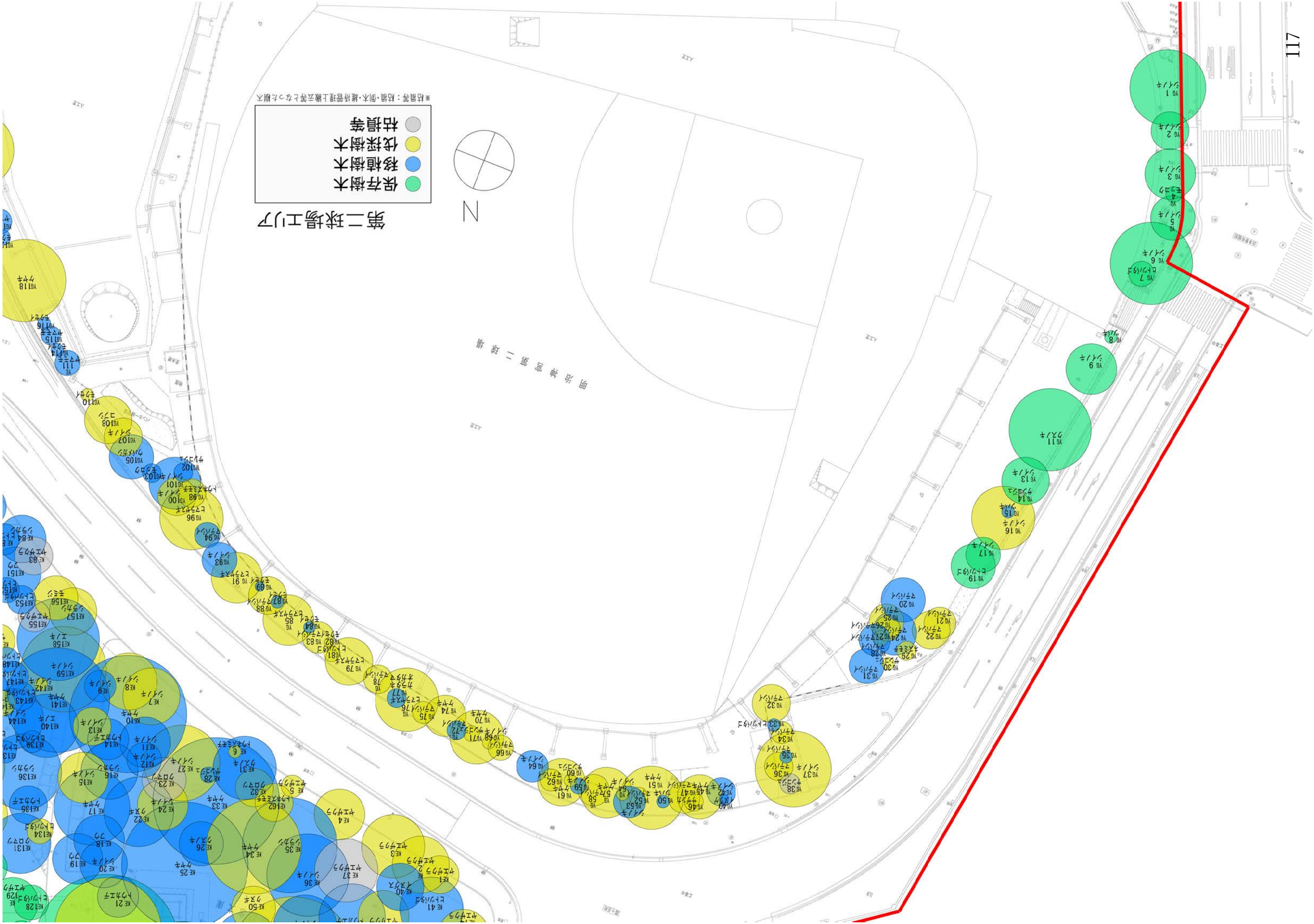
第二球場
エリア

野球場三塁側
エリア

野球場一塁側
エリア

■樹木配置図（現況）


連国記念文庫エリア
N
保存樹木
移植樹木
伐採樹木
枯損等
※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木
明治神宮第二球場
国立競技場
総合球技場事務所
男女ロッカー室
ラグビー場
東京ウルトラスクロース
Official Goods Shop
つばクル郎店


保存樹木
移植樹木
伐採樹木
枯損等
※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木
N
第二球場エリア
明治神宮第二球場

第二球場エリア

N

- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等

※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

神宮ゴルフクラブ

室内球技場

投球練習場

コブシ球場

野球場三塁側エリア

- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等

※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

N

明治神宮野球場
クラブハウス

JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE

日本青年館

國學院高校

野球場一塁側エリア
保存樹木
移植樹木
伐採樹木
枯損等
※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木
N
国立競技場テニス場
国立秩父宮ラグビー場
管理事務所
人工芝
Y01 1 トウカエデ
Y01 2 シイノキ
Y01 4 ヤブツバキ
Y01 5 ケヤキ
Y01 6 シイノキ
Y01 7 ヒトツバタゴ
Y01 8 ヒトツバタゴ
Y01 9 アラカシ
Y02 1 シイノキ
Y02 2 カイヅカイブキ
Y02 3 カイヅカイブキ
Y02 4 カイヅカイブキ
Y02 5 カイヅカイブキ
Y02 6 カイヅカイブキ
Y02 7 カイヅカイブキ
Y02 8 カイヅカイブキ
Y02 9 カイヅカイブキ
Y02 10 カイヅカイブキ
Y02 11 ケヤキ
Y02 12 カイヅカイブキ
Y02 13 カイヅカイブキ
Y02 14 カイヅカイブキ
Y02 15 カイヅカイブキ
Y02 16 カイヅカイブキ
Y02 17 カイヅカイブキ
Y02 18 カイヅカイブキ
Y02 19 カイヅカイブキ
Y02 20 カイヅカイブキ
Y02 21 カイヅカイブキ
Y02 22 カイヅカイブキ
Y02 23 ケヤキ
Y02 24 ケヤキ
Y02 28 カイヅカイブキ
Y02 29 カイヅカイブキ
Y02 30 カイヅカイブキ
Y02 40 カイヅカイブキ
Y02 >50 カイヅカイブキ
Y02 51 プラタナス
Y02 52 プラタナス
Y02 53 シイノキ
Y02 54 マテバシイ
Y02 55 シイノキ
Y02 56 マテバシイ
Y02 57 ケヤキ
Y02 58 マテバシイ
Y02 61 ムクノキ
Y02 62 ケヤキ
A 13 サンゴジュ
A 14 サンゴジュ
A 15 コブシ
A 16 ゲッケイジュ
A 17 ムクゲ
A 18 ムクゲ
A 19 コブシ

野球場一塁側エリア

N

- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等

※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

銀杏並木：Bエリア
テニス場北コートエリア

- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等

※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

N

銀杏並木:Bエリア
テニス場室内コート・御台場西エリア

保存樹木
移植樹木
伐採樹木
枯損等
移植検討樹木

※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

N

秩父宮ラグビー場：A エリア

保存樹木
移植樹木
伐採樹木
枯損等

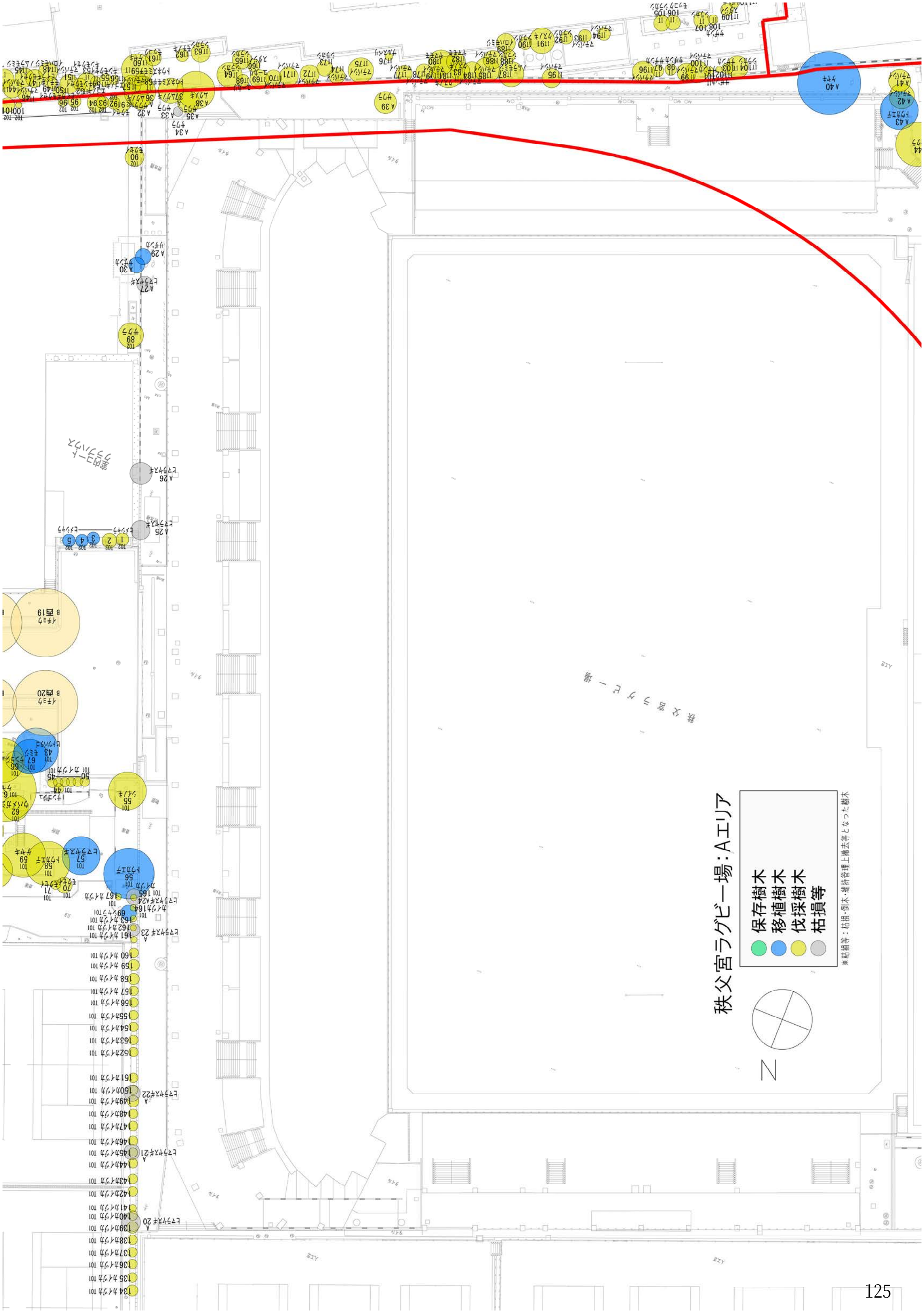
※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

N

日本スポーツ振興センター

日本ラグビーフットボール協会

TEPIA
先端技術館

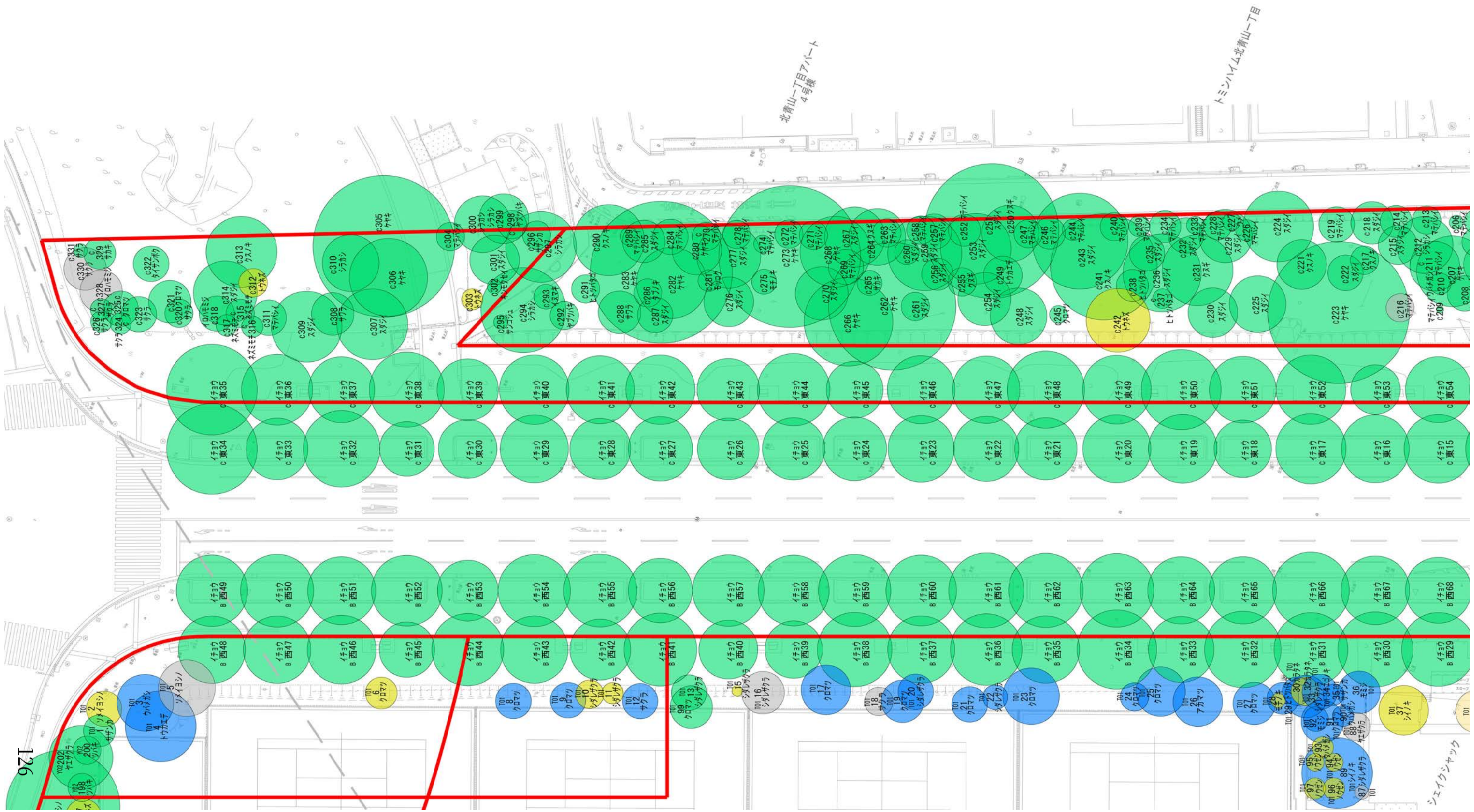

秩父宮ラグビー場：Aエリア
保存樹木
移植樹木
伐採樹木
枯損等
N
※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木
秩父宮ラグビー場
A40
A41
A42
A43
A44
A45
A46
A47
A48
A49
A50
A51
A52
A53
A54
A55
A56
A57
A58
A59
A60
A61
A62
A63
A64
A65
A66
A67
A68
A69
A70
A71
A72
A73
A74
A75
A76
A77
A78
A79

銀杏並木：Bエリア
銀杏並木東：Cエリア

N

- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等

※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木



銀杏並木：Bエリア
銀杏並木東：Cエリア

N

- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等
- 移植検討樹木

※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

北青山一丁目アパート 2号棟

北青山一丁目アパート 1号棟

駐車場

ロイヤル ガーデンカフェ青山

シェイクシャック

伊藤忠ガーデン

伊藤忠ビル

ロイヤル
ガーデンカフェ青山

国道246号　青山通り

N

伊藤忠ビル周りエリア

- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等

※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

軟式野球場西側エリア

N

- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等

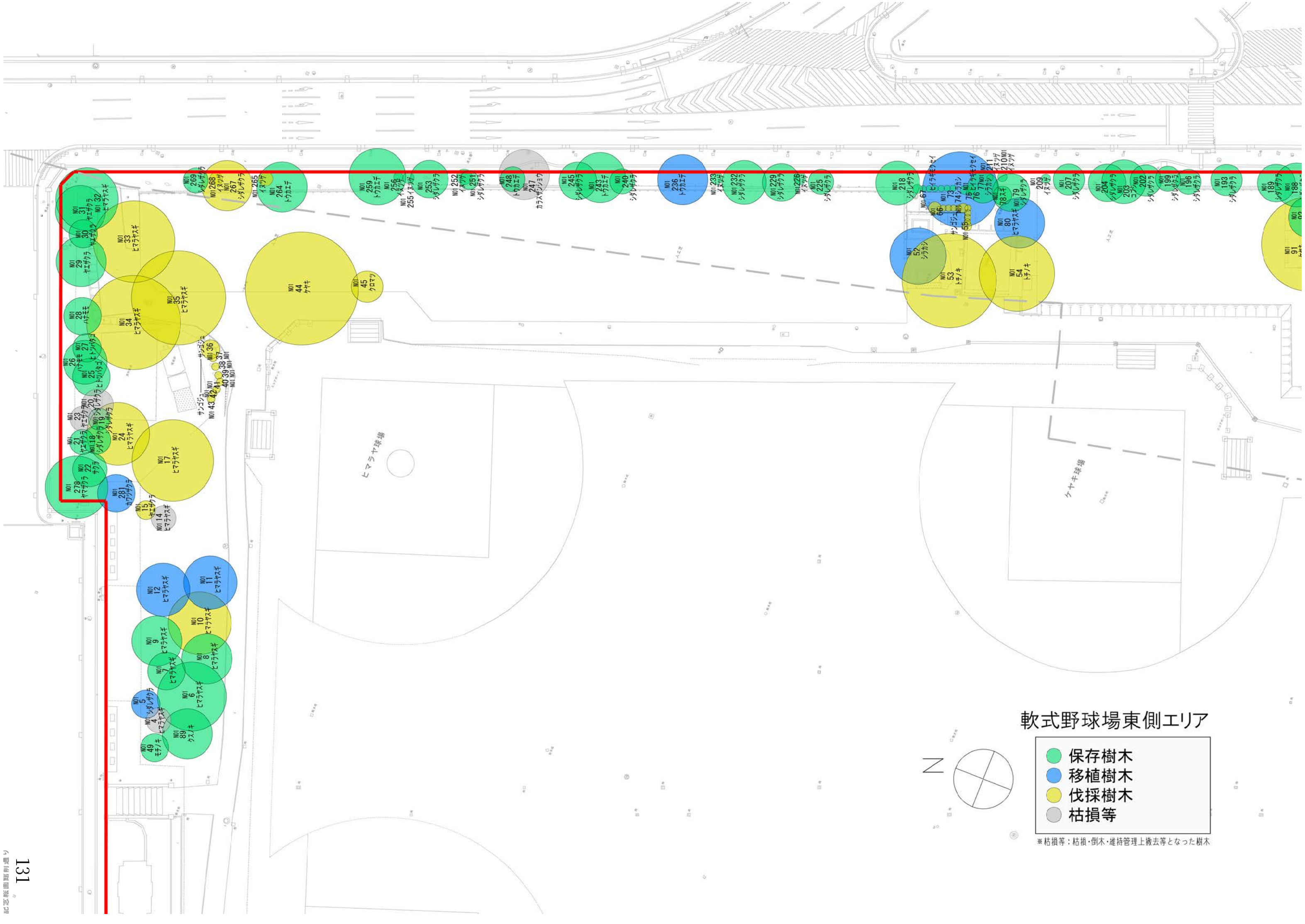
※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

軟式野球場西側エリア

N

- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等

※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木


ヒマラヤ球場
ケヤキ球場
軟式野球場東側エリア
N
保存樹木
移植樹木
伐採樹木
枯損等
※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

軟式野球場東側エリア

N

- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等

※枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

樹木調査診断

1．調査方法
外観による樹勢・樹形の評価調査と問題となる欠損・腐朽の有無、程度、木槌による幹空洞部分診断、等を外観調査から行った。
樹勢判断には枝の伸長、大枝・幹の欠損、樹皮の代謝、胴吹き・ヒコバエ等を加味して判定した。
枝・大枝・幹の枯損・腐朽は影響がある場合は備考に記載すした（キノコも含める）。
活力度に関する評価項目は別紙記載の項目を行った。

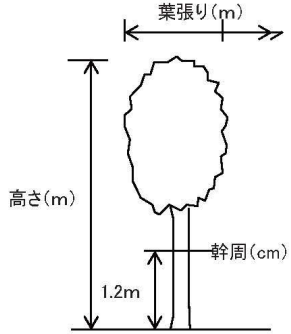
2．調査結果

調査結果を保存の適否と移植の可否、問題点と外観の特徴を記載した。

結果を下記の基準により、結果一覧にまとめた。

規格：高さ・目通り・葉張り

樹木調査診断の説明



幹周は地上1.2mの高さで計測した幹外周の長さ。
株立ち（1本の樹木で複数の幹がある場合）は地上1.2mの高さでそれぞれの幹外周を計測した。

活力度調査　樹勢・樹形・枝伸長量、大枝・幹の欠損・傷、梢端の枯損、枝葉の密度、葉形、葉の大きさ葉色、ネクロシス各項目を1～4で評価（梢端の枯損に幹・大枝枯損も含める）

保存　活力度を主にしながら、樹種特性及び樹形等を総合的に加味した。

移植　移植の可・難・不可について評価する。保存の必要性の高・中に限った。
保存低については移植は不可判定とした。

参考項目　根元構造物の有無は移植評価の参考、片枝樹形（相互被圧含む）項目は樹勢、樹形の参考として記載

備考　外観からの特徴や特筆すべき点を記載した。

ネクロシスは壊死のことであるが、病害虫、汚染等による被害も加えた解釈とした。
（実際のネクロシスはほとんど無いため、病害虫、汚染等による被害葉を加えた判断とした。）

活力度の評価は落葉樹の葉の調査後、全ての項目の平均評点を算出記載した。

評価	A	B	C	D
評点	1.00～1.75	1.76～2.50	2.51～3.25	3.26～4.00
状態	両項、正常なもの	普通、正常に近い	悪化のかなり進んだもの	顕著に悪化の進んでいるもの

活力度 ： 樹勢・樹形等

		1	2	3	4	
活力度測定項目	樹勢	旺盛な生育状態を示し被害が全く見られない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状態が極めて劣悪である	ほとんど枯死
	樹形	1 自然樹形を保っている	2 若干の乱れはあるが自然樹形に近い	3 自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	4 自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
	枝伸長量	正常	幾分少ないがそれほど目立たない	枝は短小となり細い	枝は極度に短小、しょうが状の節間がある	
	大枝・幹の欠損・傷	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり目立つ	著しく目立つ。傷からの腐朽も著しい	
	梢端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い	著しく多い	
	枝葉の密度	正常、枝及び葉の密度バランスがとれている	普通、1に比してやや劣る	やや疎	枯れ枝が多く葉の発生が少ない。密度が著しく疎	
	葉形	正常	少し歪みがある	変形が中程度	変形が著しい	
	葉の大きさ	正常	幾分小さい	中程度の小さい	著しく小さい	
	葉色	正常	やや異常	かなり異常	著しく異常	
	ネクロシス	なし	わずかにある	かなり多い	著しく多い	
追加診断項目 イチョウ並木	緑量	正常	幾分小さい	中程度の小さい	著しく小さい	
	褐変	なし	少し	かなり多い	全面	
	落葉	なし	少し	かなり多い	完全落葉	

※イチョウ並木（駅周辺B1～78、C1～65）については4年に1度の剪定が行われた後の評価（葉形～落葉）である（腐っている葉は見られないことから、ネクロシスは診断していない）。

保存の必要性	高・中・低	活力度を主にしながら、樹種特性及び樹形等を総合的に加味し判断する。
移植の評価	可	移植をする際に活着する可能性が高く樹勢、樹形の維持または回復が望める樹木
	難	樹高や目通りが大きく物理的に移植が難しい樹木、または健全に活着することが難しい樹木 難A＜B＜Cにて移植難易度の高さの判断・分類を行い、その内、難A・B評価の樹木を移植対象とする。
	不可	樹木の活力度が低い樹木や、根鉢の適切な確保が難しいなど、移植を試みても健全に活着することが望めない樹木

注）評価書時の診断方法に比べて赤四角で囲んだ診断項目（葉についての診断項目）を追加している。

ー　毎木調査結果の見方　-

1. 活力度評価結果の網掛けは2019年春季までの調査の活力度評価に対し評価が変化したものを示す（2019年春季までの調査結果については、環境影響評価書にて記載）。
2. 毎木調査結果における「保存」は、存置樹木のことを示す。
3. 保存・移植・伐採の分類における「※」は枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木を示す。
4. 伐採理由については、風致地区内の樹木を対象に示す。
5. 銀杏並木には伐採がないため伐採理由欄は設けていない。
6. 保存・移植・伐採の分類は評価書時のものを記載しており、移植可否の調査結果と異なる場合がある。分類の変更については今後の変更届にて示していく。

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Aエリア：秩父宮ラグビー場　調査日：2023 年　5 月　25 日　～　2023 年　5 月　25 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
A	1	ヒムロスギ	15.0	112	5.0	―	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		有	小	根元・幹に打診音異常H0.0～0.8mあり。 枯枝が散在する。街灯柱と近接。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.95m、側溝までの離隔距離1.35m。 下枝が高く、移植に向けた剪定には不適である。 隣木のヒマラヤスギをやや被圧している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	2	ヒマラヤスギ	18.0	141	6.0	―	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○			○				有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.95m、側溝までの離隔距離1.3m。植栽帯の幅は2.25m。 移植に伴う剪定において、高さH12mで断幹しても樹形を維持できる。		●		A			
A	3	サワラ	15.0	85	3.5	―	3.0	3.0	4.0	3.0	3.0	3.0	2.0	3.0	3.0	1.0	2.80	C			○				○		有	大	幹に開口空洞 200×20×20/30(芯達)あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 枝葉量が少なく、樹形に乱れ(被圧樹形)あり。 下枝の枯損が多い。 幹折れの危険性あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
A	4	ヒマラヤスギ	18.0	154	6.0	―	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.60	A		○			○				有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹に打診音異常(小) H1.5～2.0mあり。 樹幹傾斜(小)あり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.95m、側溝までの離隔距離1.3m。剪定、樹形維持が可能である。根鉢確保がかろうじて可能である。		●		A			
A	5	シャリンバイ	3.0	21	3.0	―	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	大	枝が街灯柱に接触している。 街灯柱とマンホールに挟まれた位置にある。 樹形に乱れあり(被圧により裏側の枝が消失)。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	6	ヒマラヤスギ	18.0	151	7.0	―	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.70	A			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.0mあり。 幹芯からマンホールまでの離隔距離0.9m、側溝までの離隔距離1.1m、フェンスまでの離隔距離1.2m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	7	サワラ	15.5	111	3.5	―	2.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B			○				○		有	小	根元・幹に開口空洞(溝腐れ症状) 750×10×15/35、打音異常あり。幹折れの危険性あり。 支柱に接触している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
A	8	サワラ	15.0	99	4.0	―	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.35	B			○				○		有	小	根元・幹に開口空洞(溝腐れ症状) 150×5×15/30(芯達)あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 幹折れの危険性あり。 枯枝が散在する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
A	9	サワラ	15.5	100	5.0	―	2.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B			○				○		有	小	根元・幹に開口空洞(溝腐れ症状) 20×5×20/35(芯達)ほか、断続的に複数あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 幹折れの危険性あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
A	10	スダジイ	8.5	150	8.0	―	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.20	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 大枝が強剪定されており、樹形に乱れあり。 街灯が樹冠内にある。支柱あり。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.9m、マンホールまでの離隔距離1.05m。掘り取り作業領域の確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	11	サンゴジュ	3.0	52	3.5	―	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.0	2.85	C			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 高さH3.0mにおいて断幹、枯れ下がりあり。 砂の盛土あり。	●			C			
A	12	サンゴジュ	4.0	2本立	3.5	57,42	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.0	2.85	C			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹(H1.5m)に開口空洞 10×10×10/20(芯達)あり。 高さH3.0mにおいて断幹、枯れ下がりあり。 砂の盛土あり。	●			C			
A	13	サンゴジュ	4.0	2本立	3.5	37,30	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.0	2.85	C			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 高さH3.0mにおいて断幹されている。 砂の盛土あり。	●			C			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			Aエリア：秩父宮ラグビー場														調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日																	
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目							伐採理由		
エリア	樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
A	14	サンゴジュ	3.5	2本立	3.0	49,48	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	2.5	2.5	1.0	2.95	C			○				○		有	小	幹上部において断幹あり。 砂の盛土あり。 双幹の一方が枯損している。 2本立の1本(C48)が枯死している。 樹形不良。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
A	15	コノテガシワ	6.0	2本立	2.0	24,16	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.45	B			○				○		有	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元がフェンスに接触しており、掘り取り作業が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
A	16	ゲッケイジュ	10.0	2本立	7.0	68,61	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.75	A			○				○		有	小	幹分岐部に入り皮あり。 根元縁石乗り上げ。 すす病の発生あり。 根元がフェンスに接触しており、掘り取り作業が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	17	ムクゲ	3.5	42(芝付)	4.0	－	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B			○				○		有	大	樹形に乱れあり。 フェンス、構造物、隣接樹木と近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	18	ムクゲ	3.5	37(芝付)	4.0	－	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B			○				○		有	大	樹形に乱れあり。 フェンス、構造物と近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	19	コブシ	4.0	26	3.5	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.75	C			○				○		有	大	樹形に乱れあり。幹が屈曲している。 フェンスに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
A	20	ヒマラヤスギ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			
A	21	ヒマラヤスギ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			
A	22	ヒマラヤスギ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			
A	23	ヒマラヤスギ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	D			
A	24	ヒマラヤスギ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			
A	25	ヒマラヤスギ	4.0	173	0.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(台切り)。	－	－	※	D			
A	26	ヒマラヤスギ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			
A	27	ヒマラヤスギ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			
A	29	サザンカ	4.0	28	2.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	巻き根(中)あり。		●		B			
A	30	サザンカ	3.0	28	2.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		B			
A	32	サワラ	8.0	74	3.0	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	1.0	3.20	C											高さH8.0mにて断幹されている。 根元に開口空洞 30×1×5/25ほか、溝腐れ症状あり。 根元・幹に打診音異常 H0.0～2.0mあり。 隣木のムクノキ(樹木番号36)と接触している。 樹形に乱れあり(下枝が無い)。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
A	33	サワラ	2.5	73	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			

既存樹木調査結果一覧

エリア名		Aエリア：秩父宮ラグビー場	調査日	2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度（1～4評価） 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	（1～4評価） 葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果（ABCD）	保存の必要性（該当に○） 高	中	低	移植（該当に○） 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物（有無）	片枝・被圧（大中小無）	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存（該当に●）	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価（ABCD）	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
A	34	サワラ	—	97	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	-	-	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	–	–	※	C			
A	35	サワラ	10.0	75	3.5	—	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.5	3.5	3.0	1.0	2.70	C			○				○		有	中	根元・幹に開口空洞20×1×5/22ほか、断続的に溝腐れ症状あり。 幹に打診音異常(小) H1.5～2.0mあり。 幹芯から縁石までの離隔距離0.65m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
A	36	ムクノキ	8.0	55	5.0	—	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B			○					○	有	大	フェンス囲い内に位置し、フェンスと接触・くい込みあり。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	37	ムクノキ	7.0	48	4.0	—	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○					○	有	大	フェンス囲い内に位置し、フェンスと接触・くい込みあり。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	38	ムクノキ	9.0	60	6.0	—	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.80	B			○					○	有	大	フェンス囲い内に位置し、フェンスと接触・くい込み・押上げあり。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	39	サワラ	11.5	105	3.5	—	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	有	中	鋼棒貫入異常5cmあり。 樹幹傾斜(小)あり。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
A	40	ケヤキ	14.0	178	10.0	—	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.95	B		○			○				有	小	支柱のみ込みあり。 大枝分岐に入り皮あり。 幹芯から石積み擁壁までの離隔距離1.45m、コンクリート擁壁までの離隔距離2.1m。樹形維持が可能。根鉢確保がかろうじて可能である。		●		B			
A	41	マテバシイ	6.5	77	3.5	—	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	3.0	3.5	3.0	1.0	2.70	C			○				○		無	小	樹幹傾斜あり。枝葉量が少ない。樹形に乱れあり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。 斜面地に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
A	42	マテバシイ	8.0	80	4.0	—	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	3.5	3.0	1.0	2.65	C			○				○		無	中	枝葉量が少ない。樹形に乱れあり。 巻き根(中)あり。 斜面地に位置する。 活力度が悪く、移植後に健全な状態への回復は難しい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
A	43	トウカエデ	12.0	178	6.0	—	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				有	小	支柱のみ込みあり。 根元に大きなコブあり。 斜面に位置する。 幹芯から擁壁までの離隔距離1.6m。樹勢・樹形の維持は可能。		●		C			
A	44	サクラ	7.0	2本立	7.0	105,85	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○						○	有	無	分電盤に近接、基礎に根が食い込んでいる。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	45	サクラ	6.0	99	7.0	—	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○						○	有	無	根元に打診音異常(小) H0.0～0.3mあり。 石積塀と縁石に近接している。	●			B			
A	46	サクラ	8.0	131	5.0	—	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B		○						○	有	中	大枝に今日剪定痕あり。 根元に打診音異常(小) H0.0～0.2mあり。 石積塀と縁石に近接し、縁石押し上げあり。	●			B			
A	47	サクラ	8.0	66	3.5	—	3.5	3.0	3.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.55	C		○						○	有	大	根株に腐朽あり。 隣木からの被圧(大)あり。 根張りがやや小さく、衰退傾向にある。 石積塀と縁石に近接している。	●			C			
A	48	サクラ	9.0	169 (H0.8m)	12.0	—	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.25	B		○						○	有	小	巻き根(大)あり。 大枝の相互接触あり。 胴吹き枝が多数あり。小枝の枯れあり。 石積塀と縁石に近接し、縁石押し上げあり。	●			B			
A	49	サクラ	9.0	93	7.0	—	2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	中	巻き根(中)あり。 打診音異常あり。 樹幹傾斜あり。 石積塀と縁石に近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名																																			
Aエリア：秩父宮ラグビー場																			調査日	2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日															伐採理由
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目								
エリア	樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
A	50	サクラ	9.0	112	8.0	―	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.95	B		○					○		有	小	巻き根(大)あり。 石積塀と縁石に近接している。	●			B			
A	52	サクラ	4.5	57	5.0	―	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.95	B		○		○					有	小	ひこばえが多数あり。 大枝にキノコ(種不明)の発生あり。 枯枝φ5, L=2.0mあり。 建物に近接している。 上記の状態はあるものの、移植に際しては支障なし。		●		B			
A	53	ウメ	4.0	36	3.5	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○					○		有	小	建物および樹木番号52サクラからの被圧(小)あり。 ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元に打診音異常 H0.0～0.2mがあること、枯枝があることから移植には適さない。		●		B			
A	56	カイヅカイブキ	4.5	74	3.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○					○	有	小	植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	57	カイヅカイブキ	4.5	72	3.0	―	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.95	B			○					○	有	中	片側(建物側)の枝に枯枝が多数あり。 植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	58	カイヅカイブキ	4.5	72	3.0	―	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.95	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。樹幹傾斜あり。 片側(建物側)の枝に枯枝が多数あり。 植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	59	カイヅカイブキ	4.5	67	3.0	―	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.95	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。樹幹傾斜あり。 片側(建物側)の枝に枯枝が多数あり。 植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	60	カイヅカイブキ	4.5	71	3.0	―	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.95	B			○				○		有	中	巻き根(小)あり。 片側(建物側)の枝に枯枝が多数あり。 植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	61	カイヅカイブキ	4.5	73	3.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。根鉢確保が困難である。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	62	カイヅカイブキ	4.5	71	3.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。根鉢確保が困難である。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	63	カイヅカイブキ	6.0	76	2.5	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		有	中	樹幹傾斜あり。枯枝あり。 植栽帯(幅1.2m)内に列植されている。幹芯から縁石までの離隔距離0.5m。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	64	カイヅカイブキ	6.0	82	2.5	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		有	中	植栽帯(幅1.2m)内に列植されている。幹芯から縁石までの離隔距離0.5m。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	65	カイヅカイブキ	4.5	34	1.0	―	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
A	66	カイヅカイブキ	4.5	37	1.0	―	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
A	67	カイヅカイブキ	4.5	38	1.0	―	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○					無	小	―		●		A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			Aエリア：秩父宮ラグビー場														調査日				2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日															
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考					伐採理由		
エリア	樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
A	68	カイヅカイブキ	4.5	30	1.0	―	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
A	69	カイヅカイブキ	6.0	76	3.0	―	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	―		●		A			
A	70	カイヅカイブキ	6.0	65 (H1.5m)	3.0	―	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.95	B			○				○		無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 階段脇に位置し、片枝が強く剪定されており、樹形不良で移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 ※階段側は防音シートに覆われているため未確認 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
A	71	キンモクセイ	6.0	2本立	3.0	43,27 (H0.1m)	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.0	1.85	B		○		○					無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。		●		B			
A	72	サクラ	6.0	58	4.0	―	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○				○		有	中	幹(H1.1m)に開口空洞 50×3×5/18あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
A	73	サクラ	7.0	46	5.0	―	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹(H1.0m)に開口空洞 70×1×5/15あり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～0.4mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
A	74	サクラ	8.0	90	8.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				有	小	剪定樹形である。幹芯から縁石までの離隔距離0.6m。樹形維持、根鉢確保が可能である。		●		A			
A	75	サクラ	8.0	62	5.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 植栽帯(幅1.4m)内にある。樹形維持、根鉢確保が可能である。		●		A			
A	76	サクラ	8.5	74	5.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 植栽帯(幅1.4m)内にある。樹形維持、根鉢確保が可能である。		●		A			
A	77	サクラ	8.5	80	6.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				有	中	巻き根(中)あり。 植栽帯(幅1.4m)内にある。幹芯から縁石までの離隔距離0.45m。樹形維持、根鉢確保が可能である。		●		A			
A	78	サクラ	8.5	66	6.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹幹傾斜(小)あり。 隣木のカイヅカイブキと近接(1.5m)している。 植栽帯(幅1.4m)内にある。幹芯から縁石までの離隔距離0.35m。樹形維持、根鉢確保がかろうじて可能である。		●		A			
A	79	サクラ	9.5	128	8.0	―	2.0	1.5	2.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A			○				○		有	小	縁石持ち上げあり。 街灯、隣木のカイヅカイブキと近接している。 植栽帯(幅1.4m)のL字部分に位置する。幹芯から縁石までの離隔距離0.4m。露出根大きい。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	80	カイヅカイブキ	6.5	60 (H1.7)	2.5	―	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.20	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 仮設フェンスに近接しているため、適正根鉢確保困難。 階段脇に位置し、片枝が強く剪定されており、樹形不良で移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 ※階段側は防音シートに覆われているため未確認 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	81	カイヅカイブキ	6.5	75	2.5	―	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
A	82	カイヅカイブキ	6.5	70	2.5	―	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
A	83	カイヅカイブキ	6.0	63	2.5	―	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	―		●		A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			Aエリア：秩父宮ラグビー場																調査日			2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5月 25 日														
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目						伐採理由		
																							難													
エリア	樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	A	B	C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
A	84	カイヅカイブキ	6.0	60	2.5	ー	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹幹傾斜(小)、根元の揺らぎ(小)あり。 片側の枝が枯れており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
A	85	カイヅカイブキ	6.5	70	2.5	ー	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
A	86	カイヅカイブキ	7.0	73	2.5	ー	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 仮設フェンス内に位置する。		●		A			
A	87	カイヅカイブキ	7.0	72	2.5	ー	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 仮設フェンス内に位置する。		●		A			
A	88	カイヅカイブキ	7.0	75	2.5	ー	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	89	カイヅカイブキ	7.0	77	2.5	ー	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	90	カイヅカイブキ	7.0	91	2.5	ー	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	91	カイヅカイブキ	7.0	82	2.5	ー	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	92	カイヅカイブキ	7.0	86	2.5	ー	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	93	カイヅカイブキ	7.0	74	2.5	ー	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	樹幹傾斜あり。 仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	94	カイヅカイブキ	7.0	78	2.5	ー	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	95	カイヅカイブキ	7.0	85	2.5	ー	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	96	カイヅカイブキ	7.0	94	2.5	ー	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	西側の枝葉がない。 生垣の西端に位置する。 根元から西側1mに街灯あり。 仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	97	シラカシ	7.0	47	3.0	ー	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	若木である。		●		B			
A	98	シラカシ	6.5	50	2.0	ー	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	大	若木である。 隣木シラカシと相互被圧あり。		●		B			
A	99	シラカシ	6.5	36	2.5	ー	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	1.0	2.05	B		○		○					無	中	若木である。 隣木シラカシと相互被圧あり。 相互被圧はあるが、若い樹で萌芽力が有り、移植後の樹形回復が期待できる。			●	B			
A	100	シラカシ	4.0	23	2.0	ー	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	3.0	1.0	2.30	B		○		○					無	中	若木である。 被圧樹形である。 相互被圧はあるが、若い樹で萌芽力が有り、移植後の樹形回復が期待できる。			●	B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名							Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日																
エリア	樹木番号	結実	規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）																						
			樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評価点	総合評価結果	備　考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
					東西	南北																										該当に●			ABCD
【西側銀杏並木】 Bエリア：銀杏並木																																							
B	西1	実	26.0	280	10.4	12.7	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	**1.53**	**A**	イチョウ並木の最南端に位置。西1～10･29～48明治神宮管理。 根元GLは歩道＋35㎝。ロイヤルガーデンカフェのデッキに囲まれている。 本年の剪定後、不定芽から伸長した葉が小さく、葉色も薄い。	●			A
B	西2		31.0	282	10.4	11.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	**1.64**	**A**	2つのカフェの入口に位置。根元は緑色のシートに覆われている。 踏圧害あり。 枝先端部に葉の萎れあり。	●			A
B	西3		32.0	270	7.2	9.4	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	**1.64**	**A**	キハチガーデンデッキ内に位置。根元GLは歩道＋30㎝。 根元は深植え状態。	●			A
B	西4	実	29.5	233	7.4	8.3	1.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	**1.69**	**A**	キハチガーデンデッキ内に位置。根元は深植え状態。 大枝 開口空洞(大) 複数あり。損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞(西側)(未芯達)あり。 樹冠全体に葉の縮れあり。特に高さ約10～20mに目立つ。	●			B
B	西5	実	30.5	274	8.8	10.2	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	**1.79**	**B**	枝先端部に葉の萎れあり。	●			A
B	西6		33.5	310	9.1	9.1	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	**1.79**	**B**	枝先端部に葉の萎れあり。	●			A
B	西7	実	31.5	233	9.4	10.1	2.0	2.5	1.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.00	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	**2.00**	**B**	スダジイと相互被圧あり。 樹冠全体に葉の縮れあり。特に高さ約10～20mに目立つ。	●			A
B	西8	実	32.0	230	9.2	9.1	2.0	2.5	1.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.00	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	**2.00**	**B**	スダジイと相互被圧あり。 樹冠全体に葉の縮れあり。特に高さ約10～20mに目立つ。	●			A
B	西9	実	32.0	235	8.3	8.1	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.13	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	**2.06**	**B**	スダジイと相互被圧あり。剪定により葉量がやや少ない。 枯枝(北西側) H:4.5m φ15㎝ L:2.5m。要切除。 樹冠全体に葉の縮れあり。特に高さ約10～20mに目立つ。	●			A
B	西10	実	30.0	226	10.1	9.9	2.0	2.5	1.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.00	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	**2.00**	**B**	ラグビー場方面との角地に位置。西1～10･29～48明治神宮管理。 スダジイと相互被圧あり。 樹冠全体に葉の縮れあり。特に高さ約10～20mに目立つ。	●			A
B	西11	実	26.0	294	11.1	10.3	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	**1.85**	**B**	西11～28 港区管理 。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞 H:1.3m 80×10×13/60㎝(未芯達)。		移植検討		A
B	西12	実	26.0	238	9.8	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	**1.82**	**B**			移植検討		A
B	西13		26.5	243	8.7	8.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	**1.74**	**A**			移植検討		A
B	西14	実	25.0	269	10.2	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	**1.74**	**A**	駐車場側(南側) 下枝に葉の褐変あり。		移植検討		A
B	西15	実	25.0	270	7.4	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	**1.90**	**B**	樹冠の中部から上部に葉の褐変症状が複数見られる。 高さ15mより上部の葉に褐変が疎らに見られる。		移植検討		A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日

エリア	樹木番号	結実	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																																	該当に●			ABCD
B	西16		26.0	250	10.8	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.90	B	高さ15mより上部の葉に褐変が疎らに見られる。		移植検討		A
B	西17		25.5	270	8.5	9.1	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	B	不定根誘導処置 幹 南側 H:0～6.0m、W:30cm。		移植検討		B
B	西18		25.5	256	9.7	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B			移植検討		A
B	西19		25.5	253	11.4	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討		A
B	西20		25.0	298	10.6	10.0	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.66	A	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～5.0m、W:50cm。 樹勢･樹形良好。		移植検討		A
B	西21		24.5	250	9.1	7.8	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	B	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～7.0m、W:45cm。		移植検討		B
B	西22	実	24.5	240	8.2	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.07	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.03	B	高さ10mより上部、特に20mより上部に黄葉が始まっている。		移植検討		A
B	西23		25.0	267	10.3	10.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61	A			移植検討		A
B	西24		25.0	228	8.1	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.07	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.90	B			移植検討		A
B	西25	実	26.0	219	10.0	8.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討		A
B	西26		25.5	213	8.5	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討		A
B	西27	実	26.0	203	9.4	9.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.77	B			移植検討		A
B	西28		25.0	270	10.8	10.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	B	西11～28 港区管理 。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞H:0.5m 20×5×10/80cm(未芯達)、損傷被覆材発達。		移植検討		A
B	西29	実	31.5	270	10.6	10.1	3.0	3.5	1.5	3.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.69	C	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D	3.37	D	SHAKE SHACKテラス内に位置。枝の伸長が短く、葉が小さい。 多くの葉に縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理障害によるものと思われる。 高さ15mより上部が全て落葉。先端部の枯れかどうかは不明。 樹冠中央部まで全て落葉。残る葉は小さく、縮れ、褐変が多い。結実量少。	●			A
B	西30		30.5	266	10.2	10.9	2.5	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.32	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	3.0	2.5	2.0	1.0	2.28	B	2.35	B	SHAKE SHACKテラス内の角に位置。 枝の伸長が短く、葉が小さい。 大枝に胴吹きが多く、樹冠全体に葉の縮れあり。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名							Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日																
エリア	樹木番号	結実	規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）																	備　　考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
			樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果									
					東西	南北																														該当に●			ABCD
B	西31	実	29.0	261	9.9	10.9	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.13	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.23	B	2.19	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。	●			A
B	西32		30.5	247	10.8	10.7	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.13	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.0	1.95	B	2.06	B		●			A
B	西33		30.5	231	9.6	9.0	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	3.0	1.0	2.12	B	2.19	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。 一部の葉に縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理障害によるものと思われる。 西側、特に下枝に葉の黄変あり。 上部の葉は密度はあるものの、褐変症状が見られる。 下部に少し落葉が見られる。	●			A
B	西34		27.0	229	11.3	11.0	2.5	3.5	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	1.5	2.88	C	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	3.5	3.56	D	3.22	C	枝の伸長が短く、葉が小さい。 多くの葉に縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理障害によるものと思われる。 西側、葉の黄変多数、落葉あり、上部はほぼ褐変。東側の葉は緑色。 頂部はほぼ落葉。葉が小さい。 西側に落葉、葉の褐変多数。東側の葉に縮れあり。	●			A
B	西35	実	27.5	212	9.2	9.7	2.0	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.98	B	褐変症状は見られない。	●			A
B	西36		27.5	280	9.8	10.3	2.5	3.5	1.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.5	2.50	B	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D	3.27	D	枝の伸長が短く、葉が小さい。 樹冠全体に褐変症状あり。特に上部の葉に顕著に見られる。 生理障害によるものと思われる。 頂部約10m落葉。西側、下部にも落葉あり。 高さ約17mまで全て落葉。高さ10mより上部は葉が小さく、縮れ多数。	●			A
B	西37		27.0	248	8.9	10.0	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.78	B	2.03	B	東側、樹冠中央部1～2枝に葉の黄変あり。 樹冠全体の葉が小さく、大枝に胴吹きが多い。	●			A
B	西38		26.0	240	9.8	11.2	2.0	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.78	B	2.00	B	葉の黄変症状なし。 樹冠全体の葉が小さく、大枝に胴吹きが多い。	●			A
B	西39		27.0	211	8.2	8.0	2.0	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.78	B	2.00	B	葉の黄変症状なし。 樹冠全体の葉が小さく、大枝に胴吹きが多い。	●			A
B	西40	実	27.0	214	8.8	7.8	3.0	3.5	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.25	C	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D	3.61	D	枝の伸長が短く、葉が小さく、葉量が少ない。 ほぼ全葉に縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理障害によるものと思われる。 東側下部のみ緑の葉を残し、樹冠全体の葉が褐変。 並木内で最も樹勢が悪い。高さ10mより上部が全て落葉。結実多数。 残る葉は少なく、小さい。高さ5～8mに黄変、褐変が多い。	●			A
B	西41		29.5	262	9.8	10.8	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.0	2.23	B	2.24	B	西側樹冠中央部に葉の黄変・褐変症状が4～5枝程度あり。 高さ7mより上部全体の葉が小さく、縮れあり。	●			A
B	西42	実	27.0	250	8.9	8.3	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.0	2.12	B	2.19	B	葉の密度がやや疎、葉の萎れあり。 根元のヘデラにも葉の変色あり。	●			A
B	西43		28.5	259	9.4	9.5	2.5	3.5	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.25	C	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.45	D	3.32	D	樹冠中央部、南と西側に葉の褐変症状が多い。上部の葉は褐変が少ない。 全葉に縮れ、褐変あり。	●			A
B	西44	実	28.0	304	9.7	10.6	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.32	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.84	B	2.08	B	頂部に葉の縮れあり。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日

エリア	樹木番号	結実	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD
																																	該当に●			
B	西45		27.5	241	8.2	7.4	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.32	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.84	B	2.08	B		●			A
B	西46	実	28.0	250	10.1	9.3	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.32	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.84	B	2.08	B	西側に褐変あり。	●			A
B	西47		27.0	269	9.4	9.6	2.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.78	B	1.87	B	幹の上部が屈曲。	●			A
B	西48	実	26.5	242	9.0	10.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.78	B	1.85	B	イチョウ並木の最北端に位置。西1～10･29～48明治神宮管理。	●			A
B	西49	実	25.0	255	9.7	10.4	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	イチョウ並木の最北端に位置。西49～78東京都管理。 幹 開口空洞H:0.9m 40×3×33/60cm(芯達)、損傷被覆材発達。	●			A
B	西50		27.5	248	9.4	11.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B		●			A
B	西51	実	25.0	182	9.3	9.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.95	B		●			B
B	西52		27.5	198	9.4	10.6	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.98	B	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.6m 15×13×10/60cm (未芯達)。	●			A
B	西53		26.5	194	8.5	8.6	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.98	B	幹 開口空洞 H:09m 80×17×10/50cm、損傷被覆材発達。 西側に隣り合う44より葉色が黄色。 黄葉が周囲のイチョウより早く、全葉が小さく、縮れあり。	●			A
B	西54		27.5	190	8.9	11.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		●			A
B	西55		29.0	206	10.5	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		●			A
B	西56	実	20.5	186	8.9	9.2	2.5	2.0	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.07	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.06	B	樹高がやや低く、幹の梢端が北側に屈曲。 大枝(車道側) 開口空洞 H:1.8m 120×17×3/15cm(未芯達)。	●			A
B	西57		28.5	252	10.1	10.1	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.00	B	大枝 開口空洞(車道側) H1.5m 30×20×30/40cm(芯達) 要切除。	●			A
B	西58		28.0	200	9.9	10.1	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.95	B	幹 開口空洞H:0.8m80×20×10/75cm(未芯達)、損傷被覆材発達。	●			A
B	西59	実	23.5	198	10.2	10.1	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.07	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.11	B	葉がやや小さく、葉色が薄い。 幹 開口空洞 H0.6m 100×10×7/45cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞 H:1.5m 20×15×20 (大枝剪定痕)同高さに他2箇所。	●			A
B	西60		25.0	182	9.4	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日

エリア	樹木番号	結実	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存（該当に●）	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD
B	西61		24.0	184	9.6	11.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		●			A
B	西62	実	24.5	181	10.2	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		●			A
B	西63		27.0	202	9.5	11.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		●			A
B	西64	実	29.0	226	10.1	8.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B		●			A
B	西65		25.5	222	9.5	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B		●			A
B	西66		28.5	225	10.4	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.90	B	下枝高がやや高い。	●			A
B	西67		26.5	187	9.7	9.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.90	B	下枝高がやや高い。	●			A
B	西68		28.5	221	8.7	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.72	A	ラグビー場方面に曲がる角地に位置。	●			A
B	西69		29.0	247	10.5	11.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B	ラグビー場方面に曲がる角地に位置。	●			A
B	西70		28.5	213	10.5	11.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.58	A		●			A
B	西71	実	28.5	189	9.6	9.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	樹冠内中央部に葉の黄変症状あり。特に東側上部に黄変が多い。 結実が多い。実がついている枝は落葉している。	●			A
B	西72		28.0	214	9.1	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.72	A		●			A
B	西73		27.5	208	9.3	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.72	A	葉の黄葉が始まっている。	●			A
B	西74		28.5	232	9.7	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.69	A	葉の黄葉が始まっている。	●			A
B	西75		27.0	213	10.5	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.69	A	葉の黄葉が始まっている。	●			A
B	西76		27.0	248	10.0	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.69	A	葉の黄葉が始まっている。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日

エリア	樹木番号	結実	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張り(m) 東西	規格 葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	先端部(頂部)以外の枝葉 梢端の枯損	先端部(頂部)以外の枝葉 枝の伸長量	先端部(頂部)以外の枝葉 枝葉の密度	先端部(頂部)以外の枝葉 緑量	先端部(頂部)以外の枝葉 葉色	先端部(頂部)以外の枝葉 葉の大きさ	先端部(頂部)以外の枝葉 葉形	先端部(頂部)以外の枝葉 平均評点	先端部(頂部)以外の枝葉 評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	先端部(頂部) 枝の伸長量	先端部(頂部) 枝葉の密度	先端部(頂部) 緑量	先端部(頂部) 葉色	先端部(頂部) 葉の大きさ	先端部(頂部) 葉形	先端部(頂部) 褐変	先端部(頂部) 落葉	先端部(頂部) 平均評点	先端部(頂部) 評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD
																																	該当に●			
B	西77		26.5	229	7.9	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.66	A	葉の黄葉が始まっている。	●			A
B	西78		26.0	261	10.4	12.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.50	A	イチョウ並木の最南端に位置。西49～78東京都管理。 剪定のモデル樹。植栽帯幅3.25m。 葉の黄葉が始まっている。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名			規格				Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日	2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日												備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
エリア	樹木番号	結実	樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果		該当に●			ABCD
【東側銀杏並木】 Cエリア：銀杏並木東																																		
C	東1	実	27.5	237	10.3	10.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	**1.50**	**A**	イチョウ並木の最南端に位置。東1～34東京都管理。	●			A
C	東2		28.0	227	9.2	9.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	**1.50**	**A**		●			A
C	東3	実	29.5	267	10.4	10.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	**1.61**	**A**		●			A
C	東4	実	29.0	242	9.8	10.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	**1.61**	**A**		●			A
C	東5		29.0	248	10.0	9.5	1.5	1.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.64**	**A**	大枝付根 開口空洞(車道側) H:1.3m 75×15×5/15(68)㎝。 幹 開口空洞(大枝付根) H:1.3m 20×10×15/50(230)㎝。 大枝付根の開口空洞が幹にも空洞が拡がっているため要切除。	●			A
C	東6	実	29.0	231	9.0	9.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.56**	**A**		●			A
C	東7	実	30.0	200	8.3	9.3	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.61**	**A**	幹 開口空洞(大枝付根) H:2.0m 60×10×15/50(230)㎝。	●			A
C	東8		28.0	227	9.5	9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.56**	**A**		●			A
C	東9	実	28.0	214	7.7	9.1	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.61**	**A**	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.7m 30×15×15/60(230)㎝。 大枝付根 開口空洞(歩道側) H:1.5m 60×10×3/15(63)㎝。	●			A
C	東10	実	27.5	194	9.3	9.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.56**	**A**		●			A
C	東11		28.5	308	9.9	9.9	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.58**	**A**	大枝付根　開口空洞 H:1.5m 50×30×15/40cm(未芯達)。	●			A
C	東12	実	27.5	210	9.8	9.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.56**	**A**		●			A
C	東13	実	25.0	186	8.5	9.1	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.64**	**A**	樹高がやや低く、幹の梢端が屈曲。	●			A
C	東14	実	28.0	224	10.0	10.5	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.61**	**A**	大枝　開口空洞 H:2.0m 40×20×20/45cm(未芯達)。	●			A
C	東15	実	29.0	240	9.7	9.7	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.58**	**A**	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.9m 30×20㎝。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名							Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日					2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日												
			規格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉										先端部(頂部)														備考			
エリア	樹木番号	結実	樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果		保存（該当に●）	移植（該当に●）	伐採（該当に●）	2019年春季調査活力度評価 ABCD
C	東16	実	29.0	229	9.3	9.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A		●			A
C	東17		29.0	217	9.6	10.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A		●			A
C	東18		28.0	195	8.0	8.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A		●			A
C	東19	実	28.5	247	9.3	10.0	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.61	A	幹　開口空洞 H:0.9m 150×25×20/90cm(未芯達)。	●			A
C	東20	実	27.0	195	8.3	10.9	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.58	A	大枝付根　開口空洞 H:2.0m 20×15×20/50cm(未芯達)。	●			A
C	東21		26.0	184	8.7	8.9	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.85	B	幹 開口空洞 H:0.4m 35×8×15/70cm(未芯達)、損傷被覆材発達。 枝張りがやや小さい。	●			A
C	東22		28.0	217	9.1	9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A		●			A
C	東23		28.0	190	8.2	10.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A		●			A
C	東24	実	27.0	183	9.0	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.69	A	樹冠下部の葉量がやや疎。	●			A
C	東25	実	27.5	211	8.8	8.8	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.72	A	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.5m 35×20cm。	●			A
C	東26	実	27.5	206	8.6	8.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A		●			A
C	東27		28.0	231	8.6	9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.50	A		●			A
C	東28	実	29.0	203	8.5	8.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A		●			A
C	東29	実	28.0	272	9.1	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61	A		●			A
C	東30	実	28.0	200	8.7	7.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61	A		●			A
C	東31	実	29.0	227	7.5	7.9	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.69	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.69	A	幹 開口空洞 H:0.3m 50×15×15/85cm(未芯達)、損傷被覆材発達。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名							Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日																
エリア	樹木番号	結実	規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉									先端部（頂部）																					備　　考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
			樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果										
					東西	南北																																	該当に●			ABCD
C	東32		27.5	288	10.4	11.1	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.69	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.74	A	幹の梢端が北側に屈曲。 幹開口空洞（大枝剪定痕） H:1.4m 45×25×10/80cm(未芯達)。	●			A
C	東33		28.0	256	8.7	8.7	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.72	A	大枝付根腐朽(車道側) H:1.5m φ40cm 60×20cm。 大枝開口空洞(南東側) H:1.5m 30×15×5/30cm。	●			A
C	東34		26.0	335	11.4	14.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.58	A	イチョウ並木の最北端に位置。東1～34東京都管理。	●			A
C	東35		27.0	310	12.5	13.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61	A	イチョウ並木の最北端に位置。東35～68明治神宮管理。 梢端の0.5mのみ葉量が疎。 梢端部0.5mのみ落葉。	●			A
C	東36	実	28.0	225	9.7	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
C	東37		29.5	246	9.2	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A		●			A
C	東38		30.0	301	10.2	10.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.77	B		●			A
C	東39	実	31.0	263	8.5	8.9	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.87	B	幹 開口空洞 H:0.2m 40×10×35/125cm(未芯達)、損傷被覆材発達。	●			A
C	東40	実	29.0	216	9.8	9.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
C	東41		29.0	253	9.7	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
C	東42		30.0	254	8.9	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
C	東43		30.5	263	8.5	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
C	東44		31.0	263	9.3	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
C	東45	実	29.0	229	8.2	7.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B	上部の着葉が疎ら。	●			A
C	東46	実	31.0	267	8.1	11.1	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B		●			A
C	東47		29.5	258	9.4	9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B	高さ約10mより上部の樹冠全体に葉の萎れあり。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名							Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日								備　　考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
エリア	樹木番号	結実	規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉									先端部（頂部）														該当に●			ABCD
			樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m） 東西	葉張り（m） 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果					
C	東48		28.0	280	10.5	11.3	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B		●			A
C	東49	実	31.5	257	9.7	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B		●			A
C	東50	実	32.0	266	12.0	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B		●			A
C	東51		31.0	234	9.8	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東52	実	33.0	234	9.2	10.4	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.98	B	大枝開口空洞(歩道側) H:1.6m 50×15×10/20cm(芯達)。 歩道上部に伸びる大枝の開口空洞が芯に達しているため要切除。	●			A
C	東53	実	28.5	199	7.3	6.7	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.98	B	幹の梢端が北側に屈曲。 幹 開口空洞 H:0.7m　140×20×15/80(未芯達)。	●			A
C	東54	実	31.5	237	8.2	10.4	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.98	B	大枝付根開口空洞(南側) H:1.6m 120×10×20/25cm(貫通)。 緑地内大枝開口空洞(貫通)は損傷被覆材の発達あり、要経過観察。 萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東55		30.5	233	9.0	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B		●			A
C	東56		31.5	237	7.8	8.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東57		31.5	255	9.7	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東58		32.0	240	7.5	8.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東59		32.0	222	9.8	9.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B		●			A
C	東60	実	33.5	234	9.6	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B		●			A
C	東61	実	32.5	235	9.2	9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B		●			A
C	東62		34.0	246	10.2	10.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B		●			A
C	東63		31.0	257	10.6	10.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名							Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日					2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日												
			規格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉										先端部(頂部)													備考				2019年春季調査活力度評価
エリア	樹木番号	結実	樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果		保存	移植	伐採	
																																	該当に●			ABCD
C	東64		30.0	237	9.5	9.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B		●			A
C	東65		31.0	242	9.4	9.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東66	実	32.0	246	10.0	10.4	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.72	A	根元 開口空洞 40×10×20/120cm。 萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東67	実	29.0	208	10.1	8.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東68	実	30.0	244	9.9	10.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A	イチョウ並木の最南端に位置。東35～68明治神宮管理。 萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日					2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日												
エリア	樹木番号	規格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）											総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）東西	葉張り（m）南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果				該当に●			ABCD
【西側銀杏並木】Bエリア：銀杏並木																																			
B	西1	26.0	280	8.8	10.8	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	イチョウ並木の最南端に位置。西1～10・29～48明治神宮管理。 根元GLは歩道＋35cm。ロイヤルガーデンカフェのデッキに囲まれている。今年の剪定後に伸長した胴吹き枝の葉が小さく、葉色も薄い。	●			A
B	西2	30.5	284	9.9	10.1	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	2つのカフェの入口に位置。根元は緑色のシートに覆われている。 踏圧害あり。 枝先端部に葉の萎れあり。	●			A
B	西3	31.5	270	6.5	8.6	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	キハチガーデンデッキ内に位置。根元GLは歩道＋30cm。 根元は深植え状態。	●			A
B	西4	29.5	233	6.8	7.4	2.0	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	キハチガーデンデッキ内に位置。根元は深植え状態。 大枝 開口空洞(大) 複数あり。損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞(西側)(未芯達)あり。	●			B
B	西5	30.0	274	8.6	10.3	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	枝先端部に葉の萎れあり。	●			A
B	西6	33.0	309	9.1	9.0	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	枝先端部に葉の萎れあり。	●			A
B	西7	31.0	233	9.0	9.8	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.03	B	スダジイと相互被圧あり。	●			A
B	西8	32.0	230	9.7	8.4	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.03	B	スダジイと相互被圧あり。	●			A
B	西9	32.0	237	7.7	7.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.07	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.08	B	スダジイと相互被圧あり。 枯枝(北西側) H:4.5m φ15cm L:2.5m。要切除 剪定により葉量がやや少ない。	●			A
B	西10	30.0	226	9.7	10.2	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.03	B	ラグビー場方面との角地に位置。西1～10・29～48明治神宮管理。 スダジイと相互被圧あり。	●			A
B	西11	26.0	290	11.1	9.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.85	B	西11～28 港区管理 。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞 H:1.3m 80×10×13/60cm(未芯達)。		移植検討		A
B	西12	26.0	235	8.9	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.90	B			移植検討		A
B	西13	26.5	243	9.0	8.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.90	B			移植検討		A
B	西14	26.0	263	10.2	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.93	B	駐車場側(南側) 下枝に葉の褐変あり		移植検討		A
B	西15	25.5	268	8.6	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.90	B	樹冠の中部から上部に葉の褐変症状が複数見られる		移植検討		A

既存樹木調査結果一覧

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日				2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日												
エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存（該当に●）	移植（該当に●）	伐採（該当に●）
B	西16	25.5	249	10.0	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.82	B			移植検討	
B	西17	26.5	270	8.4	8.7	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	B	不定根誘導処置 幹 南側 H:0～6.0m、W:30cm。		移植検討	
B	西18	25.5	255	9.6	11.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B			移植検討	
B	西19	26.0	252	11.1	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討	
B	西20	25.0	296	9.9	10.0	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.66	A	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～5.0m、W:50cm。 樹勢･樹形良好。		移植検討	
B	西21	24.5	249	8.9	7.8	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	B	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～7.0m、W:45cm。		移植検討	
B	西22	24.5	235	8.2	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.77	B			移植検討	
B	西23	24.5	266	10.4	11.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61	A			移植検討	
B	西24	25.5	229	8.0	8.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討	
B	西25	26.0	217	9.9	7.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討	
B	西26	26.0	213	8.6	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討	
B	西27	26.5	203	8.9	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討	
B	西28	26.0	272	11.3	10.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.77	B	西11～28 港区管理 。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞 H:0.5m 20×5×10/80cm(未忘達)、損傷被覆材が発達。		移植検討	
B	西29	32.0	270	10.7	10.4	3.0	3.5	1.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.82	C	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D	3.43	D	SHAKE SHACKテラス内に位置。枝の伸長が短く、葉が小さい。 多くの葉に葉縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。 高さ15mより上部が全て落葉。先端部の枯れかどうかは不明。	●		
B	西30	30.0	267	10.5	10.4	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B	SHAKE SHACKテラス内の角に位置。 枝の伸長が短く、葉が小さい。	●		
B	西31	29.0	263	9.7	10.9	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。	●		

樹木番号	2019年春季調査活力度評価 ABCD
西16	A
西17	B
西18	A
西19	A
西20	A
西21	B
西22	A
西23	A
西24	A
西25	A
西26	A
西27	A
西28	A
西29	A
西30	A
西31	A

既存樹木調査結果一覧

エリア名		規格				Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲） 全体		先端部（頂部）以外の枝葉										調査日 2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日 先端部（頂部）														保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
エリア	樹木番号	樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	該当に●			ABCD
B	西32	30.5	251	11.0	10.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.94	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.11	B		●			A
B	西33	29.5	232	10.6	9.1	2.0	3.0	1.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.5	2.50	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	2.45	B	2.48	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。 一部の葉に葉縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。 西側、特に下枝に葉の黄変あり。	●			A
B	西34	27.0	229	11.7	9.8	2.5	3.5	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	1.5	2.88	C	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	4.0	3.5	3.50	D	3.19	C	枝の伸長が短く、葉が小さい。 多くの葉に葉縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。 西側、葉の黄変多数、落葉あり、上部はほぼ褐変。東側の葉は緑色。	●			A
B	西35	27.5	213	11.8	9.0	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.16	B	褐変症状は見られない。	●			A
B	西36	27.5	276	9.9	10.4	2.5	3.5	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	2.5	1.5	2.82	C	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	3.45	D	3.14	C	枝の伸長が短く、葉が小さい。 樹冠全体と特に上部の葉に褐変症状が顕著に見られる。 生理的障害によるものと思われる。 上部約10m落葉。西側、下部にも落葉あり。	●			A
B	西37	26.5	248	10.2	9.8	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.95	B	2.14	B	東側、樹冠中央部1～2枝に葉の黄変あり。	●			A
B	西38	26.0	240	10.5	10.6	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.03	B	葉の黄変症状なし。	●			A
B	西39	26.5	210	9.4	8.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.03	B	葉の黄変症状なし。	●			A
B	西40	27.0	216	9.7	7.9	3.0	3.5	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	3.13	C	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	3.45	D	3.29	D	枝の伸長が短く、葉が小さく、葉量が少ない。 ほぼ全葉に葉縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。 東側下部のみ緑の葉を残し、樹冠全体の葉が褐変。	●			A
B	西41	29.0	263	10.3	9.9	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.23	B	2.27	B	西側樹冠中央部に葉の黄変・褐変症状が4～5枝程度あり。	●			A
B	西42	27.0	251	9.4	8.3	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B	葉の密度がやや疎、葉の萎れあり。 根元のヘデラにも葉の変色あり。	●			A
B	西43	28.5	260	9.6	8.8	2.0	3.5	1.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.63	C	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.5	3.0	2.0	2.56	C	2.61	C	樹冠の中央部、南と西側に葉の褐変症状が多い。 上部の葉は緑が多い。	●			A
B	西44	27.5	304	9.8	10.1	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西45	27.5	243	8.3	7.7	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.14	B		●			A
B	西46	27.5	251	9.8	9.4	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.14	B		●			A
B	西47	27.0	267	9.3	9.3	2.5	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.16	B	幹の上部が屈曲。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日					2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日													
		規格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉										先端部(頂部)																		
エリア	樹木番号	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m) 東西	葉張り (m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																																該当に●			ABCD
B	西48	26.0	243	10.0	10.2	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.11	B	イチョウ並木の最北端に位置。西1～10･29～48明治神宮管理。	●			A
B	西49	25.0	253	10.3	10.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	イチョウ並木の最北端に位置。西49～78東京都管理。 幹 開口空洞 H:0.9m　40×3×33/60cm(芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
B	西50	27.5	247	9.3	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西51	25.0	182	9.4	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	1.98	B		●			B
B	西52	27.5	198	9.6	10.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.00	B	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.6m 15×13×10/60cm (未芯達)	●			A
B	西53	26.5	193	8.4	9.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.00	B	幹 開口空洞 H:09m 80×17×10/50cm、損傷被覆材が発達。 西側に隣り合う44より葉色が黄色。	●			A
B	西54	27.0	186	8.9	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	1.98	B		●			A
B	西55	29.0	206	10.3	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	1.98	B		●			A
B	西56	20.0	187	8.2	9.4	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.98	B	樹高がやや低く、幹の梢端が北側に屈曲。 大枝(車道側) 開口空洞 H:1.8m 120×17×3/15cm(未芯達)	●			A
B	西57	28.5	247	8.9	9.8	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	大枝 開口空洞(車道側) H1.5m 30×20×30/40cm(芯達) 要切除	●			A
B	西58	27.5	201	9.3	11.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	幹 開口空洞 H:0.8m 80×20×10/75cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
B	西59	27.5	194	9.9	10.2	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	葉がやや小さく、葉色が薄い。 幹 開口空洞 H0.6m 100×10×7/45cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞 H:1.5m 20×15×20 (大枝剪定痕)同高さに他 2箇所	●			A
B	西60	25.0	182	8.4	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西61	23.5	183	9.7	10.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西62	24.5	181	10.1	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西63	27.0	202	9.3	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）
調査日：2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD
																															該当に●				
B	西64	28.5	227	9.0	8.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B		●			A
B	西65	26.0	222	9.2	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B		●			A
B	西66	28.5	224	10.7	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	1.95	B		●			A
B	西67	27.0	188	9.1	8.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.03	B	下枝高がやや高い。	●			A
B	西68	29.0	220	9.2	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B	ラグビー場方面に曲がる角地に位置。	●			A
B	西69	28.5	247	10.9	11.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	ラグビー場方面に曲がる角地に位置。	●			A
B	西70	28.0	211	10.0	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B		●			A
B	西71	29.0	188	9.0	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.95	B	樹冠内中央部に葉の黄変症状あり。特に東側上部に黄変が多い。	●			A
B	西72	28.0	214	8.9	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B		●			A
B	西73	28.0	207	9.1	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B		●			A
B	西74	28.0	233	10.0	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
B	西75	28.0	213	10.6	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
B	西76	27.0	248	11.0	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A		●			A
B	西77	26.0	227	8.3	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.66	A		●			A
B	西78	26.0	260	10.6	12.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.50	A	イチョウ並木の最南端に位置。西49～78東京都管理。剪定のモデル樹。植栽帯幅3.25m。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日					2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日									該当に●			ABCD
【東側銀杏並木】 Cエリア：銀杏並木東																																			
C	東1	27.5	236	9.7	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B	イチョウ並木の最南端に位置。東1～34東京都管理。	●			A
C	東2	28.0	227	9.3	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東3	29.0	269	10.6	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東4	29.0	233	10.0	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東5	29.0	249	9.6	9.5	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.85	B	大枝付根 開口空洞(車道側) H:1.3m 75×15×5/15(68)cm 幹 開口空洞(大枝付根) H:1.3m 20×10×15/50(230)cm 大枝付根の開口空洞が幹にも空洞が拡がっているため要切除	●			A
C	東6	28.0	229	9.3	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東7	28.0	200	9.1	9.6	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹 開口空洞(大枝付根) H:2.0m 60×10×15/50(230)cm	●			A
C	東8	28.0	226	8.6	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東9	28.0	213	8.7	8.9	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.7m 30×15×15/60(230)cm 大枝付根 開口空洞(歩道側) H:1.5m 60×10×3/15(63)cm	●			A
C	東10	27.5	195	9.6	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東11	28.0	304	10.2	9.9	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	大枝付根　開口空洞 H:1.5m 50×30×15/40cm(未芯達)。	●			A
C	東12	27.5	206	9.2	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東13	25.0	186	8.9	9.2	3.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	樹高がやや低く、幹の梢端が屈曲。	●			A
C	東14	28.5	224	11.0	10.4	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	大枝　開口空洞 H:2.0m 40×20×20/45cm(未芯達)。	●			A
C	東15	28.5	239	10.9	9.2	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.9m 30×20cm。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名		Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）															調査日					2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日												
エリア	樹木番号	規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉									先端部（頂部）													総合評点	総合評価結果	備　　考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果								
				東西	南北																												該当に●			ABCD
C	東16	29.0	229	10.4	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東17	29.0	216	9.5	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.85	B		●			A
C	東18	28.0	195	9.0	8.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東19	28.0	247	8.7	9.9	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹　開口空洞 H:0.9m 150×25×20/90cm(未芯達)。	●			A
C	東20	26.0	195	8.6	11.4	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	大枝付根　開口空洞 H:2.0m 20×15×20/50cm(未芯達)。	●			A
C	東21	26.0	183	8.5	9.1	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 開口空洞 H:0.4m 35×8×15/70cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
C	東22	28.0	217	9.2	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東23	27.5	190	8.5	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東24	27.0	182	9.6	8.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東25	27.5	210	8.9	8.7	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.5m 35×20cm。	●			A
C	東26	27.5	205	9.7	8.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東27	28.0	230	9.1	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東28	28.5	203	8.7	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東29	28.0	271	9.3	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東30	28.0	199	8.9	7.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東31	29.0	227	8.8	8.6	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 開口空洞 H:0.3m 50×15×15/85cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日				2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日													
		規格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉										先端部(頂部)																	
エリア	樹木番号	樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																																該当に●			ABCD
C	東32	27.5	288	10.0	11.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹の梢端が北側に屈曲。 幹開口空洞（大枝剪定痕） H:1.4m 45×25×10/80cm(未芯達)。	●			A
C	東33	28.0	252	6.9	9.2	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	大枝付根腐朽(車道側) H:1.5m φ40cm 60×20cm。 大枝開口空洞(南東側) H:1.5m 30×15×5/30cm。	●			A
C	東34	25.5	333	12.0	13.1	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.79	B	イチョウ並木の最北端に位置。東1～34東京都管理。	●			A
C	東35	27.5	309	12.0	12.1	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.72	A	イチョウ並木の最北端に位置。東35～68明治神宮管理。 梢端の0.5mのみ葉量が疎。	●			A
C	東36	28.0	225	9.8	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東37	29.0	246	8.8	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東38	30.0	300	10.2	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東39	30.0	263	9.3	9.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	幹 開口空洞 H:0.2m 40×10×35/125cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
C	東40	29.0	216	9.2	8.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東41	29.0	250	9.2	8.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東42	30.5	254	9.6	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東43	30.5	261	7.8	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東44	31.0	262	9.0	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東45	29.0	228	7.8	8.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東46	31.0	267	8.0	9.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東47	29.5	259	9.6	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B	葉の萎れあり。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名		Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）															調査日					2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日												
エリア	樹木番号	規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉									先端部（頂部）													総合評点	総合評価結果	備　　考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果							
				東西	南北																												該当に●			ABCD
C	東48	30.5	283	10.4	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東49	31.5	256	9.3	8.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東50	32.0	266	10.9	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B		●			A
C	東51	32.0	233	8.5	8.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東52	32.0	233	8.0	10.4	2.0	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.13	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.08	B	大枝開口空洞(歩道側) H:1.6m 50×15×10/20㎝(芯達)。 歩道上部に伸びる大枝の開口空洞が芯に達しているため要切除	●			A
C	東53	28.5	200	7.1	7.1	2.5	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.07	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.08	B	幹の梢端が北側に屈曲。 幹 開口空洞 H:0.7m　140×20×15/80(未芯達)。	●			A
C	東54	31.5	237	8.2	9.8	2.0	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.13	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.08	B	大枝付根開口空洞(南側) H:1.6m 120×10×20/25㎝(貫通)。 緑地内大枝開口空洞(貫通)は損傷被覆材の発達あり、要経過観察。 萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東55	30.0	232	8.6	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東56	31.0	237	8.0	8.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東57	31.5	254	9.5	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東58	31.5	238	7.5	8.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東59	32.0	224	9.9	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東60	33.5	233	9.8	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東61	32.5	233	9.6	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東62	34.0	246	10.3	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東63	31.0	253	10.1	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.85	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）

調査日：2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張り(m) 東西	規格 葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部（頂部）以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	先端部（頂部）以外の枝葉 梢端の枯損	先端部（頂部）以外の枝葉 枝の伸長量	先端部（頂部）以外の枝葉 枝葉の密度	先端部（頂部）以外の枝葉 緑量	先端部（頂部）以外の枝葉 葉色	先端部（頂部）以外の枝葉 葉の大きさ	先端部（頂部）以外の枝葉 葉形	先端部（頂部）以外の枝葉 平均評点	先端部（頂部）以外の枝葉 評価結果	先端部（頂部） 梢端の枯損	先端部（頂部） 枝の伸長量	先端部（頂部） 枝葉の密度	先端部（頂部） 緑量	先端部（頂部） 葉色	先端部（頂部） 葉の大きさ	先端部（頂部） 葉形	先端部（頂部） 褐変	先端部（頂部） 落葉	先端部（頂部） 平均評点	先端部（頂部） 評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																															該当に●			ABCD
C	東64	30.0	238	8.6	9.6	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.03	B		●			A
C	東65	31.0	240	10.4	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東66	32.0	247	9.4	9.3	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	根元 開口空洞 40×10×20/120cm。 萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東67	29.0	207	9.2	8.7	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東68	30.0	243	9.3	9.7	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。 イチョウ並木の最南端に位置。東35～68明治神宮管理。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																																該当に●			ABCD
【西側銀杏並木】 Bエリア：銀杏並木																																			
B	西1	26.0	280	8.8	10.8	2.0	2.5	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.07	B	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.95	B	2.03	B	イチョウ並木の最南端に位置。西1～10･29～48明治神宮管理。根元GLは歩道＋35cm。ロイヤルガーデンカフェのデッキに囲まれている。今年の剪定後に伸長した胴吹き枝の葉が小さく、葉色も薄い。	●			A
B	西2	30.5	284	9.9	10.1	2.0	2.5	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.07	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.11	B	2つのカフェの入口に位置。根元は緑色のシートに覆われている。踏圧害あり。	●			A
B	西3	31.5	270	6.5	8.6	2.0	2.5	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.07	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.19	B	キハチガーデンデッキ内に位置。根元GLは歩道＋30cm。根元は深植え状態。	●			A
B	西4	29.5	233	6.8	7.4	2.0	2.5	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.13	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.22	B	キハチガーデンデッキ内に位置。根元は深植え状態。大枝 開口空洞(大) 複数あり。損傷被覆材が発達。幹 開口空洞(西側)(未芯達)あり。	●			B
B	西5	30.0	274	8.6	10.3	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.16	B		●			A
B	西6	33.0	309	9.1	9.0	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.16	B		●			A
B	西7	31.0	233	9.0	9.8	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.16	B	スダジイと相互被圧あり。	●			A
B	西8	32.0	230	9.7	8.4	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.16	B	スダジイと相互被圧あり。	●			A
B	西9	32.0	237	7.7	7.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.13	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.22	B	スダジイと相互被圧あり。枯枝(北西側) H:4.5m φ15cm L:2.5m。要切除	●			A
B	西10	30.0	226	9.7	10.2	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.16	B	ラグビー場方面との角地に位置。西1～10･29～48明治神宮管理。スダジイと相互被圧あり。	●			A
B	西11	26.0	290	11.1	9.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.00	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.95	B	西11～28 港区管理 。植栽帯幅1.6m(内径)。幹 開口空洞 H:1.3m 80×10×13/60cm(未芯達)。		移植検討		A
B	西12	26.0	235	8.9	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B			移植検討		A
B	西13	26.5	243	9.0	8.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B			移植検討		A
B	西14	26.0	263	10.2	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B			移植検討		A
B	西15	25.5	268	8.6	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B			移植検討		A

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）
調査日：2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存（該当に●）	移植（該当に●）	伐採（該当に●）	2019年春季調査活力度評価 ABCD
B	西16	25.5	249	10.0	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B			移植検討		A
B	西17	26.5	270	8.4	8.7	2.0	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.07	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.98	B	不定根誘導処置 幹 南側 H:0～6.0m、W:30cm。		移植検討		B
B	西18	25.5	255	9.6	11.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B			移植検討		A
B	西19	26.0	252	11.1	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西20	25.0	296	9.9	10.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～5.0m、W:50cm。		移植検討		A
B	西21	24.5	249	8.9	7.8	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～7.0m、W:45cm。		移植検討		B
B	西22	24.5	235	8.2	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西23	24.5	266	10.4	11.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西24	25.5	229	8.0	8.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西25	26.0	217	9.9	7.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西26	26.0	213	8.6	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西27	26.5	203	8.9	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西28	26.0	272	11.3	10.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	西11～28 港区管理 。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞 H:0.5m 20×5×10/80cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。		移植検討		A
B	西29	32.0	270	10.7	10.4	2.0	3.5	1.5	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.57	C	3.0	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	1.5	3.0	1.0	2.78	C	2.69	C	SHAKE SHACKテラス内に位置。枝の伸長が短く、葉が小さい。 多くの葉に葉縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。	●			A
B	西30	30.0	267	10.5	10.4	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B	SHAKE SHACKテラス内の角に位置。 枝の伸長が短く、葉が小さい。	●			A
B	西31	29.0	263	9.7	10.9	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日					2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日									保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		規格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）														該当に●			
エリア	樹木番号	樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）東西	葉張り（m）南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	ABCD
B	西32	30.5	251	11.0	10.0	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西33	29.5	232	10.6	9.1	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.0	2.28	B	2.27	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。 一部の葉に葉縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。	●			A
B	西34	27.0	229	11.7	9.8	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.0	2.28	B	2.27	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。 多くの葉に葉縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。	●			A
B	西35	27.5	213	11.8	9.0	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西36	27.5	276	9.9	10.4	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	3.0	1.0	2.39	B	2.32	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。 樹冠全体と特に上部の葉に褐変症状が顕著に見られる。 生理的障害によるものと思われる。	●			A
B	西37	26.5	248	10.2	9.8	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西38	26.0	240	10.5	10.6	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西39	26.5	210	9.4	8.0	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西40	27.0	216	9.7	7.9	2.0	3.5	1.5	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.57	C	3.0	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	1.5	3.0	1.0	2.78	C	2.69	C	枝の伸長が短く、葉が小さく、葉量が少ない。 ほぼ全葉に葉縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。	●			A
B	西41	29.0	263	10.3	9.9	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西42	27.0	251	9.4	8.3	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西43	28.5	260	9.6	8.8	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西44	27.5	304	9.8	10.1	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西45	27.5	243	8.3	7.7	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西46	27.5	251	9.8	9.4	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西47	27.0	267	9.3	9.3	2.5	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.24	B	幹の上部が屈曲。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD
																														該当に●			
B	西48	26.0	243	10.0	10.2	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B	イチョウ並木の最北端に位置。西1～10･29～48明治神宮管理。	●			A
B	西49	25.0	253	10.3	10.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	イチョウ並木の最北端に位置。西49～78東京都管理。 幹 開口空洞 H:0.9m　40×3×33/60cm(芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
B	西50	27.5	247	9.3	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
B	西51	25.0	182	9.4	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			B
B	西52	27.5	198	9.6	10.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.6m 15×13×10/60cm (未芯達)	●			A
B	西53	26.5	193	8.4	9.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	幹 開口空洞 H:09m 80×17×10/50cm、損傷被覆材が発達。	●			A
B	西54	27.0	186	8.9	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西55	29.0	206	10.3	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西56	20.0	187	8.2	9.4	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.90	B	樹高がやや低く、幹の梢端が北側に屈曲。 大枝(車道側) 開口空洞 H:1.8m 120×17×3/15cm(未芯達)	●			A
B	西57	28.5	247	8.9	9.8	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B	大枝 開口空洞(車道側) H1.5m 30×20×30/40cm(芯達) 要切除	●			A
B	西58	27.5	201	9.3	11.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	幹 開口空洞 H:0.8m 80×20×10/75cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
B	西59	27.5	194	9.9	10.2	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B	葉がやや小さく、葉色が薄い。 幹 開口空洞 H0.6m 100×10×7/45cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞 H:1.5m 20×15×20 (大枝剪定痕)同高さに他　2箇所	●			A
B	西60	25.0	182	8.4	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西61	23.5	183	9.7	10.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西62	24.5	181	10.1	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西63	27.0	202	9.3	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日

エリア	樹木番号	規格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）											総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）東西	葉張り（m）南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果				該当に●			ABCD
B	西64	28.5	227	9.0	8.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西65	26.0	222	9.2	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西66	28.5	224	10.7	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西67	27.0	188	9.1	8.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西68	29.0	220	9.2	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B	ラグビー場方面に曲がる角地に位置。	●			A
B	西69	28.5	247	10.9	11.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B	ラグビー場方面に曲がる角地に位置。	●			A
B	西70	28.0	211	10.0	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西71	29.0	188	9.0	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西72	28.0	214	8.9	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西73	28.0	207	9.1	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西74	28.0	233	10.0	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西75	28.0	213	10.6	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西76	27.0	248	11.0	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西77	26.0	227	8.3	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西78	26.0	260	10.6	12.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B	イチョウ並木の最南端に位置。西49～78東京都管理。剪定のモデル樹。植栽帯幅3.25m。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日													
エリア	樹木番号	規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉									先端部（頂部）												総合評点	総合評価結果	備　　考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果							
				東西	南北																											該当に●			ABCD
【東側銀杏並木】 Cエリア：銀杏並木東																																			
C	東1	27.5	236	9.7	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B	イチョウ並木の最南端に位置。東1～34東京都管理。	●			A
C	東2	28.0	227	9.3	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東3	29.0	269	10.6	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東4	29.0	233	10.0	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東5	29.0	249	9.6	9.5	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.85	B	大枝付根 開口空洞(車道側) H:1.3m 75×15×5/15(68)cm 幹 開口空洞(大枝付根) H:1.3m 20×10×15/50(230)cm 大枝付根の開口空洞が幹にも空洞が拡がっているため要切除	●			A
C	東6	28.0	229	9.3	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東7	28.0	200	9.1	9.6	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹 開口空洞(大枝付根) H:2.0m 60×10×15/50(230)cm	●			A
C	東8	28.0	226	8.6	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東9	28.0	213	8.7	8.9	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.7m 30×15×15/60(230)cm 大枝付根 開口空洞(歩道側) H:1.5m 60×10×3/15(63)cm	●			A
C	東10	27.5	195	9.6	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東11	28.0	304	10.2	9.9	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	大枝付根　開口空洞 H:1.5m 50×30×15/40cm(未芯達)。	●			A
C	東12	27.5	206	9.2	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東13	25.0	186	8.9	9.2	3.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	樹高がやや低く、幹の梢端が屈曲。	●			A
C	東14	28.5	224	11.0	10.4	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	大枝　開口空洞 H:2.0m 40×20×20/45cm(未芯達)。	●			A
C	東15	28.5	239	10.9	9.2	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.9m 30×20cm。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日

エリア	樹木番号	規格 樹高 (m)	規格 幹周 (cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD
																																該当に●			
C	東16	29.0	229	10.4	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東17	29.0	216	9.5	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東18	28.0	195	9.0	8.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東19	28.0	247	8.7	9.9	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹　開口空洞 H:0.9m 150×25×20/90cm(未芯達)。	●			A
C	東20	26.0	195	8.6	11.4	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	大枝付根　開口空洞 H:2.0m 20×15×20/50cm(未芯達)。	●			A
C	東21	26.0	183	8.5	9.1	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 開口空洞 H:0.4m 35×8×15/70cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
C	東22	28.0	217	9.2	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東23	27.5	190	8.5	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東24	27.0	182	9.6	8.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東25	27.5	210	8.9	8.7	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.5m 35×20cm。	●			A
C	東26	27.5	205	9.7	8.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東27	28.0	230	9.1	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東28	28.5	203	8.7	9.1	2.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B		●			A
C	東29	28.0	271	9.3	10.0	2.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B		●			A
C	東30	28.0	199	8.9	7.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東31	29.0	227	8.8	8.6	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 開口空洞 H:0.3m 50×15×15/85cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD
																															該当に●			
C	東32	27.5	288	10.0	11.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹の梢端が北側に屈曲。 幹開口空洞（大枝剪定痕）H:1.4m 45×25×10/80cm(未芯達)。	●			A
C	東33	28.0	252	6.9	9.2	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	大枝付根腐朽(車道側) H:1.5m φ40cm 60×20cm。 大枝開口空洞(南東側) H:1.5m 30×15×5/30cm。	●			A
C	東34	25.5	333	12.0	13.1	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.72	A	イチョウ並木の最北端に位置。東1～34東京都管理。	●			A
C	東35	27.5	309	12.0	12.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B	イチョウ並木の最北端に位置。東35～68明治神宮管理。	●			A
C	東36	28.0	225	9.8	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東37	29.0	246	8.8	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東38	30.0	300	10.2	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東39	30.0	263	9.3	9.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	幹 開口空洞 H:0.2m 40×10×35/125cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
C	東40	29.0	216	9.2	8.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東41	29.0	250	9.2	8.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東42	30.5	254	9.6	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東43	30.5	261	7.8	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東44	31.0	262	9.0	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東45	29.0	228	7.8	8.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東46	31.0	267	8.0	9.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東47	29.5	259	9.6	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	大枝幹の欠損・傷	先端部(頂部)以外の枝葉 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																																該当に●			ABCD
C	東48	30.5	283	10.4	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東49	31.5	256	9.3	8.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東50	32.0	266	10.9	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東51	32.0	233	8.5	8.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東52	32.0	233	8.0	10.4	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	大枝開口空洞(歩道側) H:1.6m 50×15×10/20cm(芯達)。 歩道上部に伸びる大枝の開口空洞が芯に達しているため要切除	●			A
C	東53	28.5	200	7.1	7.1	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	幹の梢端が北側に屈曲。 幹 開口空洞 H:0.7m 140×20×15/80(未芯達)。	●			A
C	東54	31.5	237	8.2	9.8	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	大枝付根開口空洞(南側) H:1.6m 120×10×20/25cm(貫通)。 緑地内大枝開口空洞(貫通)は損傷被覆材の発達あり、要経過観察。	●			A
C	東55	30.0	232	8.6	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東56	31.0	237	8.0	8.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東57	31.5	254	9.5	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.00	B		●			A
C	東58	31.5	238	7.5	8.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.00	B		●			A
C	東59	32.0	224	9.9	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.00	B		●			A
C	東60	33.5	233	9.8	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.00	B		●			A
C	東61	32.5	233	9.6	9.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.11	B		●			A
C	東62	34.0	246	10.3	10.1	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.11	B		●			A
C	東63	31.0	253	10.1	10.1	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.11	B		●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）

調査日：2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張り(m) 東西	規格 葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	先端部(頂部)以外の枝葉 梢端の枯損	先端部(頂部)以外の枝葉 枝の伸長量	先端部(頂部)以外の枝葉 枝葉の密度	先端部(頂部)以外の枝葉 緑量	先端部(頂部)以外の枝葉 葉色	先端部(頂部)以外の枝葉 葉の大きさ	先端部(頂部)以外の枝葉 葉形	先端部(頂部)以外の枝葉 平均評点	先端部(頂部)以外の枝葉 評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	先端部(頂部) 枝の伸長量	先端部(頂部) 枝葉の密度	先端部(頂部) 緑量	先端部(頂部) 葉色	先端部(頂部) 葉の大きさ	先端部(頂部) 葉形	先端部(頂部) 褐変	先端部(頂部) 落葉	先端部(頂部) 平均評点	先端部(頂部) 評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																																該当に●			ABCD
C	東64	30.0	238	8.6	9.6	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.11	B		●			A
C	東65	31.0	240	10.4	8.9	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.11	B		●			A
C	東66	32.0	247	9.4	9.3	2.0	2.5	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.00	B	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.14	B	根元 開口空洞 40×10×20/120cm。	●			A
C	東67	29.0	207	9.2	8.7	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B		●			A
C	東68	30.0	243	9.3	9.7	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	イチョウ並木の最南端に位置。東35～68明治神宮管理。	●			A

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	69	マテバシイ	8.0	7本立	8.0	83,80,69,68,58,58,56	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.0	1.80	B		○					○		有	小	石垣の上に位置し、適正な根鉢確保困難。	●			B			
C	70	マテバシイ	8.5	155	8.0	–	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	小	根元・幹に開口空洞が多数あり。 幹に打診音異常 H1.0～2.5mあり。 大枝に開口空洞30×18(80)×10/22あり。 枝にカミキリムシ脱出孔が、複数あり。 石垣の上に位置する。	●			B			
C	71	マテバシイ	7.0	3本立	8.0	65,60,45	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	大	根元に樹皮欠損・腐朽(大枝切除痕)あり。 幹(H2.5m)に開口空洞15×10(63)×15/25(芯達)あり。	●			B			
C	72	ヤマモモ	8.0	91	4.0	–	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A	○			○					有	小	–	●			B			
C	73	ヤマモモ	8.0	91	4.0	–	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A	○			○					有	小	–	●			B			
C	74	ヤマモモ	8.0	96	4.0	–	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A	○			○					有	小	–	●			B			
C	75	ヤマモモ	8.0	110	4.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B	○			○					有	小	–	●			B			
C	76	マテバシイ	3.2	153	2.5	–	4.0	3.5	4.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.80	C			○					○	有	小	幹に開口空洞・腐朽(大)、被害が進行している。	●			C			
C	77	マテバシイ	9.0	170	8.0	–	4.0	3.5	4.0	2.5	3.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.75	C			○					○	有	小	幹に開口空洞・腐朽(大)、高さH0.8～2.2mに打診音異常(大)あり。	●			B			
C	78	マテバシイ	4.5	65	3.5	–	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	大	露出根あり。 極めて樹形が乱れており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	79	ハゼノキ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	-	-	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	枯損している。	※	–	–	B			
C	80	ウバメガシ	5.0	8本立	5.0	54,47,33,32,30,30,28,25	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					有	中	–	●			B			
C	81	モチノキ	4.0	5本立	4.0	53,38,37,20,17	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					有	中	–	●			B			
C	82	マテバシイ	6.0	65	2.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○				○		有	大	片枝で葉も少なく、回復不可。	●			B			
C	83	マテバシイ	6.5	82	5.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○				○		有	中	枝が極まばらで移植後の回復不可能。	●			B			
C	84	マテバシイ	7.0	80	6.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	大	枝が極まばらで移植後の回復不可能。	●			B			
C	85	ヤブツバキ	6.0	2本立	3.0	50,38	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	–	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）																	調査日					2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日													
			規格				活力度													保存の必要性			移植					参考項目						伐採理由		
エリア	樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	86	モチノキ	9.0	2本立	3.0	83,25	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○		○					有	中	樹形、樹勢良好、移植可能。	●			B			
C	87	トウネズミモチ	7.0	53	3.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	中	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
C	88	トウネズミモチ	7.5	5本立	4.0	38,38,14,13,11	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	中	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
C	89	スダジイ	8.0	126	3.0	–	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		有	大	幹(H1.2～2.0m)に打音異常あり。	●			B			
C	90	スダジイ	9.0	128	4.0	–	2.5	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○					○		有	中	幹に打音異常あり。 擬木柵に接触している。	●			B			
C	91	スダジイ	8.0	111	4.0	–	2.5	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○						○	有	中	擁壁際で移植のための適正根鉢確保が困難	●			B			
C	92	ケヤキ	18.0	285	11.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	小	擬木柵に近接している(幹芯から西に1m)。	●			B			
C	93	イスノキ	8.0	58	4.0	–	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.75	A		○		○					無	小	ー	●			B			
C	94	スダジイ	8.0	158	5.0	–	2.5	2.5	3.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	中	幹に打音異常あり。 擬木柵に近接している(幹芯から東に0.4m)。	●			B			
C	95	ケヤキ	18.0	235	11.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		無	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	96	イスノキ	9.0	83	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	小	ー	●			B			
C	97	ケヤキ	18.0	234	14.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			A			
C	98	ネズミモチ	6.0	5本立	5.0	54,30,24,16,14	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○					○		無	小	根元・幹に腐朽が散在する。	●			B			
C	99	トウネズミモチ	8.0	92	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	無	小	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
C	100	ヒトツバタゴ	8.0	85	5.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					無	小	擬木柵に近接している(幹芯から2.4m)。	●			A			
C	101	ウバメガシ	8.0	2本立	4.5	110,40	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	中	ー	●			B			
C	102	ヒサカキ	4.5	2本立	3.0	38,12	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	ー	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度（1～4評価） 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	（1～4評価） 葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果 ABCD	保存の必要性（該当に○） 高	中	低	移植（該当に○） 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物 有無	片枝・被圧 大中小無	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存（該当に●）	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
C	103	イロハモミジ	6.0	63	4.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	小	擬木柵に近接している(幹芯から2.2m)。	●			A			
C	104	クヌギ	14.0	184	5.0	－	3.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	小	擬木柵に近接している(幹芯から1.5m)。 擬木柵があるままでは適正根鉢確保困難。	●			B			
C	105	ウバメガシ	6.5	61	2.0	－	2.5	2.5	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	無	小	根元・幹に樹皮欠損130×12(55)あり。 樹皮欠損がH0～1.2mまで連続。移植不可。	●			B			
C	106	ヒトツバタゴ	6.5	50	2.5	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B	○			○					無	大	－	●			B			
C	107	イロハモミジ	5.0	36	5.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					無	中	－	●			B			
C	108	マテバシイ	9.0	87	3.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B		○		○					無	中	－	●			B			
C	109	スダジイ	9.0	115	6.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○				○		有	中	根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 擬木柵の控え柱に接触している。擬木柵に近接している(幹芯から0.6m)。	●			B			
C	110	スダジイ	9.0	128	5.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○				○		有	小	幹に開口空洞(小)が複数ある。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.5mあり。 擬木柵に近接している(幹芯から0.5m)。	●			B			
C	111	クヌギ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	－	－	B			
C	112	イロハモミジ	7.5	83	4.0	－	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	2.00	B	○			○					無	中	－	●			A			
C	113	ヒトツバタゴ	9.0	65	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	中	－	●			A			
C	114	ヒトツバタゴ	7.0	55	4.0	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B	○			○					無	中	－	●			B			
C	115	イロハモミジ	8.0	2本立	6.0	70,54	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.80	B	○			○					無	中	－	●			A			
C	116	モチノキ	6.0	42	3.5	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	小	雌木である。	●			B			
C	117	スダジイ	9.0	132	6.0	－	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.35	B			○				○		無	大	幹に開口空洞(小)が複数ある。 樹木番号118ケヤキからの被圧により、片枝樹形である。 道路側は大きく剪定されている。	●			B			
C	118	ケヤキ	18.0	251	15.0	－	1.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	2.5	2.0	1.0	1.90	B	○						○		無	小	樹形が良く、存在感があり、保存価値が高い。 大径木のため、移植時の根鉢の確保・樹形維持が難しい。	●			A			
C	119	ウバメガシ	5.5	2本立	3.5	57,44	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					無	小	剪定痕が多数、腐朽あり。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日

エリア	樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	120	スダジイ	8.0	70	3.5	−	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					無	小	―	●			B			
C	121	クヌギ	12.0	154	5.0	−	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B		○					○		無	大	下枝のない片枝樹形であり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 剪定痕が多数あり。	●			B			
C	122	スダジイ	12.0	232	10.0	−	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B		○					○		無	中	片枝樹形である。 根元にツリバリサルノコシカケの子実体あり。 幹に腐朽あり。 根元・幹に打診音異常 H0.1～2.3mあり。 樹幹傾斜(小)(西側)あり。	●			B			
C	123	スダジイ	9.0	129	9.0	−	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B		○					○		無	中	片枝がなく、樹形不良で移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	124	マテバシイ	3.0	48	2.0	−	3.5	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.65	C			○					○	無	大	樹幹傾斜(小)あり。 上部が大きく剪定されている上、片枝となっており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			C			
C	125	マテバシイ	10.0	128	5.0	−	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	中	片枝樹形である。 剪定痕が多数あり。 根元H0.0m～H1.2mに開口空洞あり。	●			B			
C	126	マテバシイ	4.5	75	4.0	−	3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	中	片枝樹形である。 根元H0.0m～H1.2mに開口空洞あり。 樹幹傾斜(小)あり。	●			B			
C	127	スダジイ	11.0	187	9.0	−	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.40	B		○					○		無	小	片枝樹形である。 幹・大枝に樹皮欠損(小)が複数ある。	●			B			
C	128	クスノキ	15.0	194	9.0	−	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○						○		無	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	129	ヒトツバタゴ	8.0	84	5.0	−	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	2.30	B	○			○					無	小	―	●			B			
C	130	ヒトツバタゴ	8.0	65	4.0	−	2.5	3.0	2.0	2.5	2.5	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.00	A	○			○					無	小	―	●			B			
C	131	ミズキ	10.0	86	5.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					無	小	―	●			B			
C	132	マテバシイ	9.0	3本立	5.0	85,59,50	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	小	大枝付根に入皮あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。	●			B			
C	133	マテバシイ	9.0	82	4.0	−	2.5	3.0	2.0	2.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.30	B		○					○		無	小	枝にてんぐ巣病の症状あり。	●			B			
C	134	ヒトツバタゴ	4.0	34	4.0	−	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.00	B	○			○					無	小	―	●			B			
C	135	イロハモミジ	6.0	83	6.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	小	―	●			A			
C	136	プラタナス	14.0	244	8.0	−	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B	○						○		無	小	剪定痕が多数あり。 大径木であり、保存価値がある。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）　調査日：2023 年　5 月　24 日　～　2023 年　5月　26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	137	クロマツ	17.0	130	3.5	－	3.5	3.0	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.40	B		○					○		無	無	下枝がなく、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 下枝が高すぎるため、移植に際しての剪定も難しい。	●			B			
C	138	シラカシ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	－	－	B			
C	139	スダジイ	8.0	125	8.0	－	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.40	B		○					○		無	中	ひこばえが多い上、片側の枝がなく、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	140	ムクノキ	18.0	178	10.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	2.05	B	○						○		無	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	141	マテバシイ	8.5	95	6.0	－	3.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	小	剪定痕に腐朽があり、片枝樹形である。 移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	142	マテバシイ	5.0	63	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	中	片枝がなく、樹形不良で移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	143	クヌギ	13.0	188	8.0	－	3.0	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○					○		無	大	樹木番号144スダジイ等からの被圧により下枝が高い。 幹に樹木番号144スダジイの大枝がくい込んでいる。	●			B			
C	144	スダジイ	12.0	142	12.0	－	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	小	移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	145	スダジイ	10.0	135	6.5	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	小	移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	146	マテバシイ	6.0	3本立	5.0	43,38,38	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	中	三本立ちの内、1本は断幹され、2本は枯損している。	●			B			
C	147	イロハモミジ	7.0	2本立	7.0	63,57	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.50	A	○			○					無	小	―	●			A			
C	148	ムクノキ	18.0	200	12.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	2.05	B	○						○		無	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	149	シラカシ	16.0	148	6.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○						○		無	中	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	150	マテバシイ	4.0	35	3.0	－	4.0	3.5	3.0	3.0	4.0	3.5	2.0	3.0	2.5	1.0	2.95	C			○					○	無	大	樹冠上部が失われ、樹形・樹勢は不良。	●			C			
C	151	クロガネモチ	5.0	44	3.5	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○		○					無	中	―	●			B			
C	152	ウメ	4.0	29	2.0	－	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.50	B			○	○					無	大	樹幹傾斜(小)あり。 傾斜しているが、ウメらしさあり。小さい木で移植可能。	●			C			
C	153	スダジイ	8.0	132	6.0	－	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	小	東側に樹幹傾斜（中）あり。大枝も東側のみで片枝樹形となっており、移植後の健全な状態への回復は困難。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名: Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）　調査日: 2023 年　5 月　24 日　～　2023 年　5月　26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形 (1～4評価)	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形 (1～4評価)	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果 (ABCD)	保存の必要性 高 (該当に○)	中	低	移植 可 (該当に○)	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物 (有無)	片枝・被圧 (大中小無)	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存 (該当に●)	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 (ABCD)	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
C	154	スダジイ	15.0	143	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B	○						○		無	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	155	スダジイ	13.0	235	7.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	小	擬木柵に近接している(幹芯から1.2m)。	●			B			
C	156	スダジイ	13.0	169	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		無	小	擬木柵に近接している(幹芯から1.3m)。	●			B			
C	157	マテバシイ	4.0	49	4.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.30	B		○		○					無	大	—	●			B			
C	158	プラタナス	18.0	299	12.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	2.00	B	○						○		無	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	159	イロハモミジ	8.0	88	8.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					無	中	幹(H1.0m)に開口空洞・腐朽 5×5(83)×18/25(芯達)あり。 樹勢に問題無し、移植可能。	●			A			
C	160	スダジイ	9.5	115	6.0	－	2.5	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B		○					○		無	小	根元・幹に打診音異常 H0.0～2.5mあり。	●			B			
C	161	サザンカ	8.0	43	2.0	－	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○		○					無	小	幹(H0.5m)に開口空洞・腐朽 20×5(43)×5/18あり。 樹勢に問題無し、移植可能。	●			B			
C	162	クスノキ	12.0	146	7.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	—	●			B			
C	163	イロハモミジ	7.0	56	6.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					無	小	枯枝(H3.5m) φ8, L=1.2mあり。	●			A			
C	164	スダジイ	10.0	158	10.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	樹木番号165クヌギと近接している。	●			B			
C	165	クヌギ	12.0	168	7.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B		○					○		無	小	樹木番号164スダジイと近接している。	●			B			
C	166	ケヤキ	19.0	287	15.0	－	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.40	B	○						○		無	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹に打音異常(小)あり。 大枝に樹皮欠損(大)、剪定痕からの枯れ下がりあり。 枯枝(H15m) φ20, L=7mあり。 樹冠内を電線が通っている。	●			B			
C	167	ヒトツバタゴ	8.0	53	6.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.15	B		○		○					無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。	●			B			
C	168	マテバシイ	7.0	51	5.0	－	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 枝にてんぐ巣病の症状あり。	●			B			
C	169	マテバシイ	6.5	57	4.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 揺らぎ(小)あり。 強い樹幹傾斜あり、枝葉が少なく片枝樹形である。移植後の健全な状態の維持は困難。	●			B			
C	170	マテバシイ	4.5	58	4.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 揺らぎ(小)あり。 強い樹幹傾斜あり、枝葉が少なく片枝樹形である。移植後の健全な状態の維持は困難。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名																																				
Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）							調査日				2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日																							伐採理由		
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目									
エリア	樹木番号	樹種名	樹高（m）	幹周（cm）	葉張（m）	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	171	マテバシイ	9.0	76	5.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.00	B		○		○					無	中	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 幹に穿孔性害虫の穿孔痕（Φ2mm以下）が多数あり。（ピンク色の標識テープあり）	●			B			
C	172	スダジイ	12.0	154	7.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○		○					無	小	幹に打診音異常（小） H1.0～2.0mあり。 移植に問題無し。	●			B			
C	173	モチノキ	6.0	4本立	3.0	46,40,30,14	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	ひこばえが多数あり。	●			B			
C	174	イロハモミジ	8.0	95	6.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	中	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 隣木のモチノキとケヤキからの被圧あり。 フェンスに近接している。	●			A			
C	175	ケヤキ	24.0	246	12.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B	○						○		有	小	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 枯枝（H15m） φ15, L=6mあり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	176	サカキ	6.5	2本立	3.5	40,39	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.10	B	○			○					無	小	樹形良好。 幹の相互接触、幹と大枝の相互接触あり。 枝の電線接触あり。 葉に虫害あり。	●			B			
C	177	ケヤキ	25.0	237	16.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B	○						○		無	中	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 根元・幹（H0～1.5m）に、肥大生長あり。 幹に、打音異常（小）あり。 隣木ケヤキ（175）からの被圧あり。	●			B			
C	178	クスノキ	9.0	77	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	中	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。	●			B			
C	179	マテバシイ	9.0	67	4.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	中	樹幹傾斜（小）（東側）あり。 ひこばえが多数あり。 隣木ケヤキによる被圧あり。	●			B			
C	180	マテバシイ	6.5	66	3.0	－	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.45	B			○				○		無	大	樹幹傾斜（小）（東側）あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。 枯枝（小）あり。	●			B			
C	181	マテバシイ	7.5	72	3.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○					○		無	中	樹幹傾斜（小）（東側）あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。 ひこばえが多数あり。 枯枝（小）あり。 樹木番号182ケヤキと近接している。	●			B			
C	182	ケヤキ	24.0	262	20.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	無	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 相互接触あり。 大枝（北H5m）に、樹皮欠損（大） 200×30あり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			A			
C	183	イロハモミジ	8.0	58	9.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	小	樹形良好。	●			A			
C	184	トウカエデ	10.0	151	8.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○						○	無	小	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 幹（南H0.5m）に開口空洞 80×10×13/30あり。 過去にぶつ切り剪定されている。	●			B			
C	185	トウネズミモチ	11.0	85	5.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	無	小	枯枝（小）あり。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		

既存樹木調査結果一覧

エリア名	Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）	調査日	2023 年　5 月　24 日　～　2023 年　5月　26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形 (1～4評価)	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形 (1～4評価)	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果 (ABCD)	保存の必要性 高 (該当に○)	中	低	移植 可 (該当に○)	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物 (有無)	片枝・被圧 (大中小無)	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存 (該当に●)	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 (ABCD)	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
C	186	スダジイ	10.0	140	5.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.30	B		○					○		無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹幹傾斜(小)あり。 幹(H2m)に、開口空洞 20×10×21/56あり。 幹にアイカワタケのヒラフスベ型の子実体(残さ)あり。	●			B			
C	187	イロハモミジ	8.0	78	8.0	－	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B	○			○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹幹傾斜(小)あり。	●			A			
C	188	マテバシイ	6.0	52	3.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					無	中	樹勢、樹形普通で移植可能。	●			B			
C	189	マテバシイ	8.0	76	3.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○					○		無	中	樹幹傾斜(小)あり。 大枝に枝欠損部からの腐朽あり。 ひこばえが多数あり。	●			B			
C	190	モッコク	6.0	67	3.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.20	B		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 梢端の枯れ下がりあり。	●			B			
C	191	イロハモミジ	5.5	61	6.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹勢衰退傾向にある。 大枝に樹皮枯死(大)あり。 枯枝φ10, L=2mあり。	●			B			
C	192	イスノキ	7.0	3本立	5.0	43,33,29	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B		○		○					無	小	樹形良好。 葉に虫こぶあり。	●			B			
C	193	ウバメガシ	6.0	59	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 枝数がやや少ない。	●			B			
C	194	ケヤキ	24.0	286	12.0	－	1.5	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○						○		無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 大枝に開口空洞20×20(巻き込み)、ほか複数あり。 樹形は大きく立派である。	●			A			
C	195	イロハモミジ	7.5	56	8.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	小	剪定痕(小)あり。	●			A			
C	196	マテバシイ	5.0	67	4.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	強い樹幹傾斜あり、片枝樹形である。移植後の健全な状態の維持は困難。 大枝に入り皮あり。	●			B			
C	197	マテバシイ	6.0	63	3.5	－	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.40	B			○				○		無	大	樹幹傾斜(小)あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。 葉がやや疎、梢端に枯れ下がりあり。	●			B			
C	198	マテバシイ	3.0	42	3.0	－	4.0	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.70	C			○					○	無	大	梢端部に小枝がなく、著しく樹形・樹勢が悪い。 幹に枯れ下がりあり。 ひこばえが多数あり。	●			C			
C	199	スダジイ	10.0	189	10.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B	○						○		無	小	巻き根(中)あり。 移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	200	クワ	3.5	2本立	4.0	43,23 (H0.2m)	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 断幹され、断幹部に腐朽あり。 擬木柵に近接している。	●			B			
C	201	サザンカ	6.0	93 (H0.3m)	4.5	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹に開口空洞(小)(巻き込み)、ほか多数あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。	●			B			
C	202	ヒトツバタゴ	5.0	37	3.0	－	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○	○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。 隣木サザンカからの被圧あり。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）															調査日				2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 26 日														
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目							伐採理由		
エリア	樹木番号	樹種名	樹高（m）	幹周（cm）	葉張（m）	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	203	イスノキ	8.5	91	6.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	小	大枝分岐部に入り皮あり。	●			B			
C	204	サザンカ	6.0	43	4.0	－	2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○					○		無	中	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 根元に開口空洞 20×5×5/20（巻き込み）あり。	●			B			
C	205	マテバシイ	5.0	37	3.5	－	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.20	B		○		○					無	大	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 隣木スダジイからの被圧あり。	●			B			
C	206	マテバシイ	6.0	2本立	2.0	59,34	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.30	B		○					○		無	小	片枝樹形である。 主幹が、断幹されている。 幹（双幹）に、打診音異常H0.0～2.0m（大）あり。 枝に、てんぐ巣病の症状あり。	●			B			
C	207	ケヤキ	12.0	146	10.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B	○						○		無	小	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 胴吹きが多数あり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	208	ヒトツバタゴ	8.0	52	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。	●			A			
C	209	マテバシイ	2.5	5	1.0	－	4.0	3.5	3.5	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	3.0	1.0	2.95	C			○					○	無	小	樹高が3m以下である。 枝の伸長が悪く、ひこばえのみの樹形である。	●			C			
C	210	ウバメガシ	6.0	28	3.0	－	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	無	中	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 幹に開口空洞（大） 60×5×3/10ほか全2箇所あり。 根元・幹に打診音異常（大） H0.0～1.0mあり。	●			B			
C	211	マテバシイ	6.0	3本立	7.0	42,39,35	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	1.0	2.15	B		○					○		無	中	枝にてんぐ巣病の症状あり。	●			B			
C	212	シラカシ	14.0	145	8.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○		○					無	中	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 下枝がない。樹冠に偏りあり。 隣木ケヤキからの被圧あり。	●			B			
C	213	マテバシイ	7.5	74	4.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	樹幹傾斜（小）あり。 隣木シラカシからの被圧により、片枝樹形であり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	214	マテバシイ	5.5	54	4.5	－	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	片枝樹形である。 樹幹傾斜（小）あり。 根元・幹に、打診音異常（小） H0.0～1.0mあり。 隣木スダジイからの被圧（大）あり。	●			B			
C	215	スダジイ	6.5	118	5.5	－	3.5	3.5	4.0	2.5	4.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.75	C			○					○	無	中	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 幹がH4.0mで断幹、枯れ下がりあり。 幹に開口空洞 400×20×20/40（芯達）あり。 根元・幹に打診音異常（大） H0.0～2.0mあり。	●			C			
C	216	マテバシイ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去（ひこばえあり）。	※	－	－	C			
C	217	クスノキ	5.0	74	4.0	－	4.0	3.5	4.0	3.0	4.0	3.5	2.0	2.5	2.5	1.0	3.00	C			○					○	無	小	断幹されている。高さH3mから枯れ下がりあり。 根元に開口空洞 5×5×22/30（芯達）あり。 根元・幹に打音異常 H0.0～2.0mあり。 根元の揺らぎ（大）あり。 幹折れ、倒木の危険性あり。	●			C			
C	218	スダジイ	12.0	175	6.0	－	2.5	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B		○					○		無	小	幹H2.3m～3.4mにかけて開口空洞（大）（巻き込み）あり。 根元・幹に打診音異常 H0.0～1.0mあり。 大枝に開口空洞（大）あり。 幹折れの危険性あり。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）																	調査日			2023 年　5 月　24 日　～　2023 年　5月　26 日													伐採理由		
			規格				活力度													保存の必要性			移植						参考項目									
エリア	樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果		高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可		根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD		該当に○			該当に○						有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	219	マテバシイ	8.0	78	5.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○			無	中	隣木スダジイからの被圧により、片枝樹形であり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	221	クスノキ	12.5	89	7.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.10	B			○		○						無	中	隣木ケヤキからの被圧あり。	●			B			
C	222	スダジイ	13.0	124	5.0	－	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.40	B				○					○		無	中	幹に腐朽と打音異常(高さH1.2～2.0m)あり。 樹幹傾斜(大)(東側)あり。 枝張りが小さい。	●			B			
C	223	ケヤキ	22.0	470	20.0	－	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○						○			無	無	幹H0.45m～1.5mにかけて開口空洞(大)(芯達)あり。 大枝に樹皮欠損・腐朽あり。 存在感があり、保存が望ましい。移植の場合は樹形を大きく損なう可能性が高い。	●			A			
C	224	スダジイ	12.0	213	10.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○					○			無	小	大枝に樹皮欠損・腐朽あり。	●			B			
C	225	スダジイ	11.0	159	8.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.15	B			○					○			有	小	大枝・幹に開口空洞あり。 樹冠が傾き偏っている。 擬木柵に近接している。	●			B			
C	226	マテバシイ	7.0	48	3.0	－	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○			無	中	枝にてんぐ巣病の症状あり。葉量も少なく、移植後の回復は困難。	●			B			
C	227	ウメ	3.2	53	2.5	－	3.0	2.5	3.5	2.5	3.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.35	B				○					○		無	中	根元・幹に腐朽あり。 移植樹として不適であるが、現存のままなら問題ない。	●			B			
C	228	マテバシイ	4.0	46	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	2.15	B				○					○		無	大	片枝がなく、樹形不良で移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	229	スダジイ	14.0	201	7.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	2.20	B			○					○			無	小	樹形にやや乱れあり。 移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	230	スダジイ	11.0	173	7.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○					○			有	小	大枝H0.85m～2.05mにかけて開口空洞あり。 擬木柵に近接している。	●			B			
C	231	クヌギ	15.0	184	10.0	－	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○				無	中	樹形に存在感あり。	●			B			
C	232	スダジイ	12.0	169	5.0	－	3.5	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	2.65	C				○					○		無	大	樹形が崩れ、樹形・樹勢共にで移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	233	マテバシイ	4.5	50	2.5	－	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	2.5	1.5	2.75	C				○					○		無	中	樹冠頂部に枯損、樹形に崩れ・乱れあり。	●			B			
C	234	マテバシイ	6.5	56	4.5	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B				○					○		無	大	樹冠に傾き(東側、道路側)、偏りが大きく、移植後の健全な生育は困難。	●			B			
C	235	スダジイ	9.0	98	5.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.55	C			○					○			無	大	幹に曲がりあり。 樹冠に傾き(東側、道路側)、偏りあり。 幹(H2.5m)に開口空洞 8×7あり。	●			B			
C	236	スダジイ	14.0	148	11.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.90	B		○						○			無	小	枝張りと高さのある大木で存在感がある。 移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	237	ヒトツバタゴ	4.0	32	2.8	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.15	B		○		○					有	中	樹幹傾斜(大)。 根元に開口空洞 10×8×4あり。 電柱に近接している。	●			B			
C	238	ヒトツバタゴ	8.0	31	4.5	－	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.05	B		○		○					無	大	ふところの枝葉がやや疎である。 樹高あり。	●			B			
C	239	マテバシイ	5.5	49	3.0	－	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.45	B			○					○	無	大	枝葉量が少なく、樹勢衰退傾向にある。 ひこばえが多数あり。	●			B			
C	240	マテバシイ	4.5	61	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○		○					無	大	樹冠に偏り(東側、道路側に枝葉)あり。 ひこばえが多数あり。	●			B			
C	241	クスノキ	18.0	344	15.0	－	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.65	A	○						○		無	無	樹形・樹勢は良く、存在感があり、保存が望ましい。 かなりの巨木のため移植は難しく、回復不能なほど大きく剪定されることになる。	●			A			
C	242	トウネズミモチ	8.0	3本立	9.0	66,53,35	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	有	中	株立ちが葉張り、樹形に乱れあり。 擬木柵に近接している。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
C	243	スダジイ	13.5	206	13.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○					○		無	中	枝葉量がやや疎だが、骨格をなす枝が四方へ伸長して、存在感のある大木である。 樹形はやや不良。 かなりの巨木のため移植は難しく、回復不能なほど大きく剪定されることになる。	●			B			
C	244	マテバシイ	4.5	59	3.0	－	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B			○					○	有	大	樹冠に傾斜と偏りあり、樹形が崩れている。 幹(H2.3m)に開口空洞 25×13×10あり。 隣木スダジイ(樹木番号243)と、近接している。	●			B			
C	245	クロマツ	12.5	95	2.5	－	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.50	B			○					○	有	中	下枝が高く、枝張りも小さく、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 擬木柵に近接している。	●			B			
C	246	マテバシイ	8.5	74	4.5	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	大	隣木スダジイ(樹木番号243)からの被圧により、樹幹に傾き(東側)あり。	●			B			
C	247	マテバシイ	7.5	65	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○		○					無	中	樹冠に傾き(東側)、偏りあり。	●			B			
C	248	スダジイ	12.5	2本立	8.0	177,144	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○		有	無	高さH1.0からの双幹樹形、副幹は屈曲している。 擬木柵に近接している。 擬木柵があるままでは適正根鉢確保困難。	●			B			
C	249	トウカエデ	13.0	147	5.5	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B		○		○					無	中	下枝が高く、枝葉量が少ない。 根元に樹皮欠損・腐朽あり。	●			B			
C	250	クヌギ	16.0	166	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	中	樹高の高い木である。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	251	スダジイ	11.0	173	19.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.30	B		○					○		有	大	大枝(東H1.6m)に剪定痕からの腐朽 20×20×30あり。 大枝(北H1.7m)に剪定痕からの腐朽 20×15×25あり。 樹幹傾斜(小)(東側)あり。 大枝への腐朽が多く、樹冠も傾斜しており、回復不能。	●			B			
C	252	マテバシイ	7.5	63	4.5	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B			○					○	無	大	樹幹傾斜(大)(東側)あり。 隣木スダジイからの被圧により樹冠に傾き、偏りが大きく、移植後の健全な生育は困難。 ひこばえが多数あり。	●			B			
C	253	スダジイ	16.0	159	10.0	－	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B	○						○		無	中	高さH2.5mに大枝剪定痕からの腐朽、キノコ(種不明)の発生あり。 やや屈曲した樹形の大木である。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）														調査日				2023 年　5 月　24 日　～　2023 年　5月　26 日															
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目							伐採理由		
エリア	樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	254	スダジイ	9.5	163	7.5	–	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.95	B		○				○			無	小	大枝（南西側）に剪定痕からの腐朽 23×19あり。ひこばえが多数あり。	●			B			
C	255	クヌギ	12.0	95	4.0	–	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.85	C			○				○		無	大	北西側に開口空洞(35×15×20)、空洞部のふくらみ（肥大生長）、打音異常あり。下枝が高く、枝葉量が少ない。	●			B			
C	256	スダジイ	9.5	111	4.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○			○				無	大	枝葉量がやや疎。	●			B			
C	257	マテバシイ	6.5	64	5.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	無	大	樹幹傾斜（東側）あり。ひこばえが多数あり。樹幹の傾きが大きく、移植後の健全な状態の維持は困難。	●			B			
C	258	マテバシイ	5.5	60	4.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.45	B			○					○	無	大	樹幹傾斜（東側）あり。ひこばえが多数あり。樹幹の傾きが大きく、移植後の健全な状態の維持は困難。	●			B			
C	259	スダジイ	15.0	178	10.5	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○						○		無	大	極端な片枝樹形となっており、移植時の剪定からの健全な状態への回復・維持は困難。	●			B			
C	260	スダジイ	12.5	132	3.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○				○			無	大	胴吹きが多数あり。（剪定痕からの萌芽と思われる）	●			B			
C	261	スダジイ	6.0	122	4.0	–	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.70	C			○					○	有	大	樹幹傾斜（大）（西側）あり。根元に、腐朽（大）あり。幹に、腐朽（大）あり。幹(H1.0～2.5m)に、樹皮欠損・腐朽、シイサルノコシカケの発生あり。	●			C			
C	262	ケヤキ	23.0	326	18.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○						○		無	小	巨木であり、存在感がある。かなりの巨木のため移植は難しく、回復不能なほど大きく剪定されることになる。	●			B			
C	263	マテバシイ	6.0	61	4.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	大	樹幹傾斜（大）（東側）あり。ひこばえが多数あり。樹幹の傾きが大きく、移植後の健全な状態の維持は困難。	●			B			
C	264	クヌギ	15.0	155	8.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		無	中	枝葉量にやや偏りあり（東側に多い）。樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	265	サカキ	5.5	2本立	3.5	61,45	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.5	1.0	1.35	A	○			○					無	中	枝葉量が多く、樹勢は良好。	●			B			
C	266	ケヤキ	20.0	161	12.5	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.40	A	○						○		有	小	やや細いが、上部で枝葉が茂り、良好な状態である。樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	267	スダジイ	12.0	161	8.5	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B	○						○		無	中	樹幹傾斜（小）あり。大枝が伸長し、存在感のある樹木である。移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	268	ケヤキ	11.0	70	10.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	下枝が高く、上部で枝葉が広がる盃形の樹形である。	●			B			
C	269	マテバシイ	5.0	42	5.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.35	B			○					○	無	大	下枝に枯れあり。樹形に大きな乱れあり。ひこばえが多数あり。移植後の健全な生育が困難。	●			B			
C	270	スダジイ	9.5	149	7.5	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○				○			無	中	樹形に乱れがあるが、枝葉が充実して回復に向かっている。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名					Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）															調査日						2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日												
エリア	樹木番号		樹種名		規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
									1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	271		マテバシイ		7.0	48	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.25	B		○					○		無	大	ひこばえ多数あり。 下枝がなく、隣木からの被圧（大）により樹形乱れが大きく、移植後の健全な状態の維持は困難。	●			B			
C	272		マテバシイ		6.0	69	4.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○					○		無	中	片枝がなく、樹形不良で移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 ひこばえ多数あり。	●			B			
C	273		ケヤキ		20.0	338	20.0	－	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.25	B	○						○		有	小	幹に樹皮欠損・腐朽あり。 打音異常あり。 枯枝φ10, L=3.0mあり。 電柱2本に近接している。	●			B			
C	274		マテバシイ		7.0	65	2.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.35	B		○					○		無	大	樹幹傾斜あり。 根元に打音異常(小)あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。	●			B			
C	275		モチノキ		7.0	83	3.5	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.05	B		○					○		無	大	枝に剪定痕からの腐朽あり。 大枝に腐朽あり。 根元にこぶあり。	●			B			
C	276		スダジイ		10.0	204	7.0	－	2.5	3.0	3.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.45	B			○				○		無	中	根元・幹に打診音異常 H0.0～2.0mあり。 西側に開口空洞(8×7×28)あり。 枝に剪定痕からの腐朽あり。	●			B			
C	277		スダジイ		9.0	178	9.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○		無	中	東側に樹皮欠損(20×13)あり。 大枝に剪定痕からの腐朽あり。	●			B			
C	278		マテバシイ		5.0	52	4.0	－	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	大	片枝樹形であり、樹幹傾斜(東側)あり。 被圧(大)あり。	●			B			
C	279		マテバシイ		7.0	58	4.0	－	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○		○					無	大	片枝樹形であり、樹冠傾斜(東側)あり。	●			B			
C	280		ケヤキ		9.0	50	7.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	大	被圧(大)あり。 枯枝(H4m) L=3.0mあり。	●			A			
C	281		モッコク		5.5	70	3.0	－	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.90	B		○		○					無	中	被圧あり。 下枝(西側)に胴枯症状(120×10)あり。	●			B			
C	282		ケヤキ		17.0	184	10.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○		無	大	隣木のケヤキからの被圧(東側)あり。 剪定痕が複数あり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	283		ケヤキ		20.0	283	20.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B	○						○		無	小	存在感があり、保存価値が高い。 枯枝(H15m), L=6mあり、下枝の一部に胴枯症状あり。 枯れ枝やかなりの巨木のため移植は難しく、回復不能なほど大きく剪定されることになる。	●			A			
C	284		マテバシイ		9.0	96	5.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.05	B		○		○					無	大	片枝樹形であり、樹冠傾斜(東側)あり。	●			A			
C	285		スダジイ		9.0	177	6.0	－	3.0	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○					○		無	大	片枝樹形であり、樹冠傾斜(東側)あり。 幹H0.6m～1.5mに腐朽あり。 幹に大枝剪定痕からの腐朽あり。	●			A			
C	286		タブノキ		9.0	53	4.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.60	A	○			○					無	中	被圧を受けるが、樹形は良い。 枝が架線に接触している。 良好移植可能。	●			A			
C	287		スダジイ		7.0	128	5.0	－	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B			○					○	無	中	断幹あり。 開口空洞16×10(148)×25/45(芯達)あり。 打音異常(大)あり。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）														調査日				2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日												伐採理由		
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目								
エリア	樹木番号	樹種名	樹高（m）	幹周（cm）	葉張（m）	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	288	サワラ	16.0	179	6.0	–	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○					○		無	中	隣木のケヤキによる被圧あり。 下側の大枝が枯枝剪定により少ない。	●			B			
C	289	マテバシイ	3.0	44	2.5	–	4.0	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	3.10	C			○					○	無	大	幹に胴枯症状あり。 樹冠上部が枯れており、樹形が崩壊している。 撤去の必要あり。	●			C			
C	290	クスノキ	15.0	165	10.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B	○						○		有	中	存在感があり、保存価値が高い。 照明灯に近接している。	●			B			
C	291	ヒトツバタゴ	3.0	53	4.0	–	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.00	B			○	○					無	中	樹幹傾斜(西側)があり、断幹されている。 枝が電線に接触している。	●			B			
C	292	ヤブツバキ	6.0	55	4.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○			○					無	小	樹形が良好である。	●			A			
C	293	イヌマキ	5.5	2本立	3.5	58,36	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.50	B		○					○		無	中	樹形が崩壊しはじめている。	●			B			
C	294	シラカシ	18.0	227	12.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.90	B	○						○		有	大	幹に胴枯症状があり、開口空洞がある。 存在感があり、保存価値が高い。 幹(H0～1.8m)にカシノナガキクイムシの防除策(メイカコート塗布、カシナガホイホイ設置など)が施されている。 アスファルト舗装、フェンスに近接している。	●			B			
C	295	サンゴジュ	4.0	3本立	2.0	35,29,25	3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.80	C			○					○	有	大	幹の上部に枯損があり、片枝樹形となっている。 照明灯に近接している。 フェンスに近接している。	●			C			
C	296	サザンカ	4.0	2本立	4.0	39,23	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A		○		○					有	大	根元に石組の石が埋もれている。	●			A			
C	297	シラカシ	14.0	158	10.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○					○		有	中	下枝が無い。 根元に石が埋もれていることにより、移植に当たっての適正根鉢の確保は困難	●			B			
C	298	ヤブツバキ	4.0	2本立	4.0	36,19	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.55	A		○		○					無	大	片枝樹形である。 根元に樹皮欠損(22×8)あり。	●			A			
C	299	シラカシ	14.0	137	7.0	–	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○					○		無	大	樹幹傾斜(北側)あり。 根元にベッコウタケの子実体あり。 幹に開口空洞が、数か所あり。 建物に近接してる。	●			B			
C	300	シラカシ	14.0	142	8.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○					○		有	中	片枝樹形である。 閉塞痕に打音異常(小)あり。 建物に近接しており、適正根鉢の確保困難。	●			B			
C	301	スダジイ	9.0	126	7.0	–	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○					○		有	大	幹に剪定痕からの腐朽あり。 大枝付根に腐朽と打音異常(小)あり。 根元に石が埋もれている。	●			B			
C	302	キンモクセイ	4.5	36 (H0.7m)	2.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.80	B		○		○					無	中	やや片枝樹形である。	●			A			
C	303	トウネズミモチ	4.5	148 (芝付)	3.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B			○					○	無	中	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
C	304	マテバシイ	8.5	86 (H0.6m)	4.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B		○					○		有	中	構造物と電線に近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名	Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）	調査日	2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	305	ケヤキ	20.0	330	20.0	－	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.00	B	○						○		無	小	大枝に剪定痕からの腐朽あり。 巻き根あり。 存在感があり、保存価値が高い。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	306	ケヤキ	18.0	203	11.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.15	B		○					○		無	中	片枝樹形であり、樹幹傾斜(西側)あり。 大枝に樹皮枯死あり。 大枝に剪定痕からの腐朽あり。	●			B			
C	307	スダジイ	13.0	216	10.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B		○					○		無	中	片枝樹形である。 根元にツリバリサルノコシカケの子実体が多数あり。 幹と剪定痕に背着生キノコ(種不明)の発生あり。 H1.0m～1.5mに打音異常(中)あり。 根元・幹(H0～0.5m)にメイカコートの塗布あり。 大枝に剪定痕からの腐朽あり。	●			B			
C	308	サワラ	14.0	128	6.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B			○					○	無	中	樹幹傾斜(大)(東側)あり。 開口空洞 40×6(152)×22/40(芯達)、打音異常(大)あり。 支柱設置、もしくは撤去検討の必要性あり。	●			B			
C	309	スダジイ	12.0	212	10.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○					○		有	中	大枝に剪定痕からの腐朽あり。 打音異常(大)あり。 枝が電線に接触している。 鉄柵に近接している。	●			B			
C	310	シラカシ	14.0	178	8.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○		無	中	片枝樹形である。 幹に樹皮欠損・腐朽(16×11)あり。 幹(H0～1.3m)にカシノナガキクイムシの防除策(メイカコート塗布、カシナガホイホイ設置など)が施されている。	●			B			
C	311	マテバシイ	6.0	85	5.0	－	3.0	2.5	4.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.50	B			○					○	無	中	断幹により、樹冠上部の樹形に乱れあり。 幹の上部から中部にかけて、胴枯症状と、腐朽あり。	●			B			
C	312	トウネズミモチ	6.0	2本立	4.0	26,25	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B			○					○	無	中	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
C	313	クスノキ	15.0	124	10.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.10	B		○					○		無	中	幹に打音異常(小)あり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	314	スダジイ	15.0	190	9.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○					○		無	中	樹幹傾斜(小)(西側)あり。 下枝に樹皮欠損・腐朽あり。	●			B			
C	315	ネズミモチ	4.0	4本立	4.0	31,26,21,15	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.35	B			○					○	無	中	幹にコフキサルノコシカケの発生あり。 大枝に背着生キノコ(種不明)の発生あり。 移植不可。	●			B			
C	316	ネズミモチ	4.0	3本立	3.0	20,18,12	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.20	B		○		○					無	中	ー	●			B			
C	317	ネズミモチ	4.5	44	3.0	－	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.20	B		○		○					無	中	巻き根あり。 露出根あり。	●			B			
C	318	イロハモミジ	5.0	42	5.0	－	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.60	A		○		○					無	中	根元に樹皮欠損・腐朽(大)あるが、移植には問題ない。 枝が電柱に接触している。	●			A			
C	320	サクラ	3.5	20	4.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	1.60	A	○			○					無	中	新植である。 ひこばえ多数あり。	●			A			
C	321	クロマツ	14.0	119	6.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○		無	無	樹形が崩壊している。 大枝に枝折れ痕あり。 移植に伴う剪定をしたら幹のみになり、移植後の回復が困難。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）　調査日：2023 年　5 月　24 日　～　2023 年　5月　26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高 (m)	規格 幹周 (cm)	規格 葉張 (m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	322	タイサンボク	10.0	91	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.80	B		○		○					無	無	巻き根あり。	●			A			
C	323	サクラ	5.0	3本立	5.0	52,27,26	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○			○					無	無	支柱が腐朽しており撤去の必要性あり。	●			A			
C	324	サクラ	4.0	3本立	3.0	25,20,16	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○			○					無	小	新植である。 支柱撤去の必要あり。	●			A			
C	325	クロマツ	12.0	104	5.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.90	B		○					○		無	無	枝折れ痕に腐朽あり。 支柱撤去の必要あり。 移植に伴う剪定をしたら幹のみになり、移植後の回復が困難。	●			B			
C	326	サクラ	5.0	274	3.0	－	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	1.5	1.5	1.5	1.5	3.00	C			○					○	有	無	幹にカワウソタケの子実体が多数あり。 根元にコフキサルノコシカケの子実体あり。 H1.2m～1.5mに打音異常(大)と打音異常(中)あり。 ほぼ枯死状態で、ひこばえが成長している。 注：葉の活力度(1.5)対象はひこばえ	●			B			
C	327	サクラ	4.0	34	3.0	－	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.40	A	○			○					無	中	新植である。 支柱撤去の必要あり。	●			A			
C	328	イロハモミジ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	－	－	B			
C	329	サカキ	5.5	61	4.5	－	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	1.5	1.5	1.5	1.5	3.00	C			○					○	無	小	ほぼ枯死状態で、ひこばえが成長している。	●			B			
C	330	サクラ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	－	－	B			
C	331	サクラ	3.5	24	2.0	－	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.60	A	○			○					無	中	新植である。 支柱撤去の必要あり。	●			A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：野球場三塁側　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y01-001		トウカエデ	14.0	245	9.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○						○	有	小	根上り、露出根の肥大生長あり。 縁石(球場側)、土留め壁が根元付近にあり。 露出根が道路側の土留め壁側で切断されている。	●			A			
Y01-002		シイノキ	12.0	160	8.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.85	B		○					○		有	小	幹H1.4mに腐朽(中)あり。 打音異常あり。 縁石が根元付近にあり。	●			A			
Y01-004		ヤブツバキ	4.5	80	2.5	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.85	B			○				○		有	中	根元(道路側)に樹皮枯死45×40(113)あり。 大枝H2.3mに開口空洞(中)あり。 駐車場縁石までの離隔距離0.8m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-005		ケヤキ	19.0	274	9.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	2.00	B			○				○		有	無	大径木の為、移植方法についての検討が必要である。 縁石が根元付近にあり。 隣木(Y01-004ヤブツバキ)に近接、根鉢径が重複する(離距離0.5m)。幹芯から駐車場縁石までの離隔距離1.2m、道路までの離距離2.1m。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-006		シイノキ	12.0	210	11.5	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.75	A			○				○		有	小	露出根が多数あり。 樹幹傾斜あり。 縁石が根元にあり。 幹芯から桝までの離距離0.8m、駐車場縁石までの離隔距離1.2m、道路までの離距離1.8m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-007		ヒトツバタゴ	10.0	3本立	7.0	90,68,38	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	中	樹木番号Y01-006シイノキからの被圧あり。 縁石が根元付近にあり。		●		A			
Y01-008		ヒトツバタゴ	11.0	82	6.0	－	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○				○				有	小	露出根が多数あり。 両脇の樹木からの被圧あり。 看板基礎が根元にあり。	●			A			
Y01-009		マテバシイ	10.0	2本立	7.0	101,97	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○					○		有	小	枝にてんぐ巣病の症状あり。 道路側へやや片枝樹形である。 大枝に樹皮欠損 10×7あり。 枯枝(北側H3m) φ10, L=0.6mあり。 土留め壁が根元にあり。	●			A			
Y01-010		ヒトツバタゴ	10.0	164	7.0	－	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○			○					無	小	露出根が多数あり。 幹H1.4mにスタブカット(切り残し枝)あり。 樹形が良く、保存価値は高い。	●			A			
Y01-011		マテバシイ	8.0	137	4.0	－	3.0	3.0	3.0	2.0	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.40	B			○					○	有	小	根元・幹H0.1m～4.0mに開口空洞(大)(芯達)あり。被害が進行中であり、幹折れの可能性あり。 枝にてんぐ巣病の症状が多数あり。 土留め壁が根元にあり。	●			B			
Y01-012		タイサンボク	12.0	107	6.0	－	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A	○			○					無	小	記念樹の立看板あり。	●			A			
Y01-013		シイノキ	11.0	205	8.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.60	A			○				○		有	小	樹幹傾斜(道路側)あり。 穿孔性害虫の穿孔痕あり。 斜面に位置する。 土留め壁が根元にあり。	●			A			
Y01-015		マテバシイ	7.0	60	5.0	－	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	中	双幹の一方は切除されている。 根元に樹皮欠損30×3あり。 幹に腐朽(進行中)あり。 ひこばえ多数あり。 マンホールが根元にある。	●			B			
Y01-016		マテバシイ	7.0	73	6.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○	○					無	中	樹幹傾斜(道路側)あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。 斜面に位置する。 土留め壁が根元にあるが、移植時の根鉢確保可能。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：野球場三塁側　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y01-017		マテバシイ	8.0	2本立	8.0	80,48	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○		○					無	中	双幹が広がる方向に伸長しており樹形が悪い。 ひこばえ多数あり。	●			B			
Y01-018		シイノキ	10.0	2本立	8.0	205,58	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.70	A		○					○		有	中	大枝H0.9m～1.8mに開口空洞(中)(芯達)あり。 露出根が多数あり。 土留め壁が根元にあり。	●			A			
Y01-019		ケヤキ	16.0	269	11.0	–	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.10	A	○						○		有	無	大枝H6.0mに腐朽(大)あり。 コンクリート基礎が根元にあり。 照明灯の柱に枝の接触あり。	●			B			
Y01-020		ケヤキ	14.0	213	8.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	無	幹芯から駐車場縁石までの離隔距離1.3m、道路までの離距離1.9m。強剪定後の萌芽樹である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-021		ヒトツバタゴ	8.0	85	6.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			無	中	樹木番号Y01-023シイノキからの被圧あり。 被圧による樹幹傾斜あり。 露出根が多数あり。 斜面に位置する。	●			A			
Y01-022		モチノキ	8.0	133	4.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.35	A		○		○					有	小	露出根が多数あり。 幹芯からコンクリートブロックまでの距離1.2m。	●			A			
Y01-023		シイノキ	8.0	165	6.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.75	A		○					○		有	中	幹(H4.5m)に樹皮欠損30×30あり。 断幹されており、頂部に腐朽あり。 樹木番号Y01-024シラカシからの被圧あり。 道路側へ片枝樹形である。 土留め壁が根元にあり。	●			A			
Y01-024		シラカシ	16.0	163	8.0	–	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○					○		有	小	枯枝(東側H10m) φ10, L=1.0m、(西側H10m) φ10, L=0.2mあり。 土留め壁が根元にあり。	●			B			
Y01-025		シイノキ	14.0	165	6.0	–	2.5	2.0	2.5	3.0	2.0	1.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.85	B		○					○		有	中	幹(H2.3m)に開口空洞90×10(165)、打診音異常(大) H1.5～3mあり。 大枝(H5m)に開口空洞・腐朽100×10あり。 樹幹傾斜あり。 土留め壁が根元にあり。	●			A			
Y01-026		シラカシ	9.0	55	3.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B		○		○					無	中	–	●			B			
Y01-027		マテバシイ	8.0	64	4.0	–	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	中	枯枝(高さH3m) φ15, L=0.7mあり。 ひこばえ多数あり。	●			B			
Y01-028		マテバシイ	3.5	23	2.0	–	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○	○					無	中	枝にてんぐ巣病の症状あるが、移植時は処置(剪定)を行い移植可能。 ひこばえ多数あり。 斜面に位置する。	●			B			
Y01-030		ケヤキ	20.0	218	10.0	–	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A	○						○		有	小	大枝に樹皮欠損・腐朽(中)が2箇所あり。 幹芯からコンクリートブロックまでの距離1.5m。 土留め壁が根元にあり。	●			A			
Y01-031		イチョウ	21.0	170	8.0	–	1.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.40	A	○						○		有	小	幹芯からコンクリート基礎までの距離1.0m。	●			A			
Y01-032		シイノキ	14.0	239	7.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.60	A		○					○		有	小	根元に開口空洞(小)、ミツバチの営巣あり。 幹芯から土留めまでの離隔距離1.0m。 斜面に位置する。	●			A			
Y01-033		シイノキ	7.0	81	4.0	–	2.5	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B		○		○					無	中	断幹されており、樹形が崩壊している。 斜面に位置する。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場三塁側															調査日				2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y01-034		ケヤキ	20.0	292	14.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B	○						○		有	小	根元・幹H0.0m～2.5mに樹皮欠損(中)が2箇所あり。 ぶつ切り剪定されている。 幹芯からコンクリート基礎までの距離2.2m。 斜面に位置する。	●			B			
Y01-035		イスノキ	8.0	62	4.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.65	A		○		○					無	小	斜面に位置する。	●			A			
Y01-036		マテバシイ	5.0	2本立	3.5	79,59	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	中	大枝H2.5mに開口空洞30×15(69)×8/20あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。 枯枝(東H2.5m) Φ10, L=1.2mあり。 樹勢は普通であり、根鉢の確保ができ移植は可能。	●			B			
Y01-037		ケヤキ	11.0	149	7.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○		○					有	中	幹H0.5mに開口空洞・腐朽15×5(150)×12/40、巻込み(良)あり。 幹芯から電柱までの距離1.7m。 開口空洞問題無く、移植可能。	●			B			
Y01-038		ユズリハ	4.0	24	3.0	–	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.20	A	○			○					有	無	若木である。 記念樹の立看板あり。 幹芯から土留め壁までの距離0.5m。		●		A			
Y01-041		シイノキ	8.0	195	6.0	–	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		有	小	根元・幹に開口空洞55×10(196)×15/50あり。 幹H2.5mに開口空洞20×5(150)×10/30あり。 根元・幹に打診音異常あり。幹にコフキタケの発生あり。 樹形に乱れあり(樹冠に道路側への大きな偏り)。 大枝に腐朽(中)あり。 万年塀が根元にあり。 斜面に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y01-042		ケヤキ	16.0	260	10.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離1.7m。 大枝に剪定痕が多数あり。 強剪定後の萌芽樹である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-043		シイノキ	11.0	207	8.0	–	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.0	1.0	1.0	2.10	B			○				○		有	無	幹芯から土留めまでの離隔距離1.4m。 樹形に乱れあり不適(樹冠に道路側への大きな偏り、樹幹傾斜)。 幹H3mにコフキサルノコシカケあり。 幹H4.5mに開口空洞あり。 枯枝(西側歩道上H4.5m) Φ15, L=2m、ほか多数あり。要切除。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-044		シイノキ	11.0	253	6.0	–	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	根元・幹に打診音異常(大) H0.0～1.5mあり。 鋼棒貫入異常あり。 大枝に剪定痕からの腐朽20×20(北側H1m)、15×10(西側H1m)、20×20(南H1.4)あり。 根元から幹に腐朽が多く、軽減剪定が必要である。 土留め壁が根元にあり。 斜面に位置する。	●			B			
Y01-045		イヌツゲ	3.5	3本立	2.0	33,24,14	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.80	B		○		○					無	中	幹H1.5mに開口空洞(小)、巻込みあり。 3本立の主幹(C33)の高さH2mより上部が枯死している。	●			A			
Y01-047		シイノキ	8.0	96	6.0	–	3.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.85	B			○					○	有	大	根元に開口空洞40×10×20/35(芯達)、打音異常あり。 樹幹傾斜(道路側)、片枝樹形である。 土留め壁が根元にあり。	●			B			
Y01-048		シイノキ	11.0	172	10.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○					○		有	小	大枝に樹皮欠損(中)が多数あり。 幹芯からコンクリート基礎までの距離1.7m。	●			A			
Y01-049		シイノキ	8.0	170	7.0	–	2.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.85	B			○				○		有	無	大枝に樹皮欠損(小)が2箇所あり。 大枝が看板に接触している。 幹芯から看板基礎までの離隔距離0.9m、歩車道縁石までの離距離0.9m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-050		イチョウ	14.0	393	6.0	–	2.5	2.0	3.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○						○	有	無	幹H0.7m～1.8mに開口空洞120×50(390)×30/100ほか、3箇所、打音異常(大)あり。 縁石が根元にあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
野球場三塁側							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y01-051		ケヤキ	20.0	267	10.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		無	無	露出根あり。 幹芯からアスファルト舗装までの距離2.3m、マンホールまでの距離2.7m。	●			B			
Y01-052		シイノキ	11.0	135	6.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.75	A		○		○					無	小	根元・幹に打音異常H0.0m～0.8mあるが移植には問題ない程度。	●			A			
Y01-053		イチョウ	17.0	285	8.5	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○				○			有	無	幹H0.4m～1.6mに開口空洞(小)が3箇所、打診音異常(小)あり。 根鉢が大きいが、場内であれば移植はできる。 樹冠を構成する大枝の剪定状態についても良好である。			●	B			
Y01-054		カイヅカイブキ	3.0	28	0.8	－	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○				○		有	中	樹冠が小さい。 フェンスが近接している。 幹芯から万年塀までの距離0.6m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-055		カイヅカイブキ	3.0	19	0.9	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)は、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-056		カイヅカイブキ	3.0	23	0.9	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-057		カイヅカイブキ	3.0	26	0.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-058		カイヅカイブキ	3.0	24	0.9	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-059		カイヅカイブキ	3.0	23	0.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-060		カイヅカイブキ	3.0	20	0.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-061		カイヅカイブキ	3.0	23	0.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-062		カイヅカイブキ	3.0	23	0.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-063		カイヅカイブキ	3.0	25	0.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-064		カイヅカイブキ	3.0	23	0.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-065		カイヅカイブキ	3.0	27	0.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-066		カイヅカイブキ	3.0	24	0.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●

調査日 2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場三塁側														調査日		2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日																	伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y01-067		カイヅカイブキ	3.5	30	0.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-068		カイヅカイブキ	3.0	26	0.8	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-069		カイヅカイブキ	3.5	26	0.9	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-070		カイヅカイブキ	3.5	28	0.9	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-071		カイヅカイブキ	3.5	31	0.9	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-072		ケヤキ	17.0	286	8.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	無	大枝H7mに開口空洞あり。幹芯から万年塀までの離隔距離1.4m、土留めまでの離隔距離2.3m。大きな柱に近接。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y01-083		ソロ	13.0	154	8.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	無	根元・幹H0.0m～3.0mに開口空洞、打診音異常あり。幹芯から万年塀までの離隔距離0.8m、土留めまでの離隔距離2.2m。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名：野球場一塁側　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-001		シイノキ	13.0	243	11.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.00	B		○					○		有	小	根元・幹に打音異常(小) H0.0m～2.0mあり。 巻き根(大)あり。 腐朽枝φ30(西側)あり。小枝に枯れが散在する。 コンクリートブロックの植栽帯内に位置する。	●			B			
Y02-002		イスノキ	8.0	89	4.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 コンクリートブロックの植栽帯内に位置する。	●			B			
Y02-003		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	－	4.0	4.0	4.0	3.5	4.0	4.0	3.0	3.0	3.0	1.0	3.35	D			○				○		有	大	樹形・樹勢が悪く、上部に枯枝多数あり。 根元の揺らぎ(大)あり。 電源盤に近接している。 コンクリートブロックの植栽帯内に位置する。	●			D			
Y02-004		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	－	3.5	3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.70	C			○				○		有	大	片枝樹形である。 コンクリートブロックの植栽帯内に位置する。	●			C			
Y02-006		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	－	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.45	B			○				○		有	中	巻き根あり。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。 コンクリートブロックの植栽帯内に位置する。	●			B			
Y02-007		カイヅカイブキ	3.0	35	1.0	－	3.5	3.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.60	C			○				○		有	中	根元の揺らぎ(小)、巻き根(小)あり。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			C			
Y02-008		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	－	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	1.0	2.50	B			○				○		有	中	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片側に枝がなく、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
Y02-009		カイヅカイブキ	3.0	31	1.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.60	C			○				○		有	中	片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			C			
Y02-010		カイヅカイブキ	3.0	33	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	電源盤と照明に近接している。 樹木番号Y02-11ケヤキに近接している。	●			B			
Y02-011		ケヤキ	15.0	255	18.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B	○						○		有	無	巻き根(大)あり。 大枝の相互接触、食い込みあり。 隣木のサンゴジュと接触している。 照明に近接している。	●			B			
Y02-013		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。 照明に近接している。 樹木番号Y02-11ケヤキに近接している。	●			B			
Y02-014		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.30	B		○					○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			B			
Y02-015		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	電源盤に近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	野球場一塁側						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日	該当に●			ABCD			
Y02-016		カイヅカイブキ	3.0	33	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			B			
Y02-017		カイヅカイブキ	3.0	33	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			B			
Y02-018		カイヅカイブキ	3.0	33	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片側に枝がなく、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
Y02-019		カイヅカイブキ	3.0	32	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	根元の揺らぎ(中)あり。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			B			
Y02-020		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			B			
Y02-021		カイヅカイブキ	3.0	37	1.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			B			
Y02-022		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		有	中	樹木番号Y02-23ケヤキに近接しており、移植時の根鉢確保困難。	●			B			
Y02-023		ケヤキ	14.0	220	15.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B	○						○		有	小	断幹されており、切断部に腐朽あり。 ぶつ切り剪定されている。 高さH1.0mで、2分岐しており、入り皮状態にある。 幹に打音異常(小) H1.0～2.0mあり。	●			B			
Y02-024		ケヤキ	10.0	221	9.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○				○		有	無	ぶつ切り剪定されている。 剪定痕の腐朽、剪定痕からの枯損・枯枝が複数あり。 電源盤に近接している。 石積の植栽帯に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-028		カイヅカイブキ	3.0	44	2.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		無	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-029		カイヅカイブキ	3.0	43	2.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		無	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-030		カイヅカイブキ	3.0	39	2.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		無	無	石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-031		カイヅカイブキ	3.0	37	1.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		無	小	根元の揺らぎ(小)あり。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

エリア名：野球場一塁側　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-032		カイヅカイブキ	3.0	36	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		無	小	根元の揺らぎ(小)あり。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-033		カイヅカイブキ	2.9	31	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	中	樹高が3m以下である。 隣接するプラタナスからの被圧あり。 石積の植栽帯に位置し、電気のマンホールにも近接する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-034		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○				○		有	中	石積の植栽帯に位置し、マンホールにも近接する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-035		カイヅカイブキ	3.0	38	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○				○		無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-036		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○				○		無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-037		カイヅカイブキ	2.9	32	0.9	–	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.05	C			○					○	無	大	樹高が3m以下である。 石積の植栽帯に位置する。 被圧により北側の枝しかなく樹形不良である。 活力度が悪く移植後の健全な生育が困難。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-038		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○				○		無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-039		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.0	2.80	C			○				○		無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹木番号Y02-053シイノキからの被圧あり。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-040		カイヅカイブキ	3.0	31	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.0	2.80	C			○				○		無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹木番号Y02-054マテバシイからの被圧あり。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-041		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.0	2.80	C			○				○		無	大	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹木番号Y02-054マテバシイからの被圧あり。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-042		カイヅカイブキ	2.8	28	0.9	–	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.0	2.90	C			○					○	無	大	樹高が3m以下である。 被圧(大)あり樹形不良である。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●

既存樹木調査結果一覧

エリア名		野球場一塁側																調査日				2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》					伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-043		カイヅカイブキ	2.9	28	1.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	中	樹高が3m以下である。 樹木番号Y02-055シイノキからの被圧あり。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-044		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	−	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.80	C			○				○		無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-045		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	−	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.80	C			○				○		無	中	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-046		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	−	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.80	C			○				○		無	中	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-047		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B			○				○		無	中	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-048		カイヅカイブキ	3.0	35	1.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○				○		無	中	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-049		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-050		カイヅカイブキ	3.0	39	1.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-051		プラタナス	15.0	187	9.0	−	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.90	B		○			○				有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 ぶつ切り剪定が多数あり。 幹(北側)H0.3mに大きな傷の巻き込みによる肥大あり。 斜面に位置する。		●		B			
Y02-052		プラタナス	14.0	124	7.0	−	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.95	B		○			○				有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 ぶつ切り剪定、幹に樹皮欠損が多数あり。 大枝付け根(南側)に開口空洞(小)あり。 変電設備のマンホールに近接している。		●		B			
Y02-053		シイノキ	11.0	172	10.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	中	根元・幹に打音異常(小) H0.0m～2.5mあり。 幹(北側)H2.5mに開口空洞 12×5×30/45(芯達)、ハチの巣あり。 幹に背着生キノコあり。大枝にキノコあり。枯枝あり。 変電設備のマンホールに近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-054		マテバシイ	7.0	75	5.0	−	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	1.0	2.65	C			○				○		有	大	樹幹傾斜(北側)(中)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 枝に多芽症状あり。 樹木番号Y02-053シイノキ、Y02-062ケヤキからの被圧あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

エリア名	野球場一塁側	調査日	2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-055		シイノキ	7.5	61	4.0	-	3.0	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	3.5	3.0	1.0	2.50	B			○				○		有	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 胴吹き枝が多数あり。 樹木番号Y02-057ケヤキ、Y02-062ケヤキからの被圧あり。 斜面に位置する。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-056		マテバシイ	6.0	107	2.5	-	4.0	4.0	4.0	4.0	3.0	3.5	2.5	3.0	2.5	1.0	3.15	C			○				○		有	中	幹(西側)H1.0mに開口空洞 90×15(貫通)あり。 根元･幹に打音異常 H0.0m～2.5mあり。 主幹の枯れ下がりあり。幹折れの可能性あり。 ポンプ、配管、制御盤に近接している。 活力度が悪く移植後の健全な生育が困難。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-057		ケヤキ	15.0	212	10.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○				○		有	小	幹分岐部に入り皮あり。 ぶつ切り剪定が多数あり。スタブカット(切り残し枝)の枯損あり。 貯水槽に近接し、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-058		マテバシイ	6.5	147	5.0	-	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.10	B			○				○		有	小	胴吹き枝が多数あり。 幹上部に電信柱のワイヤー支線が掛けられている。 貯水槽に近接し、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-061		ムクノキ	14.0	164	12.0	-	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.95	B			○				○		有	大	巻き根(中)あり。 片枝樹形である。 樹木番号Y02-062ケヤキからの被圧あり。 貯水槽に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-062		ケヤキ	14.5	230	15.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.85	B		○				○			有	小	大枝(西側)に樹皮欠損(穿孔性虫害の食害痕)あり。打音異常(小) H1.5～2.0mあり。 深植え状態にある。 貯水槽に近接する。		●		B			
Y02-076		ヒトツバタゴ	5.0	69	4.0	-	1.0	1.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○					○		有	中	ぶつ切り剪定が複数あり。 斜面に位置する。 倉庫に近接している。	●			A			
Y02-086		マテバシイ	3.5	190	3.8	-	3.5	3.0	4.0	3.5	3.5	3.0	2.5	3.0	2.5	1.0	2.95	C			○					○	有	大	大枝･幹に腐朽(大)あり。 幹に打音異常(大) H0.5～1.5mあり。 大枝に開口空洞(大)あり。 テニスコートに近接している。	●			C			
Y02-087		マテバシイ	8.0	142	7.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	小	枝に多芽症状あり。 ひこばえが多数あり。 斜面に位置する。 テニスコート、フェンスに近接している。	●			B			
Y02-088		ユズリハ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	-	-	C			
Y02-089		サンゴジュ	4.0	2本立	1.5	33,15	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	1.0	3.25	C			○					○	無	大	斜面に位置する。 テニスコートに近接している。 活力度が悪く、移植後に健全な状態への回復は難しい。	●			C			
Y02-090		ユズリハ	5.5	80	3.0	-	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.65	C			○				○		有	大	幹に樹皮欠損30×10cm、H1.5～2.0mあり。 ぶつ切り剪定が多数あり。 上記状態は、移植後も健全な状態への回復は難しい。 斜面に位置する。	●			C			
Y02-091		サンゴジュ	3.0	21	1.0	-	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	1.0	3.25	C			○				○		有	大	テニスコートに近接している。 活力度が悪く、移植後に健全な状態への回復は難しい。	●			C			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場一塁側														調査日				2023 年　5 月　22 日　～　2023 年　5月　24 日															伐採理由
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-092		ユズリハ	6.0	80	3.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.50	B			○				○		有	大	根元に開口空洞からの腐朽あり。 幹H1.5mに開口空洞あり。 根元・幹に打音異常(小) H0.0m～1.0mあり。 フェンスとテニスコートに近接している。	●			C			
Y02-093		ユズリハ	5.0	2本立	3.5	81,64	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.50	B			○				○		有	大	巻き根あり。 幹H0.5m～1.2mに樹皮枯死あり。 根元・幹に打音異常(中) H0.0～2.5mあり。 双幹の片側は枯死している。	●			B			
Y02-094		ユズリハ	5.0	2本立	4.0	80,65	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.25	B		○					○		有	大	大枝に腐朽、大枝付け根に入り皮あり。 巻き根あり。	●			B			
Y02-095		ツバキ	3. 5	2本立	1.8	17,15	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	中	Y02-095,Y02-096,Y02-097は群植されており、単木では被圧(中)により枝葉量が少なく、樹勢・樹形不良である。 雨水桝が近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-096		ツバキ	3.5	3本立	2.5	25,18,17	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	大	Y02-095,Y02-096,Y02-097は群植されており、単木では被圧により枝葉量が少なく、樹形不良である。 被圧密植で単木での移植後の樹形・樹勢回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-097		ツバキ	3.5	3本立	2.2	24,24,20	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○				○		無	大	Y02-095,Y02-096,Y02-097は群植されており、単木では被圧により枝葉量が少なく、樹形不良である。 被圧密植で単木での移植後の樹形・樹勢回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-098		ツバキ	3.5	4本立	2.5	26,25,17,13	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	大	ツバキが群植されている。		●		B			
Y02-099		ツバキ	3.5	2本立	2.5	18,13	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	大	ツバキが群植されている。		●		B			
Y02-100		ウバメガシ	4.0	34	2.0	–	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	無	大	周辺木と近接している。被圧・密植で枝葉少なく、移植後の樹形・樹勢回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-101		ウバメガシ	4.0	2本立	3.0	24,19	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○	無	大	幹が屈曲している。 周辺木と近接している。被圧・密植で枝葉少なく、移植後の樹形・樹勢回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-102		ウバメガシ	4.0	24	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○	無	大	周辺木と近接している。被圧・密植で枝葉少なく、移植後の樹形・樹勢回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-103		ヒマラヤスギ	20.0	315	13.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	有	小	下枝にスタブカット(切り残し枝)が多数あり。 縁石の押し上げあり。 深植え状態にある。 駐車場の植桝内に位置する。狭小な植桝(0.6x0.6m)である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-104		プラタナス	15.0	211	6.0	–	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B		○			○				有	中	幹H4.0mに樹皮欠損 20×15が2箇所あり。 スタブカット(切り残し枝)に開口空洞が数か所あり。 ぶつ切り剪定されている。 深植え状態にある。 コンクリートブロックに囲まれた植栽帯内に位置する。 上記あるものの、移植を行うことはできる。		●		B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名		野球場一塁側																調査日				2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考					伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-105		フウ	5.0	63	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○		○				有	大	高さH2.1mの梢端切除部に開口空洞あるが、移植はできる状態となっている。 コンクリートブロックに囲まれた植栽帯内に位置するが根鉢確保可能。			●	B			
Y02-106		マンシュウカエデ	12.0	2本立	7.5	145,134	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○			○				有	中	幹H3mに開口空洞 20×12(巻き込み中)あり。 擁壁を壊わすことで根鉢確保が可能である。		●		B			
Y02-107		ケヤキ	20.0	211	11.0	－	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○				○		有	小	幹に打音異常(小) H1.0～2.5mあり。 深植え状態にある。 縁石の押し上げあり。 ブロックと舗装に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-108		モッコク	3.5	3本立	3.0	36,35,35	2.5	2.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	中	大枝に枝折れ痕、樹皮欠損が複数あり。移植樹として不適である。 根元は2本立ちである。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-109		ヒトツバタゴ	4.5	37	2.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.15	B			○				○		無	大	ぶつ切り剪定されている。 被圧による樹形に乱れがあり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-110		ヒトツバタゴ	4.5	29	2.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○				○		無	大	北側の大枝に枯枝あり。 ぶつ切り剪定されている。 樹形に乱れあり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-111		ヒトツバタゴ	6.0	60	4.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.15	B		○			○				無	中	幹H2mに樹皮欠損 10×8あり。 ぶつ切り剪定されている。		●		B			
Y02-112		クロマツ	16.0	101	3.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.20	B			○				○		無	小	下枝がかなり高い位置にある。 樹形に乱れあり(H10mまで下枝なし)、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-113		コウヤマキ	7.0	59	3.0	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	2.0	1.0	3.00	C			○					○	有	大	双幹の一方が断幹されている。 幹H2.5mに樹皮欠損150×10あり。 幹に打音異常(小) H0.5～1.0mあり。 幹に樹皮欠損多数あり。 幹全体におよぶ腐朽が大きく、下枝が高く、枝葉量が少ない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-114		メタセコイア	21.0	275	11.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○				○		有	小	過去にぶつ切り剪定されている。 舗装の押し上げあり。 舗装に囲まれる。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y02-115		マテバシイ	8.0	93	4.0	－	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.15	B			○				○		有	中	枯枝が数か所あり。 多芽症状あり。 深植え状態にある。 細い電柱に近接している。 樹形に乱れあり(樹幹傾斜)。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-116		フウ	15.0	161	5.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	大	幹H1.2mに断幹痕からの開口空洞 20×19(160)×10あり。 深植え状態にある。 LPガス警報器に近接している。	●			B			
Y02-117		カラタネオガタマ	4.0	2本立	2.0	20,16	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.10	B			○				○		無	小	梢端切除されており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

エリア名：野球場一塁側　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-118		カラタネオガタマ	4.0	2本立	3.0	21,13	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		無	中	梢端切除されており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-119		ヒマラヤスギ	21.0	165	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○				○				有	無	深植え状態にある。 盛土あり。 隣木(Y02-120モチノキ)と根鉢が重複するするため、モチノキを移植しない場合は根鉢が確保できる。		●		B			
Y02-120		モチノキ	11.0	2本立	4.0	77,50	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	中	深植え状態にある。 盛土あり。 被圧による樹形に乱れ(樹幹傾斜)あり。隣木ヒマラヤスギと競合。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-121		カラタネオガタマ	3.0	2本立	2.0	19,16	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	枝葉少なく、移植後に健全な状態への回復が困難。	●			B			
Y02-122		フウ	5.0	120	2.5	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.70	C			○					○	無	大	断幹されている。幹H3mから上部が枯損している。 チャアナタケモドキの発生あり。 樹形が崩壊している。	●			B			
Y02-123		プラタナス	21.0	263	6.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		無	中	ぶつ切り剪定されている。 深植え状態にある。 斜面に位置する。	●			B			
Y02-124		クスノキ	18.0	185	8.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中	ぶつ切り剪定されている。 やや深植え状態にある。 根がフェンスに接触しており、移植時の根鉢確保困難。	●			B			
Y02-125		フウ	13.0	117	6.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	中	深植え状態にある。 斜面に位置するが、萌芽力があり移植可。	●			B			
Y02-126		カラタネオガタマ	3.0	2本立	3.0	10,7	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	大	幹(双幹)に樹皮枯死(大)あり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
Y02-127		カラタネオガタマ	3.5	3本立	2.5	26,13,10	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	中	断幹されている。	●			B			
Y02-128		カラタネオガタマ	4.0	3本立	2.5	30,18,9	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	梢端切除されている。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-129		カラタネオガタマ	4.0	23	2.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	中		●			B			
Y02-130		ソメイヨシノ	15.0	230	12.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	中	幹(南側)H1.0mに開口空洞 25×13×5あり。 幹に樹皮欠損・腐朽 22×10(230)あり。 幹に打音異常(小) H0.5～1.2mあり。 深植え状態にある。 フェンスが近接している。	●			A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場一塁側																調査日				2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日													
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-131		シイノキ	15.0	195	7.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	ひこばえが多数あり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
Y02-132		イヌツゲ	4.5	2本立	3.0	26,16	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	中	枝抜け痕が数か所あり。	●			B			
Y02-133		ソメイヨシノ	15.0	255	10.0	–	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	中	幹(南側)H1.0mにコフキサルノコシカケの子実体あり。 根元・幹(南側)H0.0～1.4mに樹皮枯死・欠損 140×80(260)あり。 樹幹傾斜あるが、上部で持ち直している。 胴吹きが多数あり。 フェンスが接触している。	●			B			
Y02-134		マテバシイ	2.5	4本立	2.0	6,5,5,5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.85	B			○					○	無	中	樹高が3m以下である。 伐採後のひこばえ伸長状態である。	●			B			
Y02-135		ツバキ	4.5	57	4.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	ひこばえが多数あるが、移植は可能。	●			B			
Y02-136		サンゴジュ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	枯損している。	※	–	–	C			
Y02-137		サンゴジュ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	枯損している。	※	–	–	C			
Y02-139		サンゴジュ	3.2	22	1.0	–	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.95	C			○					○	無	大	断幹されている。 下枝が少ない。	●			C			
Y02-140		サンゴジュ	3.6	20	2.0	–	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.70	C			○					○	無	大	下枝がなく、樹形不良で移植後に健全な状態への回復が見込めない。	●			C			
Y02-142		サンゴジュ	3.6	22	2.0	–	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	無	大	断幹されている(樹形不良)。 葉の食害あり(サンゴジュハムシ)。	●			C			
Y02-146		サンゴジュ	3.2	18	1.8	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.60	C			○					○	有	大	フェンスが近接している。 活力度が悪く、移植後に健全な状態への回復は難しい。	●			C			
Y02-151		ソメイヨシノ	14.0	191	10.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	中	樹幹傾斜あり。 胴吹き枝の剪定痕が多数あり。 スタブカット(切り残し枝)、腐朽あり。 斜面に位置する。 コンクリートパイプが根元にあり。 テニスコートのフェンスが近接している。	●			B			
Y02-152		ヒイラギモクセイ	4.5	46	5.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○					○		有	大	ひこばえが、多数あり。 コンクリートパイプが、根元にあり。 テニスコートのフェンスが、近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場一塁側				調査日		2023 年　5 月　22 日　～　2023 年　5月　24 日																											伐採理由		
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目						2019年春季調査活力度評価			
樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-153		ソメイヨシノ	16.0	245	15.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	中	樹幹傾斜(小)(車道側)あり。 胴吹き枝が多数あり。 道とのフェンスが近接している。	●			B			
Y02-154		サンゴジュ	3.5	21	2.0	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.80	C			○					○	無	大	被圧により葉量が少ない。 葉の食害あり(サンゴジュハムシ)。	●			C			
Y02-155		ムクノキ	4.0	22	2.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		無	大	樹皮欠損10×10あり。 断幹されている。 実生の若木で下枝がなく回復の見込みがない。	●			A			
Y02-157		ネズミモチ	3.5	6本立	3.0	22,20,19,15,12,10	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		無	大	ぶつ切り剪定されており、移植後に健全な状態への回復が見込めない。	●			B			
Y02-158		シイノキ	10.0	168	8.0	－	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	大	断幹されている。 根元・幹に打音異常(大) H0.0m～2.5mあり。 幹H1.4mの大枝剪定痕にコフキタケの発生あり。 スタブカット(切り残し枝)からの開口空洞が4箇所あり。 深植え状態にある。	●			B			
Y02-159		シイノキ	14.0	199	9.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B	○						○		無	中	移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
Y02-160		トウネズミモチ	5.0	40	3.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	無	大	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
Y02-161		サルスベリ	6.0	54	4.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○				○		無	大	穿孔性虫害あり。 樹形に乱れあり(樹幹傾斜)、幹に開口空洞あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-164		モチノキ	6.0	37	3.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	中	深植え状態にある。	●			B			
Y02-165		ヒサカキ	3.2	2本立	1.5	26,15	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					無	大	移植可能	●			B			
Y02-166		ヒサカキ	3.5	19	2.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.0	1.95	B		○		○					無	大	移植可能	●			B			
Y02-167		ヒサカキ	3.5	21	2.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	大	移植可能	●			B			
Y02-168		ヒサカキ	3.5	30	4.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	大	移植可能	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：野球場一塁側　調査日：2023 年　5 月　22 日　～　2023 年　5月　24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-170		フウ	11.0	90	2.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		無	大	高さH5.0mで断幹されている。 深植え状態にある。	●			B			
Y02-171		シラカシ	8.0	120	6.0	−	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	大	幹(北側)H2.0mに開口空洞 20×8×18/33(芯達)あり。 根元・幹に打音異常(中) H0.0m～2.5mあり。 トイレとのフェンスが近接している。	●			B			
Y02-172		トウカエデ	11.5	160	8.0	−	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○				○		有	中	根が階段にくい込んでいる。 縁石の押し上げあり。 トイレ脇の植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y02-173		ソメイヨシノ	13.0	273	13.0	−	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B	○						○		有	中	根元にベッコウタケの発生あり。 縁石の押し上げあり。 巻き根あり。 植桝内に位置する。	●			A			
Y02-174		プラタナス	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	※	−	−	C			
Y02-175		ツバキ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	—	—	枯損。	※	−	−	A			
Y02-176		クロガネモチ	14.0	135	5.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		有	中	片枝樹形である。 トイレに近接する。	●			B			
Y02-177		トウネズミモチ	3.0	19 (H0.5)	2.0	−	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.10	B			○					○	無	中	樹幹傾斜(中)あり。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
Y02-178		トウネズミモチ	5.5	2本立	4.0	45,42	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	無	中	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
Y02-179		ツバキ	3.0	3本立	2.0	22,16,11	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	フェンスが近接している。	●			B			
Y02-180		ネズミモチ	3.0	18	1.5	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	中	フェンスが近接している。	●			B			
Y02-181		トウネズミモチ	8.0	3本立	5.0	68,49,43	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.70	A			○					○	有	中	トイレに近接している。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
Y02-182		ツバキ	5.0	64	3.0	−	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.85	B			○					○	有	小	幹に開口空洞(大)(H0.7m～1.8m, 深さ18cm)(芯達)あり。 建物に近接しており、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場一塁側														調査日				2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日															
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目							伐採理由		
樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-183		サンゴジュ	6.5	80	4.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	2.20	B			○				○		有	中	ブロック塀に近接している。 樹形に乱れあり(樹幹傾斜、下枝が高い)。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-184		ボダイジュ	18.0	191	10.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○						○		有	小	巻き根あり。 建物と樹木に近接している。	●			A			
Y02-185		モッコク	5.5	3本立	4.0	56,52,41	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.10	B		○					○		有	中	根元に開口空洞(中)あり。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-186		ケヤキ	20.0	217	14.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.5	1.5	1.0	1.85	B	○						○		有	小	幹H2.5mに開口空洞 深さ5cmあり。 幹に打音異常(小) H2.0m～2.5mあり。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-187		ツバキ	6.0	49	4.0	–	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	小	幹H1.5mに樹皮欠損(小)あり。	●			B			
Y02-188		トウカエデ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	枯死している。	※	–	–	B			
Y02-189		イスノキ	4.5	14	0.7		3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○				○		有	中	ブロック塀に近接している。 実生木と思われ、イスノキ3本Y02-189,Y02-190,Y02-191が密植し、単木では樹形に乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-190		イスノキ	4.5	16	1.5	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○				○		有	中	ブロック塀に近接している。 実生木と思われ、イスノキ3本Y02-189,Y02-190,Y02-191が密植し、単木では樹形に乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-191		イスノキ	5.0	16	1.5	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○				○		有	中	ブロック塀に近接している。 実生木と思われ、イスノキ3本Y02-189,Y02-190,Y02-191が密植し、単木では樹形に乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-192		モチノキ	4.5	49	2.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.30	B		○		○					有	中	大枝H1.2mに腐朽(中)あり。大枝H2.5mに腐朽(中)あり。 葉にタイワントガリキジラミの虫害あり。 ブロック塀に近接している。		●		B			
Y02-193		イスノキ	9.0	123	6.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.80	B	○			○					有	小	大枝H2.0mに腐朽(中)あり。 ブロック塀に近接している。	●			A			
Y02-194		ヒサカキ	5.0	28	2.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.60	C			○					○	無	中	根元・幹にベッコウタケの発生あり。 幹H1.0mに開口空洞(小)あり。幹H1.2mに開口空洞(小)あり。幹H2.5mに開口空洞(小)あり。 大枝に枯枝あり。	●			B			
Y02-195		ソメイヨシノ	11.0	24	11.5	–	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.45	B			○				○		有	中	根元・幹に打音異常(小) H0.0m～1.2mあり。 大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽(大)、腐朽(中)が複数あり。 フェンスが近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場一塁側															調査日			2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日															
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-196		モチノキ	7.0	85	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	小	ブロック塀に近接している。	●			B			
Y02-197		トウネズミモチ	8.0	2本立	5.0	90,42	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	有	中	大枝H1.2mに腐朽(中)あり。 ブロック塀に近接している。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
Y02-198		ツバキ	4.0	2本立	4.0	60,35	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.75	A		○					○		有	小	幹H1.0m～1.5mに腐朽(小)が8箇所あり。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-200		ツバキ	5.0	75	4.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○		○					有	中	大枝付け根H1.2mに樹皮欠損(中)あり。 大枝H2.0mに樹皮欠損(中)あり。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-202		ヤエザクラ	8.0	2本立	9.0	122,81	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	幹に打音異常0.5m～1.0mあり。 幹H1.0mに腐朽(中)あり。	●			B			
Y02-209		ソメイヨシノ	10.0	297	16.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.35	B	○						○		有	小	根元・幹に打診音異常(小) H0.0～1.6mあり。 大枝H3.0m～3.5mに亀裂あり。 大枝付け根H2.5mに剪定痕からの腐朽(大)あり。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-246		ヒマラヤスギ	18.0	255	12.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A			○				○		有	小	コンクリート基礎に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y02-247		クロマツ	15.0	157	9.5	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B	○						○		有	小	コンクリート基礎に近接している。 樹木番号Y02-248モチノキと根元が近接している。	●			A			
Y02-248		モチノキ	7.0	57	2.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○					○		有	小	葉にタイワントガリキジラミの虫害あり。 コンクリート壁に近接している。 樹木番号Y02-247クロマツと根元が近接している。	●			B			
Y02-249		クロマツ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	※	－	－	B			
Y02-250		サカキ	7.5	76	4.5	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	1.0	2.5	1.0	1.85	B		○					○		有	小	幹H1.0mに開口空洞(中) 深さ10cmあり。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-251		ソメイヨシノ	11.0	208	12.0	－	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○					○	有	中	幹H0.5m～1.0mにベッコウタケの発生あり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～1.3mあり。 スタブカット(切り残し枝)からの腐朽が多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-257		ウバメガシ	7.0	4本立	5.0	95,89,46,31	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.75	A		○					○		有	中	根元に開口空洞(芯達)あり。 スタブカット(切り残し枝)からの腐朽が多数あり。 コンクリート土留めに近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名		野球場一塁側																調査日			2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日																
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-260		ヤマモモ	6.5	89	4.5	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.75	A		○					○		有	小	大枝付け根H2.5mに開口空洞(中) 深さ8cmあり。 コンクリート土留めに近接している。	●			B			
Y02-262		ヤマモモ	6.5	111	6.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○					○		有	小	幹H1.5mに開口空洞(中) 深さ12cmあり。 コンクリート土留めに近接している。	●			B			
Y02-263		モクセイ	3.5	7本立	2.5	43,30,30,28,26,25,19	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.70	A		○					○		有	小	コンクリート土留めに近接している。	●			B			
Y02-264		ヤマモモ	5.5	114	3.5	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	小	幹H1.2mに開口空洞(中) 深さ10cmあり。 コンクリート土留めに近接している。	●			B			
Y02-266		ヤマモモ	6.5	94	5.0	－	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○					○		有	小	コンクリート土留めに近接している。	●			B			
Y02-267		モクセイ	3.5	3本立	2.0	44,26,20	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		有	小	コンクリート土留めに近接している。	●			B			
Y02-268		ヤマモモ	6.0	121	3.0	－	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B			○				○		有	小	スタブカット(切り残し枝)が多数あり。 樹形に乱れ(左右のふところ枝の消失)あり。 コンクリート土留めに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-270		ヤマモモ	6.5	98	2.5	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○			○				有	無	大枝H1.0にぶつ切り剪定痕からの腐朽(中)あり。 コンクリート土留めに近接している。		●		B			
Y02-272		メタセコイア	11.0	241	6.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○				○		有	無	断幹されており、切断部φ40cmに腐朽あり。 コンクリート土留めに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-273		ネズミモチ	5.0	3本立	4.0	26,18,15	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	有	中	コンクリート土留めに、近接している。	●			B			
Y02-274		チャンチン	8.0	113	3.5	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B		○			○				有	無	大枝にぶつ切り剪定が多数あり、コンクリート土留めに近接しているが、移植はできる。 エリア内にて希少樹種である。		●		B			
Y02-275		ソロ	9.5	4本立	5.0	63,44,34,22	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○				○		有	中	根元に開口空洞(小)(芯達)、樹皮欠損・腐朽(小)あり。 大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽が多数あり。 隣木(Y02-0274チャンチン)からの被圧あり。 コンクリート土留めに近接している。 樹形に乱れあり(樹幹に傾き)。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-276		ソロ	9.5	4本立	5.5	71,60,59,32	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○			○				有	中	大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽が多数あり。 コンクリート土留めに近接している。 樹形は良好である。根鉢確保は可能である。		●		B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名	野球場一塁側	調査日	2023 年　5 月　22 日　～　2023 年　5月　24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-287		トウカエデ	12.0	190	5.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○			○				無	無	幹H0.3mに開口空洞(中) 深さ25cmあり。 大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽(中)あり。 建物に近接している。斜面地に立地する。 移植後の萌芽や樹形回復が期待できる(樹種特性)。		●		B			
Y02-288		シイノキ	9.0	187	8.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		有	無	幹H0.5mに開口空洞(小) 深さ15cmあり。 シイサルノコシカケ様の子実体あり。 幹に打診音異常(小) H1.0～1.5mあり。 大枝に枯枝あり。 樹形・樹勢不良。 建物に近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

エリア名		第二球場																調査日				2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日														
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目							伐採理由		
樹木番号		樹種名	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
YG-001		シイノキ	13.5	296	12.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.60	A	○						○		有	小	幹H1.0mに開口空洞(中)あり。 大枝H7.5mに樹皮欠損(大)あり。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏りがあるが葉量は充実している。	●			A			
YG-002		シイノキ	13.5	143	6.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.00	B		○					○		有	中	幹に開口空洞(中) H1.5m～2.5m、打音異常あり。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏り、被圧による樹形の乱れがあり。	●			A			
YG-003		シイノキ	13.5	212	8.0	－	2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.70	A		○					○		有	小	幹H2.5mに開口空洞(中)、打音異常あり。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏りあり。	●			A			
YG-004		モッコク	5.5	42	2.5	－	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.75	A		○		○					有	中	土留めの縁石が根元にあり。 周辺木からの被圧あり。	●			A			
YG-005		シイノキ	11.0	222	7.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.85	B		○					○		有	中	幹H1.8mに開口空洞(中)あり。 大枝H1.8mに開口空洞(中)が、数か所あり。 配電盤に近接する。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏りあり。	●			A			
YG-006		シイノキ	12.5	296	13.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.80	B	○						○		有	中	幹H1.2mに開口空洞(中)(芯達)あり。 大枝H1.5mに開口空洞(中)あり。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏りあり。	●			A			
YG-007		ヒトツバタゴ	6.0	38	4.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.85	B		○		○					無	中	樹冠の偏りあり。	●			B			
YG-008		ツバキ	3.0	3本立	2.0	31,35,21	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○		○					有	中	土留めの縁石が根元にあり。	●			B			
YG-009		シイノキ	9.0	186	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.70	A		○					○		有	無	土留めの縁石が根元にあり。 葉がやや小さい。	●			A			
YG-011		クスノキ	17.0	350	13.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.45	A	○						○		有	小	土留めの縁石が根元にあり。	●			A			
YG-013		シイノキ	10.0	179	7.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	2.20	B		○					○		有	小	根元H0.0mに開口空洞(大)(芯達)が複数あり。 枝に多芽症状あり。 葉が小さく、葉量がやや疎である。 枯枝あり。 土留めの縁石が根元にあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
YG-014		サンゴジュ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	枯損している。	※	－	－	C			
YG-015		ツバキ	2.8	4本立	2.0	30,30,20,21	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	中	樹高が3m以下である。 隣接YG-091シイノキの下に存する。 シイノキ側の枝葉がやや少ないが、他は良好。根回し済み。		●		B			
YG-016		シイノキ	9.0	197	10.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○					○		有	小	幹H2.0mに開口空洞(中)あり。 ふところ枝がなく幹に開口空洞、大枝に樹皮欠損が多い。 土留めの縁石が根元にあり。 葉量がやや疎である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-017		シイノキ	8.0	170	5.5	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○						○	有	中	根元に開口空洞(小)あり。 幹H1.8mに開口空洞(中)、子実体(種不明)あり。 根元・幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 土留めの縁石が根元にあり。 梢端の葉が小さい。 傷が複数あり、キノコの広がりが見られる。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			第二球場															調査日		2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日																
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》				2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
YG-019		ヒトツバタゴ	10.0	126	7.0	－	1.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					有	中	幹H2.0mに樹皮欠損(中)あり。 土留めの縁石が根元にあり。 樹勢・樹形が良好である。	●			B			
YG-020		マテバシイ	7.5	2本立	7.0	92,81	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					有	中	土留めの縁石が根元にあり。縁石あるが移植可能。 双幹の片側に樹冠の偏りあり。 胴吹きが多い。てんぐ巣症状の枝が散在する。		●		A			
YG-021		マテバシイ	9.0	113	5.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		有	中	片枝樹形である。 コンクリート基礎が根元にあり。 樹冠に偏りあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-022		マテバシイ	9.5	112	6.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	小	コンクリート基礎が根元にあり。 ひこばえが多く、下枝が高い。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-024		マテバシイ	10.0	113	7.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.65	A	○				○				無	小	隣接樹木との距離が近いが移植できる。 移植樹として樹形維持も可能。		●		A			
YG-025		マテバシイ	11.5	103	5.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B			○				○		無	中	隣接樹木との距離が近いが適正根鉢の確保がぎりぎり可。 樹形の乱れがあり(下枝が高い)、枯枝有り、移植後の回復が難しい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-026		マテバシイ	5.5	2本立	4.0	45,43	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○				○		無	中	隣接樹木との距離が近く、根鉢の確保が困難である。 被圧による樹形の乱れがあり(樹幹に傾き、枝の分布に偏り)、移植後の回復が難しい。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-027		マテバシイ	3.2	14.9	2.5	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		無	中	幹に枯死あり。 株立ちになっている。 隣接樹木との距離が近く、根鉢の確保が困難である。 樹形に乱れがあり(高さ1mで断幹)、移植後の回復が難しい。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-028		マテバシイ	9.5	91	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				無	中	隣接樹木との距離が近い。 YG-027マテバシイの撤去により、根鉢確保が可能である。 樹形維持も可能。 隣木(YG-024マテバシイ)の被圧あり、剪定は不要。(根回し済み)		●		A			
YG-029		ネズミモチ	5.0	31	3.0	－	2.5	2.5	3.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.60	C			○					○	無	大	根元に開口空洞(大)あり。 葉に虫害あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-030		サンゴジュ	3.2	33	2.0	－	4.0	4.0	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	3.75	D			○					○	無	大	株の1本が割けたことによる樹皮欠損(大)あり。 根元に揺らぎあり。 樹冠に偏りあり。 樹勢が衰退し、枯死寸前の状態である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
YG-031		マテバシイ	10.0	142	5.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					無	中	根元にフラス、根元から幹(H0～0.8m)にキクイムシの穿孔痕あり。		●		A			
YG-032		マテバシイ	7.5	120	6.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	無	コンクリート壁に近接する。 ひこばえが多数あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-033		ヒトツバタゴ	4.5	33	2.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○		○					有	大	樹冠に偏りあり。 コンクリート壁に近接する。		●		B			
YG-034		マテバシイ	7.0	91	3.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	中	大枝H2.0mに腐朽(中)あり。 土留めの石積みが根元にあり。 樹形の乱れがあり(枝の分布に偏り)、移植後の回復が難しい。 てんぐ巣症状の枝が散在する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-035		マテバシイ	2.7	3本立	2.0	23,17,15	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					有	中	株立ち状態にある。 土留めの石積みが根元にある。 根回しを終えている。		●		B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名: 第二球場　調査日: 2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
YG-036		マテバシイ	4.5	2本立	4.5	43,29	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		有	大	樹冠に偏りあり。 コンクリート壁に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-037		シイノキ	11.0	236	12.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.40	B		○						○	有	無	幹H2.5mに開口空洞(中)あり。 大枝に腐朽が複数あり。 土留めの石積みが根元にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-038		サンゴジュ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	枯損している。	–	–	※	B			
YG-040		イヌツゲ	2.5	30	1.5	–	3.5	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.70	C			○					○	無	中	樹冠に偏りあり。上部枯れ下り対象外である。根回し済み、上部に枯下りがあり移植には適さないと判断される。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。		●		B			
YG-042		シイノキ	6.5	109	4.5	–	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.95	B		○			○				有	小	ブロック塀に近接するが根鉢確保は可能である。		●		A			
YG-045		ケヤキ	10.0	160	7.0	–	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	1.5	1.0	2.85	C			○				○		有	小	ブロック塀に近接する。 大枝剪定痕からの枯れ下がり、大枝の枯損と枯枝が多く、樹形・樹勢が不良である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-046		サザンカ	3.3	2本立	3.0	44,21	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A		○				○			無	中	樹勢・樹高ほぼ良好傾向にあり、あまり大き過ぎず、根元構造物撤去で移植はできる。			●	A			
YG-047		マテバシイ	8.5	88	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	中	樹形にやや乱れあるが、樹勢ほぼ良好傾向にあり、根元構造物撤去で移植可。球場解体に伴い日当たり良好で、樹勢・樹形回復と根鉢確保が可能となり移植はできる。			●	A			
YG-050		ツバキ	3.2	2本立	2.0	20,17	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○		○					有	中	概ね問題なし。		●		B			
YG-051		ケヤキ	11.0	184	10.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	中	ぶつ切り剪定痕からの腐朽あり。 ブロック塀に近接し、掘り取り作業領域の確保が困難である。 強剪定による萌芽樹である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-052		マテバシイ	6.5	57	3.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	大	隣木からの被圧あり。枝の分布に偏り(敷地境界側)あり。 てんぐ巣症状の枝が散在する。移植後に健全な状態の維持が困難。 ブロック塀に近接する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-053		シイノキ	8.0	91	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.75	A		○		○					有	中	コンクリート基礎に近接するが、移植時の根鉢確保可能。 てんぐ巣症状の枝が散在する。		●		A			
YG-054		シイノキ	4.5	55	2.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	大	幹に樹皮欠損・腐朽あり。移植後の回復が困難。 ブロック塀に近接する。 樹冠にやや偏りあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-057		ケヤキ	10.0	157	8.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	中	大枝に剪定痕からの腐朽あり。 ブロック塀に近接する。 幹H3mで3分岐、内1本が枯損。剪定痕からの腐朽が多数あり。 強剪定後の萌芽樹である。 掘り取り作業領域の確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-058		マテバシイ	7.5	82	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	大	ブロック塀に近接する。 枝葉量は充実している。 樹形に極端な乱れがあり(隣木からの被圧、樹冠に偏り)、移植に伴う剪定後の回復が見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●

既存樹木調査結果一覧

エリア名			第二球場														調査日		2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日																	伐採理由	
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
YG-059		シイノキ	6.5	81	2.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					有	中	ブロック塀に近接する。 枝葉量は充実している。		●		A			
YG-060		サンゴジュ	4.0	4本立	2.0	41,21,33,39	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	2.5	2.5	2.0	3.10	C			○					○	有	大	大枝に樹皮欠損・腐朽あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-061		ケヤキ	11.5	170	7.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○				○			有	中	幹芯からブロック塀までの離隔距離1.25m。 萌芽樹であるが根元構造物解体で移植はできる。			●	B			
YG-062		マテバシイ	8.5	94	3.5	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中	大枝に剪定痕からの腐朽(中)が複数あり。 樹形に乱れと傾斜(隣木からの被圧、樹冠に偏り)がある。ブロック塀と樹木に近接する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-064		シイノキ	10.0	125	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.80	B		○			○				有	小	樹形は良好である。 ブロック塀に近接するが根鉢はかろうじて確保可能である。		●		A			
YG-066		マテバシイ	8.0	73	4.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	小	幹芯からブロック塀までの離隔距離1.0m。根元構造物撤去で根鉢確保可能。樹勢ほぼ良好傾向にある。球場解体で日照量増加し樹勢・樹形も回復傾向にあるため移植はできる。			●	A			
YG-068		シイノキ	4.5	53	2.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.30	B			○					○	有	大	幹に大枝剪定痕・腐朽(H1.1m)、開口空洞、樹皮欠損、断幹痕あり。 樹形崩壊傾向にあり、移植後に健全な状態への回復見込めない。 ブロック塀に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-070		ケヤキ	11.0	147	8.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	小	大枝に剪定痕からの腐朽が多数あり。移植後の回復は難しく不適。 ブロック塀に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-071		サンゴジュ	4.0	4本立	2.5	41,39,31,27	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.0	3.0	2.0	3.60	D		○					○		有	大	ブロック塀に近接する。 隣接樹木との距離が近い。 虫害(サンゴジュハムシ)あり、葉量が疎である。 規格や活力度などから樹形・生育不良。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-072		マテバシイ	6.5	62	3.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.75	C		○		○					有	中	ブロック塀に近接する。移植可。 てんぐ巣症状あり。 枝の伸長量が少なく、枝葉量がやや疎である。		●		B			
YG-074		ケヤキ	12.5	156	6.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	小	ブロック塀に近接し、掘り取り作業領域の確保が困難である。 大枝に剪定痕からの腐朽ある上、樹形に乱れがあり(強剪定後の萌芽樹形)、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-075		マテバシイ	6.5	77	3.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	大	ブロック塀に近接する。 樹形に乱れがあり(隣木被圧による扇型の扁平樹形) 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-076		ヒマラヤスギ	25.5	239	10.0	–	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○							○	有	小	ブロック塀に近接し、根回し、堀取り作業が困難である。 上部や大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-077		カラタネオガタマ	4.5	6本立	3.0	23,22,21,21,19,18	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.75	A		○		○					有	中	ブロック塀に近接する。 葉量が疎である。		●		A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			第二球場																調査日			2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日												伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植						参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
YG-078		マテバシイ	9.0	97	4.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	中	ブロック塀に近接する。 枝の伸長量が少なく、てんぐ巣症状あり。樹幹傾斜もあり、移植樹としては適さない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-079		ヒマラヤスギ	25.5	232	7.5	－	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○						○		有	小	ブロック塀に近接し、根回し、堀取り作業が困難である。 大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-081		ヒトツバタゴ	4.0	48	2.5	－	3.0	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.60	C			○			○			有	大	幹芯からブロック塀までの離隔距離0.4m。 被圧で樹形・樹勢やや悪いが、根元構造物撤去で根鉢確保でき移植はできる。移植地で被圧も解消されれば樹勢回復も期待できる。			●	B			
YG-082		モクセイ	3.2	3本立	1.5	24,21,9	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.00	B		○				○			有	大	幹芯からフェンス基礎までの離隔距離0.4m。 根元構造物撤去で根鉢確保でき移植はできる。			●	B			
YG-083		マテバシイ	7.5	79	5.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		有	小	樹形に乱れ(片枝樹形)あり、ブロック塀に近接し、根回し、掘り取り作業が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-084		モクセイ	3.5	3本立	1.8	19,19,14	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					有	大	ブロック塀に近接する。移植可。		●		B			
YG-085		ヒマラヤスギ	25.5	237	8.0	－	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○						○		有	小	ブロック塀に近接し、根回し、堀取り作業が困難である。 大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-087		モクセイ	3.0	3本立	2.0	18,17,16	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					有	大	根元・幹に樹皮欠損(小) H0.0m～1.5mが多数あり。 ブロック塀に近接する。移植可。		●		B			
YG-088		マテバシイ	9.0	93	6.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B		○					○		有	中	枝にコブ症状、てんぐ巣症状あり。 枯枝(東側)あり。 樹形に乱れがあり、残置であれば問題無いが、移植の場合は移植後の健全な状態への回復が難しい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-089		モクセイ	3.6	4本立	1.5	25,23,14,14	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.25	B		○		○					有	大	根元・幹に樹皮欠損(小) H0.0m～1.2mが多数あり。 ブロック塀に近接する。移植可。		●		B			
YG-091		ヒマラヤスギ	22.5	225	8.0	－	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.50	A	○						○		有	小	ブロック塀と歩道縁石に近接し、根回し、堀取り作業が困難である。 大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-093		シイノキ	9.0	125	5.5	－	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.60	A		○			○				有	小	幹に、開口空洞(枝抜け痕)(小)あり。 やや被圧があるが、樹形は良い。		●		A			
YG-094		マテバシイ	6.5	70	4.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.75	A		○		○					無	小	樹冠に偏りあり。 てんぐ巣症状あり。		●		A			
YG-096		ヒマラヤスギ	27.0	262	10.0	－	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○						○		有	小	ブロック塀に近接し、根回し、堀取り作業が困難である。 大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-098		トウネズミモチ	6.0	4本立	4.5	30,27,23,18	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.70	A			○					○	有	中	コンクリート基礎に近接する。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適である。			●	B	●		

既存樹木調査結果一覧

エリア名		第二球場																調査日			2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日															
樹木番号		樹種名	規格				活力度											保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
YG-100		シイノキ	10.0	104	6.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.0	1.0	2.10	B		○					○		無	大	深植え状態にある。 樹形に乱れがあり(被圧による扇型の扁平樹形)、移植樹として不適である。 樹冠頂部に枯枝が多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-101		シイノキ	11.0	213	8.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.60	A	○				○				有	中	大枝に樹皮欠損・腐朽が複数あり。 ブロック塀に近接する。 樹形は良好で維持可能。根鉢確保もかろうじて可能である。		●		A			
YG-102		サンゴジュ	4.0	3本立	3.0	35,33,27	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○		○					無	中	ブロック塀に近接する。		●		B			
YG-103		モッコク	5.7	37	3.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○		○					無	中	概ね問題なし。		●		A			
YG-105		ウバメガシ	8.0	4本立	7.0	106,99,81,30	2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.70	A		○			○				有	小	歩道手すりに近接する。 4つの株がそれぞれ独立している。 胴吹き多数、樹形に乱れあり(被圧による扇型の扁平樹形)。 移植に伴う樹形維持と再生は可能である。		●		B			
YG-107		シイノキ	7.5	2本立	6.0	113,97	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	1.0	1.0	2.00	B		○					○		有	中	コンクリート基礎に近接する。 大枝に開口空洞あり。 樹形に乱れ(枝の分布に偏り)、樹幹傾斜。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-108		コブシ	10.0	2本立	7.5	96,86	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○				○			有	小	樹形にやや乱れあるが、個性的な形の花木であり移植難樹木であるが、枝葉が伸長し、樹勢・樹形が回復傾向にあり、移植はできる。（経年により樹勢良化）			●	B			
YG-110		モクセイ	3.3	3本立	2.0	59,40,35	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	小	経年により樹形・樹勢も良化し移植対象と判断。			●	B			
YG-111		ヤマモモ	7.0	115	4.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○			○				有	無	コンクリート基礎に近接する。 幹に開口空洞あり。 移植後の樹形維持が可能である。		●		B			
YG-114		モクセイ	3.0	5本立	2.0	44,37,34,32,32	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	無	コンクリート基礎に近接する。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-115		ヤマモモ	6.5	83	3.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○		○					有	無	コンクリート基礎に近接する。		●		B			
YG-116		モクセイ	3.4	5本立	2.0	45,40,35,31,20	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○		○					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-118		ケヤキ	12.5	220	13.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○				○			有	無	解体工事の進捗で萌芽が良好で自然樹形に回復しつつあるため移植対象と判断。			●	B			
YG-120		モクセイ	3.5	90 芝付	2.5	－	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○		○					有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-121		ヤマモモ	7.0	100	4.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 全体的にヤマモモのこぶ病あり。		●		B			
YG-122		モクセイ	3.5	85 芝付	2.5	－	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-123		モクセイ	3.0	5本立	2.0	40,38,34,30,14	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：第二球場　調査日：2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
YG-124	モクセイ	3.3	5本立	2.0	40,40,34,34,17	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○				○			有	小	経年により樹形・樹勢も良化し移植対象と判断。			●	B			
YG-125	ケヤキ	16.5	300	12.0	－	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 根元に開口空洞(中)深さ40cm以上あり。 幹に開口空洞(大)H1.0深さ15cm、(中)H0.8深さ20cmあり。 幹H1.2mにコフキサルノコシカケ様の子実体あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-128	ヤマモモ	7.5	122	5.0	－	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	無	根元H0.2mに開口空洞(小) 深さ12cmあり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。		●		B			
YG-129	モクセイ	3.0	95 芝付	3.2	－	1.5	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-130	モクセイ	3.5	95 芝付	3.0	－	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-131	モクセイ	3.5	118 芝付	2.5	－	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-132	モクセイ	3.5	118 芝付	3.0	－	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-133	カラタネオガタマ	5.0	6本立	5.5	45,40,37,36,36,24	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○			○				有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。擁壁に近接する。 前回調査より樹勢が衰退傾向にあり、枝の伸長も鈍い。ひこばえ多数あり。		●		B			
YG-134	ケヤキ	11.5	236	10.0	－	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.10	B		○				○			有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹形に乱れ(強剪定後の萌芽樹形)あり。 剪定痕が目立つが、樹高低く、移植難であるものの移植はできる。		●		A			
YG-135	ヤマモモ	6.5	95	5.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○			○				有	中	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹冠に偏りあり。 移植後の樹形維持が可能である。		●		B			
YG-136	モクセイ	3.5	120 芝付	3.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○			○				有	無	根元付近にコンクリート土留め板、看板基礎あり。 基礎とれば移植はできる。		●		B			
YG-137	ヤマモモ	6.5	130	3.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○			○				有	無	大枝付け根H1.5mに開口空洞(中) 深さ15cmあり。 根元に樹皮欠損(中)あり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。 移植後の樹形維持が可能である。		●		B			
YG-138	モクセイ	4.0	101 芝付	2.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	無	根元付近にコンクリート土留め板、看板基礎あり、移植時の根鉢確保困難。 看板の裏に立地し、樹形に乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-139	モクセイ	3.5	111 芝付	2.0	－	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○			○				有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢・樹形は良好である。		●		B			
YG-140	ヤマモモ	7.0	128	5.0	－	2.0	1.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○			○				有	無	幹H3.0mに開口空洞(中) 深さ5cm(巻き込み良好)あり。 大枝H2.5mに樹皮欠損・腐朽あり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。 移植後の樹形維持が可能である。		●		B			
YG-141	モクセイ	3.5	100 芝付	2.5	－	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○			○				有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。			●	B			
YG-142	ヤマモモ	5.5	105	5.5	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○			○				有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹形は良好である。		●		B			
YG-143	モクセイ	4.0	93 芝付	2.5	－	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○			○				有	無	根元付近にコンクリート土留め板、電灯基礎あり。 樹勢・樹形は良好である。		●		B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：第二球場　調査日：2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高 (m)	規格 幹周 (cm)	規格 葉張 (m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
YG-144		ケヤキ	14.5	239	12.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B	○						○		有	無	大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽が複数あり。 根元付近に植栽帯縁石、電灯基礎あり。 強剪定、萌芽樹でケヤキらしさがない。 掘り取り作業領域の確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-145		ケヤキ	12.5	267	13.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B	○						○		有	小	大枝H5.0mに開口空洞(中)あり。 大枝に亀裂が複数あり。 根元付近に電灯基礎(2か所)、植栽帯縁石あり。 樹形に乱れがあり(強剪定後の萌芽樹形)、ケヤキらしさに欠ける。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-146		ケヤキ	12.5	246	14.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○						○	有	小	根元・幹に樹皮欠損・腐朽(大)あり。 高さH0.5mにコフキサルノコシカケの子実体あり。 根元・幹に打音異常あり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹形に乱れがあり(強剪定後の萌芽樹形)、ケヤキらしさに欠ける。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-147		ケヤキ	15.0	293	7.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		有	無	大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽が複数あり。 幹に樹皮欠損(中) H1.5m～2.5mあり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。建物に近接している。 樹形に乱れがあり。大枝(南側)に衰退枝あり。 樹形に乱れがあり(強剪定後の萌芽樹形)、ケヤキらしさに欠ける。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名	テニス場北コート	調査日	2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-001	サザンカ	5.0	3本立	4.5	42,39,28	1.5	2.0	1.0	2.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.30	A		○						○	有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 ブロック塀に近接している(西側)。	●			A			
T01-002	ソメイヨシノ	7.0	246	5.0	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.70	C			○				○		有	中	幹の片側全面に樹皮枯死あり、コフキタケ様の発生あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 幹・大枝の腐朽が進行中、撤去の検討が必要。 石の柵が0.3m(東側)の距離にあり、近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-003	ウバメガシ	8.5	3本立	8.0	102,84,66	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.40	A	○			○					無	小	隣木トウカエデによる被圧あり。樹冠に偏りあり。		●		A			
T01-004	トウカエデ	14.0	260	10.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.70	A	○					○			有	無	ネットフェンスが0.9m(西側)にある。 移植に向けた剪定に耐え(樹種特性)、移植には適している。		●		A			
T01-005	ソメイヨシノ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	※	－	B			
T01-006	クロマツ	10.5	105	4.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.35	B			○				○		有	無	南側にスタブカット(切り残し枝)が数か所あり。 擬木柵が1.1m(東側)の距離にある。 下枝が高く移植に向けた剪定に適していない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-008	クロマツ	12.0	97	5.0	－	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.80	B		○		○					有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 ネットフェンスが0.7m(西側)の距離にある。		●		B			
T01-009	クロマツ	15.0	145	5.0	－	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.70	A	○			○					有	無	ネットフェンスが1.1m(西側)の距離にある。		●		A			
T01-010	シダレザクラ	7.0	79	4.0	－	2.5	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹H3.0mに腐朽(大) 60×20、巻込み(弱)あり。幹折れの危険あり。 石の柵が1.3m(東側)にある。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-011	シダレザクラ	6.0	80	3.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.40	B			○					○	有	無	大枝H3.0m(南側)に折損痕の腐朽、大枝・幹の腐朽(大)あり。 石の柵が1.2m(東側)にある。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-012	サクラ	7.0	96	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～1.0mあり。 幹が屈曲、樹幹傾斜あるが、樹形の維持は可能。 大枝 H2.3mに剪定痕からの腐朽、巻込み(弱)あり。 ネットフェンスが0.8m(西側)の距離にあるが根鉢確保可能。		●		A			
T01-013	シダレザクラ	5.0	83	5.0	－	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B	○			○					有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.0mあり。 擬木柵が0.9m(東側)の距離にある。	●			A			
T01-015	シダレザクラ	5.5	97	1.5	－	4.0	3.5	4.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.85	C			○					○	有	小	断幹されている。断幹痕からの枯れ下がり、腐朽(大)あり。 ルートカラー(地際の根張り)が見えない。根元の揺らぎ(中)あり。 根元(北側)にコフキタケの発生あり。 幹H1.4mに腐朽 22/30cmあり。幹(南東)全面にキノコ発生あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 大枝H2.5mに剪定痕からの腐朽 15×15あり。 大枝付け根(東側)に腐朽、キノコがL150cmにかけてあり。 撤去の検討が必要。 擬木柵が1.0m(東側)の距離にある。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●

既存樹木調査結果一覧

エリア名: テニス場北コート　調査日: 2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-016	シダレザクラ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	幹折れにより、安全配慮のため伐採済み	–	※	–	B			
T01-017	クロマツ	13.0	187	7.0	–	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○			○					有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 擬木柵が0.9m(東側)の距離にある。		●		A			
T01-018	サクラ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	–	–	※	C			
T01-019	クロマツ	9.0	101	6.0	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.15	B		○		○					有	小	樹幹傾斜(テニスコート側)あり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～0.5m(小)あり。 ネットフェンスが0.8m(西側)の距離にある。		●		B			
T01-020	シダレザクラ	6.0	90	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B		○		○					有	中	根元・幹にカワウソタケ H0.0～0.7mあり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～1.0mあり。 大枝にスタブカット(切り残し枝)φ20, 0.5m、枯損あり。 枯枝(北側)φ5, L2.0mあり 擬木柵が1.1m(東側)の距離にある。		●		B			
T01-021	クロマツ	11.0	207	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○				○				有	無	スタブカット(切り残し枝)が数か所あり。 葉量がやや疎である。 ネットフェンス、テニスコート基礎に接触(西側)している。 根鉢確保がかろうじて可能、樹形維持可能。		●		B			
T01-022	シダレザクラ	5.5	71	3.5	–	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 断幹されており(枯れ下がり)、樹形に乱れがある。		●		B			
T01-023	クロマツ	15.0	180	8.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.60	A	○			○					無	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
T01-024	クロマツ	10.0	128	4.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		B			
T01-025	クロマツ	15.5	190	7.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.90	B	○					○			有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 擬木柵が1.1m(東側)の距離にある。 幹芯から電柱までの離隔距離1.1m。樹高高く場内移植ならば移植できる。剪定不可。		●		A			
T01-026	アカマツ	9.5	141	7.0	–	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.10	B		○		○					有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 H2.3m(西側)に大枝のスタブカット(切り残し枝) φ20×L40cmあり。 樹幹傾斜(大)(北側)あり。 ネットフェンスが0.9m(西側)の距離にある。		●		B			
T01-027	クロマツ	12.0	117	6.0	–	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 東側に枝が少ない。 スタブカット(切り残し枝)による枯損枝が数か所あり。 ネットフェンスが1.0m(西側)の距離にある。		●		B			
T01-028	モチノキ	3.5	22	2.0	–	2.5	2.5	1.0	2.5	1.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.15	B			○					○	無	大	樹木番号T01-029ヒトツバタゴに近接(0.2m)する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-029	ヒトツバタゴ	10.0	113	4.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 大枝付け根に入り皮あり。		●		A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名		テニス場北コート																調査日			2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日														
樹木番号	樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
		樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-030	カラタネオガタマ	5.5	61	4.0	-	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○		○					有	大	擬木柵が0.9m(東側)の距離にある。		●		A			
T01-032	カラタネオガタマ	6.0	2本立	4.0	35,20	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○						○	有	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹の相互接触あり。 樹木番号T01-033シダレザクラに近接する為、移植不可。 擬木柵が0.9m(東側)の距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
T01-033	シダレザクラ	10.0	127	6.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A	○			○					有	中	根元・幹に打診音異常(小) H0.0～0.5mあり。 H4.5mの位置でクロマツ(西側)とケーブリングされている。 フェンスが1m(西側)の距離にある。		●		A			
T01-034	エゴノキ	6.0	31	5.0	-	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	2.5	2.0	1.0	1.80	B		○		○					有	大	擬木柵が0.9m(東側)の距離にある。		●		B			
T01-035	サザンカ	4.5	25	3.0	-	2.0	2.0	1.5	2.5	1.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.80	B		○		○					無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		B			
T01-036	モミジ	6.0	4本立	6.0	42,35,16,13	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.65	A		○		○					有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 擬木柵が1.1m(東側、南側)の距離にある。		●		A			
T01-037	シイノキ	9.5	214	7.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.15	B	○							○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.0mあり。 大枝に剪定痕からの腐朽(大)が数か所あり。 植栽桝は八角形(内幅1.3m)である。 H6.0mの位置でクロマツ(北側)とケーブリングされている。 樹形が刈り込み剪定された状態にある。 SHAKE SHACKの店外フロアが幹H1.2mの位置にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-038	イチョウ	9.0	4本立	6.0	206,184,161,124	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.30	B	○							○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 株立ちの1本(C184cm) 幹4本がH7.0mで切断され、萌芽した状態にある。 植栽桝は八角形(内幅1.3m)である。 SHAKE SHACKの店外フロアが幹H1.0mの位置にある。		移植検討		B			
T01-039	ハナミズキ	6.5	45	3.0	-	2.5	2.5	4.0	2.5	3.0	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.35	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元・幹(東側)に開口空洞・腐朽(大) 200×10×8/16(芯達)あり。幹 H1.5m(西側)に腐朽 20×8×5あり。 小枝の枯れが多数あり。 幹折れの危険性あり、撤去の検討が必要。 縁石が1.0m(建物寄り)の距離に近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-040	ハナミズキ	5.5	29	2.5	-	3.0	3.0	4.0	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。根元にくびれあり。 根元に揺らぎ(小)あり。 根元・幹に樹皮枯死・腐朽 280×5×5/8(芯達)、溝腐れ症状(大)あり。 小枝の枯れが多数あり。 縁石が1.0m(建物寄り)の距離に近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-041	ハナミズキ	5.5	44	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○				○		有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹芯から電灯までの離隔距離0.45m、側溝までの離隔距離0.5m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-042	ハナミズキ	5.5	37	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○		○					有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 隣木クロマツの被圧あり。 U型側溝と縁石が0.7m(西側)の距離にある。		●		B			
T01-043	ヒトツバタゴ	12.0	4本立	7.0	133,130,118,67	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B	○				○				有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 4本立ちの内 1本(C118)が、1.7m(φ30cm)にて断幹、枯損している。 幹分岐部に入り皮(大)、腐朽あり。 幹2本(C133, C67)に打診音異常(小) H08～2.0mあり。 幹(南側)に開口空洞 35×11×12、巻込み(良)あり。 擁壁が1.0mの距離にある。		●		B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名		テニス場北コート																調査日			2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日															
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-044		サンゴジュ	4.0	29	1.5	-	3.5	3.5	2.5	3.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.75	C			○					○	有	大	ブロック塀に近接する。 隣接するカイヅカイブキから被圧(大)。 物置の屋根に接触している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
T01-045		カイヅカイブキ	5.0	40	1.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 裏側の枝が全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-046		カイヅカイブキ	5.5	38	1.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 裏側の枝が全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-047		カイヅカイブキ	5.5	40	1.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 裏側の枝が全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-048		カイヅカイブキ	5.5	40	1.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 裏側の枝が全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-049		カイヅカイブキ	5.0	46	1.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 裏側の枝が全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-050		カイヅカイブキ	6.0	55	1.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 裏側の枝が全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-055		シイノキ	8.5	195	6.0	-	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.80	B	○							○	有	無	巻き根(大)あり。 幹とブロック塀が接触している。 塀に接して生育している為、移植不可である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-056		トウカエデ	11.5	189	8.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○				○				有	無	擁壁(H2.5m)が1.5mの距離にある。 砂置場とボール倉庫の間に位置する。 施設撤去で根鉢確保は可能である。樹形良好、維持可能。		●		A			
T01-057		ヒマラヤスギ	13.0	158	6.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B	○				○				有	無	径1.2mの縁石に囲まれた植栽帯に位置する。 周囲がコンクリート舗装されている。 建物が1.5mの距離にある。 適度な剪定が行われており、移植に適している。周辺の舗装を剥いで根鉢を確保することで移植ができる。		●		B			
T01-058		トウカエデ	14.0	188	7.0	-	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○					○		有	小	H2.0m(南側)に開口空洞 20×20、巻込み(良)あり。 H0.5m(西側)にコフキサルノコシカケ(大)の発生あり。 露出根(中)あり。隣木ケヤキの被圧(小)あり。 縁石が0.8mの距離にある。小屋より1.3mの距離にある。 樹勢はやや良で回復傾向にあるが、キノコあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
T01-059		ケヤキ	15.0	163	7.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 コンクリート土間が0.6m(南側)の距離にあり、近接している。 樹形に乱れあり、下枝も高い。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-060		ケヤキ	14.0	165	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	無	階段が0.7m(北側)の距離にあり、近接している。 強剪定後の萌芽状態にあり、樹形の維持が難しい。 幹芯から階段までの離隔距離0.7m、受電盤までの離隔距離1.0m、フェンスに接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名			テニス場北コート				調査日	2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-061		ケヤキ	18.0	246	8.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	無	H3.0m(南側)にスタブカット(大)(切り残し枝) L35cm、腐朽あり。 建物が2.2m(東側)の距離にある。 根元(北側)にベッコウタケ(幼菌)の発生あり。 幹芯から照明盤基礎までの離隔距離0.7m、給水タンクまでの離隔距離1.2m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-062		ウバメガシ	5.5	60	4.0	－	2.5	3.0	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.60	C			○					○	有	無	H0.0～2.3m(西側)に溝腐れ(大) 幅25cm、打音異常あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
T01-063		ケヤキ	18.0	183	10.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	小	強剪定後の萌芽が伸長して、樹形が回復傾向にある。 ポンプ室が1.5m(東側)の距離にある。 幹芯から空調機基礎までの離隔距離0.9m、ポンプ室までの離隔距離1.7m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
T01-065		クロマツ	11.0	2本立	7.0	108,88	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.05	B			○					○	無	中	根元(南側)に腐朽、打音異常、巻込み(弱)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-066		サンゴジュ	3.6	38	2.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.85	C			○					○	無	小	樹形・樹勢ともに不良である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
T01-067		モミジ	5.0	106	5.5	－	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.85	B		○		○					有	大	ブロック塀が0.6m(北側)の距離にある。移植に際して塀を壊すことで適正根鉢確保可能。 ヒトツバタゴを被圧(大)している。		●		B			
T01-069		シャラノキ	4.0	2本立	2.5	30,28	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	無			●		A			
T01-070		モクセイ	3.5	7本立	2.5	26,23,20,18,18,15,14	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.10	B			○					○	有	無	裏側の枝が無い列植の刈り込み樹形で、単木では移植樹として適さない。構造物隣接。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-071		モクセイ	3.5	3本立	1.5	26,25,22	3.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.0	1.5	1.5	2.45	B			○					○	有	無	裏側の枝が無い列植の刈り込み樹形で、単木では移植樹として適さず、構造物隣接。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-077		ケヤキ	15.0	306	12.0	－	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A	○					○			無	無	建物が0.6mの距離にあり、やや片根の変形根鉢となるが、移植のための根鉢確保可能。			●	A			
T01-079		モクセイ	3.0	7本立	1.5	23,19,7,14,11,11,10	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.00	B		○		○					無	無	列植された刈り込み樹形である。			●	B			
T01-080		モクセイ	3.0	5本立	1.5	23,17,15,15,13	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.05	B		○		○					無	無	列植された刈り込み樹形である。			●	B			
T01-081		モクセイ	3.3	5本立	1.5	41,38,17,13,11	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.00	B		○		○					無	無	列植された刈り込み樹形である。			●	B			
T01-082		モクセイ	3.1	5本立	1.8	30,26,24,22,20	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○		○					無	無	列植された刈り込み樹形である。			●	B			
T01-083		モクセイ	3.1	5本立	2.0	34,32,29,23,20	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○		○					無	無	列植された刈り込み樹形である。			●	B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			テニス場北コート															調査日				2023 年　5 月　24 日　～　2023 年　5月　24 日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備　考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-084		ヒトツバタゴ	3.5	3本立	3.0	17,15,11	1.5	1.5	0.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.35	A	○			○					有	無	樹勢は良好。 記念樹である。 縁石に囲まれた植栽帯 1.2m×1.6m内に位置する。		●		A			
T01-085		トウカエデ	12.0	258	8.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.00	A	○							○	有	無	建物が1.0mの距離にある。 デッキ(H1.15m)に囲まれている。 地山から1.15m下にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
T01-086		トウカエデ	12.0	178	6.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.0	1.80	B	○				○				有	無	デッキ(H1.15m)に囲まれている。幹芯から歩道(デッキ外)までの離隔距離1.7m。 樹形の維持は可能。デッキを壊すことで根鉢確保が可能だが、根鉢が大きく場内移植。 ※根元周囲長は目通りからの推測値、土壌硬度は計測不可(根元はデッキ下にある)		●		B			
T01-087		シダレザクラ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	枯死している。	－	－	※	C			
T01-088		ヤエザクラ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	枯死している(切株なし)。	－	－	※	C			
T01-089		シイノキ	13.0	245	10.0	－	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.70	A	○					○			有	無	大木であるが、傷が少なく、移植に向けた剪定での樹形維持は可能である。 幹芯からパーゴラ基礎までの離隔距離0.7m。根鉢が大きく場内移植。		●		B			
T01-090		ウバメガシ	7.5	84	3.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.15	B		○		○					無	小	樹勢は良好。 中枝に腐朽あり。切除の必要あり。		●		B			
T01-091		クロマツ	14.5	143	6.0	－	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○						○	無	小	下枝が非常に高く(下枝高 H9.0m)、移植に伴う剪定をすると幹状となり、移植後の回復が困難。		●		B			
T01-092		モミジ	6.0	4本立	3.5	39,28,25,17	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○			○				無	小	幹芯から隣木(T01-091クロマツ)までの離隔距離1.1mだが、根鉢確保は可能であり、移植はできる。		●		A			
T01-093		ウバメガシ	7.5	106	3.0	－	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.50	B			○					○	無	大	隣木のシイを被圧している。 双幹の南側が枯死し断幹されている。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-094		ノウゼンカヅラ	3.5	19	2.5	－	3.0	3.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○					○	無	大	パーゴラの隅に位置する。 ツル植物であり、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-095		ノウゼンカヅラ	3.2	12	2.5	－	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.35	B			○					○	有	大	パーゴラの基礎に接触している。 ウバメガシを被圧(大)している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-096		ノウゼンカヅラ	3.3	20	3.0	－	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	大	パーゴラの基礎に接触している。 シイノキからの被圧(大)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-097		ノウゼンカヅラ	3.5	2本立	3.0	17,10	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	大	パーゴラの基礎に接触している。 シイノキからの被圧(大)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-099		クロマツ	14.0	182	6.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○				○			有	無	テニスコート内に位置する。 フェンスに接触しているが、移植のための根鉢確保可能。	●			B			
T01-100		ケヤキ	7.0	131	6.5	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○						○	有	小	ブロック塀と擁壁の際にあり、移植は困難である。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名		テニス場北コート																調査日				2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-101		クロマツ	11.0	116	4.0	－	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○						○	有	小	小屋際に位置し、周囲が舗装されているため、移植は困難である。	●			B			
T01-102		メタセコイア	18.5	254	8.0	－	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○							○	有	無	小屋と擁壁の間にあり、移植は困難である。	●			A			
T01-103		カイヅカイブキ	3.7	48	1.2	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-104		カイヅカイブキ	3.8	54	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-106		カイヅカイブキ	3.7	51	1.2	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-108		カイヅカイブキ	3.8	53	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-110		カイヅカイブキ	3.8	54	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-111		カイヅカイブキ	3.8	58	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-112		カイヅカイブキ	3.8	50	1.8	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-113		カイヅカイブキ	3.5	51	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-114		カイヅカイブキ	4.0	55	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-115		カイヅカイブキ	3.5	56	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-116		カイヅカイブキ	3.5	55	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-117		カイヅカイブキ	3.5	59	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-118		カイヅカイブキ	3.5	63	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-119		カイヅカイブキ	3.5	51	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名			テニス場北コート				調査日	2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-120		カイヅカイブキ	3.8	58	1.8	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-121		カイヅカイブキ	3.8	50	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-122		カイヅカイブキ	3.8	57	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-123		カイヅカイブキ	3.8	54	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-124		カイヅカイブキ	3.8	49	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-125		カイヅカイブキ	3.8	53	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-126		カイヅカイブキ	3.8	52	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-127		カイヅカイブキ	3.8	51	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-128		カイヅカイブキ	3.8	54	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-129		カイヅカイブキ	3.8	53	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-130		カイヅカイブキ	3.8	52	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-131		カイヅカイブキ	3.8	54	1.8	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-132		カイヅカイブキ	3.8	55	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-133		カイヅカイブキ	3.8	55	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-134		カイヅカイブキ	3.8	54	1.8	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-135		カイヅカイブキ	3.8	50	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名: テニス場北コート　調査日: 2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-136		カイヅカイブキ	3.5	53	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-137		カイヅカイブキ	3.8	56	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-138		カイヅカイブキ	3.8	47	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-139		カイヅカイブキ	3.8	50	1.8	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-140		カイヅカイブキ	3.8	43	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-141		カイヅカイブキ	3.8	43	1.2	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-142		カイヅカイブキ	3.8	42	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-143		カイヅカイブキ	3.8	39	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-144		カイヅカイブキ	3.8	41	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-145		カイヅカイブキ	3.8	40	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-146		カイヅカイブキ	3.8	41	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-147		カイヅカイブキ	3.8	45	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-148		カイヅカイブキ	3.8	41	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-149		カイヅカイブキ	3.8	39	1.8	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-150		カイヅカイブキ	3.8	42	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-151		カイヅカイブキ	3.8	40	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名			テニス場北コート				調査日		2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日																											
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-152		カイヅカイブキ	3.8	38	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-153		カイヅカイブキ	3.8	39	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-154		カイヅカイブキ	3.8	38	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-155		カイヅカイブキ	3.8	39	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-156		カイヅカイブキ	3.8	40	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-157		カイヅカイブキ	3.8	42	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-158		カイヅカイブキ	3.8	42	1.8	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-159		カイヅカイブキ	3.8	39	1.8	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-160		カイヅカイブキ	3.8	41	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-161		カイヅカイブキ	3.2	35	1.0	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-162		カイヅカイブキ	3.2	30	1.0	－	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.50	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-163		カイヅカイブキ	3.1	30	1.0	－	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.45	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-164		カイヅカイブキ	2.8	25	1.0	－	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.45	B			○					○	有	中	樹高が3m以下である。 刈り込み剪定されている。下枝が高く樹冠が小さい。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-165		カイヅカイブキ	2.7	19	1.0	－	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.45	B			○					○	有	中	樹高が3m以下である。 刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 南側に倉庫があり、伸長できない状態にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-167		カイヅカイブキ	2.9	30	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.35	B			○					○	有	中	樹高が3m以下である。 刈り込み剪定されている。下枝が高く樹冠が小さい。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に列植されている。 南側に倉庫があり、伸長できない状態にある。片枝樹形である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

樹木番号		樹種名	規格: 樹高(m)	規格: 幹周(cm)	規格: 葉張(m)	規格: 株立ち幹周	活力度: 樹形	活力度: 樹勢	活力度: 大枝幹の欠損・傷	活力度: 枝伸長量	活力度: 梢端の枯損	活力度: 枝葉の密度	活力度: 葉形	活力度: 葉の大きさ	活力度: 葉色	活力度: ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性: 高	保存の必要性: 中	保存の必要性: 低	移植: 可	移植: 難 A	移植: 難 B	移植: 難 C	移植: 不可	参考項目: 根元構造物	参考項目: 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由: STEP1 重点対策外来種	伐採理由: STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由: STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
エリア名		テニス場室内コート・御台場西(T02-126以降)					調査日	2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日																												
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T02-001		ヒメシャラ	4.0	17	2.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	中	マンホールと建物が0.3mの距離にあり、近接している。 建物の陰に位置している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-002		ヒメシャラ	5.5	2本立	3.0	21,19	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	有	小	建物の陰に位置している。 マンホールと擁壁が約0.3mの距離にあり、近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-003		ヒメシャラ	5.5	2本立	2.0	26,9	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	建物の陰に位置している。 建物が0.4mの距離にあり、近接している。		●		B			
T02-004		ヒメシャラ	5.5	4本立	2.0	22,21,14,14	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					有	中	建物の陰に位置している。 建物が0.4mの距離にあり、近接している。		●		B			
T02-005		ヒメシャラ	5.0	3本立	2.0	21,13,11	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	建物の陰に位置している。 建物が0.4mの距離にあり、近接している。		●		B			
T02-066		カイヅカイブキ	4.5	43	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-067		カイヅカイブキ	4.5	40	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-068		カイヅカイブキ	4.5	38	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-069		カイヅカイブキ	4.5	38	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-070		カイヅカイブキ	4.5	35	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-071		カイヅカイブキ	4.5	41	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-072		カイヅカイブキ	4.5	45	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-073		カイヅカイブキ	4.5	44	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-074		カイヅカイブキ	4.5	36	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-075		カイヅカイブキ	4.5	40	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名：テニス場室内コート・御台場西（T02-126以降）　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T02-076	カイヅカイブキ	4.5	42	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-077	カイヅカイブキ	4.5	46	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-078	カイヅカイブキ	4.5	44	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-079	カイヅカイブキ	4.5	42	1.5	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-080	カイヅカイブキ	4.5	42	1.5	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-081	カイヅカイブキ	4.5	48	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-083	カイヅカイブキ	4.5	57	1.5	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 駐車場脇のU字溝が1.3mの距離にある。建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-084	カイヅカイブキ	4.5	55	1.5	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 駐車場脇のU字溝が1.3mの距離にある。建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-085	カイヅカイブキ	4.5	57	1.5	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 駐車場脇のU字溝が1.3mの距離にある。建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-086	カイヅカイブキ	4.5	51	1.5	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 駐車場脇のU字溝が1.3mの距離にある。建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-089	サクラ	8.0	89	4.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.80	B		○						○	有	中	マンホールと設備機器に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-090	モクセイ	2.9	29	3.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○	有	中	コンクリート舗装が0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-091	モクセイ	2.7	4本立	3.0	19,19,18,17	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から1mの距離にある。 H2.5程度で剪定、樹形不良移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-092	モクセイ	2.6	3本立	2.0	25,20,18	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から1mの距離にある。 H2.5程度で剪定、樹形不良移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-093	モクセイ	2.6	4本立	2.0	13,12,12,9	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から1mの距離にある。 H2.5程度で剪定、樹形不良移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
T02-094	モクセイ	2.7	3本立	3.0	18,14,14	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から1mの距離にある。 H2.5程度で剪定、樹形不良移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名	テニス場室内コート・御台場西（T02-126以降）	調査日	2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T02-095	モクセイ	2.6	4本立	2.0	36,15,10,10	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から1mの距離にある。 H2.5程度で剪定、樹形不良移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-096	モクセイ	2.6	5本立	1.5	22,16,13,13,8	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から1mの距離にある。 H2.5程度で剪定、樹形不良移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-100	モクセイ	2.5	4本立	1.0	16,16,16,9	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-101	モクセイ	2.5	3本立	2.3	18,17,9	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-102	モクセイ	2.6	3本立	1.7	14,13,12	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-103	モクセイ	2.5	4本立	1.7	18,15,12,11	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-104	モクセイ	2.5	3本立	1.5	16,12,10	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-106	ヒトツバタゴ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	B			
T02-107	トウネズミモチ	6.0	2本立	5.0	63,46	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	大	ぶつ切り剪定されている。 ベッコウタケ様の発生あり。 シイノキからの被圧(大)あり。 擬木柵が0.6mの距離にある。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
T02-109	シイノキ	13.0	2本立	10.0	241,65	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B	○							○	有	無	根元(東側)に開口空洞(大) 25×5×12 巻込み(良)あり。 根元にキノコ(種不明)の発生あり。 大枝(南側)にスタブカット(切り残し枝)・腐朽 φ18×L40 巻込み(弱)あり。 縁石が1.0mの距離にある。柵が1.4mの距離にあり、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-110	シイノキ	11.0	219	10.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○				○			有	無	根元(東側)に開口空洞があるが、移植に問題はない。 高さH2.5m(西側)に剪定痕からの腐朽 18×18あり。 擬木柵に近接している。 枝張りが大きいが場内移植ならば移植できる。		●		B			
T02-111	シイノキ	10.0	190	8.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	小	大枝下部(南側)に溝腐れ L300cmにわたりあり。上部のスタブカット(切り残し枝)に背着生キノコあり。 傷などの被害が多く、移植後の樹勢維持が困難。フェンスが近接。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T02-112	モチノキ	4.5	2本立	3.0	47,35	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	大	幹に樹皮欠損・腐朽(中)あり。 縁石に近接しており、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
T02-113	シイノキ	8.0	173	4.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	小	擬木柵に近接している。 根元・幹に樹皮枯死、打診音異常(大)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T02-114	モミジ	5.0	2本立	4.0	71,29	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○			○				無	小	樹幹傾斜あり。 樹木番号T02-115ヒトツバタゴに近接している。 樹形の維持は可能である。		●		B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名	テニス場室内コート・御台場西(T02-126以降)	調査日	2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T02-115	ヒトツバタゴ	7.0	100	4.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					有	小	梢端部が剪定されて、萌芽状態にある。 スタブカット(切り残し枝)が数か所あり。 フェンスが1.5mの距離にある。根鉢確保可能。		●		B			
T02-116	カイヅカイブキ	4.0	47	1.5	−	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	有	小	縁石が1.3mの距離にある。裏枝が日照不足で枯れており、移植後の回復不可能。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T02-117	カイヅカイブキ	4.0	44	1.5	−	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	有	小	縁石が1.3mの距離にある。裏枝が日照不足で枯れており、移植後の回復不可能。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T02-118	ヒトツバタゴ	4.5	49	3.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	大	ぶつ切り剪定されている。 傾斜木であり、幹が曲がっている。 根元の揺らぎ(小)あり。 フェンスが1.3mの距離にある。 被圧と曲がりがあり、移植後の健全な状態への回復が見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T02-119	シイノキ	9.0	204	12.0	−	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○			○			有	無	幹に開口空洞、打診音異常 H1.0～2.0m(大)があるが、移植に問題はない。 フェンスが1.3mの距離、電柱が1.5mの距離にある。 枝張りが大きいが場内移植ならば移植できる。		●		B			
T02-122	ネズミモチ	8.0	48	3.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	大	マンホールが0.3mの距離に、コンクリート基礎が1.1mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-123	ネズミモチ	8.0	39	3.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	大	コンクリート基礎が1.1mの距離にある。下枝高く、122,123,124の根鉢近接で移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-124	ネズミモチ	8.0	59	3.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	大	コンクリート基礎が1.1mの距離にある。下枝高く、122,123,124の根鉢近接で移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-125	ヒメシャラ	6.0	31	3.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	小	コンクリート園路から1.0mの距離にある。 イチョウ(東側)と建物による被圧あり。		●		B			
T02-126	イチョウ	16.0	2本立	15.0	282,210	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○							○	有	無	双幹の南側の幹H2.2mに開口空洞 10×5×7あり。また、その下部に打音異常あり。 大枝(北側)H3.0mにスタブカット(枯損)(切り残し枝)φ12cm,L=35cmあり。また、その下部に打音異常あり。 擁壁に北・東・西側を囲まれている(距離1.3m～1.5m)。	●			A			
T02-127	ネズミモチ	4.0	2本立	3.0	46,27	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	大	ぶつ切り剪定されている。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
T02-128	ネズミモチ	4.0	37	2.0	−	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.45	B			○					○	有	大	ぶつ切り剪定されている。 根元(北側)H0.0m～0.3mに腐朽 30×10あり。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
T02-129	トウネズミモチ	4.0	3本立	3.0	22,21,14	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.55	C			○					○	有	大	ぶつ切り剪定されている。 フェンスが1.5mの距離にある。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
T02-130	トウネズミモチ	4.0	41	3.0	−	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	大	高さH1.5mで断幹されている。 擁壁が1.5mの距離にある。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	C	●		
T02-131	ネズミモチ	5.0	2本立	4.0	57,39	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	高さH3.0mで断幹されている。 根元に入り皮 L60cmあり。 フェンスが1.0mの距離に、マンホールが1.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名			テニス場室内コート・御台場西（T02-126以降）												調査日		2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日																	伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T02-133		マテバシイ	8.0	135	7.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○	有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。巻き根(中)あり。 枝にてんぐ巣の症状あり。 擁壁が2.2mの距離にある。石垣の上に位置する。	●			B			
T02-134		マテバシイ	9.0	141	9.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.20	B			○					○	有	小	幹(南側)H3.0mに開口空洞 13×13 巻込みあり。 ひこばえが多数あり。 擁壁が2.5mの距離にある。 石垣の上に位置する。	●			B			
T02-135		マテバシイ	5.0	160	4.0	–	4.0	3.5	4.0	3.0	4.0	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	3.00	C			○					○	有	中	根元にコフキタケの発生あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 露出根が多数あり。巻き根(中)あり。ひこばえが多数あり。 石積みから1.8mの距離にある。石垣の上に位置する。 大枝に剪定痕・腐朽、剪定こぶが多数、てんぐ巣症状あり。 大枝の枯損が多数あり、緊急切除の必要あり。	●			B			
T02-136		ヤマモモ	7.0	100	6.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B	○			○					有	小	コンクリート基礎(φ120cm)が0.6mの距離にある。 石垣の上に位置する。	●			B			
T02-137		ヤマモモ	7.0	103	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B	○			○					有	小	目立った傷は見当たらない。	●			B			
T02-138		ヤマモモ	7.0	89	6.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B	○						○		無	小	幹H2.5mに開口空洞・腐朽 40×40×10 巻込み(弱)あり。 幹に打診音異常(大) H2.0mあり。 幹折れの可能性あり。	●			B			
T02-139		ヤマモモ	7.0	107	5.0	–	2.0	3.0	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B	○			○					無	小	葉量がやや疎である。	●			B			
T02-140		マテバシイ	8.0	2本立	10.0	100,88	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	2.15	B			○					○	有	小	幹3本の内、1本は高さH0.3mにて断幹されている。 幹分岐部に入り皮あり。 露出根が多数あり。ひこばえが多数あり。 石積みから2.7mの距離にある。 樹幹傾斜(大)あり、移植後の健全な状態の維持は困難。	●			C			
T02-141		マテバシイ	3.5	2本立	4.0	178,20	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	2.05	B			○					○	無	小	幹3本共に高さH3.0m程度で断幹されている。 ルートカラー(地際の根張り)が見えない。ひこばえが多数あり。 主幹(C178cm)が枯死しており、細い副幹とひこばえの樹形である。	●			C			
T02-142		マテバシイ	8.0	2本立	6.0	111,95	3.0	2.0	3.5	3.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.55	C			○					○	有	小	3本立の内、西側の1本が枯損し、H1.7mで断幹φ40cmされている。 樹幹傾斜(大)あり。巻き根(中)あり。幹分岐部に入り皮あり。 ひこばえが多数あり。 石積みから1.7mの距離にあり、移植時の根鉢確保困難。	●			C			
T02-143		アラカシ	3.5	5本立	2.0	15,13,10,8,8	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	2.05	B			○					○	有	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 隣接するマテバシイに接触している。 高さH1.8mで梢端切除されている。 石積みから1.8mの距離にある。	●			C			

既存樹木調査結果一覧

エリア名	建国記念文庫	調査日	2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
KE-001		ヤエザクラ	7.5	85	6.0	－	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.25	B			○					○	有	中	幹に打音異常 H0.0m～1.2mあり。 開口空洞 15×18×40/40(貫通)あり。 根元の穴に前回調査ではベッコウタケの子実体が確認されたが今回は消失。 樹幹傾斜あり。 枯枝(西側H4.5), φ10, L=2.0mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-002		ヤエザクラ	10.0	134	9.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	無	幹芯から歩道縁石までの離隔距離1m。 樹勢普通であるが、剪定による移植後の樹形維持可。フェンス等構造物撤去により、移植はできる。 根回し時の歩道使用が必要。			●	A			
KE-003		ヤエザクラ	10.5	2本立	10.0	155,91	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			有	無	幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.1m。 樹勢普通であるが移植後の樹形維持可。フェンス等構造物撤去により、移植はできる。 根回し時の歩道使用が必要。			●	B			
KE-004		ヤエザクラ	10.0	2本立	8.0	108,75	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○				○		有	無	幹H1.2mに開口空洞 10×10×15あり。 高さH1.2mに入り皮あり。 ぶつ切り剪定痕からの腐朽(中)あり。 幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.1m。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-005		ヤエザクラ	4.5	90	3.5	－	3.5	3.5	3.5	2.5	3.0	3.5	2.0	2.0	1.5	1.0	2.60	C			○					○	有	中	幹に打音異常 H0.5m～1.5mあり。 大枝(南側下部)に腐朽(大)あり。 樹冠上部の枯死、樹形・樹勢は不良である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-006		トウネズミモチ	3.3	2本立	2.0	39,28	2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	大	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
KE-007		シイノキ	8.5	184	9.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○				○		有	無	幹に打音異常 H0.5m～1.2mあり。 枝の分布に偏り(道路側)あり。腐朽、損傷も多い。 移植後の樹形・樹勢の維持が困難。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.6m。フェンスは撤去可能。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-008		シイノキ	8.5	161	9.0	－	2.5	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	無	根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.0mあり。 根元にカンゾウタケの発生あり。 大枝(南側)に腐朽(大)あり。大枝に剪定痕からの腐朽あり。 大枝(H5.3m)に腐朽枝 φ20, L=0.8mあり。 樹冠に偏り(道路側)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-009		シイノキ	7.0	56	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	大	幹(H2.5m)に開口空洞 18×13×5/25あり。		●		B			
KE-010		ケヤキ	21.0	2本立	18.5	266,169	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B	○					○			無	無	根元に入り皮、巻き根が多数あり(切断処置済)。 樹皮にコルク質の異常が、多数あり。 大枝(西側)H2.0mに腐朽(中)あり。 移植時に細い株は切断。上部剪定では樹形不良。		●		A			
KE-011		シイノキ	7.5	78	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B		○		○					無	大	大枝(西側)に腐朽(小)あり。		●		B			
KE-012		シイノキ	7.5	71	5.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B		○		○					無	大	幹(H2.0m)に開口空洞20×10×12/30あり。 移植に際しては問題ない状態である。		●		B			
KE-013		シイノキ	7.0	115	6.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	大	樹冠傾斜あり。 根元(南H0.2m)に開口空洞 30×6×10あり。 幹(南H0.6m)に開口空洞 15×5×4あり。 幹(南H1.4m)に開口空洞 23×7×25(芯達)あり。 幹(南H2.5m)に開口空洞 25×8×25(芯達)あり。 幹(北H1.0m)に開口空洞 8×3×25/35(芯達)あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.5mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

エリア名	建国記念文庫	調査日	2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	活力度 平均評点	活力度 評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
KE-014		トウカエデ	15.0	127	6.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○			○				無	大	根元に敷き藁の養生あり。 被圧樹形(現状剪定の必要なし)。上部剪定でも樹勢、枝葉回復力高い種である。		●		B			
KE-015		シイノキ	7.0	138	8.0	－	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	大	根元・幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 幹(南H0.9m)に開口空洞 25×6×25/33(芯達)あり。 幹(北H1.0m)に開口空洞25×13×12/45あり。 幹(東H1.4m)に開口空洞7×10×25/40(芯達)あり。 大枝に剪定痕からの腐朽(中)が3箇所あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-016		シラカシ	19.0	171	9.0	－	2.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○				○			無	無	幹(西側)H1.5mに開口空洞 100×3×30/48(芯達)あり。 幹に打診音異常H0.5～2.0mあり。 上記あるが、移植はできる程度である。		●		B			
KE-017		ケヤキ	18.5	136	12.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			無		被圧による枝枯れ(小)あり。 根元に敷き藁の養生あり。 上部剪定で樹形の維持が困難。		●		A			
KE-018		フウ	21.0	200	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			無	無	剪定こぶが多数あり。 上部剪定で樹形の維持がやや難。		●		A			
KE-019		フウ	22.0	185	8.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○				○			有	無	被圧により、片枝樹形である。 移植に向けた剪定で適正樹形の維持がやや困難(12mまで下枝なし)。太い露出根(北側)あり。 幹芯から歩道縁石までの距離1.55m(北側)、1.9m(東側)。		●		A			
KE-020		シイノキ	12.5	120	7.5	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○			○				無	無	大枝に剪定痕からの腐朽(中)が多数あり。 幹(南H1.4m)に開口空洞3×3×12/40あり。 根元・幹に打音異常 H0.0m～1.5mあり。 移植剪定後の樹形維持が可能。		●		B			
KE-021		トウカエデ	16.0	137	6.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○			○				無	無	露出根に樹皮欠損・腐朽あり。 幹(北H2.1m)に開口空洞20×15×12/45あり。 ぶつ切り剪定されている。 上記あるが、移植はできる程度である。		●		B			
KE-022		クヌギ	20.0	224	11.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			無	無	ぶつ切り剪定されている。 幹に肥大部あり、打診音異常H0.5～1.5mあり。 上記あるが、移植はできる程度である。		●		B			
KE-023		クロマツ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	枯死している。	－	－	※	B			
KE-024		シイノキ	7.5	110	8.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	無	中	高さH5.0mにて断幹されている。 幹H1.0mに開口空洞 7×5×32/35(芯達)あり。 幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-025		ケヤキ	18.0	215	20.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B	○					○			有	無	高さH3.0mにて断幹されている。 深植え状態にある。 枯枝(H8m) φ10, L=5.0mあり。 上部剪定で適正樹形の維持が困難(H3.0mで断幹され、そこから伸長した双幹状の樹形)。 幹芯から柵までの離隔距離0.5m。		●		B			
KE-026		クスノキ	13.5	103	7.0	－	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B		○			○				無	無	下枝が高い。 枯枝(西H7m) φ6, L=1.2mあり。被圧による下枝の枯れ多数あり。 クスは萌芽力高く樹形回復力ある。		●		B			
KE-027		シイノキ	10.5	209	12.0	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.25	B			○				○		無	有	幹(南H1.2m)に開口空洞 6×6×40/80(芯達)あり。 幹(南H0.4m)に開口空洞 20×20×25あり。 大枝の下部に腐朽が数か所あり。 移植に向けた剪定で適正樹形の維持が困難(樹幹傾斜および枝の分布に極端な偏り(道路側)あり)。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

エリア名		建国記念文庫																調査日			2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日															
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
KE-028		サンゴジュ	3.0	2本立	2.5	23,19	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○		○					無	大	–		●		B			
KE-031		クスノキ	15.5	246	10.0	–	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○				○			有	無	根元がフェンスにくい込んでいる。 フェンス撤去により根鉢確保が可能。 クスは萌芽力あり。 樹木番号KE-033ケヤキによる被圧により片枝樹形である。		●		B			
KE-032		クロマツ	11.5	97	6.0	–	3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○				○		無	無	樹木番号KE-032ケヤキによる被圧により片枝樹形である。 下枝高く、道路側へ大きく傾斜しており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-033		ケヤキ	20.0	227	20.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			無	無	樹冠が大きく、立派である。 上部剪定で樹形の維持が困難、ケヤキらしさがなくなる。		●		B			
KE-034		ケヤキ	13.0	190	15.0	–	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.15	B			○					○	無	大	大枝に開口空洞 400×25あり。 深植え状態にある。 周辺木からの被圧(大)あり。 枯枝(北H5.0m) φ20、L=3.5mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-035		シラカシ	17.5	186	15.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B	○					○			無	無	幹(H1.5m)に閉塞痕あり。 大枝分岐部(H2.2m)に入り皮あり。 上部剪定でも樹形の維持が可能。		●		B			
KE-036		シイノキ	14.5	207	13.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○				○			無	無	大枝(南側)に腐朽(大)、打音異常(大)あり。 幹に打音異常(小) H1.0m～2.5mあり。 枯枝(南H9m) φ12, L=7.0mあり。		●		B			
KE-037		ヤエザクラ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	―	―	枯死している。	–	–	※	B			
KE-038		トウカエデ	17.0	160	10.5	–	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○			○				無	無	過去にぶつ切り剪定されている。 枯枝(南H7.5m) φ10, L=10.5mあり。 ほか、被圧による下枝の枯れ多数あり。 上部剪定を行っても樹形の維持が可能。萌芽力が高い。		●		B			
KE-039		ヤエザクラ	7.5	126	8.0	–	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○				○		無	無	樹幹傾斜あり。樹形に乱れあり。 幹H0.5mに開口空洞 1×1×15あり。 断幹痕(H3.0m) 40×40あり。 枯枝(東5.5m) φ15, L=1.0mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-040		イヌグス	10.0	78	7.5	–	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.35	A		○		○					無	小	–		●		B			
KE-041		ヒトツバタゴ	12.0	198	10.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○			○				無	無	大枝に剪定痕からの腐朽が数か所あり。 大枝(南側)に腐朽あり。 移植剪定後の樹形維持が可能。		●		B			
KE-042		ヒトツバタゴ	7.0	48	5.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	大枝に剪定痕からの腐朽が数か所あり。 深植え状態にある。		●		B			
KE-043		ヤマザクラ	10.0	94	6.0	–	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	無	大	ひこばえ、胴吹き枝が多数あり。 下枝が高い。 枯枝(南H6.5m) φ20, L=6.0mあり。 移植後に健全な状態への回復が見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形 (1～4評価)	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形 (1～4評価)	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果 (ABCD)	保存の必要性 高 (該当に○)	中	低	移植 可 (該当に○)	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物 (有無)	片枝・被圧 (大中小無)	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存 (該当に●)	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 (ABCD)	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
KE-044		トウカエデ	18.0	172	8.0	−	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中	フェンスが近接している。 過去に大枝のぶつ切り剪定されている。 ヘデラの登ハンあり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
KE-045		シラカシ	14.0	133	7.5	−	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	大	幹H2.0mに開口空洞 8×8×15あり。 根元がフェンスにくい込んでいる。フェンスが近接している。 ヘデラの登ハンあり。	●			B			
KE-046		シイノキ	11.0	164	9.0	−	2.5	2.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	無	根元H0.1mに開口空洞 80×15(68)×25/45(芯達)あり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～1.8mあり。 大枝付け根に開口空洞 10×10×15あり。 幹に開口空洞(小)が多数あり。 大枝(北西H1.7m)に腐朽あり。 ひこばえが多数あり。 根元の障害が大きい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-047		シイノキ	12.0	191	11.0	−	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	無	大	根元・幹(北側)に開口空洞(大) 170×15×40/50(芯達)あり。 幹内部の空洞が幹上方へ1.0m続いている。 根元にカンゾウタケの発生あり。	●			B			
KE-048		シイノキ	15.5	191	10.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				無	無	幹(北側)H0.7mに開口空洞(小) 5×2×15/60あり。 大枝付け根H3.0mにキノコの発生(種不明)あり。 移植に伴う上部剪定後も樹形の維持が可能。		●		B			
KE-049		ケヤキ	21.0	256	20.0	−	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	無	小	幹H0.6mに開口空洞(大) 230×50×20/70あり。 根元(東側)にキノコの発生(種不明)あり。 鋼棒貫入異常35/110cm以上あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-050		クヌギ	18.0	172	7.0	−	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	小	中央部・下部に大枝がない。 剪定痕の巻込み良好。 枯枝(南西H7.5m) φ30, L=5.0m、枯枝(北H9.0m) φ25, L=3.0mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
KE-051		シラカシ	14.5	133	10.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○				○				無	無	被圧により枝数がやや少ない。 移植後の樹形維持が可能。比較的細い幹。		●		B			
KE-052		シラカシ	14.5	101	6.0	−	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	無	中	片枝樹形である。 幹H0.3mに開口空洞(大) 400×10×20/30(芯達)あり。 ※カシナガ対策で幹の目通り周囲長は測定不可	●			B			
KE-053		サクラ	6.0	26	4.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	大	周辺木からの被圧あり。	●			B			
KE-054		シイノキ	16.0	245	10.0	−	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	大	北側に樹皮欠損(大) 230×15あり。 根元・幹に打診音異常H0.0～2.0mあり。 前回調査において、高さH0.4mにアイカワタケ(ヒラフスベ型)の子実体がみられたが、今回は消失していた。 フェンスが1.0m(北側)の距離にある。	●			B			
KE-055		ツバキ	6.0	46	4.0	−	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	無	中	根元・幹(北側)に開口空洞(大) 147×7×9/15(芯達)あり。	●			A			
KE-056		ケヤキ	22.0	285	18.0	−	1.5	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	無	小	幹H0.8mに開口空洞(大) 120×11×70/70(南北に貫通開口)あり。幹内部の空洞が幹上方へ2.0m続いている。	●			B			
KE-057		ムクノキ	21.0	195	12.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		無	中	根上り(中)あり。 巻き根(大)あり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			A			
KE-058		ケヤキ	20.5	192	10.0	−	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中	樹幹傾斜(小)(北側)あり、片枝樹形である。 移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 フェンスが1.0m(北側)の距離にある。	●			B			

調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

既存樹木調査結果一覧

エリア名			建国記念文庫															調査日			2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日													伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
KE-059		シイノキ	11.0	133	9.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				無	無	幹(北H1.4m)に開口空洞(小) 14×5×15/40あり。 幹に打音異常(中) H0.5m～2.0mあり。 木柵が1.1m(南側)の距離にある。 移植後の樹形維持が可能。		●		B			
KE-060		ケヤキ	22.0	276	20.0	−	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B			○					○	無	小	幹(東側)に開口空洞・腐朽(大) 200×15×40/70(芯達)あり。 空洞内部にコフキサルノコシカケの子実体あり。 巻き根(大)あり。	●			B			
KE-061		コブシ	3.0	62	4.0	−	3.5	3.5	4.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	2.0	1.0	2.70	C			○					○	無	中	断幹痕(H4.0m)からの腐朽が進行している。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～1.5mあり。 枯枝(H2.3m) φ10, L=3.0mあり。	●			B			
KE-062		ケヤキ	19.0	203	15.0	−	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		無	中	被圧により片枝樹形であり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 巻き根(中)あり。	●			B			
KE-063		ネズミモチ	4.5	2本立	4.5	34,32	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	−	●			B			
KE-065		クスノキ	19.0	204	9.0	−	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	被圧により片枝樹形であり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 巻き根(中)あり。	●			B			
KE-066		ヤエザクラ	11.0	2本立	7.0	114,80	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	大	樹幹傾斜(中)(北側)あり。 フェンスが1.0m(北側)の距離にあり、適正根鉢の確保困難。	●			B			
KE-067		コブシ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	—	—	枯死している。	※	−	−	B			
KE-068		シダレザクラ	6.0	64	6.0	−	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	小	根上り(中)あり。 枯枝(北H6.5m) φ8m, L=1.2mあり。 舗装が1.0m(東側)の距離にあり、根鉢確保困難。	●			B			
KE-069		シダレザクラ	1.8	46 (H=1.1m)	0.9	−	4.0	4.0	4.0	3.5	4.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	3.05	C			○					○	無	無	樹高が3m以下である。 H2.5mで断幹、H1.1mまで枯死。1.1mからの枝葉が伸長。 幹の南側が根元まで腐朽・欠損。幅20cm。 打診音異常H0.0～1.1m。	●			B			
KE-070		シダレザクラ	3.0	61	1.2	−	4.0	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	1.5	3.0	2.0	1.0	2.75	C			○					○	無	小	断幹痕(H2.2m)からの腐朽(大)が進行している。 根元・幹に打音異常(大) H0.0～2.0mあり。 幹(H1.5m)に開口空洞12×8×12/22(芯達)あり。 樹形が崩壊している。	●			B			
KE-071		ヒトツバタゴ	4.0	25	4.0	−	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	小	下枝がない。	●			B			
KE-072		ケヤキ	21.0	345	23.0	−	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○							○	有	小	樹木番号KE-073ケヤキに近接しており、根鉢確保困難。 根上り(大)、巻き根(中)あり。	●			A			
KE-073		ケヤキ	21.0	154	17.0	−	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○							○	有	中	樹木番号KE-072ケヤキに近接しており、根鉢確保困難。 巻き根(中)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
KE-074		ヤエザクラ	9.0	131	8.0	−	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	小	樹木番号KE-075ヤエザクラに近接しており、移植不可である。 大枝に剪定痕からの開口空洞29×26×15/35、打診音異常(小)H1.2～1.8mあり。 枯枝(H4.5m) φ22, L=1.0m、背着生キノコあり。 フェンスが0.3m(南側)の距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名			建国記念文庫																調査日			2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日														伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価			
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》					STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
KE-075		ヤエザクラ	6.5	112	5.0	–	3.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	小	樹木番号KE-074ヤエザクラに近接しており、根鉢確保困難。 大枝(西側)に、剪定痕からの腐朽 30×30あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
KE-076		ヤエザクラ	10.0	140	5.5	–	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	小	大枝に剪定痕からの腐朽 20×20あり。 フェンスが1.3m(南側)の距離にある。	●			B			
KE-077		ヤエザクラ	5.0	2本立	6.5	120,103	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.0	2.0	2.35	B			○					○	有	中	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 双幹の両方とも断幹されている。 根元(北側)に虫害(コスカシバ穿孔痕)あり。	●			B			
KE-078		ヤエザクラ	4.0	52	4.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		有	大	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 揺らぎ(小)あり。 幹(東側)に剪定痕あり。	●			B			
KE-079		ヤエザクラ	8.5	130	7.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 根元にベッコウタケ様の発生あり。 根元(北側)に打診音異常 H0.0～0.3mあり。 大枝(北H3.4m)にスタブカット(切り残し枝)φ25, L=1.5mあり。 根元がフェンスにくい込んでいる。	●			B			
KE-080		ヤエザクラ	7.5	84	6.0	–	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.15	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 幹(東H1.5m)に開口空洞 25×15×15/30(芯達)あり。 幹に打診音異常(小) H1.5～2.5mあり。 大枝(北H3.5m)にスタブカット(切り残し枝)φ20, L=0.7mあり。 フェンスが1.0m(北側)の距離にある。	●			B			
KE-081		ヤエザクラ	10.0	131	7.0	–	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 根上り(大)あり。 縁石に乗り上げあり。	●			B			
KE-082		シダレザクラ	10.0	81	4.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	3.0	2.0	1.0	2.55	C			○					○	有	大	樹幹傾斜(北側)(小)あり。 枯枝(北H9m) φ10, L=1.5mあり。 フェンスが0.3m(南側)の距離にある。	●			B			
KE-083		ヤエザクラ	3.5	77	6.0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	枯死している。	–	–	※	B			
KE-084		シラカシ	11.0	144	7.5	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○				○				有	無	樹幹傾斜(小)(西側)あり。 幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.15m。根鉢確保、樹形維持が可能。		●		B			
KE-085		ヒトツバタゴ	6.0	2本立	5.0	35,20	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B	○				○				有	中	幹芯からフェンス(北側)までの離隔距離0.85m、自動販売機基礎(東側)までの離隔距離0.9m。根鉢径が一部変形するが根鉢確保が可能。大きくはない。		●		A			
KE-087		フウ	13.5	162	7.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○				○				有	無	盛土されている。 枕木舗装が根元にあり。 幹芯から枕木階段(北側)までの離隔距離0.6m。樹形維持、根鉢確保が可能。(土壌汚染エリア)。 土壌汚染調査の結果、移植不可。		●		A			
KE-088		ウバメガシ	7.5	6本立	6.5	117,87,85,62,61,59	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○				○			無	無	根元に樹皮欠損(中) 30×30あり。 枝の伸長が北側で少ない。 萌芽力旺盛。		●		B			
KE-089		シラカシ	12.0	139	8.0	–	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	無	大枝に枝折れによる樹皮欠損 20×20、巻込み(良)あり。 根元に穿孔性害虫の穿孔痕あり。 根元、園路の枕木との接触あり。 幹に屈曲あり、移植対象樹として適さない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
KE-090		ヒトツバタゴ	4.5	2本立	5.5	53,35	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○			○					無	小	枝の伸長が東側で多い。		●		A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			建国記念文庫																調査日			2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日														伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
KE-093		フウ	15.0	151	8.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○			○				有	無	枯枝(北H2m) φ15, L=1.0mあり。枯枝(西H8m) φ12, L=2.0mあり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.8m。根鉢確保、適正樹形が可能。(土壌汚染エリア)。 土壌汚染調査の結果、移植不可。		●		B			
KE-094		ヒトツバタゴ	6.0	77	5.5	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(道路側)あり。 根元(北側)に開口空洞 15×30×15/45あり。 根元・幹に打音異常 H0.0m～1.0mあり。 フェンスが近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-095		ヒトツバタゴ	4.0	2本立	4.0	50,48	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○					○	無	大	枯枝(北東H1.5m) φ12, L=1.5mあり。 枝抜け痕が数か所あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-096		ヒトツバタゴ	9.0	81	6.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	2.15	B		○			○				有	無	樹幹傾斜(道路側)あり。 巻き根あり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.8m。根鉢確保が可能。傾いているが移植樹として適している。		●		B			
KE-097		ヒトツバタゴ	7.5	70	4.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○			○			有	大	下枝が高い。 深植え状態にある。 フェンスが、近接している。被圧で樹勢・樹形やや悪いが、移植で回復の可能性あり。フェンス等構造物撤去により、移植はできる。			●	B			
KE-098		シイノキ	9.5	215	13.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B	○						○		無	無	根元(北東H0.1m)にカンゾウタケの発生あり。 幹に大枝剪定痕からの腐朽が多数あり。 幹の肥大成長部分にアイカワタケ(ヒラフスベ型)の子実体あり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.0mあり。 腐朽枝(南H3.5m) φ20, L=2.5mあり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離1.6m。 葉張り有り、大枝切断で樹形、樹勢維持困難。腐朽、空洞も多い。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-099		ヒトツバタゴ	10.5	2本立	6.0	83,33	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	大	高さH1.1mで幹が2分岐している。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-100		ヒトツバタゴ	10.5	137	6.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	3.0	2.0	1.0	2.50	B			○					○	有	小	巻き根あり。 深植え状態にある。 枯枝(北H3.5m) φ10, L=2.0mあり。樹冠全体に小枝の枯れあり。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-102		ヒトツバタゴ	4.0	49	4.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○					○		有	大	深植え状態にある。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-103		ヒトツバタゴ	7.5	84	6.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	3.0	2.0	1.0	2.50	B			○				○		有	大	フェンスが近接している。	●			B			
KE-104		ヒトツバタゴ	4.0	25	3.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○						○	有	大	深植え状態にある。 樹木番号KE-115ケヤキからの被圧(大)あり。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-105		マテバシイ	7.0	144	7.0	–	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	有	大	大枝がぶつ切り剪定されている。 幹(西側)に大枝剪定痕からの腐朽あり。 根元・幹に打音異常(大) H0.0m～2.5mあり。 幹に樹皮枯死が多数あり。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-107		ヤエザクラ	10.5	211	8.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B			○					○	有	大	樹幹傾斜あり。 幹H1.2mに開口空洞 25×20×35/55(芯達)あり。 根元・幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 巻き根あり。 樹木番号KE-108ヤエザクラと競合している。 フェンスが近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
建国記念文庫		調査日 2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日					1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
KE-108		ヤエザクラ	10.5	165	10.0	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.95	B		○					○		有	大	大枝がぶつ切り剪定されている。 巻き根あり。 根上りあり。 樹木番号KE-107ヤエザクラと競合している。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-109		ヤエザクラ	10.5	127	8.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	大	根元がフェンスにくい込んでいる。 樹幹傾斜あり。 根元・幹(東側)に打音異常(小) H0.0m～2.0mあり。 大枝(東側)に打音異常(大)あり。	●			B			
KE-110		ヤエザクラ	7.5	2本立	7.0	155,69	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	2.40	B			○					○	有	大	高さH1.1mで幹が2分岐している。 根元(西側)にベッコウタケの子実体が多数あり。 鋼棒貫入異常 35/60cm(芯達)あり。 根元・幹に打音異常(小) H0.0m～2.0mあり。 巻き根あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 枯枝(北西H7m) φ15, L=1.5mあり。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-111		ヒトツバタゴ	3.5	23	3.5	－	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					有	中	深植え状態にある。 片枝樹形である。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-112		ケヤキ	20.0	228	12.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B		○					○		無	小	大枝に縦の亀裂あり。 大枝に照明が巻き付き設置されている。 樹皮の脱落が多い。	●			B			
KE-113		ヤエザクラ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	ー	ー	枯死している。	※	－	－	C			
KE-114		ヒトツバタゴ	3.0	23	4.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○		○					無	大	幹(H0.3m)に開口空洞 3×2×2/12(閉塞傾向)あり。	●			B			
KE-115		ケヤキ	19.0	246	20.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B	○						○		有	小	巻き根(大)あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 枯枝(東H13m) φ10 L=4.5mあり。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-116		ヤエザクラ	3.0	56	3.0	－	3.5	3.0	3.5	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.45	B			○					○	無	大	断幹されている。 幹に開口空洞 15×10×12/18(芯達)あり。	●			C			
KE-117		ヤエザクラ	18.0	120	9.0	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	大	根元(西側)にキノコの発生(種不明)あり。 根元に根頭がんしゅ病様のこぶあり。	●			B			
KE-119		ヒトツバタゴ	4.5	28	5.0	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○		○					無	大	枝に枝こぶ症状(増生病)が多数あり。 深植え状態にある。	●			B			
KE-120		ヒトツバタゴ	8.0	2本立	6.0	58,12	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	枝に枝こぶ症状(増生病)が多数あり。 深植え状態にある。	●			B			
KE-121		ヒトツバタゴ	8.0	66	4.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.40	B			○					○	無	中	大枝にスタブカット(切り残し枝)が多数あり。 枝葉量が少ない。 移植後の健全な生育・樹形の維持は困難。	●			B			
KE-122		ヤエザクラ	7.5	105	1.5	－	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.65	C			○					○	無	中	双幹の一方が切除されている。 下枝が高い。 枯枝(H6m) φ30, L=4.0mあり。	●			B			
KE-123		ヒトツバタゴ	5.0	35	4.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					無	中	深植え状態にある。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			建国記念文庫															調査日			2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日														伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
KE-124		コブシ	11.5	114	5.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	大枝がぶつ切り剪定されている。 幹(南西H1.4m)に開口空洞 8×8×15あり。 前回調査より梢端部の枯れ枝が増えている。 園路脇に位置する。	●			B			
KE-125		ヒトツバタゴ	4.0	28	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	中	樹幹傾斜あり。	●			B			
KE-126		ヤエザクラ	8.0	2本立	6.5	126,122	3.0	3.0	3.5	2.5	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	小	断幹されている。 大枝(東側)に打音異常(中)あり。 盛土あり。 大枝に照明が巻き付き設置されている。 フェンスが近接している。 園路脇に位置する。	●			B			
KE-128		ヒトツバタゴ	7.0	54	5.5	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○		○					有	小	幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 深植え状態にある。 園路脇に位置する。	●			B			
KE-129		ヤエザクラ	11.0	130	8.0	－	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	小	樹幹傾斜あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 胴吹き枝が多数あり。 園路脇に位置する。 移植後に健全な状態への回復が困難。	●			B			
KE-130		ヒトツバタゴ	12.0	119	6.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.40	B			○					○	無	中	根元に開口空洞 10×8×25/40(芯達)あり。 胴吹き枝が多数あり。	●			B			
KE-131		クロマツ	17.0	197	9.5	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			無	無	下枝が高い。上部剪定では適正樹形が困難(12mまで下枝なし)。		●		B			
KE-133		シイノキ	11.5	229	8.5	－	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	小	樹幹傾斜(小)あり。 幹(北側)H1.1mに、開口空洞 8×8×25あり。 幹(南側)H1.1mに、開口空洞 8×8×20あり。 フェンスが近接している。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-134		ヒトツバタゴ	8.0	42	4.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○		○					無	中	揺らぎ(小)あり。 深植え状態にある。 樹勢が回復傾向にある。 園路脇に位置する。			●	B			
KE-135		トウカエデ	14.0	155	6.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				無	中	大枝に開口空洞 25×10あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 大枝に照明が巻き付き設置されている。 隣木(シラカシ、クロマツ)からの被圧あり、剪定は不要。移植後の樹形回復が可能。		●		B			
KE-136		シラカシ	15.0	172	12.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B	○				○				無	無	幹にカシノアカカイガラムシの吸汁害による影響と思われる樹肌の荒れあり。 移植後の樹形維持が可能。		●		B			
KE-137		ヒトツバタゴ	7.5	31	3.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	幹に剪定痕が数か所あり。		●		B			
KE-138		ヒトツバタゴ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	枯死している。	－	－	※	B			
KE-139		ヒトツバタゴ	7.5	40	3.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	大	被圧による枝枯れ、腐朽あり。		●		B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：建国記念文庫　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
KE-140		エノキ	16.0	169	10.0	–	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.25	B		○				○			無	中	小枝の枯れあり。 下枝が高く、上部剪定後の樹形維持が困難。		●		B			
KE-141		ケヤキ	20.0	183	16.5	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			無	無	露出根に腐朽あり。 上部剪定後の樹形維持が困難。		●		A			
KE-142		シイノキ	2.8	110 (H=1.1m)	2.0	–	3.5	3.5	4.0	3.5	4.0	3.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.80	C			○					○	無	無	樹高が3m以下である。 H1.1mで断幹。内部が1.1mから根元まで空洞が連続する。空洞直径28cm。外径35cm。H1.0mから萌芽枝が伸びる。 打診音音異常H0.0～1.1m。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
KE-143		ヒトツバタゴ	7.0	32	4.5	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	大	被圧による枝枯れ(中)あり。		●		B			
KE-144		シイノキ	10.5	111	9.5	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○			○				無	小	枝抜け痕からの腐朽あり。 大枝の伸長(東側)あり、剪定の必要あり。 全景写真の樹高は9m。あまり大きくなく樹形維持が可能。		●		B			
KE-145		ユーカリノキ	14.0	141	4.0	–	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B		○						○	無	小	断幹痕あり。 ユーカリノキの大木は移植困難である(樹種特性)。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-146		ヒトツバタゴ	8.0	112	8.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.95	B		○			○				無	小	露出根に切断痕と腐朽あり。 被圧による枝枯れが多数あり。 隣木(KE-144シイノキ)からの被圧あり。 全景写真の樹高は8m。あまり大きくなく樹形維持が可能。		●		B			
KE-147		ヒトツバタゴ	7.0	39	5.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	被圧による枝枯れ(中)あり。		●		B			
KE-148		ヒトツバタゴ	6.5	31	4.0	–	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○		○					無	大	–		●		B			
KE-149		サクラ	8.5	2本立	5.5	148,116	3.0	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.50	B			○				○		無	無	枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽(小)が数か所あり。 大枝(東側)に打音異常あり。 双幹部分が入り皮である。 大枝の枯れ下がり(大)あり。樹形不良。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
KE-150		フウ	13.5	166	7.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○			○				有	無	過去にぶつ切り剪定されている。 被圧による片枝樹形である。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.6m、フェンスは撤去可。根鉢確保、樹形維持が可能。		●		B			
KE-151		フウ	20.0	215	8.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○				○				無	無	過去にぶつ切り剪定されている。 上部剪定後の樹形維持可能。		●		A			
KE-152		ヒトツバタゴ	9.0	58	4.0	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○		○					無	大	–		●		B			
KE-153		ヒトツバタゴ	3.5	26	4.5	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○		○					無	大	–		●		B			
KE-155		ヤエザクラ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	枯死している。	–	–	※	C			

既存樹木調査結果一覧

エリア名		建国記念文庫																調査日			2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日													伐採理由		
			規格				活力度											保存の必要性			移植						参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》							
樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
KE-156		モミジ	7.0	61	7.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○			○				有	中	幹H0.7mに、開口空洞 13×15×15(芯達)あるが巻込み発達。前回調査からの経年により、幹の開口部の巻き込みもしっかりとしており、移植はできる。			●	B			
KE-157		シラカシ	15.0	163	7.5	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○			○			有	中	枝の分布に極端な偏りあり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.6m。樹勢普通であり、フェンス撤去と剪定により樹形回復可能。フェンス等構造物撤去により、移植はできる。			●	B			
KE-158		エノキ	12.0	167	13.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○				○			無	中	幹H2.0m付近に打音異常(小)あり。 隣木(KE-157シラカシ、KE-159シイノキ)からの被圧あり。上部剪定後の樹形維持が困難。片側の枝が少い。		●		A			
KE-159		シイノキ	12.5	195	13.5	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	中	下側の大枝に腐朽(大)あり。 露出根に腐朽(大)が多数あり。 大枝に電線とライトが設置されている。 隣木(KE-158エノキ)を被圧、剪定の必要あり。葉張り大きく、大枝剪定で樹形、樹勢維持が困難。腐朽空洞も多い。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-161		ヒトツバタゴ	3.3	29	4.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○		○					無	大	盛土(小)あり。 幹(北H1m)に樹皮欠損16×6あり。	●			B			
KE-162		トウネズミモチ	9.0	5本立	6.0	34,32,29,27,26	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	無	中	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り														調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日														
				規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目						
エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	1		クスノキ	11.0	143	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	2		クスノキ	12.0	146	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	3		クスノキ	11.0	136	4.0	－	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	4		クスノキ	12.0	175	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	中	幹(南側)に打診音異常(小) H1.4～1.6mあり。 樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A
IT	5		クスノキ	13.0	189	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	中	樹幹傾斜(小)(エントランス側)あり。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A
IT	6		クスノキ	12.0	162	3.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)。枝葉(西側)が、ビル風の影響により少ない。やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.4m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と、作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	7		クスノキ	11.0	151	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.4m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	8		クスノキ	11.0	162	4.5	－	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	3.0	2.0	1.0	2.45	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.4m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	9		クスノキ	11.0	150	4.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	3.0	2.0	1.0	2.30	B			○				○		有	中	幹(南側)に打診音異常 H1.7～2.0mあり。 樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.4m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り														調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5月 25 日														
				規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目						
																								難										
エリア	樹木番号		樹種名	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	A	B	C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	10		クスノキ	12.0	177	3.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.4m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	11		クスノキ	12.0	192	5.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	小	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離3.5m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離2.2m。 適正根鉢径と、作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	12		クスノキ	13.0	155	3.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	13		クスノキ	13.0	148	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	14		クスノキ	13.0	153	5.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	15		クスノキ	14.0	160	5.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	16		クスノキ	14.0	179	4.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.25	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	17		クスノキ	14.0	178	3.5	－	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.0	3.0	2.0	1.0	2.50	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	18		クスノキ	14.0	178	4.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 ツリーサークルに根の食い込みあり。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	19		クスノキ	14.0	177	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	3.0	2.0	1.0	2.30	B			○				○		有	中	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	20		クスノキ	14.0	186	4.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 ツリーサークルに根の押上げあり。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	21		マテバシイ	6.0	63	2.0	－	4.0	4.0	4.0	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.5	1.0	3.00	C			○					○	有	小	幹(東側)に開口空洞・腐朽 H0.5m～2.5mあり。腐朽が進行中、高さH1.1mにおいて東西方向に貫通あり。 径1.5mの植桝内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	22		マテバシイ	7.0	64	2.5	－	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	小	幹(東側)H2.0mに亀裂(横方向に長さ20cm)、腐朽あり。 幹に打診音異常 H1.9～2.2mあり。 枝葉が東側にない。 径1.5mの植桝内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り																調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5月 25 日														
				規格				活力度														保存の必要性			移植					参考項目						
エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	23		マテバシイ	7.0	63	2.5	-	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	小	径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	24		マテバシイ	7.0	2本立	2.5	58,48	3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	小	径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	25		マテバシイ	7.0	3本立	2.5	58,24,21	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	有	無	根元に開口空洞 10×5(43)×8/17あり。 径1.5mの植桝内に位置する。根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	26		マテバシイ	6.0	89	2.5	-	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	無	幹(南側)H0.8mに開口空洞・腐朽 80×8(86)×7/19、腐朽進行中、打診音異常あり。 径1.5mの植桝内に位置する。根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	27		ヒメシャラ	4.0	3本立	4.5	42,40,35	2.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○	○					有	無	幹H1.2mに開口空洞 16×9(40)×8/11、腐朽進行中あり。 幹H1.7mに開口空洞 13×8(35)×6/13、腐朽進行中あり。 腐朽枝あり。 1.8m×1.8mの植桝内に位置する。 腐朽の進行は遅く、キノコも見られないため、移植後の維持可能。			●	B
IT	28		ヒメシャラ	3.5	3本立	1.8	44,26,21	3.5	3.5	4.0	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	小	3本立の主幹が高さH1.8mで断幹されている。 根元・幹(H0～1.8m)に樹皮枯死180×20(43)あり。 1.8m×1.8mの植桝内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	29		ヒメシャラ	5.0	38	2.5	-	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	有	無	樹幹傾斜(東側)(小)あり。 径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	30		マテバシイ	6.5	70	4.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A		○						○	有	中	骨格をなす枝が西側に伸長していない。 径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	31		マテバシイ	6.0	2本立	4.0	56,39	3.0	2.5	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○					○	有	小	枝葉が西側にない。 径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	32		マテバシイ	7.0	72	4.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B			○					○	有	中	高さH3.5mに亀裂(縦方向に長さ30cm)あり。 枝葉が西側にない。 径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	33		マテバシイ	7.0	96	5.0	-	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.65	A		○						○	有	中	径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	34		ホソバタイサンボク	6.0	56	2.0	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	有	中	露出根あり。 擁壁が北側0.5m、南側0.9mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	35		トウネズミモチ	8.0	115	3.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○					○	有	小	露出根あり。 枝葉が北側にあまり伸長していない。 幅1. 4m(南北間)の狭植込地に位置する。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B

既存樹木調査結果一覧

エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
エリア名				規格				活力度 伊藤忠ビル周り										調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日								参考項目						
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	36		シラカシ	9.0	96	4.0	－	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.75	A		○			○				有	無	露出根が見られるが移植には問題なし。 枝葉が北側にあまり伸長していない。 幹芯から擁壁までの離隔距離1.0m。			●	B
IT	37		スダジイ	6.5	5本立	5.0	65,53,50,49,45	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○					○	有	無	露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	38		モチノキ	5.0	40	2.5	－	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○						○	有	無	露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 擁壁が北側0.9mの距離にあり、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	39		シラカシ	8.0	92	3.5	－	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A			○					○	有	無	根根元(東側)に開口空洞10×8(130)×15/40(巻き込み良好)あり。 露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 マンホールが西側0.7mの距離、擁壁が北側1.3mの距離にあり、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	40		キンモクセイ	4.0	4本立	2.5	35,35,25,23	2.5	1.5	3.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○					○	有	小	枝葉が北側にない。 露出根あり。 擁壁が北側0.6mの距離にある。マンホールが東側0.8mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	41		キンモクセイ	4.0	2本立	1.8	30,22	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A			○					○	有	小	露出根あり。 擁壁が北側0.6mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	42		マテバシイ	7.0	78	3.0	－	3.5	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.50	B			○					○	有	無	露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 擁壁が北側1.4mの距離にある。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため、移植不適。			●	C
IT	43		ノムラモミジ	5.0	55	3.0	－	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A		○						○	無	中	露出根あり。 巻き根あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	44		マテバシイ	7.0	75	3.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	無	露出根あり。 ひこばえあり。 擁壁が北側0.8mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	45		ノムラモミジ	5.0	50	3.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					無	中	露出根あり。 巻き根あり。 枝葉が北側にあまり伸長していない。			●	B
IT	46		マテバシイ	7.0	73	2.0	－	3.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	小	露出根あり。 擁壁が北側0.7mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	47		ヒイラギモクセイ	4.0	3本立	2.8	35,33,26	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	無	中	露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	48		イロハモミジ	5.0	65	3.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A			○					○	有	小	根元に傷(横方向に幅25cm)、閉塞しつつある。 幹(西H0.5m)に開口空洞 2×2、閉塞しつつある。 擁壁が南側0.8m、西側0.6mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り														調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日														
エリア	樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立数	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	49		モチノキ	5.0	42	2.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.95	B			○					○	有	中	露出根あり。 マンホールが0.3mの距離にある。 擁壁が0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	50		ヒイラギモクセイ	3.5	4本立	2.0	33,39,19,18	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.35	B			○					○	有	中	マンホールが0.4mの距離にある。 擁壁が0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	51		マテバシイ	6.0	68	3.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	小	露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 擁壁が0.4mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	52		キンモクセイ	3.0	2本立	2.0	16,14	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○	有	中	擁壁が0.4mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	53		キンモクセイ	3.0	3本立	3.0	25,20,12	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○	有	無	擁壁が0.4mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	54		エゴノキ	4.0	37	1.5	–	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B			○					○	無	無	揺らぎ(中)あり。 根元に開口空洞・腐朽 20×40×30あり。 露出根あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	55		キンモクセイ	3.5	3本立	2.0	29,25,19	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.10	B			○					○	有	小	露出根あり。 擁壁が0.6mの距離にある。散水栓に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	56		エゴノキ	3.0	2本立	1.5	24,20	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.40	B			○					○	無	中	根元に樹皮欠損(小)あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	57		マテバシイ	6.0	70	3.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.35	B			○					○	有	無	マンホールが0.7mの距離にある。 擁壁が1.1mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	58		トウネズミモチ	6.0	4本立	3.0	49,49,48,26	2.5	2.5	4.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B			○					○	有	小	株の1つ(西側)に腐朽、枯損あり。 設備用のH鋼に接触している。 露出根あり。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B
IT	59		トウネズミモチ	4.0	2本立	1.5	29,16	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.55	C			○					○	有	大	露出根あり。 マンホールが0.2mの距離にある。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	C
IT	60		ケヤキ	8.0	128	5.0	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.30	B			○					○	有	無	露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 擁壁が東側0.8m、南側1.0mの距離にあり、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	61		モッコク	4.5	48	2.5	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.30	B			○					○	有	無	建造物が北側0.6mの距離にある。 照明のセンサーに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	62		モチノキ	4.5	52	2.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	小	露出根あり。 建造物が北側0.7mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り																調査日	2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5月 25 日													
				規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目						
エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	63		シラカシ	6.0	75	3.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.80	B		○			○				有	無	擁壁が北側0.7mの距離にある。 幅1.8mの植栽帯内に位置する。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.8m、1.0m。樹形良好、根鉢はかろうじて確保が可能である。			●	B
IT	64		シラカシ	7.5	84	4.0	－	2.5	2.5	3.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.30	B			○					○	有	中	樹冠上部に隣接するユーカリからの被圧あり。 幹に樹皮欠損・腐朽(大)あり。 打診音異常(小)あり。 大枝剪定痕に腐朽あり。 露出根あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	65		シラカシ	5.0	64	3.0	－	4.0	3.0	4.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.65	C			○					○	無	小	高さH4.0mで断幹されており、枯れ下っている。 鋼棒貫入異常(芯達)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	66		スダジイ	3.0	98	2.0	－	4.0	3.0	4.0	3.0	4.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.95	C			○					○	無	中	幹(東側)に樹皮欠損(周囲長比1/2以上)、打診音異常あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	68		ユーカリ	7.0	65	2.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○				○		有	中	大枝H5.0m以上にぶつ切り剪定が散在する。 下枝が高く、移植に向けた剪定に適さず、移植には不向きである。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.7m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	69		ユーカリ	11.0	100	3.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○				○		有	無	樹幹傾斜(北側)あり。 壁が北側に近接している。 下枝が高く、移植に向けた剪定に適さず、移植には不向きである。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.9m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	70		マテバシイ	6.5	61	2.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○		○					無	中	樹幹傾斜(南側)あり。 打診音異常(小)あり。 大枝付け根H2.0m(北側上部)に、腐朽あり。 露出根あり。			●	B
IT	71		マテバシイ	6.0	68	3.0	－	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○		○					無	中	樹幹傾斜(南側)あり。 露出根あり。			●	B
IT	72		マテバシイ	5.5	54	3.0	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B		○		○					無	中	高さH4m(北側と南東側)に大枝剪定痕からの腐朽あり。			●	B
IT	73		シラカシ	7.5	74	2.5	－	2.0	2.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	小	大枝H1.0m(南側)に樹皮欠損あり。 高さH5.0mに大枝剪定痕からの腐朽あり。			●	B
IT	74		マテバシイ	5.0	44	2.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.35	B			○					○	無	中	高さH1.5mに剪定痕からの腐朽、打診音異常(大)あり。 隣接するシラカシ(東側)、マテバシイ(西側)からの被圧(大)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	75		マテバシイ	7.0	79	4.0	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	小	幹下部に打音異常(小)あり。 巻き根(小)あり。			●	B
IT	76		サルスベリ	3.0	28	1.2	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.90	B			○					○	無	中	根元の揺らぎ(小)あり。 枝葉が少なく、衰退傾向にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため、移植不適。			●	B
IT	77		マテバシイ	5.5	57	2.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.26	B			○					○	無	中	幹(北側)に開口空洞 H2.0～3.0m、背着生キノコ(種不明)あり。 枯枝 φ5, L=2mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り												調査日	2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5月 25 日															保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
エリア	樹木番号		樹種名	規　格				活力度										保存の必要性			移植					参考項目		備　考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》					
				樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難			不可	根元構造物	片枝・被圧						
																						A	B	C										
								1～4評価						1～4評価				ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	78		マテバシイ	6.5	68	2.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B		○		○					無	小	梢端部にこぶが数か所あり。 露出根あり。			●	B
IT	79		マテバシイ	5.5	3本立	2.0	42,31,26	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○		○					無	中	株の2本が枯損、切除されている。 幹に樹皮欠損(支柱接触痕)あり。 打診音異常あり。 下枝がない(下枝高H3.0m)。樹皮欠損や打音異常は致命的ではなく、移植後の樹形維持は可能。			●	B
IT	80		ヤマモモ	5.0	50	4.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○		○					無	大	根元(北側)に開口空洞 10×10×10、打診音異常あり。 根元の揺らぎ(中)あり。打音異常や揺らぎは致命的ではなく移植後の樹形維持可能。			●	B
IT	81		クスノキ	12.0	149	5.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B	○					○			有	中	根元(西側)に打診音異常あるが、移植に際しては問題ない程度。 幹芯から擁壁までの離隔距離1.2m。樹形の維持、根鉢の確保が可能である。			●	B
IT	82		ヤマモモ	4.0	53	3.0	－	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B			○				○	無	大	上部(北側)に腐朽(大)、開口空洞が数か所、打診音異常あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	83		クスノキ	11.0	122	3.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B			○			○		有	中	隣木(No81クスノキ)からの被圧あり。 下枝が高く、移植に向けた剪定に適さず、移植には不向きである。 幹芯から擁壁までの離隔距離1.2m。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため、移植不適。			●	B
IT	84		マテバシイ	6.5	89	3.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B			○				○	無	大	高さH2.0mに入り皮あり。 高さH2.0mから根元に亀裂あり。 西側に開口空洞あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	85		マテバシイ	6.0	3本立	4.0	47,39,35	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○				○	無	中	株の1本が枯損、切除されている。 打診音異常あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	86		マテバシイ	7.0	73	3.0	－	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○				○	無	中	樹幹傾斜(南側)あり。 打診音異常あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	87		ノムラモミジ	4.0	45	4.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			無	中	剪定痕に腐朽あり。			●	B
IT	88		シラカシ	6.5	73	2.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○		○					無	中	高さH2.5m(北西側)に開口空洞あり。 打診音異常(小)あり。			●	B
IT	89		イロハモミジ	4.0	67	3.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			無	中	大枝(西側)に打診音異常あり。			●	B
IT	90		シラカシ	6.0	58	2.0	－	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.45	B			○				○	無	中	幹(北側)の上部と下部に溝腐れ症状あり。 鋼棒貫入異常(芯達)あり。 打診音異常あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	91		クスノキ	8.5	3本立	4.0	91,59,34	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○			○				有	無	打診音異常(小)あり。 大枝(北側)が構造物に近接している。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.7m、1.0m。樹形の維持が可能である。			●	B
IT	92		シラカシ	6.5	57	2.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○				○	無	中	東側に開口空洞あり。 打診音異常(小)あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り												調査日	2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5月 25 日																				
エリア	樹木番号		樹種名	規　格				活力度										保存の必要性			移植					参考項目		備　考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
				樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難			不可	根元構造物	片枝・被圧								
																						A	B	C												
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	93		マテバシイ	6.5	48	2.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○	無	小	打診音異常あり。 剪定痕からの腐朽が数か所あり。 露出根あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	94		マテバシイ	6.0	51	2.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.45	B			○					○	無	小	打診音異常あり。 枝上部(東側)に剪定痕からの腐朽あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	95		マテバシイ	6.0	5本立	3.0	42,38,34,32,26	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○					○	有	中	株(西側)に開口空洞あり。 構造物に北側と南側が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	96		マテバシイ	7.0	2本立	3.5	55,46	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○		○					無	小	2株双方に開口空洞あり。 打診音異常(大)あり。 大枝H4.0m(東側)にこぶあり。打音異常があるが、致命的とは判断しにくく移植後の樹形維持可能。			●	B
IT	97		サザンカ	3.5	31	1.8	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	無	中	隣接するマテバシイ(東側)からの被圧あり。 壁に近接し片枝樹形であり、枝葉も少なく、移植後の回復は困難。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため、移植不適。			●	B
IT	98		サザンカ	3.2	27	1.8	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	無	中	隣接するマテバシイ(西側)からの被圧あり。 壁に近接し片枝樹形であり、枝葉も少なく、移植後の回復は困難。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため、移植不適。			●	B
IT	99		マテバシイ	6.0	60	3.0	–	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	2.10	B		○		○					無	中	数か所にこぶ症状、てんぐ巣病の症状あり。 てんぐ巣病あるが、致命的ではなく移植後の樹形維持可能。			●	B
IT	100		マテバシイ	5.5	68	3.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	高さH4.0m(北東側)に開口空洞、高さH3.0m(北東側)に開口空洞100×10cm、高さH2.0m(北東側)に開口空洞20×13cmあり。 打診音異常あり。			●	B
IT	101		サザンカ	3.2	25	1.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	無	大	断幹されている。 隣接するマテバシイ(東側)からの被圧(大)あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	102		サザンカ	3.2	19	1.0	–	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.65	C			○					○	無	小	樹幹傾斜(南側)あり。 枝葉量が少なく樹形にやや乱れ、樹勢が衰退傾向にある。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	103		サザンカ	3.3	26	1.8	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○		○					無	小	隣接するシラカシ(西側)からの被圧(大)あり。 樹形が回復傾向にある。			●	B
IT	104		シラカシ	8.5	93	3.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○		○					無	小	古葉に食害痕があるが、新葉は良好である。			●	B
IT	105		シラカシ	5.0	85	2.5	–	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.40	B			○					○	無	無	下枝(北西側)にこぶが数か所あり。 高さH1.5mに入り皮あり。 樹勢が衰退傾向にある。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	106		モッコク	3.3	3本立	2.3	31,21,18	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B		○		○					無	小	葉がやや小さい。 移植可能である。			●	B
IT	107		シラカシ	6.0	78	2.5	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.30	B		○		○					無	無	葉が小さく、樹勢がやや不良だが、回復傾向にあり、移植可能である。			●	B
IT	108		サザンカ	3.2	27	1.5	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.15	B		○		○					無	中	近接するシラカシ(東側)からの被圧(大)あり。 下枝(東H0.5m)に腐朽あり。 刈込樹形である。			●	B

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り														調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5月 25 日														
				規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目						
																								難										
エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	A	B	C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	109		スダジイ	4.0	36	2.0	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	小	樹幹傾斜(北側)あり。 根元に樹皮欠損あり。			●	B
IT	110		サザンカ	3.3	33	1.5	–	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					無	小	樹形良好である。			●	B
IT	111		スダジイ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	ー	ー	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	C
IT	112		シラカシ	3.5	2本立	1.5	59,21	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.5	3.00	C			○					○	無	無	断幹されており、断幹部からの腐朽(大)、打診音異常あり。 樹勢が著しく衰退している。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	113		キンモクセイ	3.5	61(芝付)	2.3	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.70	A		○		○					無	無	樹形良好である。			●	B
IT	114		モチノキ	4.5	61	2.0	–	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.35	B		○		○					無	無	カイガラムシが多数寄生し、葉が小さく、すす病が多発している。 消毒や施肥で移植後の樹勢回復が可能。			●	B
IT	115		モチノキ	4.5	45	1.5	–	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.55	C		○		○					無	無	カイガラムシが多数寄生し、葉が小さく、すす病が多発している。 消毒や施肥で移植後の樹勢回復が可能。			●	B
IT	116		キンモクセイ	3.3	55(芝付)	2.0	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	無	刈込樹形である。			●	B
IT	117		シラカシ	5.0	62	3.5	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○	無	無	樹形不良傾向であり、移植後の回復が困難。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	118		ヒイラギモクセイ	4.0	4本立	2.5	30,28,23,12	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.70	A		○		○					無	小	刈込樹形である。 枝葉量が多く、良好な状態である。			●	B
IT	119		シラカシ	5.0	65	3.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	無	無	枝葉量が少なく、樹勢不良傾向にある。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	120		ヒイラギモクセイ	4.0	3本立	2.5	30,23,13	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○		○					無	中	刈込樹形である。 概ね良好な状態である。			●	B
IT	121		タイサンボク	5.0	52	2.5	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○		○					無	小	露出根あり。露出根に腐朽あり。 樹勢がやや衰退している。			●	B
IT	122		ヒイラギモクセイ	3.5	4本立	2.0	32,19,19,17	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.55	A		○		○					無	中	露出根あり。 刈込樹形であり、樹形良好である。			●	B
IT	123		ヤマモモ	2.9	59	2.0	–	3.5	3.0	4.0	3.5	4.0	3.5	2.5	2.5	2.5	1.5	3.05	C			○					○	無	大	樹高が3m以下である。 主幹がH1.4mで断幹され、内部が1.4mから根元まで空洞化している。 根元に開口空洞65×10×25/25(75)(貫通)。 大枝1本のみの樹形で生育している。倒伏の恐れあり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	124		クスノキ	8.0	4本立	6.0	73,62,52,38	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	2.50	B			○				○		有	無	枝葉量が少なく、樹形の乱れ、樹勢が衰退している。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り													調査日	2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5月 25 日															保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
エリア	樹木番号		樹種名	規　格				活力度										保存の必要性			移植					参考項目		備　考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》				
				樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難			不可	根元構造物	片枝・被圧							
																						A	B	C											
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無				該当に●			ABCD
IT	125		マテバシイ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。				－	－	※	C
IT	126		ヤブツバキ	2.8	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	枯損している。				－	－	※	C
IT	127		ヤブツバキ	3.5	2本立	1.2	21,19	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.30	B			○					○	有	小	隣木のクスノキ(樹冠上部)からの被圧あり。 ビル風の影響あり。 樹勢が衰退傾向にあり、移植後の回復は難しい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため、移植不適。						●	B
IT	128		ヤブツバキ	3.3	26	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.30	B			○					○	有	小	ビル風の影響あり。 樹勢が衰退傾向にあり、移植後の回復は難しい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため、移植不適。						●	B
IT	129		ヤマモモ	4.0	2本立	3.5	100,66	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.75	C			○					○	有	無	2本立の片方に開口空洞あり。 葉が小さく樹勢が衰退している。（常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。） 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。						●	C
IT	130		ヤマモモ	4.0	2本立	2.5	85,59	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.80	C			○					○	有	無	2本立の片方の幹分岐部に、開口空洞あり。 葉が小さく、樹勢が衰退している。（常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。） 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。						●	B
IT	131		ヤマモモ	5.5	102	2.5	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.75	C			○					○	有	無	葉が小さく、樹勢が衰退している。（常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。） 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。						●	B
IT	132		ヤマモモ	5.0	95	3.5	－	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.65	C			○					○	有	無	葉が小さく、樹勢が衰退している。（常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。） 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。						●	B
IT	133		ヤマモモ	5.0	88	3.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.75	C			○					○	有	無	根元・幹に腐朽(大)あり。 葉が小さく、樹勢が衰退している。（常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。） 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。						●	B
IT	134		ヤマモモ	6.0	83	3.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.70	C			○				○		有	無	葉が小さく、樹勢が衰退している。（常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。） 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。						●	B
IT	135		ヤマモモ	3.5	90	2.5	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.70	C			○					○	有	無	葉が小さく、樹勢が衰退している。（常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。） 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。						●	C
IT	136		ヤマモモ	6.0	2本立	3.0	94,51	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.65	C			○				○		有	無	高さH1.8mに開口空洞あり。 葉が小さく、樹勢が衰退している。（常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。） 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。						●	B

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り														調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日														
				規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目						
																								難						備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》				
エリア	樹木番号		樹種名	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	A	B	C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	137		ヤマモモ	6.0	110	2.5	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.70	C			○				○		有	無	高さH1.6mとH1.5mに開口空洞あり。 葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	138		ヤマモモ	4.5	97	3.0	－	2.5	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.60	C			○					○	有	小	高さH1.6mに腐朽あり。 葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	139		ヤマモモ	6.0	102	3.5	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.70	C			○				○		有	無	大枝(北側)に開口空洞あり。 葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	140		ヤマモモ	6.0	4本立	3.0	95,37,35,16	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.70	C			○				○		有	無	葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	141		ヒメシャラ	8.5	3本立	4.0	40,39,28	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○		○					有	小	樹冠上部が1階部分のネットに接触し、損傷あるが、樹勢は悪くなく、移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	B
IT	142		ヒメシャラ	8.5	3本立	3.5	37,34,20	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B		○		○					有	小	片枝の上部に枯損(小)あり。 樹冠上部が1階部分のネットに接触し、損傷あるが、樹勢は悪くなく、移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	B
IT	143		ヒメシャラ	7.5	44	3.0	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.95	C			○					○	有	小	片枝樹形である。 樹冠上部が1階部分のネットに接触し、損傷ある。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	144		ヒメシャラ	8.5	3本立	5.0	36,32,28	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B		○		○					有	小	幹肌が黒く、頂部の枝葉がやや疎である。 樹冠上部が、1階部分のネットに接触し損傷あるが、樹勢は悪くなく、移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	B
IT	145		ヒメシャラ	8.5	3本立	4.0	38,37,36	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.20	B		○		○					有	小	樹冠上部が1階部分のネットに接触し損傷あるが、樹勢は悪くなく、移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	B
IT	146		ヒメシャラ	9.0	4本立	6.0	43,37,37,22	1.5	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.75	A	○			○					有	小	中庭のヒメシャラの中では樹勢・樹形が最も良好である。 樹冠上部が1階部分のネットに接触し損傷あるが、樹勢は悪くなく、移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	B
IT	147		ヒメシャラ	4.5	3本立	2.5	17,17,15	2.0	2.5	1.5	2.5	1.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.95	B		○		○					有	小	植替えがされており、ネット下の高さで管理されている。 やや繊細な樹木だが、移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	A

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り														調査日		2023 年　5 月　25 日　～　2023 年　5月　25 日														
				規　格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備　考				
エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	148		ヒメシャラ	4.5	19	2.5	–	2.0	2.5	1.5	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.90	B		○		○					有	小	植替えがされており、ネット下の高さで管理されている。 やや繊細な樹木だが移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が、幹芯から1.7mの距離にある。			●	B
IT	149		ヒメシャラ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	ー	ー	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	B
IT	150		ヒメシャラ	9.0	2本立	4.0	38,37	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.95	B		○		○					有	小	ネットの上部で枝葉を伸長しており、下枝が高く、ネット接触の影響は小さい。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	B

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場西側															調査日			2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日															
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考				2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-001		シダレザクラ	8.5	204	10.0	－	1.5	1.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○						○		有	小	幹H2.2mに樹皮枯死・欠損 40×40(160)あり。 樹木番号N02-002ヤエザクラとの相互被圧(小)あり。 根元の東側0.3mと北側1mに縁石あり。 高さH1.1mに枯枝φ15, L=1.1mあり。	●			A			
N02-002		ヤエザクラ	8.0	156	10.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	有	小	幹H0.9mに開口空洞・腐朽20×15(155)×7/50あり。 打診音異常(小)H0.5～1.3mあり。 樹冠傾斜(北側)あり。片枝樹形。 樹木番号N02-001シダレザクラとの相互被圧(小)あり。 根元の南側0.8mにフェンスあり。	●			B			
N02-003		ヤエザクラ	9.0	180	12.0	－	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A			○					○	有	大	幹H1.8mに開口空洞・腐朽10×15(190)×10/65あり。 打診音異常(小)H0.5～1.2mあり。 樹木番号N02-013ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 樹形の偏り(北側)、幹の傾斜あり。 根元の北側0.65mに縁石、舗装あり。	●			B			
N02-004		スダジイ	9.0	266	10.0	－	1.5	1.5	3.0	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○					○		有	小	幹H0.7mに開口空洞・腐朽25×20(300)×70/110(芯達)あり。 大枝に樹皮枯死・欠損・腐朽(大)あり。落枝の恐れ、要切除。 根元の東側1.5mにフェンスあり。	●			A			
N02-008		モミジ	7.0	107	6.0	－	3.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.80	B			○					○	無	大	樹木番号N02-010シラカシからの被圧(中)、004スダジイからの被圧(大)あり。 樹形が南側に偏っており、移植樹として適さない。	●			A			
N02-009		モミジ	8.0	3本立	6.0	42,44,76	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.60	A		○		○					無	大	樹木番号N02-013ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 樹形が南側に偏っている。 大枝付け根に入り皮あり。 枯枝あり。	●			A			
N02-010		シラカシ	11.5	222	12.0	－	2.0	1.5	3.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.5	1.0	1.70	A		○					○		有	中	幹H1.7mに開口空洞 110×30(210)×31/65あり。 根元に開口空洞・腐朽 60×10(248)×50/80(芯達)あり。 根元・幹に打音異常(大) H1.6～2.5mあり。 幹に背着生キノコあり。 樹木番号N02-013ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 根元の南側0.3mに縁石、舗装あり。	●			B			
N02-011		シダレザクラ	10.0	110	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	主幹および樹冠がほぼ枯損状態にある。	※	－	－	B			
N02-012		ヒマラヤスギ	21.0	225	10.0	－	2.0	1.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○						○	無	大	樹木番号N02-013ヒマラヤスギとの相互被圧(大)あり。 梢の曲がり、伸長あり。 移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			A			
N02-013		ヒマラヤスギ	24.0	282	11.0	－	2.0	1.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.35	A	○							○	有	大	樹木番号N02-012ヒマラヤスギとの相互被圧(大)あり。 フェンスが近接しており、このままでは根鉢確保困難(北側0.7m) 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な生育確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-014		クスノキ	15.0	305	10.0	－	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.35	A	○							○	有	大	樹木番号N02-012, 013ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 被圧により南側の枝が少ない。 フェンスに近接しており、このままでは根鉢確保困難(北側1.0m)	●			A			
N02-015		ヒマラヤスギ	24.0	353	18.0	－	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.40	A	○							○	有	中	樹木番号N02-012ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 狭い単独桝に位置し、根鉢確保困難 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-016		シラカシ	10.0	273	12.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	無	根元・幹に開口空洞 115×15(295)×50/70(芯達)あり。 大枝に樹皮欠損が多数あり。 植栽桝に位置する。ツリーサークルあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名	軟式野球場西側	調査日	2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-017	カンヒザクラ	4.5	85	3.5	−	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.40	B			○					○	有	大	樹木番号N02-018カンヒザクラとの相互被圧(大)あり。 樹木番号N02-014クスノキ、N02-019ユーカリからの被圧(大)あり。 早期落葉、枯れ下がりあり。 フェンスに近接している。(南側0.1m)	●			B			
N02-018	カンヒザクラ	4.0	83	5.0	−	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	大	樹木番号N02-017カンヒザクラとの相互被圧(大)あり。樹木番号N02-019ユーカリ、032ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 樹形が北側に偏っている。 フェンスが近接している。(南側0.3m) 枯枝が多数あり。	●			B			
N02-019	ユーカリ	18.5	231	7.0	−	2.5	2.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	大	根元に樹皮欠損 25×10あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 樹木番号N02-032ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 南側の枝数が少ない。 フェンスに枝が接触している。 ユーカリの大木は移植困難である(樹種特性)。	●			B			
N02-020	カンヒザクラ	7.0	112	8.0	−	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○					○		有	中	樹木番号N02-019ユーカリ、032ヒマラヤスギ、033ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 樹形が北側に偏っている。 フェンスに近接している。(南側0.4m)	●			B			
N02-030	ツバキ	4.5	75	3.0	−	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.35	A		○		○					無	大	幹に樹皮欠損(小)が4～5箇所あり。 樹木番号N02-019ユーカリ、032ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。		●		A			
N02-031	ツバキ	4.5	2本立	3.0	42,43	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.30	A	○			○					無	大	樹木番号N02-032ヒマラヤスギ、033ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。		●		A			
N02-032	ヒマラヤスギ	20.0	279	12.0	−	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○						○		有	中	樹木番号N02-033ヒマラヤスギとの相互被圧(中)あり。 建物に近接している。 根元に縁石の飲み込みあり。 幹芯から建物までの離隔距離1.1m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-033	ヒマラヤスギ	24.0	295	9.0	−	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○						○		有	中	樹木番号N02-032ヒマラヤスギとの相互被圧(中)あり。 建物に近接している。 幹芯から建物までの離隔距離2.6m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-034	ヒサカキ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	−	−	※	D			
N02-035	ツバキ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	—	—	枯損している。	※	−	−	C			
N02-036	イスノキ	5.0	58	3.0	−	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○				○			有	大	樹木番号N02-038ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 フェンスに近接している。(東側0.6m)	●			A			
N02-037	モッコク	4.5	3本立	4.0	61,40,30	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					無	大	幹に樹皮欠損 20×7あり。 樹木番号N02-036イスノキ、038ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 樹形が北側に偏っている。	●			A			
N02-038	ヒマラヤスギ	22.0	3本立	16.0	430,133,74	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○						○		有	中	ぶつ切り剪定が多数あり。 樹木番号N02-033ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 建物に近接している。(南側5m) 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。	●			A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名		軟式野球場西側				調査日	2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日																												
		規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考					伐採理由		
樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-047	カンヒザクラ	4.0	39	5.0	－	3.5	2.5	3.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.25	B			○					○	有	大	断幹されている。 樹木番号N02-038ヒマラヤスギ、050ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 フェンスに近接している。(北側0.6m) 枯枝あり。	●			B			
N02-048	シダレザクラ	9.0	117	4.0	－	3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	大	根元に開口空洞・腐朽15×20(130)×9/30、子実体あり。 樹木番号N02-038ヒマラヤスギ、050ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 樹形が、北側に偏っている。 フェンスに近接している。(北側0.2m) 梢端枯れあり(進行中)。	●			B			
N02-050	ヒマラヤスギ	21.0	250	10.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○						○		無	中	樹木番号N02-059ヤエザクラとの相互被圧あり。 樹木番号N02-038ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 樹木番号N02-070ヒマラヤスギからの被圧(小)あり。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。	●			A			
N02-059	ヤエザクラ	11.0	131	5.0	－	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B			○					○	無	大	樹木番号N02-050ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 ツバキの生垣に近接している。 片枝樹形、衰退傾向にある。 枯枝(大)あり。	●			B			
N02-066	トウネズミモチ	6.0	67(芝付)	3.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○					○	無	中	樹木番号N02-070ヒマラヤスギ、059ヤエザクラからの被圧(中)あり。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
N02-069	サクラ	12.0	277	9.0	－	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○					○	有	中	根元にベッコウタケの子実体あり。幹に背着生キノコあり。 幹に開口空洞・腐朽28×5(277)×26/80あり。 根上り巻き根あり。 胴吹き多数。ぶつ切り剪定されている。大枝に腐朽(大)あり。 樹木番号N02-070ヒマラヤスギからの、被圧(中)あり。樹形が、北側にやや偏っている。 フェンスに近接している。(東側1.5m)	●			B			
N02-070	ヒマラヤスギ	23.0	269	12.0	－	2.0	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○						○		有	小	ぶつ切り剪定、スタブカット(切り残し枝)が多数あり。 樹木番号N02-050ヒマラヤスギ、081ヒマラヤスギからの被圧(小)あり。 建物に近接している。(東側3.5m) 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。	●			A			
N02-081	ヒマラヤスギ	23.0	305	12.0	－	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○					○		無	中	樹木番号N02-098ヒマラヤスギとの相互被圧(中)あり。 樹木番号N02-099ヒマラヤスギからの被圧(小)あり。 下枝が高い。ぶつ切り剪定が多数あり。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。	●			A			
N02-082	ヤエザクラ	13.0	140	6.0	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.95	B			○					○	無	大	樹木番号N02-083クスノキに近接しており、被圧(大)あり。 樹冠に偏り(北側)あり。 下枝高い傾斜木で移植後の適正な生育が見込めない。	●			B			
N02-083	クスノキ	15.0	238	12.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○						○		無	中	樹木番号N02-080ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 樹木番号N02-082ヤエザクラに近接しており、適正根鉢確保困難。	●			A			
N02-085	ヤエザクラ	11.0	255	8.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		有	中	ぶつ切り剪定が多数あり。 樹木番号N02-083クスノキからの被圧(中)あり。 フェンスに近接している。(北側0.3m)	●			B			
N02-086	シダレザクラ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	－	－	B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-088		サクラ	10.0	193	5.0	－	3.0	2.0	2.5	2.5	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.15	B			○					○	無	中	ぶつ切り剪定が多数、腐朽・枯れ下がりあり。 樹木番号N02-083クスノキからの被圧(中)あり。 早期落葉あり。	●			B			
N02-089		トウネズミモチ	5.0	46 (芝付)	3.0	－	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A			○					○	無	無	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
N02-095		ヒサカキ	3.5	34	2.0	－	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	3.0	1.0	2.25	B			○					○	有	小	葉に吸汁痕があり、葉色が薄い。 樹木番号N02-096ヒサカキ、097ソメイヨシノからの被圧(小)あり。 樹形が西側に傾斜している。 フェンスに近接している。(西側0.7m)	●			B			
N02-096		ヒサカキ	3.5	46	2.0	－	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					無	小	樹木番号N02-097ソメイヨシノからの被圧(小)あり。	●			B			
N02-097		ソメイヨシノ	10.0	240	10.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○					○	無	小	幹0.7mに開口空洞空洞 20×25×10/65あり。 根元にベッコウタケの子実体あり。 近接するヒマラヤスギからの被圧(小)あり。 ぶつ切り剪定されている。大枝に腐朽(大)あり。	●			B			
N02-098		ヒマラヤスギ	22.0	235	10.0	－	2.0	1.5	1.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○						○		無	小	樹木番号N02-081ヒマラヤスギ、099ヒマラヤスギとの相互被圧(小)あり。 枝数がやや少ない。下部の大枝が少ない。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。	●			A			
N02-099		ヒマラヤスギ	24.0	328	14.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○					○		無	小	樹木番号N02-098ヒマラヤスギとの相互被圧(小)あり。 樹木番号N02-107ヒマラヤスギからの被圧(小)あり。 樹勢が回復傾向にある。 枯枝 ϕ20, L=3.5m (H13m)あり。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-100		エノキ	6.5	39	4.0	－	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○		○					無	中	幹の肥大成長が少なく、細く伸長している。 周辺木との相互被圧(中)あり。	●			A			
N02-102		ソメイヨシノ	11.0	213	10.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B			○					○	無	中	幹にコフキタケの子実体あり。 幹H1.1mに大枝剪定痕からの樹皮欠損・腐朽 80×20(213)あり。 打診音異常(小)H0.6～0.8mあり。 樹木番号N02-106ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 フェンスが近接している。 早期落葉あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-103		ツバキ	4.0	50	2.0	－	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○		○					無	無	フェンスに近接している。(西側1.1m) 根鉢確保可。	●			A			
N02-106		ヒマラヤスギ	20.0	293	14.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○					○			無	小	樹木番号N02-111ケヤキからの被圧(小)あり。		●		A			
N02-107		ヒマラヤスギ	25.0	298	12.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○					○			無	小	スタブカット(切り残し枝)が下部に多数あり。 樹木番号N02-108ケヤキからの被圧(小)あり。		●		A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に〇			該当に〇					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-108		ケヤキ	20.0	166	5.0	–	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			〇					〇	無	大	胴吹き枝が多数あり。 樹木番号N02-106ヒマラヤスギ、109ケヤキからの被圧(大)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-109		ケヤキ	18.0	293	5.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B			〇					〇	無	中	断幹されている。 幹に打音異常(小) H1.0m～2.0mあり。 幹に開口空洞 21×13(223)×5/65あり。 樹木番号N02-106ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 大枝剪定痕からの樹皮欠損(中)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-111		ケヤキ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	高さH5.0mで断幹され、枯損している。	–	–	※	A			
N02-114		トウネズミモチ	5.0	57	5.0	–	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A			〇					〇	無	小	樹冠上部に剪定による徒長枝が見られる。 樹木番号N02-106ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
N02-118		ソメイヨシノ	7.0	43	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		〇		〇					無	無	早期落葉あり。 若木で移植可能。	●			A			
N02-119		ソメイヨシノ	7.0	50	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		〇		〇					無	無	早期落葉あり。 若木で移植可能。	●			A			
N02-121		ケヤキ	20.0	286	18.0	–	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	〇						〇		無	無	幹H0.8mに閉塞痕あり。	●			A			
N02-122		トウネズミモチ	8.0	102	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			〇					〇	無	小	樹木番号N02-124クスノキからの被圧(小)あり。 3本立ちの幹分岐部がゆ合、入り皮状態にある。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
N02-123		ソメイヨシノ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	高さH3.3mで断幹され、枯損している。	–	–	※	C			
N02-124		クスノキ	18.0	210	6.0	–	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			〇			〇			有	無	下枝が高く、樹冠に偏り(南側が疎)あり。 仮設事務所に近接している。(西側0.8m) 中央部の枝葉が少ない。			●	A			
N02-126		コブシ	9.0	70	2.5	–	2.5	2.0	3.0	3.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		〇					〇		無	無	南側の枝葉が少なく、片枝樹形である。 樹冠頂部、早期落葉あり。樹勢が衰退傾向にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。		●		A			
N02-127		チョウセンマツ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	B			
N02-128		ツバキ	4.0	50 (芝付)	2.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B		〇		〇					有	小	樹木番号N02-130サンゴジュからの被圧(小)あり。 根元の東側0.6mに縁石と舗装あるが、根鉢確保可。			●	A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場西側															調査日				2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高（m）	幹周（cm）	葉張（m）	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-130		サンゴジュ	5.0	3本立	2.5	38,35,33	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	2.0	1.0	2.40	B			○					○	無	大	樹木番号N02-131クスノキからの被圧(大)あり。 幹分岐部に入り皮状態あり。 5本立の2本が枯損している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-131		クスノキ	17.0	258	10.0	－	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.55	A	○							○	無	小	樹木番号N02-132ソメイヨシノと近接し根鉢確保困難、相互被圧(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-132		ソメイヨシノ	10.0	185	5.0	－	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.95	D			○					○	無	大	根元にベッコウタケの子実体あり。 周辺木との相互被圧(大)あり。 片枝樹形(東側)、葉が数枚ある程度でほぼ枯死状態。伐採検討の必要あり。 バルブ配管に近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-133		チョウセンマツ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	B			
N02-136		トウネズミモチ	5.0	2本立	2.5	33,27	3.5	2.0	3.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	大	バルブ配管に近接している。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
N02-137		サンゴジュ	4.0	17	1.0	－	4.0	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	3.0	2.0	2.0	1.0	3.00	C			○					○	無	大	枝枯れが多く、枝葉が少なく、樹形が崩壊している。 隣接するユリノキに近接している。 伐採も検討したい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-138		ユリノキ	6.5	32	2.5	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	3.0	1.5	2.5	2.0	1.0	2.10	B		○		○					無	大	片枝樹形であるが移植後の回復の見込みあり。			●	B			
N02-139		タブノキ	7.0	45	4.0	－	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A		○		○					無	中	樹木番号N02-140ソメイヨシノからの被圧(中)あり。		●		A			
N02-140		ソメイヨシノ	12.0	279	6.0	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	2.0	2.0	3.10	C			○					○	有	中	幹H1.2mに開口空洞・腐朽20×20(270)×50/75(芯達)あり。 打音異常(中) H0.6～1.6mあり。 幹に樹皮枯死・欠損 20×20あり。 キノコの菌糸膜あり、伐採検討の必要あり。 樹木番号N02-141ソメイヨシノからの被圧(中)あり。 早期落葉あり。 根元の南側0.7に縁石と舗装あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-141		ソメイヨシノ	18.0	2本立	16.0	190,165	2.5	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	1.0	2.45	B			○					○	無	無	早期落葉あり。 衰退傾向にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-142		サクラ	7.5	49	5.5	－	1.5	2.0	1.5	1.5	1.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○		○					無	中	樹木番号N02-140ソメイヨシノからの被圧あり。 早期落葉あり。		●		A			
N02-150		ヤエザクラ	8.0	125	8.0	－	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A		○					○		有	小	車道側がぶつ切り剪定されている。 樹木番号N02-153ケヤキからの被圧あり。 フェンスに近接しており、このままでは根鉢確保困難。(西側0.7m)	●			A			
N02-152		カンキツ	5.0	48	4.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○					○		有	中	樹木番号N02-153ケヤキからの被圧あり。 フェンスに近接している。(西側0.7m)	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名	軟式野球場西側	調査日	2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-153		ケヤキ	20.0	220	10.0	–	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○					○		有	無	根元・幹に打音異常(小) H0.0～1.3mあり。 大枝付け根に開口空洞 25×10×25/70あり。また空洞が根元まで続いている。 フェンスに近接している。(西側0.2m)	●			A			
N02-154		イヌツゲ	4.5	2本立	4.0	44,41	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A			○					○	無	中	樹木番号N02-153ケヤキに近接しているため、根鉢確保困難。	●			A			
N02-155		ユリノキ	10.0	84	8.0	–	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A			○					○	有	中	樹木番号N02-153ケヤキからの被圧あり。 フェンスに近接している。(西側0.7m) 移植に際しての根鉢確保困難	●			A			
N02-156		ケヤキ	21.0	254	12.0	–	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○						○		有	無	大枝剪定痕からの腐朽があるが巻込みあり。 フェンスに近接している。(西側1.0m)	●			A			
N02-157		チョウセンマツ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	B			
N02-158		カクレミノ	3.0	57 (芝付)	3.0	–	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.95	C			○					○	無	小	根元・幹に打音異常(大) H0～2.0mあり。 2本立ちの一方が枯死。 骨格となる大枝3本の内、2本が枯損している。 枯死寸前、葉量が少ない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-159		フウ	13.0	120	8.0	–	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A			○					○	有	中	幹H1.6mに開口空洞 5×5(120)×16/40あり。 根元、アスファルトの押し上げ(小)あり。 根元の3方向に舗装あり。	●			B			
N02-160		コブシ	12.0	114	7.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	有	無	樹木番号N02-140ソメイヨシノからの被圧あり。 片枝樹形である。 露出根あり。 縁石の押し上げ(大)あり。 植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-161		ソメイヨシノ	9.0	2本立	8.0	234,215	3.0	3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.70	C			○					○	有	無	根元にベッコウタケあり。 幹H1.8mに開口空洞・腐朽 30×30×38/62(芯達)あり。 樹形に乱れあり(幹に屈曲、梢端枯れ)。 早期落葉あり。衰退傾向にある。 アスファルトの押し上げ(大)あり。 植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-162		サンゴジュ	3.5	3本立	2.5	63,40,30	3.0	3.5	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.40	B			○					○	有	大	幹が2本枯れている。 隣接するユリノキからの被圧(大)あり。 5本立ちの内、2本が枯死。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-163		ユリノキ	20.0	285	10.0	–	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○					○			有	無	打診音異常(小) H1.5～2.0mあり。 デッキに近接している。		●		A			
N02-164		ユリノキ	20.0	354	12.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○						○		有	無	露出根あり。巻き根(大)あり。 幹に大枝折損痕あり。 縁石とアスファルト舗装の押し上げ(大)あり。 植栽桝(2.7×2.7m)に位置する。 建物に近接している。(西側3.2m) 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場西側															調査日				2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備　考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-165		ユリノキ	16.0	205	8.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.45	A		○					○		有	無	アスファルト舗装の押し上げ(大)あり。 建物(西側1.1m)、フェンス(南側0.3m)に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-166		ユリノキ	15.0	372	9.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.40	A		○					○		有	無	建物(北側0.8m)、ブロック塀(南側0.8m)に近接している。 根元にナラタケモドキ様の子実体あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-168		イヌビワ	3.0	5本立	3.7	25,18,18,17,13	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○		○					無	小	樹木番号N02-169サンゴジュからの被圧あり。		●		A			
N02-169		サンゴジュ	3.5	3本立	3.6	53,45,43	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.55	C			○					○	有	無	4本立ちの内、1本が枯死している。 幹の2本に樹皮枯死・欠損・腐朽(大)あり。 大枝に枯枝が 2本 φ10cm,L=1.2mあり。 葉に食害痕が多数あり。 フェンスと倉庫に近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-171		エノキ	12.0	296	12.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○					○			有	無	フェンスに近接している。(西側1.2m) 排水桝あるが、根鉢確保可能。		●		A			
N02-172		ヤエザクラ	9.0	210	11.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○				○			有	無	幹・大枝分岐部H0.8mに開口空洞・腐朽20×20(210)×14/44あり。 フェンスに近接している。(西側0.7m) 根鉢確保可能、移植はできる。		●		A			
N02-173		ケヤキ	15.0	190	12.0	－	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A			○					○	有	小	露出根あり。 トイレと舗装に近接している。 縁石の押し上げ(大)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-174		サンゴジュ	5.0	4本立	3.5	40,38,30,15	2.5	2.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.40	B			○					○	無	中	幹の1本に打音異常(大) H0.5～0.7mあり。 幹の1本に樹皮枯死(中)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-175		ソメイヨシノ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	B			
N02-176		ソメイヨシノ	9.0	158	5.0	－	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.85	C			○					○	無	中	根元にコフキタケの子実体あり。 打診音異常(中)H1.5～2.0mあり。 大枝に剪定痕からの樹皮枯死・欠損・腐朽(大)、チャアナタケモドキの子実体あり。 大枝ぶつ切り剪定、片枝樹形である。早期落葉あり。 大枝落枝の恐れあり。伐採検討の必要あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-177		フウ	16.0	155	8.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○					○		有	無	根元が舗装に接触している。	●			A			
N02-178		フウ	16.0	172	8.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○					○		有	無	舗装と門扉に近接している。(西側0.3m)	●			A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-179	フウ	15.0	169	6.0	−	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○				○				有	無	フェンスに近接している(東側0.5m)が、移植のための根鉢確保可能。		●		A			
N02-180	ケヤキ	24.0	272	20.0	−	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○					○		有	大	大枝が西側に伸長し、片枝樹形である。 周辺木からの被圧(大)あり。 根元がフェンスに接触している。	●			A			
N02-181	サカキ	4.5	35	2.7	−	1.5	1.0	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.45	A		○		○					無	無	葉に吸汁痕、食害あり。		●		A			
N02-182	フウ	18.0	130	6.0	−	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○		○					無	小	樹木番号N02-192フウからの被圧あり。		●		A			
N02-183	ユリノキ	18.0	230	9.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	中	大枝剪定痕からの腐朽あり。 樹勢が回復傾向にある。 樹木番号N02-201ユリノキからの被圧(中)あり。 建物と水道タンクが近接しているが、根鉢確保可能。			●	B			
N02-184	ツバキ	3.5	13	0.8	−	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.70	A			○					○	有	小	隣木の被圧あり。 片枝樹形である。 フェンスに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-185	ツバキ	3.5	18	1.2	−	2.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.55	A			○					○	有	小	隣木の被圧あり。 フェンスに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-186	ツバキ	3.5	21	1.8	−	2.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.55	A			○					○	有	小	隣木の被圧あり。 フェンスに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-187	ツバキ	2.6	14	1.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○					○	有	小	隣木の被圧あり。 フェンスに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-188	ツバキ	3.0	15	1.3	−	2.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.55	A			○					○	有	小	隣木の被圧あり。 片枝樹形である。 フェンスに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-189	ツバキ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	−	−	※	D			
N02-192	フウ	18.0	160	7.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					無	小	樹木番号N02-200フウからの被圧あり。		●		A			
N02-193	ツバキ	3.5	2本立	2.0	27,19	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.15	A		○		○					有	小	隣木からの被圧あり。 枝に南京錠のくい込みあり。 フェンス基礎に近接している。	●			A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-194	ネズミモチ	3.5	3本立	2.0	22,15,14	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	4.0	2.0	3.0	1.0	1.0	2.75	C			○					○	無	中	大枝に枝折れあり。 枝葉が少ない。 隣木からの被圧あり。	●			C			
N02-195	ツバキ	4.0	36(芝付)	3.0	－	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○			○					無	小	隣木からの被圧あり。	●			A			
N02-196	ツバキ	3.0	4本立	2.0	30,30,15,14	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○			○					有	中	隣木からの被圧あり。 フェンス基礎に近接している。	●			A			
N02-197	ツバキ	3.4	45	3.0	－	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○			○					有	小	隣木からの被圧あり。 樹形が西側に偏っている。 フェンスに近接している。	●			A			
N02-198	ヤマグワ	5.0	99(芝付)	3.0	－	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.20	A		○		○					無	小	周辺木との競合あり。		●		A			
N02-199	ヤマグワ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	※	－	A			
N02-200	フウ	18.0	148	8.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○		○					有	小	倉庫に近接している。(西側0.5m)		●		A			
N02-201	ユリノキ	18.0	191	9.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	中	建物(東側1.6m)と水道タンク(西側0.9m)に近接している。		●		A			
N02-202	コブシ	16.0	180	8.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○					○		無	無	幹に打診音異常(大) H0.5m～1.0mあり。 幹につる植物の登ハンあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。		●		A			
N02-203	サワラ	18.0	110	3.5	－	3.0	2.5	2.5	3.0	2.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.15	B			○					○	無	無	幹に打診音異常(中) H1.5m～2.0mあり。 中央部・下部に大枝がない。 幹につる植物の登ハンあり。 下枝が高い。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			A			
N02-204	サクラ	8.0	225	8.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	3.0	2.5	1.0	2.60	C			○					○	有	小	大枝がぶつ切り剪定され、樹形が崩れている。 大枝に樹皮欠損あり。 早期落葉あり。 フェンスに近接している。(西側1.0m)	●			B			
N02-205	ネズミモチ	4.5	60	3.0	－	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					有	小	プレハブ倉庫(東側1.0m)とフェンス(西側1.5m)に近接している。	●			A			
N02-206	サワラ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	－	－	B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-207	スダジイ	11.0	222	6.0	－	2.5	2.0	3.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	大	幹H1.9mに開口空洞・腐朽 20×10×31/60(芯達)あり。 打診音異常(大)H0.4～2.2mあり。 幹・大枝に解雇空洞が多数あり。 大枝の枝折れ痕に腐朽(大)あり。 プレハブ倉庫、フェンス(西側1.3m)に近接している。	●			A			
N02-208	ソメイヨシノ	12.0	240	12.0	－	2.5	2.5	3.0	2.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	小	幹に開口空洞 5×5×5/60あり。 大枝に樹皮枯死・欠損・腐朽(大)あり。 大枝剪定痕からの腐朽が3箇所あり。 プレハブ倉庫に近接している(0.3m)。 早期落葉あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-209	シラカシ	17.0	270	12.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.0	1.40	A		○				○			有	中	樹木番号N02-237メタセコイアからの被圧あり。 プレハブ倉庫、貯蔵所ブロック塀(南側1.8m)に近接している。 カシナガホイホイの設置あり。			●	A			
N02-210	ナツミカン	5.0	80	5.0	－	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.05	A	○			○					有	小	建物に近接している。(北側1.3m)		●		A			
N02-211	サカキ	5.0	2本立	3.0	25,14	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.35	A		○		○					有	中	樹木番号N02-213ヒイラギモクセイからの被圧あり。 貯蔵所ブロック塀に近接している。(北側1.1m)		●		A			
N02-213	ヒイラギモクセイ	3.5	27	3.0	－	2.0	1.5	1.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.5	1.0	1.25	A			○					○	有	大	樹木番号N02-215シラカシからの被圧あり。 プレハブ倉庫に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。		●		A			
N02-214	ヒイラギモクセイ	3.0	17	2.0	－	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.5	1.0	1.70	A			○					○	有	大	樹形が西側に傾斜している。 樹木番号N02-215シラカシからの被圧あり。 プレハブ倉庫に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。		●		A			
N02-215	シラカシ	15.0	100	5.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.30	A		○						○	有	中	幹H2.1mに開口空洞15×7(100)×20/32(芯達)あり。 打音異常(大) H1.5m～2.0mあり。 樹木番号N02-226シラカシからの被圧あり。 プレハブ倉庫に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-216	サカキ	7.0	45	3.0	－	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.35	A		○			○				有	小	樹木番号N02-226シラカシからの被圧あり。 フェンスとプレハブ倉庫に近接している。		●		A			
N02-217	ユリノキ	22.0	186	8.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○					○		有	大	巻き根あり(切除不可)。 打診音異常(小)H1.5～2.3mあり。 樹木番号N02-180ケヤキ、224クスノキからの被圧あり。 フェンスに近接している。(西側1.7m)	●			B			
N02-218	タブノキ	8.0	48	4.0	－	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A			○					○	無	大	樹幹が西側に傾斜しており、片枝樹形であり、移植木として適さない。 周辺木からの被圧あり。	●			A			
N02-219	クスノキ	10.0	54	5.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○					○	無	大	下部の大枝が少なく、枯れ枝が見られる。 周辺木からの被圧あり。 移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
N02-220	サワラ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	－	－	C			

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	軟式野球場西側						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日	該当に●			ABCD			
N02-221		メタセコイア	30.0	211	6.0	–	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○					○		有	中	下部の大枝が少ない。 周辺木からの被圧あり。樹木番号N02-223シラカシからの被圧による片枝樹形。 フェンスに近接している。(西側0.5m)	●			A			
N02-222		トウネズミモチ	6.0	3本立	3.5	38,36,18	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.55	A			○					○	無	大	周辺木からの被圧あり。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
N02-223		シラカシ	11.0	154	12.0	–	2.0	1.5	3.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.60	A			○					○	有	大	根元に背着生キノコの残さあり。 根元に開口空洞・腐朽30×16(160)×26/62あり。 幹H1.8mに開口空洞・腐朽9×8(155)×17/48あり。 打診音異常(中)H1.2～1.8mあり。 周辺木からの被圧あり。 縁石(西側0.7m)、照明に近接している。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-224		クスノキ	20.0	186	10.0	–	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	無	大	樹幹傾斜(北東側)あり。 枝が北東側に伸長しており、片枝樹形である。 周辺木からの被圧あり。 樹形に乱れあり、下枝が高く、枝葉が北側に偏り、移植に伴う剪定により移植後の健全な状態への回復が困難。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-225		タブノキ	7.0	36	4.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.30	A	○				○				無	大	樹形は良好。 周辺木からの被圧あり。			●	A			
N02-226		シラカシ	16.0	142	8.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A			○					○	無	大	根元に開口空洞8×8(165)×40/53(芯達)あり。 幹に開口空洞(中)が、2箇所(H2.3m, H3.5m)あり。 打診音異常(小)H0～0.6mあり。 大枝に樹皮枯死・欠損(大)あり。 周辺木からの被圧あり。 キクイムシのフラスあり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-227		メタセコイア	31.0	287	16.0	–	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○					○		有	中	下部の大枝が少ない。 周辺木からの被圧(中)あり。 舗装に近接している。(南側0.8m) 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-228		ネズミモチ	6.0	6本立	4.0	41,16,14,13,12,12	3.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A			○					○	無	大	樹幹傾斜(南側)(大)あり。 隣接の太い幹と一体化しており移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-229		ネズミモチ	3.5	24	2.3	—	2.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A		○		○					無	大	頂端部に切除あり。 被圧あるが、回復可能、小さい木で移植可能。			●	A			
N02-230		カキ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	C			
N02-231		エンジュ	9.5	120	8.0	–	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	中	幹H0.9m(南側)に樹皮欠損(中) 80×13(120)、巻き込みあり。 幹H0.9m(北側)に樹皮枯死(中) 69×12(120)、巻き込みあり。 片枝樹形である。 縁石に近接している。(南側0.9m) 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-233		ヒサカキ	3.0	2本立	3.0	21,15	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	大	メタセコイアに近接している。 被圧による樹冠傾斜(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-234		メタセコイア	28.0	260	10.0	－	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B	○					○			無	中	下部の大枝が少ない。 シラカシからの被圧あり。		●		A			
N02-235		タラヨウ	12.0	3本立	6.0	116,35,22	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A		○			○				無	中	北側の大枝が少ない。 シラカシからの被圧あり。		●		A			
N02-236		ビワ	5.5	36	4.5	－	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	タラヨウの被圧により、やや南側に傾斜している。 樹勢良好、移植可能。			●	A			
N02-237		メタセコイア	27.0	235	13.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A			○					○	有	中	被圧による片枝樹形である。 根元に縁石とアスファルトの押し上げ(中)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-238		サンゴジュ	4.0	2本立	2.0	40,22	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.75	C			○					○	無	無	樹皮欠損が多数あり。 枯枝が多く、樹形崩壊傾向にある。 3本立ちの内1本が枯死。 伐採検討の必要あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-239		サンゴジュ	4.0	2本立	1.8	45,38	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○	無	無	葉に食害痕が多数あり。 3本立ちの内1本が枯死。 伐採検討の必要あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-243		イチョウ	16.0	340	16.0	－	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○						○	有	無	幹H0.2mに樹皮欠損100×60(340)あり。 大枝剪定痕に腐朽 φ35cm、φ30cm、φ20cmあり。 大枝に打音異常(中) H1.2m～2.0mが2箇所あり。 縁石押し上げ(小)、アスファルト押し上げ(小)あり。(南側) 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-244		サンゴジュ	4.0	70	4.0	－	3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.75	C			○					○	無	無	幹が2本枯死している。 葉に食害痕が多数あり。 枯れ枝が多数あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-245		サンゴジュ	3.0	2本立	1.8	24,22	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○	無	無	樹皮欠損が多数あり。 枯枝が多く、樹形崩壊傾向にある。 伐採検討の必要あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-246		イチョウ	15.0	288	10.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○					○		有	無	根元に施設灯の柱あり。 フェンス(東側0.4m)、縁石(西側0.6m)に近接している。 建物が2.5m(南側)の距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-247		カイヅカイブキ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	C			
N02-249		カイヅカイブキ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	C			
N02-250		カイヅカイブキ	6.0	39	1.2	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.0	2.70	C			○					○	有	大	下枝なく、片枝樹形である。 樹幹傾斜(大)あり。 建物が0.7m(南側)の距離にあり、近接している。 建物からの被圧あり。 植桝内にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名	軟式野球場西側	調査日	2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	
N02-251		カイヅカイブキ	5.5	34	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.0	2.70	C			○					○	有	大	下枝なく、片枝樹形である。 建物が0.7m(南側)の距離にあり、近接している。 建物からの被圧あり。 植桝内にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
N02-252		ケヤキ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去。
N02-259		カイヅカイブキ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去。
N02-260		カイヅカイブキ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去。
N02-261		カイヅカイブキ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去。
N02-262		シラカシ	12.0	192	9.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B	○						○		有	中	スダジイからの被圧あり。 フェンス(東側0.5m)、看板(西側0.5m)に近接している。
N02-263		カキ	10.5	80	5.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	大	断幹痕あり。 西側の枝が少ない。 スダジイからの被圧あり。
N02-264		スダジイ	9.5	272	10.0	–	2.0	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	小	幹に打音異常(中) H0.5m～1.5mあり。 幹H1.1mに開口空洞・腐朽25×20(270)×33/80あり。 フェンスが0.6m(西側)の距離にある。
N02-265		トウカエデ	14.0	139	7.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	中	片枝樹形である。 フェンスが0.3m(西側)の距離にる。 建物が2.0m(東側)の距離にある。
N02-266		トウカエデ	16.0	210	7.0	–	2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	小	幹に開口空洞(小)が、2箇所(H1.5m, H1.8m)あり。 フェンスが0.7m(西側)の距離にある。 建物が1.6m(東側)の距離にある。
N02-267		ソメイヨシノ	6.0	140	4.0	–	4.0	3.0	4.0	3.0	3.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.75	C			○					○	有	小	根元にコフキタケあり。 大枝折損痕からの腐朽、枯損あり。 打診音異常(大)H0.3～1.8mあり。 幹がフェンスに寄りかかっている。 建物が2.5m(東側)の距離にある。 倒木の恐れあり、伐採検討の必要あり。
N02-268		トウカエデ	16.0	191	6.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○					○	有	小	幹H1.5mに開口空洞 11×6×30/60(芯達)あり。 フェンスが0.4m(西側)の距離にある。 建物が2.2m(東側)の距離にある。
N02-269		ソメイヨシノ	10.0	161	5.0	–	3.0	2.5	3.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○					○	有	小	根元に開口空洞・腐朽20×10(161)×12/42あり。 樹幹傾斜(西側)あり。 フェンスが接触(西側)している。

樹木番号	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	該当に●			ABCD			
N02-251			●	C		●	
N02-252	–	–	※	A			
N02-259	※	–	–	C			
N02-260	※	–	–	C			
N02-261	※	–	–	C			
N02-262	●			A			
N02-263	●			B			
N02-264	●			B			
N02-265	●			B			
N02-266	●			B			
N02-267	●			B			
N02-268	●			A			
N02-269	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名		軟式野球場西側																調査日			2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日															
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-270		トウカエデ	6.5	39	3.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		無	中	頂端部が切除されている。 サクラ類からの被圧あり。	●			A			
N02-271		ソメイヨシノ	16.0	262	12.0	－	2.5	3.0	3.5	3.0	3.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.55	C			○					○	有	小	大枝が西側に多数伸長し、樹冠に偏りあり。 幹のフェンス寄りかかりが進行し、フェンスに歪みが生じている。 根上りあり。根返りの可能性あり。 建物が、2.2m(東側)の距離にある。	●			B			
N02-272		トウカエデ	16.0	151	7.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○					○		有	小	大枝が西側に多数伸長している。 フェンスが接触(西側)している。	●			B			
N02-273		トウカエデ	16.0	217	6.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A		○					○		有	無	幹H2.1mに開口空洞15×5(210)×30/70あり。 大枝が西側に多数伸長している。下枝が少ない。 フェンスが0.8m(西側)の距離にある。 建物が1.8m(東側)の距離にある。	●			A			
N02-275		サクラ	10.5	269	11.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	有	大	大枝が西側に多数伸長している。 胴吹き枝が多い。根上り(大)あり。 枯枝(カワラタケ発生)あり。 フェンスに接触している。建物が1.7m(東側)の距離にある。	●			B			
N02-276		ヒサカキ	3.5	3本立	2.0	26,18,10	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○					無	大	スダジイからの被圧あり。 フェンスが2.0m(西側)の距離にある。		●		B			
N02-277		スダジイ	11.0	204	15.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中	片枝樹形(西側)である。 幹に樹皮欠損(小)、巻込み(良)、4か所あり。 大枝に腐朽が複数あり。 フェンスが0.7m(西側)の距離にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-278		ムクノキ	7.0	2本立	6.0	51,23	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	大	根元で断幹あり。 樹幹傾斜(小)(北側)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-279		タブノキ	7.0	3本立	3.5	26,16,15	3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○					○	有	大	根元で断幹あり。 塀に接触(東側)、建物に寄りかかりあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-280		ヒイラギモクセイ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	枯死している。	－	※	－	B			
N02-281		ヒイラギモクセイ	3.0	2本立	2.0	33,27	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B		○		○					無	大	周辺木からの被圧あり。 存在感あり、樹形回復可能、移植可。		●		A			
N02-282		ヒイラギモクセイ	3.0	22	2.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○					○	無	大	周辺木からの被圧あり。 樹形が崩れ、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。		●		A			
N02-283		タブノキ	19.0	270	6.0	－	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.60	A		○					○		有	中	幹H1.4mに樹皮欠損40×40(270)あり。 塀が0.5m(東側)の距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名: 軟式野球場西側　調査日: 2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-284	ヒイラギモクセイ	2.0	2本立	1.5	19,10	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					有	大	幹分岐に癒合と入り皮あり。 梢端部に枝枯あり。 フェンスが0.4m(西側)の距離にある。	●			A			
N02-285	ヒイラギモクセイ	2.5	24	1.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					有	大	フェンスが0.4m(西側)の距離にある。	●			A			
N02-286	マテバシイ	9.0	93	6.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○					○		有	中	枝(東側)が建物に接触している。 塀が0.1m(東側)の距離にある。	●			A			
N02-287	マテバシイ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	－	－	B			
N02-289	ヒイラギモクセイ	2.7	2本立	1.5	16,14	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					有	大	周辺木からの被圧あり。 フェンスが0.5m(西側)の距離にある。	●			A			
N02-290	ヒイラギモクセイ	2.5	18	1.5	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					有	大	周辺木からの被圧あり。 フェンスが0.5m(西側)の距離にある。	●			B			
N02-291	ヒイラギモクセイ	2.3	18	1.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○					○	有	大	2本立の1本は枯死している。 周辺木からの被圧あり。 フェンスが0.5m(西側)の距離にある。	●			A			
N02-299	トウネズミモチ	3.0	41	2.0	－	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	2.0	1.0	3.10	C			○					○	有	中	2本立の1本が枯死している。 主幹上部で断幹されている。 塀が0.4m(北側)の距離にある。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
N02-308	ヒマラヤスギ	9.0	162	4.0	－	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-309	ヒマラヤスギ	9.0	129	3.0	－	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-310	ヒマラヤスギ	9.0	146	3.0	－	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。 縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-311	ヒマラヤスギ	9.0	110	3.0	－	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名	軟式野球場西側	調査日	2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-312		ヒマラヤスギ	9.0	110	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-313		ヒマラヤスギ	9.0	127	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-314		ヒマラヤスギ	9.0	126	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-315		ヒマラヤスギ	9.0	110	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-316		ヒマラヤスギ	9.0	112	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-317		ヒマラヤスギ	9.0	100	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-318		ヒマラヤスギ	9.0	120	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-319		ヒマラヤスギ	9.0	112	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。 縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-320		ヒマラヤスギ	9.0	127	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-322		ヒマラヤスギ	9.0	130	2.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-323		ヒマラヤスギ	9.0	105	3.0	–	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-324		ヒマラヤスギ	9.0	120	3.0	–	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-325		ヒマラヤスギ	9.0	110	3.0	–	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-326		ヒマラヤスギ	9.0	123	3.0	–	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-327		ヒマラヤスギ	9.0	136	3.0	–	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.8m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-328		ヒマラヤスギ	9.0	130	4.0	–	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.7m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-329		ヒマラヤスギ	9.0	147	3.0	–	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.6m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-330		マンシュウカエデ	11.0	250	10.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○					○			有	無	幹H0.6mに開口空洞(小) 22×4×8/53あり。 大枝付け根が入り皮L=0.4mである。 舗装の押し上げ(小)あり。		●		A			
N02-331		スダジイ	12.0	190	9.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.65	A		○					○		無	小	根元に樹皮欠損(小) 30×10あり。 高さH3.0mに大枝剪定痕からの腐朽φ10cmあり。 塀が2.0m(北側)の距離にある。	●			A			
N02-332		マテバシイ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	枯死している。	※	–	–	B			
N02-333		マテバシイ	6.5	46	4.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	2.10	B			○					○	無	大	スダジイからの被圧あり。 片枝樹形である。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-334		マテバシイ	5.0	3本立	2.0	13,15,17	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.05	B			○					○	無	大	樹幹傾斜(南側)あり。 中央部に枝が少なく、片枝樹形である。 スダジイからの被圧あり。樹形が悪く回復不可。	●			B			
N02-335		コブシ	11.0	115	5.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○					○		無	中	幹に子実体種類不明あり。 片枝樹形である。 マテバシイからの被圧あり。 幹につる植物の登ハンあり。 盛土あり。	●			A			
N02-336		マテバシイ	8.0	77	7.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.75	A		○		○					無	中	樹幹傾斜(小)(東側)あり。 樹勢・樹形良好、移植可。	●			A			
N02-337		モチノキ	7.0	3本立	3.0	13,20,21	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.35	A	○			○					無	大	スダジイからの被圧あり。	●			A			
N02-338		スダジイ	12.0	220	8.0	–	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○						○		有	中	樹幹がやや西側に偏っている。 フェンスが1.8m(西側)の距離にある。	●			A			
N02-339		マテバシイ	7.0	31	3.5	–	2.5	2.5	1.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.95	B			○					○	無	大	樹幹傾斜(東側)あり。 スダジイからの被圧あり。 細い木で被圧大、曲がり、下枝少、回復不可。	●			B			
N02-340		サンゴジュ	4.0	3本立	2.5	23,28,35	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.80	C			○					○	無	中	かつて4本立ちだったが、1本が折損したため、3本立ちとなっている。 葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、樹形が崩壊している。 枯れ枝が多数あり。	●			C			
N02-341		サンゴジュ	3.0	28	2.5	–	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.80	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、樹形が崩壊している。 枯れ枝が多数あり。	●			C			
N02-342		サンゴジュ	4.0	48	3.0	–	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.80	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、樹形が崩壊している。 枯れ枝が多数あり。	●			C			
N02-343		サンゴジュ	4.0	2本立	3.0	37,56	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.75	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が、多数あり。	●			C			
N02-344		サンゴジュ	4.0	47	3.0	–	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.80	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が多数あり。	●			C			
N02-345		マテバシイ	8.0	7本立	8.0	29,38,43,65,66,68,77	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.75	A	○						○		有	中	樹幹がやや西側に偏っている。 フェンスが1.3m(西側)の距離にある。	●			A			
N02-348		ソメイヨシノ	12.0	2本立	10.0	180,209	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B	○						○		有	小	幹H0.4mに剪定痕からの腐朽(大) 40×30あり。 胴吹き枝が多数あり。 フェンスが1.0m(西側)の距離にある。	●			A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年　9月　4日 ～ 2023 年　9月　11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形 (1～4評価)	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形 (1～4評価)	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果 (ABCD)	保存の必要性 高 (該当に○)	中	低	移植 可 (該当に○)	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物 (有無)	片枝・被圧 (大中小無)	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存 (該当に●)	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 (ABCD)	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
N02-349	ヒイラギモクセイ	2.2	38	1.2	–	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○					○	無	小	縮小剪定されている。 移植後の健全な生育が困難。	●			B			
N02-350	サンゴジュ	4.0	49	2.5	–	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.65	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-351	サンゴジュ	4.0	3本立	2.5	31,31,39	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.65	C			○					○	無	中	3本立ちのうち1本C=31cmが枯死している。 葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-352	サンゴジュ	4.0	3本立	2.5	40,40,46	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.65	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-353	サンゴジュ	4.0	45	2.5	–	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.65	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が多数あり。	●			C			
N02-354	イヌシデ	12.0	173	12.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○			○				有	無	舗装の押し上げ(小)あり。 円形(Φ2.0m)のアスファルト舗装に囲まれた植栽地にあり、根元は人工芝マットで覆われている。 幹芯からバックネットまでの離隔距離2.4m。		●		A			
N02-355	スダジイ	9.0	242	12.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					○			有	無	舗装の押し上げ(小)あり。 根上り、舗装の押し上げ(小)あり。円形(Φ2.5m)のアスファルト舗装に囲まれた植栽地にあり、根元は人工芝マットで覆われている。		●		B			
N02-356	クロマツ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	B			
N02-357	クロマツ	15.0	137	6.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.75	C			○					○	無	大	隣接木からの被圧により、樹形が崩壊している。 幹にヘデラの登ハンがあり。 樹形が崩れ、活力度も悪く、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-358	ケヤキ	20.0	220	14.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.50	A	○				○				無	小	幹にヘデラの登ハンがあり。 ケヤキらしい自然樹形であり、移植の価値の高い樹木である。		●		B			
N02-359	ヒイラギモクセイ	2.4	2本立	1.8	38,29	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	小	縮小剪定されている。	●			B			
N02-360	ヒイラギモクセイ	2.4	35	1.2	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	中	縮小剪定されている。	●			B			
N02-361	ヒイラギモクセイ	2.6	43	1.2	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	中	縮小剪定されている。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名	軟式野球場西側	調査日	2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-362		コブシ	15.0	123	8.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○						○		無	小	移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態の維持が困難。	●			A			
N02-363		ヒイラギモクセイ	2.3	15	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	3.0	2.0	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○					○	無	大	縮小剪定されている。 移植後の健全な生育が困難。	●			B			
N02-364		ソメイヨシノ	12.0	2本立	8.0	178,220	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.35	B			○					○	有	小	幹にスタブカット(切り残し枝)・腐朽が 2箇所 φ30cm,L=0.4m (H1.0m)、φ30cm,L=2.0m (H3.5m)あり。 大枝が西側に伸長している。 樹幹傾斜あり、根元にベッコウタケあり。根の支持強度低下の恐れあり。軽減剪定とブレーシング設置を推奨する。 フェンスが0.6m(西側)の距離にある。	●			B			
N02-365		ネズミモチ	2.8	4本立	1.8	23,22,19,10	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	中	縮小剪定されている。 移植後の健全な生育が困難。	●			B			
N02-366		ヒイラギモクセイ	2.3	2本立	1.0	15,12	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	中	縮小剪定されている。 移植後の健全な生育が困難。	●			B			
N02-368		ヒイラギモクセイ	2.8	3本立	1.8	30,18,13	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	中	隣木および低木からの被圧により下枝が少ない。 移植後も回復の見込みがない。	●			B			
N02-369		サンゴジュ	3.2	20	0.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	2本立の1本が枯死している。 西側からの被圧により片枝樹形である。	●			C			
N02-370		サンゴジュ	5.0	2本立	3.0	32,43	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	西側からの被圧により片枝樹形である。 片枝であり、活力度も悪く、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。	●			C			
N02-371		サンゴジュ	5.0	44	2.5	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	西側からの被圧により片枝樹形である。 片枝であり、活力度も悪く、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。	●			C			
N02-372		サンゴジュ	5.0	2本立	3.0	33,46	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	西側からの被圧により片枝樹形である。 片枝であり、活力度も悪く、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-373		サンゴジュ	5.0	3本立	2.5	28,42,49	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	西側からの被圧により片枝樹形である。 片枝であり、活力度も悪く、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-374		ヒイラギモクセイ	2.5	27	1.5	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	無	中	隣木および低木からの被圧により下枝が少なく、回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-375		ヒイラギモクセイ	2.5	35	1.3	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	無	小	隣木の被圧により片枝樹形である。 片枝であり、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-376	クスノキ	10.0	176	8.0		2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	有	中	樹幹傾斜(中)あり。 東側からのサクラ類の被圧により片枝樹形である。 根元に芯達の開口空洞あり、樹幹傾斜もみられることからブレーシング設置を推奨する。 フェンスが0.2m(西側)の距離にある。 幹にヘデラの登ハンあり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-377	サンゴジュ	5.0	4本立	3.5	40,42,52,53	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	株立の1本が枯死している。 枯れ枝が多く、樹形が崩壊している。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-378	サンゴジュ	5.0	44	2.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	中央部･下部にほとんど枝がない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-379	サンゴジュ	5.0	2本立	2.5	58,63	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	中央部･下部にほとんど枝がない。 幹にヘデラの登ハンあり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-380	サンゴジュ	5.0	2本立	2.5	57,63	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	中央部･下部にほとんど枝がない。 幹にヘデラの登ハンあり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-381	サンゴジュ	5.0	3本立	2.5	47,49,50	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	中央部･下部にほとんど枝がない。 幹にヘデラの登ハンあり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-382	サンゴジュ	5.0	2本立	2.5	41,57	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	中央部･下部にほとんど枝がない。 幹にヘデラの登ハンあり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-383	サンゴジュ	5.0	74	3.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	中央部･下部にほとんど枝がない。 幹にヘデラの登ハンあり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-384	イヌツゲ	3.5	2本立	3.0	20,22	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	中	中央部･下部にほとんど枝がない。 樹形のみだれ大きく回復不可。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-385	サクラ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2本立ちの内1本が根元から折損し、もう1本は安全配慮、倒木回避のため伐採されている。	※	–	–	B			
N02-386	クロマツ	16.0	204	7.0	–	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	無	無	スタブカット(切り残し枝)が多数あり。 樹形に乱れあり(下枝が高く、ふところ枝が少ない)。 幹にヘデラの登ハンあり。 樹形乱れあり、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-387	イヌツゲ	5.5	4本立	3.0	19,22,23,32	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B			○					○	無	中	根元に樹皮欠損あり。 ツバキからの被圧により片枝樹形である。 下枝が無い。 回復の見込みがない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	軟式野球場西側						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023年 9月 4日 ～ 2023年 9月 11日	該当に●			ABCD			
N02-388		ヒトツバタゴ	10.0	111	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○					○	有	小	樹幹傾斜(大)(西側)であり、移植樹として適さない。 枝にこぶが多数あり。 フェンスに接触(西側)しており、このままでは根鉢確保困難。 幹にヘデラの登ハンあり。	●			B			
N02-389		ツバキ	3.5	49	2.5	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	無	中	幹H0.4mに開口空洞 22×4×8/15(芯達)あり。 周辺木からの被圧により樹冠に偏りあり。	●			A			
N02-390		イヌツゲ	3.0	2本立	2.0	20,24	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.35	B			○					○	無	中	周辺木からの被圧により片枝樹形である。 被圧、樹形極不良、下枝無く、回復不可。	●			B			
N02-391		モチノキ	7.0	104	6.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.55	A	○			○					無	小	幹にヘデラの登ハンあり。		●		A			
N02-392		トウカエデ	14.0	242	8.0	－	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○					○					幹にヘデラの登ハンあり。		●		A			
N02-393		クロマツ	15.0	169	7.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	無	樹幹傾斜(小)(東側)あり。 樹形に乱れあり、枝葉量が少ない、下枝が高く移植に伴う剪定で移植後の健全な生育が見込めない。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-394		コブシ	12.0	145	7.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.85	B		○			○				無	中	西側からの被圧により、樹冠傾斜(小)あり。 幹にヘデラの登ハンあり。 太い立派な樹、ゴボウ根の種類だが移植可。			●	A			
N02-395		トウカエデ	14.0	217	9.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○				○				無	小	幹にヘデラの登ハンあり。		●		A			
N02-396		ウバメガシ	9.0	4本立	6.0	61,70,80,81	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.80	B	○				○				無	無	周辺木からの被圧により樹冠に偏りあり。 カシナガ対策シートあり。		●		A			
N02-397		クロマツ	16.0	157	7.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.90	B			○					○	無	無	樹形に乱れあり(下枝が高く、枝葉量が少ない)。 枝折れ痕が複数あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-398		サンゴジュ	5.0	3本立	3.0	22,34,42	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.80	C			○					○	無	大	葉に食害痕あり。 幹にヘデラの登ハンあり。 活力度悪く、移植後の適正な生育が見込めない。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-399		サンゴジュ	5.0	3本立	2.5	18,24,38	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.80	C			○					○	無	大	葉に食害痕あり。 幹にヘデラの登ハンあり。 3本立ちのうち1本C=18cmが枯死している。	●			C			
N02-400		クスノキ	15.0	107	6.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.05	B			○					○	無	大	クスノキに近接している為、移植不可である。 被圧(大)による樹形の偏りあり。	●			A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-401	クスノキ	15.0	153	8.0	−	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.90	B			○					○	無	中	クスノキに近接している為、移植不可である。 被圧(大)による樹形の偏りあり。	●			A			
N02-402	サンゴジュ	4.5	50	2.0	−	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.95	C			○					○	無	大	下枝に枯れあり。 片枝樹形(東側)である。 被圧(大)による上部の枯損あり。	●			C			
N02-403	アラカシ	12.0	3本立	10.0	32.128.115	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○					○		無	中	樹液の滲出あり。 背着性の子実体は見当たらない。 樹高・葉張りが大きく、移植に伴う剪定等により移植後の健全な生育が困難。	●			A			
N02-404	ソメイヨシノ	4.0	2本立	5.0	159,161	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	2.0	1.0	3.10	C			○					○	有	中	根元にコフキサルノコシカケの子実体あり。 根元・幹に打診音異常(大)あり。 コフキタケあり、骨格大枝は剪定され、樹形は崩壊している。 回復の見込みがなく、撤去・更新の検討が必要である。	●			B			
N02-405	ネズミモチ	2.3	6本立	2.0	22,28,12,12,9,7	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○		○					有	小	樹高が3m以下。 フェンスが1.2m(西側)の距離にある。 移植可能。	●			B			
N02-406	ネズミモチ	3.5	3本立	2.0	14,16,32	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○					有	小	フェンスが0.4m(西側)の距離にある。 移植可能。	●			A			
N02-407	サンゴジュ	3.5	27	2.0	−	3.0	3.5	3.0	3.5	3.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.95	C			○					○	無	中	葉に食害痕あり。葉量が少ない。 下枝に枯れあり。 移植後の回復が難しい。	●			C			
N02-408	サクラ	12.0	160	8.0	−	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	中	樹幹傾斜(小)(西側)あり。 ぶつ切り剪定されている。 胴吹き枝が多数あり。 枝がフェンスに接触している。 フェンスが0.7m(南西側)の距離にある。	●			B			
N02-409	タブノキ	15.0	263	10.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		無	小	幹にコフキサルノコシカケあり。	●			A			
N02-410	ソメイヨシノ	8.5	88	6.0	−	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(南西側)あり。 枝がフェンスに接触している。 フェンスが0.6m(南西側)の距離にある。	●			B			
N02-411	スダジイ	13.0	224	12.0	−	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B			○					○	有	中	幹に樹皮欠損(中)、大枝に剪定痕(中)あり。 スタブカット(切り残し枝)・腐朽が多数あり、移植樹として適さない。 フェンスが0.7m(南西側)の距離にある。	●			A			
N02-412	エノキ	12.0	158	10.0	−	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B			○					○	無	大	被圧による幹の曲がりあり。 下枝がなく、移植に伴う剪定により移植後の健全な生育が困難。	●			B			
N02-413	クロガネモチ	16.0	3本立	8.0	54,124,134	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○					○			無	小	盛り土20cmあり。 幹にヘデラの登ハンあり。	●			A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名	軟式野球場西側	調査日	2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-414		トウカエデ	15.0	157	7.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	無	中	西側からの被圧により片枝樹形である。 下枝がなく、移植に伴う剪定により移植後の健全な生育が困難。 盛土30cmあり。	●			B			
N02-415		サクラ	4.0	32	3.5	－	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B		○		○					無	中	樹幹傾斜(中)(東側)あり。 周辺木からの被圧により片枝樹形である。	●			B			
N02-416		エンジュ	8.0	89	7.0	－	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	中	樹幹傾斜(大)(東側)あり。 イチョウからの被圧により片枝樹形である。 根元に樹皮欠損(中) 30×20あり。 根元に不自然な凹み・奇形あり。 フェンスが0.8m(東側)の距離にあり。	●			B			
N02-417		イチョウ	20.0	310	15.0	－	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.25	A	○					○			無	小	幹H1.6mに樹皮欠損(中)、子実体あり。 幹にヘデラの登ハンあり。 盛土あり。	●			A			
N02-418		イロハモミジ	10.0	2本立	13.0	101,102	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○				○				無	小	下枝に枯枝大あり。 盛土あり。	●			A			
N02-419		ヒサカキ	3.5	2本立	3.0	20,26	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	小	フェンスが1.0m(東側)の距離にあり。	●			A			
N02-420		イヌツゲ	2.6	7本立	2.5	16,12,12,12,7,7,6	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	無	ひこばえが複数伸長している。 活力度が悪く、移植後の健全な生育が困難。	●			C			
N02-421		モチノキ	6.5	62	2.5	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	無	小	大枝・幹に樹皮欠損(小)が数か所あり。 樹形にやや乱れあり。 樹木番号N02-423ミズキに近接しており、適正根鉢確保困難。	●			A			
N02-422		コブシ	4.0	140	3.0	－	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.95	C			○					○	無	無	幹に断幹痕あり、幹の広い範囲に腐朽みられる。 幹に打音異常(大) H1.0m～1.5mあり。	●			B			
N02-423		ミズキ	15.0	106	8.0	－	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○			○				無	小	下枝が少ない。 樹木番号N02-421モチノキに近接している。	●			A			
N02-424		シラカシ	10.0	135	8.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	無	小	幹H2.5mに開口空洞(大) 120×20あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-425		シラカシ	11.5	202	12.0	－	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○				○				有	小	被圧による樹冠の偏りあり。		●		A			
N02-426		モチノキ	7.0	3本立	5.0	33,55,97	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○			○				無	中	大枝に樹皮欠損(小)あり。 シラカシの被圧により東側の枝数が少ない。		●		A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場西側															調査日				2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日														
			規格				活力度											保存の必要性			移植					参考項目		備考					伐採理由			
樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N02-427		モッコク	4.5	58	3.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					無	中	枝葉がやや少ない。 深植え15cm。		●		B			
N02-428		エンジュ	15.0	241	10.0	－	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.70	A	○				○				無	小	幹にヘデラの登ハンあり。 被圧により下枝がやや少ない。	●			A			
N02-429		ツバキ	5.5	5本立	3.5	22,24,34,33,38	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	中	幹H0.4mに樹皮欠損(中) あり。 フェンスが1.2m(東側)の距離にあり。		●		A			
N02-430		サザンカ	6.0	6本立	3.0	23,24,18,27,19,29	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	中	フェンスが1.2m(東側)の距離にあり。		●		A			
N02-431		ヒトツバタゴ	8.0	77	6.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	大	樹幹傾斜(中)(東側)あり。 下枝がない。		●		A			
N02-432		モチノキ	7.0	2本立	4.0	76,84	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○			○				無	小	幹分岐部に入り皮L=0.4mあり。 北側からの被圧によりやや片枝樹形である。		●		A			
N02-433		トウカエデ	14.0	241	9.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○					○			有	無	幹に大枝剪定痕、巻込み(良)、あり。 根上り(大)あり。露出根(大)が多数あり。露出根の縁石乗り上げ、近接する石製ベンチとの接触あり。 縁石と舗装の押し出し(大)、押し上げ(大)あり。 植桝内にある。	●			A			
N02-434		トウカエデ	14.0	254	11.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○					○			有	無	幹に大枝剪定痕、巻込み(良)、あり。 根上り(大)あり。露出根(大)が多数あり。露出根の縁石乗り上げあり。 縁石と舗装の押し出し(大)、押し上げ(大)あり。 植桝内にある。	●			A			
N02-435		ウバメガシ	12.0	378	13.5	－	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.40	A			○					○	有	無	幹に樹皮欠損(小)、巻込み(良)、あり。 盛土あり。 舗装に近接している。 大枝分岐部の入り皮に腐朽、背着性の子実体あり。	●			A			
N02-436		スダジイ	10.0	349	12.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.55	A			○					○	有	中	大枝付け根H1.6mに樹皮欠損(中)あり。 北側からの被圧によりやや枝の伸長が弱い。 根上り(大)、縁石乗り上げ(大)あり。 フェンスが0.2m(北側)の距離にあり。 根元にカシナガ対策シートあり。	●			A			
N02-445		スダジイ	12.0	204	10.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○						○		有	中	道路側に大枝剪定痕からの腐朽、巻込み無しが3箇所、H2.2mにφ15cm、H2.4mにφ17cm、H2.8mにφ15cmあり。 根上りあり。縁石の押し出し(小)あり。 フェンスが0.5m(北側)の距離にある。	●			A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場東側																調査日			2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日														伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植						参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》						
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-004		ヒマラヤスギ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	B			
N01-005		シダレザクラ	6.0	121	4.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○		○					有	中	隣接するヒマラヤスギの被圧(中)あり。 剪定による樹皮欠損・腐朽あり。 根元にフェンスあり。 根元(西側)にコフキサルノコシカケの子実体あり。 コフキタケあるが、樹勢良好、移植可能。		●		B			
N01-006		ヒマラヤスギ	28.0	296	11.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		無	中	隣接するヒマラヤスギの被圧(中)あり。片枝状態にある。 大枝剪定痕複数あり、下枝に枯れ枝あり。 移植後に健全な状態となることが見込めない。	●			–			
N01-007		ヒマラヤスギ	24.0	155	6.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	大	被圧により下枝が少ない。 隣接するヒマラヤスギの被圧(大)あり。片枝状態にある。 下枝が少なく、片枝状態であり、移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
N01-008		ヒマラヤスギ	18.0	203	8.0	–	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	隣接するヒマラヤスギの被圧(大)あり。片枝状態にある。 大枝・幹に梢端切除あり。 幹の頂部において断幹されている。 移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
N01-009		ヒマラヤスギ	24.0	271	8.0	–	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.65	A	○						○		有	中	被圧により下枝が少ない。 根元付近にフェンスあり。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な生育が困難。	●			A			
N01-010		ヒマラヤスギ	18.0	249	10.0	–	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	中	樹形に乱れあり(H12mまで下枝なし)、大枝の強剪定痕あり。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な生育が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-011		ヒマラヤスギ	17.0	198	8.5	–	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○			○				無	小	幹に開口空洞の閉塞痕あり。		●		C			
N01-012		ヒマラヤスギ	25.0	207	8.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○				○			無	中	隣木の被圧があるが、概ね良好な樹形である。		●		B			
N01-014		ヒマラヤスギ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	C			
N01-015		ヤエザクラ	4.5	111	3.0	–	3.5	3.5	4.0	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.85	C			○					○	有	中	根元に巻き根あり。 隣接するヒマラヤスギによる被圧(中)あり。 根元にフェンスあり。 活力度が悪く、移植後の健全な生育が見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N01-017		ヒマラヤスギ	22.0	314	13.0	–	2.0	1.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A			○					○	無	無	骨格となる大枝が伸長し、移植でなく単木として残す場合には良い樹形である。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な生育が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N01-018		シダレザクラ	5.5	102	4.5	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.55	C			○					○	無	大	隣接するヒマラヤスギによる被圧(大)あり。 幹につる植物(2種類)が登ハンし、被圧(大)あり。 梢端衰退による枯枝あり。	●			B			
N01-019		シダレザクラ	8.0	98	3.5	–	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.80	C			○					○	有	大	隣接するヒマラヤスギによる被圧(大)あり。 仮設鋼板フェンスあり。 隣接樹木の被圧が大きく、活力度も悪く、移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
N01-020		シダレザクラ	4.0	88	3.0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	枯死している。	※	–	–	C			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場東側　　調査日：2023 年　9 月　25日　～　2023 年　10 月　11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-021		ヤエザクラ	4.0	56	4.0	－	3.5	3.0	3.0	3.0	3.5	3.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.80	C			○					○	有	中	根元にフェンスあり。 樹形に偏りあり、活力度も悪く、移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			C			
N01-022		サクラ	5.0	53	5.5	－	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.75	A	○			○					無	中	隣接するヒマラヤスギと道路側サクラによるによる被圧(中)あり。	●			A			
N01-023		ヤエザクラ	3.0	70	4.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	枯死している。	※	－	－	C			
N01-024		ヒマラヤスギ	20.0	249	10.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	無	幹H1.2m～8.0mに樹皮欠損・腐朽(大)あり。 仮設鋼板フェンスに近接する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N01-025		ヒトツバタゴ	9.5	106	6.0	－	2.5	2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.85	B		○					○		有	小	幹に樹幹傾斜があるが、上部で持ち直し。 仮設鋼板フェンスに近接し、このままでは根鉢の確保困難。	●			A			
N01-026		ハナモモ	5.5	3本立	7.0	36,39,57	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○		○					有	中	根元に入り皮あり。 小枝にコスカシバの食害痕あり。 深植え状態にある。 根元にフェンスあり。 道路側下枝に枯枝大あり。	●			A			
N01-027		ヒトツバタゴ	7.0	51	4.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					有	中	深植え状態にある。 根元にフェンスあり。 被圧(中)あり。	●			B			
N01-028		ハナモモ	4.5	2本立	6.0	42,49	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					有	中	盛土が30cm以上あり。 大枝にフェンスくい込みあり。 下枝枯れあり。	●			B			
N01-029		ヤエザクラ	8.0	2本立	8.0	106,141	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.95	B		○					○		有	中	要確認：盛土が30cm以上あり。 幹H0.6mに入り皮あり。 大枝に剪定による樹皮欠損・腐朽(中)あり。縁石、フェンス間に位置し、現状では適正根鉢の確保困難。	●			A			
N01-030		ヤエザクラ	5.0	47	4.5	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.90	C			○					○	有	大	幹に打音異常 H1.5m～2.0mあり。 幹にコスカシバ食害痕(小)あり。 被圧による枝枯れあり。 盛土が30cm以上あり。 揺らぎ(中)あり	●			C			
N01-031		ヤエザクラ	6.5	105	8.0	－	3.5	3.0	3.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.70	C			○					○	有	大	大枝に腐朽、打音異常あり。 幹H1.2mに開口空洞、フェンスくい込みあり。 盛土が30cm以上あり。 道路側に傾斜あり。 下枝枯れにより、2本立ちではなくなった。	●			B			
N01-032		ヒマラヤスギ	20.0	262	10.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	小	盛土が30cm以上あり。 フェンスとブロックが北側と東側にある。 幹に防球マットの設置あり。※幹周は防球マットの上からの計測 移植のための適正根鉢の確保が困難。	●			A			
N01-033		ヒマラヤスギ	23.5	390	13.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.00	B			○					○	有	小	下枝が高さ12mまでほぼ無い状態である。 下枝枯れあり。 ネットフェンスに近接、北側にアスファルト舗装あり。 幹に防球マットの設置あり。※幹周・根元周は防球マットの上からの計測 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名		軟式野球場東側																調査日			2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日															伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》				2019年春季調査活力度評価			
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-034		ヒマラヤスギ	25.0	345	15.0	－	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.65	A			○					○	有	中	隣木と競合する東側の下枝が無い状態である。 アスファルト舗装に近接する。 幹に防球マットの設置あり。※幹周は防球マットの上からの計測 針葉樹の巨木であり、移植に伴う剪定からの回復が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N01-035		ヒマラヤスギ	25.0	333	15.0	－	2.0	1.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○					○	有	中	大枝に剪定痕あり。スタブカット(切り残し枝)が東側に多数あり。 根元にアスファルト舗装あり。 幹に防球マットの設置あり。※幹周は防球マットの上からの計測 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N01-036		サンゴジュ	6.5	119	3.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.05	B		○					○		無	中	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-037		サンゴジュ	6.5	72	1.2	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-038		サンゴジュ	6.5	2本立	1.2	62,73	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-039		サンゴジュ	6.5	82	1.2	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-040		サンゴジュ	6.5	2本立	1.2	48,73	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-041		サンゴジュ	6.5	80	1.2	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-042		サンゴジュ	6.5	2本立	1.2	37,60	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-043		サンゴジュ	6.5	4本立	1.2	32,59,63,73	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-044		ケヤキ	23.0	305	18.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.80	B			○					○	有	無	大枝に腐朽(中)あり。 幹H4mに開口空洞(大)あり。双幹部に入り皮あり。 テニスコート内に位置し、アスファルト舗装(西側)あり。 幹に防球マットの設置あり。※幹周は防球マットの上からの計測 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N01-045		クロマツ	8.5	159	5.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B			○					○	有	無	樹形に乱れ偏りあり(断幹、梢端切除)。 テニスコート内に位置し、アスファルト舗装(西側)あり。 幹に防球マットの設置あり。※幹周は防球マットの上からの計測 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N01-047		クロマツ	10.0	139	6.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					無	無	移植され、ワイヤー支柱が設置されている。	●			A			

既存樹木調査結果一覧

エリア名		軟式野球場東側															調査日				2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日															
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-049		モチノキ	6.0	134	4.5	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.05	B		○		○					無	中	移植されている。 大枝に樹皮欠損が多数あり。 幹H0.7mに樹皮欠損、35×15(146)あり。 幹H0.4mに開口空洞 25×3×5/33(134)あり。	●			B			
N01-050		クロマツ	13.0	133	6.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					無	小	移植され、ワイヤー支柱が設置されている。 下枝は失われている。		●		B			
N01-052		シラカシ	15.0	189	9.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○				○			有	小	幹H2.5m・H5.0mに開口空洞、巻き込みあり。 北側の下枝はフェンスに近接し高い。 根鉢確保可能、移植はできる。		●		B			
N01-053		トチノキ	14.5	268	15.0	－	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	無	根元の南側半分にアスファルト舗装あり。 樹勢衰退傾向にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N01-054		トチノキ	14.5	305	12.0	－	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○					○	有	小	大枝に剪定痕からの腐朽あり。 フェンスに近接・接触し、樹形に乱れあり。 幹にナツヅタの登ハンあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N01-055		サンゴジュ	5.5	2本立	1.5	27,38	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	有	中	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N01-056		サンゴジュ	4.0	2本立	1.0	9,19	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
N01-057		サンゴジュ	4.0	2本立	1.0	12,22	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
N01-058		サンゴジュ	4.0	2本立	1.0	12,19	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
N01-059		サンゴジュ	4.0	16	1.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
N01-060		サンゴジュ	4.5	28	1.5	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
N01-061		サンゴジュ	4.5	25	1.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
N01-062		サンゴジュ	4.5	26	1.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場東側																調査日			2023 年　9 月　25日　～　2023 年　10 月　11日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-063		サンゴジュ	4.5	3本立	1.0	10,13,18	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
N01-064		サンゴジュ	4.5	2本立	1.0	35,38	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
N01-065		サンゴジュ	3.0	13	0.5	－	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	3.15	C			○					○	有	大	活力度が悪く、衰退傾向にある。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N01-066		サンゴジュ	5.0	52	2.0	－	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.40	B			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
N01-067		ヒイラギモクセイ	2.3	5本立	1.5	15,19,15,20,26	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			－			
N01-068		ヒイラギモクセイ	2.3	3本立	1.0	14,11,11	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			－			
N01-069		ヒイラギモクセイ	2.3	2本立	1.0	17,13	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			－			
N01-070		ヒイラギモクセイ	2.3	2本立	1.0	16,8	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			－			
N01-071		ヒイラギモクセイ	2.3	2本立	1.0	19,9	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			－			
N01-072		ヒイラギモクセイ	2.3	2本立	1.0	23,15	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			－			
N01-073		ヒイラギモクセイ	2.3	29	1.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			－			
N01-074		シラカシ	13.0	189	12.0	－	2.0	1.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.75	A		○			○				有	無	大枝に剪定痕、腐朽が複数あり。 フェンスが近接している。 下枝に枯枝(大)あり。		●		A			
N01-075		ヒイラギモクセイ	2.5	22	1.5	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			－			
N01-076		ヒイラギモクセイ	2.5	19	1.5	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			－			
N01-077		シラカシ	8.0	70	5.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	大	被圧(大)により、枝枯れ(小)あり。 フェンスに近接する。	●			B			
N01-078		スギ	13.0	80	3.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		無	中	被圧(中)により、枝枯れ(小)あり。 フェンスに近接し、このままでは根鉢確保困難。	●			B			
N01-079		シダレザクラ	7.5	76	6.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					無	中	樹幹傾斜あり。 幹H2.0mに入り皮あり。 被圧(中)あり。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場東側																調査日				2023 年　9 月　25日　～　2023 年　10 月　11日													
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高（m）	幹周（cm）	葉張（m）	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-080		ヒマラヤスギ	16.0	167	8.0	－	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○				○				有	小	盛土が30cm以上あり。 ブロック塀に近接する(1.4m)。 幹につる植物の登ハンあり。		●		A			
N01-089		クスノキ	10.0	165	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.85	B		○		○					無	無	移植されている。樹勢・樹形良好。 もともとの移植樹、再移植可能。	●			B			
N01-090		ウバメガシ	7.0	190	7.0	－	2.5	2.0	3.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	有	小	根元・幹に開口空洞(大)が複数あり。 胴吹きが多数あり。 根元に排水マス近接。あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N01-091		ケヤキ	23.5	394	15.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○						○	有	無	根元・幹(東側)に開口空洞(大)、ベッコウタケの子実体あり。 大枝(東側)に剪定痕からの腐朽あり。 幹にキヅタの登ハンあり。 フェンスに、近接する。 樹勢やや衰退傾向にあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N01-092		タブノキ	10.0	84	6.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○					○		有	中	幹にキヅタの登ハン、サルトリイバラのからみあり。 フェンスに近接する。	●			B			
N01-093		マテバシイ	8.0	72	6.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○					○	無	大	幹H1.2mに開口空洞(大)あり。 被圧（大）による枝枯れあり。	●			B			
N01-094		モチノキ	5.5	45	3.5	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	大	葉にタイワンートガリキジラミの虫害あり。 幹にキヅタの登ハンあり。	●			B			
N01-095		シダレザクラ	3.5	29	2.0	－	4.0	3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.95	C			○					○	無	大	キヅタとスダジイによる、被圧(大)あり。 樹勢の著しい衰退あり。	●			C			
N01-096		マテバシイ	7.5	3本立	10.0	42,58,66	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.65	C			○					○	有	大	樹形に乱れあり。 台切りされて、ひこばえから成長した状態である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-097		スダジイ	10.5	191	8.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		無	小	幹H0.7mに開口空洞(大)あり。 幹に打音異常 H1.2mあり。 大枝に剪定痕からの腐朽(大)あり。	●			B			
N01-098		マテバシイ	8.5	96	7.0	－	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	有	中	被圧による樹冠の偏り、樹形に乱れあり。 フェンスに近接・接触している。（西側0.4m） 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N01-099		ケヤキ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	B			
N01-100		ケヤキ	22.5	282	15.0	－	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○				○		無	無	下枝が少なく、移植に伴う剪定からの回復が困難。枝葉量が疎。やや衰退傾向が見られる。 幹にキヅタの登ハンがあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場東側　調査日：2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-101	マテバシイ	7.0	53	5.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.05	B		○		○					無	中	盛土が30cm以上あり。		●		A			
N01-102	マテバシイ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	B			
N01-103	マテバシイ	5.5	52	3.5	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○		○					無	大	被圧(大)あり。		●		B			
N01-104	スダジイ	14.0	333	15.0	–	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A			○					○	有	無	樹形に乱れあり、双幹状の大枝の一方がH5mで直角に屈曲、他方は道路側に傾斜しており、移植樹として適さない。 フェンスに接触している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N01-105	マテバシイ	5.5	61	4.5	–	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B		○		○					無	大	被圧(大)による枝枯れ(小)あり。 ひこばえが多数あり。		●		B			
N01-106	ケヤキ	20.0	302	15.0	–	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	無	フェンスに近接しており、下枝が高い。 盛り土20cmあり。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N01-107	スダジイ	10.0	200	8.0	–	2.0	1.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		無	中	幹に開口空洞が数か所あり。 剪定痕に腐朽あり。 根元に樹皮欠損あり。 ケヤキからの被圧(中)あり。	●			A			
N01-108	タブノキ	7.0	72	4.0	–	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○	無	中	被圧(中)による枝枯れあり。 葉に病徴あり。	●			B			
N01-109	スダジイ	7.5	152	5.0	–	2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	有	大	幹H0.4mに開口空洞 30×23×10あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.5mあり。 幹に腐朽あり。 枝抜け痕、多数あり。 フェンスに、接触している。 盛土が、20cm以上あり。 幹にアイカワタケあり、大枝にシイサルノコシカケあり。	●			B			
N01-111	スダジイ	11.5	265	11.0	–	2.5	2.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	小	根元・幹がフェンスに接触している。 大枝に樹皮欠損や開口空洞・腐朽などが複数あり。 樹形に乱れあり、不適。 下枝に枯枝大あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N01-112	シラカシ	15.0	156	8.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		無	中	幹H2.0mに開口空洞 30×20あり。 被圧により東側の枝が少ない。 盛土が30cm以上あり。	●			B			
N01-113	ウバメガシ	8.5	250	8.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B	○				○				無	無	幹分岐部H1.1mに入り皮あり。 胴吹きが多数あり。 根元・幹にカシナガホイホイが設置されている。		●		A			
N01-114	モチノキ	7.0	46	2.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○		○					無	大	葉にタイワントガリキジラミの虫害あり。 枝に虫えいあり。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名		軟式野球場東側																調査日			2023 年　9 月　25日　～　2023 年　10 月　11日														
		規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考					伐採理由		
樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-115	トウカエデ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。 (切株のコフキタケが活性状態)	※	–	–	B			
N01-116	シダレザクラ	12.0	119	7.0	–	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		有	大	樹幹傾斜あり。 ヘデラの登ハンあり。 樹木番号N01-185スダジイからの被圧により枝枯れあり。 枝密度やや疎。 移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			A			
N01-117	モチノキ	7.0	72	3.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.60	A	○			○					無	中	隣接するシラカシから被圧(中)あり	●			A			
N01-118	アカメガシワ	5.0	82 (芝付)	6.0	–	3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○					○	無	中	GL0.4mにて断幹痕あり、ひこばえ多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N01-119	モチノキ	7.0	56	3.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	中	幹H1.6mに樹皮欠損 7×7あり。 ヘデラの登ハンあり。 盛土が20cmあり。 梢端衰退による枯枝あり。	●			B			
N01-120	ムクノキ	3.5	45 (芝付)	3.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	有	大	幹がH3.0mにて 3分岐している。 実生木である。 フェンスが近接している。	●			A			
N01-121	モチノキ	6.5	51	3.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	中	幹に曲がりあり。 盛土が20cmあり。 下枝に枯枝あり。	●			B			
N01-122	マテバシイ	6.0	63	3.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	無	中	多芽症状が多発している。 盛土が20cmあり。 梢端衰退による枯枝あり。 樹勢、樹形著しく悪く、回復不可。		●		B			
N01-123	モチノキ	7.0	67	3.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	大	隣接するプラタナスからの被圧(大)あり。		●		B			
N01-124	プラタナス	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	※	–	B			
N01-125	クスノキ	14.0	179	8.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B			○					○	無	無	樹形に乱れあり(樹幹傾斜、樹冠に偏り)。 露出根に樹皮欠損あり。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-126	イロハモミジ	7.5	120	6.5	–	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B			○					○	無	中	幹(南側)H0.6mに開口空洞 15×14×20あり。幹(南側)H0.9mに開口空洞 16×14×20あり。幹(東側)H1.5mに開口空洞 10×4×8あり。巻き込みあるが、幹内部が空洞化している(打診音異常あり)。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-127	スダジイ	10.0	194	9.0	–	2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○	有	中	樹形に乱れあり(枝の分布に偏り)、幹・大枝に樹皮欠損や開口空洞などが散在する。 ひこばえ、幹吹きあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場東側															調査日		2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日																
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備　考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》				2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-128		スダジイ	9.0	219	10.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.05	B			○					○	有	無	樹形に乱れあり(枝の分布に偏り、ふところ枝が少ない)、根元に開口空洞や幹・大枝に樹皮欠損などが散在する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-129		スダジイ	9.0	123	6.0	–	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B			○					○	無	中	隣木からの被圧により枝葉量が少ない。 根元に開口空洞、幹・大枝付け根・大枝に樹皮欠損などが散在する。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-130		プラタナス	16.0	240	8.0	–	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.95	B		○				○			有	小	剪定後に吹き直し、比較的良い状態にある。 周辺木との競合により、下枝が高い。		●		B			
N01-131		マテバシイ	9.5	70	4.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	無	大	樹形に乱れあり(樹幹傾斜、樹冠に偏り、下枝が高い)。 多芽病症状が散見される。 胴吹きが多数あり。 樹液の滲出あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-132		シラカシ	15.0	137	8.0	–	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(樹幹傾斜、樹冠に偏り、下枝が高い)。 樹液の滲出あり。 下枝に枯枝大あり。	●			B			
N01-133		ヒトツバタゴ	7.0	86	4.5	–	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.50	B		○					○		有	大	樹幹傾斜あり。 被圧による枯枝あり。 フェンスが近接している。	●			B			
N01-134		マテバシイ	8.5	95	7.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		無	大	隣接樹木から被圧(大)あり。 大きな被圧により樹形は乱れ、移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
N01-135		マテバシイ	6.0	93	6.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	多芽病症状が数か所あり。 下枝に枯枝あり。 樹液の滲出あり。	●			A			
N01-136		シダレザクラ	5.0	56	3.5	–	3.0	2.5	2.0	2.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					無	中	根元周辺にカーペットが敷設されている。 盛土が25cmあり。 被圧による枯枝発生あり。		●		A			
N01-137		ウバメガシ	8.0	2本立	4.0	105,115	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B		○						○	有	中	幹H0.9mに開口空洞 80×13×15/30(芯達)あり。 幹H1.1mに開口空洞 220×20×15/23(芯達)あり。 根元に開口空洞 15×5×10あり。 幹がH0.6mで2分岐している。 樹幹傾斜あり。盛土が20cmあり。 カシナガ対策シートあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-138		イチョウ	19.0	5本立	22.0	115,303,220,240,360	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B	○							○	無	小	根元に子実体種類不明あり。 幹(南側)に打音異常(小) H1.0m～2.0mあり。 幹(東側)H2.1mに開口空洞 10×5×10/25あり。 株立ちの幹分岐部が全て入り皮である。 大枝(南側)に腐朽あり。 露出根に樹皮欠損あり。 株立ちで立派な樹である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N01-139		シラカシ	15.0	186	7.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	無	無	樹形に乱れあり、樹幹傾斜、樹冠に偏り、下枝が高く、移植樹として適さない。 大枝に開口空洞・腐朽あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

エリア名		軟式野球場東側															調査日	2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日																	
樹木番号	樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》				2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
		樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-140	シラカシ	14.0	197	8.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	無	大	大枝に腐朽(大)3箇所、樹皮欠損5箇所あり。 腐朽枝が枯枝大となっている。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-141	ムクノキ	14.0	165	7.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.95	B		○					○		無	中	幹(南側)H6.0mに開口空洞 50×10あり。他に開口空洞が2箇所あり。幹に大枝枯損あり。 露出根の切断部に樹皮欠損あり。 過去の強剪定からの吹き直し樹形。下枝が高い。	●			B			
N01-142	トウネズミモチ	7.0	5本立	4.0	19,24,28,31,33	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	無	小	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
N01-143	ソメイヨシノ	7.0	206	6.0	－	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	3.00	C			○					○	有	大	根元(北側と南側)にコフキサルノコシカケの子実体あり。 幹(北側)に樹皮枯死あり。幹(南側)H0.9mに樹皮枯死 180×12×5あり。 ひこばえが多数あり。 フェンスが近接している。 上部の骨格大枝が枯死しており、注意が必要。剪定を要する。	●			B			
N01-144	マテバシイ	4.5	2本立	4.0	36,41	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○					○		無	中	幹に樹皮欠損 20×15あり。大枝に腐朽あり。 多芽症状が数か所あり。 樹木番号N01-145ケヤキに近接している。 盛土が30cm以上あり、二段根が生じている可能性あり。	●			B			
N01-145	ケヤキ	20.0	195	15.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○					○		有	無	ヘデラの登ハンあり。 盛土が30cm以上あり。 フェンスが近接している。	●			A			
N01-147	シダレザクラ	3.5	30	3.0	－	3.0	3.0	3.0	3.5	3.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.60	C		○		○					無	大	被圧(大)により樹勢衰退傾向にあり。	●			B			
N01-148	シラカシ	9.5	78	6.0	－	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.75	A		○		○					無	中	盛土が20cmあり。	●			A			
N01-149	ヒサカキ	4.5	30	3.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					有	大	大枝H1.6mに樹皮欠損 20×5あり。 ヘデラの登ハンあり。 フェンスが近接している。 被圧により樹形の偏りあり。	●			B			
N01-150	シラカシ	4.0	117	3.0	－	3.5	3.5	4.0	3.0	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.90	C			○					○	無	大	断幹されており、南側が根元まで腐朽(大)あり。 根元にオオミコブタケの着生あり。 胴吹きが多数あり。 盛土あり。	●			C			
N01-152	ヤエザクラ	9.0	88	6.0	－	3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.25	B			○					○	無	大	被圧による樹形の乱れあり(樹幹傾斜、下枝が高い)。 移植後の健全な状態への回復は見込めない。	●			B			
N01-153	クスノキ	16.0	212	10.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○			○				無	中	樹幹傾斜あり。 ヘデラの登ハンあり。 盛土が15cmあり。	●			B			
N01-154	ヤエザクラ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	－	－	C			

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名: 軟式野球場東側	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-155		クスノキ	16.0	2本立	14.0	221,223	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.70	A	○					○			無	小	高さH1.0mで幹が分岐した双幹樹形である。 盛り土が25cmあり。	●			A			
N01-156		マテバシイ	7.5	4本立	6.0	60,96,12 6,130	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.90	C			○					○	有	中	腐朽進行により幹が根元から折損し、4本立ちとなった。 道路側に傾斜している幹も腐朽進行により折損の恐れがあり、 注意が必要。剪定を推奨する。	●			B			
N01-158		ツバキ	3.5	2本立	2.5	20,30	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	大	被圧により下枝に枯損あり。 樹木番号 N01-160ヤエザクラに近接している。	●			B			
N01-159		トウネズミモチ	5.0	25	3.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	大	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来 種のため移植不適。			●	B	●		
N01-160		ヤエザクラ	7.0	108	4.5	－	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.70	C			○					○	無	大	樹形に乱れあり(被圧)、大枝に欠損あり。 幹に樹皮枯死あり。大枝に枯枝大あり。	●			B			
N01-161		トウネズミモチ	7.0	48	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	大	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来 種のため移植不適。			●	B	●		
N01-162		シダレザクラ	8.0	129	6.5	－	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○			○				有	中	根元・幹に打音異常(小)あり。 ヘデラの登ハンあり。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-163		シダレザクラ	6.0	118	5.0	－	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.80	C			○					○	有	中	幹H1.1mに開口空洞(大)、打音異常あり。 ぶつ切り剪定されている。相互被圧による樹形の乱れあり。 上部骨格大枝に枯死みられる。 ヘデラの登ハンあり。 フェンスが近接している。	●			B			
N01-164		クロガネモチ	12.0	223	8.0	－	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○					○			有	中	樹冠に偏りあり。 フェンスに近接している。	●			A			
N01-165		ツバキ	5.5	47	3.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					有	大	樹幹傾斜あり。 フェンスが近接している。	●			B			
N01-166		サザンカ	5.0	45	2.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.80	B		○		○					有	大	根元に樹皮欠損 5×5あり。 樹幹傾斜あり。 フェンスが近接している。	●			B			
N01-167		ツバキ	3.5	28	2.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B		○		○					有	大	幹に樹皮欠損が数か所あり。 周辺の中木からの被圧あり。 フェンスが近接している。	●			B			
N01-168		ツバキ	3.5	19	2.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B		○		○					有	大	フェンスに接触している。	●			B			

調査日 2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場東側																調査日			2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日																
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》					STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-169		ミズキ	10.0	75	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○			○				無	大	樹木番号N01-170サクラに近接し、競合状態にある。 被圧により下枝が少ない。	●			A			
N01-170		サクラ	10.0	159	9.0	－	2.5	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.60	C			○					○	無	大	被圧(大)あり、梢端枯れあり、樹勢衰退傾向にある。 樹冠に偏りあり。 梢端部および下枝に枯枝大あり。	●			B			
N01-171		ヤエザクラ	5.0	2本立	4.0	50,120	3.5	3.5	4.0	3.5	4.0	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3.20	C			○					○	無	小	大枝にぶつ切り剪定枝の枯損あり。 高さH0.5mで幹が分岐した双幹樹形である。 骨格大枝の上部が枯死している。衰退傾向にある。 胴吹きが多数あり。 盛土が25cmあり。	●			C			
N01-172		タイサンボク	9.5	145	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				有	小	ヘデラの登ハンあり。 盛土が30cm以上あり。 フェンスに近接している。		●		B			
N01-173		モッコク	8.5	117	5.5	－	2.0	1.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	有	小	樹形に乱れあり(双幹の片方切断)、大枝に腐朽あり。 盛土あり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-174		トウカエデ	14.0	262	10.0	－	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○					○			有	無	根元に開口空洞あるが、問題なし。 根上りあり。 露出根による縁石と舗装の乗り上げ・押上げあり。 縁石に囲まれた植栽桝(3.1×約2.4mの楕円形)にある。	●			A			
N01-175		カシワ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	－			
N01-176		トウカエデ	14.0	282	10.0	－	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○					○			有	無	根元に開口空洞あるが問題なし。 根上りあり。 露出根による縁石と舗装の押上げあり。 縁石に囲まれた植栽桝((直径1.2mの円形)にある。	●			A			
N01-177		シダレザクラ	5.5	111	5.0	－	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.70	C			○					○	無	小	根元にコフキタケあり。 幹に大枝剪定による樹皮欠損、こぶあり。 樹幹傾斜あり。 幹に腐朽複数あり。梢端部に枯損あり。折損の恐れがあるため、剪定の必要あり。	●			B			
N01-183		シラカシ	15.0	241	12.0	－	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○						○		有	中	幹H1.2mに開口空洞 25×10×10あり。 大枝に剪定痕からの腐朽あり。 フェンスに近接している。	●			A			
N01-184		シラカシ	15.0	210	10.0	－	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○						○		有	中	大枝にぶつ切り剪定、腐朽あり。 フェンスに近接している。	●			A			
N01-185		スダジイ	12.5	379	12.0	－	1.5	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○							○	有	小	立派な木である。 幹に開口空洞が数か所あり。 大枝に腐朽が数か所あり。 根元、縁石の押し上げあり。 フェンスにくい込みあり。	●			B			
N01-186		マテバシイ	10.0	138	8.0	－	2.5	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B		○					○		有	中	幹に背着性の子実体あり、断幹痕あり、入り皮あり、将来的に幹折損の恐れあり。軽減剪定かブレーシング設置を要する。 フェンスと近接し、移植のための適正根鉢の確保が困難。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場東側　調査日：2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-187		シダレザクラ	5.0	70	3.0	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3.10	C			○					○	有	中	幹に腐朽が多数あり。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-188		シダレザクラ	8.5	111	7.0	－	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	中	根元・幹に打音異常(小) H0.0m～1.0mあり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 片枝樹形である。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-189		シダレザクラ	7.5	96	6.0	－	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.40	B		○					○		有	中	フェンスが近接している。 梢端衰退による枝の枯損あり。	●			B			
N01-193		シダレザクラ	7.5	116	5.0	－	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.45	B			○					○	有	小	幹にコブが多数あり。 フェンスと照明の柱に近接しており、根鉢確保困難。	●			B			
N01-196		シダレザクラ	6.5	106	4.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.40	B		○					○		有	小	大枝がぶつ切り剪定されており、コブが多数あり。 フェンスに近接している。 大枝に背着性のし子実体あり。	●			B			
N01-199		シダレザクラ	6.5	74	4.0	－	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○					○		有	小	梢端衰退による枯損あり。 マンホールとフェンスが近接している。	●			B			
N01-202		シダレザクラ	7.0	87	5.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	小	根元・幹に打音異常(小) H0.0～2.0mあり。 高さH0.7mにワイヤーのくい込みあり。 フェンスに近接している。 盛り土20cmあり。 移植のための適正根鉢の確保が困難。	●			B			
N01-203		コブシ	8.5	131	7.0	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○					○		有	小	大枝がぶつ切り剪定されている。 ヘデラの登ハンあり。 フェンスに近接している。 盛り土25cmあり。	●			B			
N01-204		シダレザクラ	7.5	109	6.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B		○					○		有	小	片枝樹形である。 フェンスに近接している。 梢端衰退による上部枯損あり。	●			B			
N01-207		シダレザクラ	5.5	98	5.0	－	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B			○					○	有	小	枝葉が少ない。 梢端剪定されている。 フェンスに近接している。 梢端衰退による上部枯損あり。 移植のための適正根鉢の確保が困難。	●			B			
N01-209		イヌツゲ	3.5	2本立	1.5	14,36	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	小	幹に腐朽が多数あり。 刈り込み剪定されている。	●			B			
N01-210		イヌツゲ	2.2	4本立	1.5	15,8,6,5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	小	大枝に腐朽が多数あり。 刈り込み剪定されている。	●			B			
N01-211		イヌツゲ	2.2	24	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	中	樹木番号N01-077シラカシからの被圧あり。 刈り込み剪定されている。裏枝無く回復不可能、移植不可。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場東側															調査日				2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
N01-218		シダレザクラ	8.5	152	7.0	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	小	根元・幹に打音異常(小) H0.0m～0.5mあり。 フェンスが近接している。 梢端衰退により上部に枯損あり。	●			B			
N01-225		シダレザクラ	6.5	109	4.0	–	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.75	C			○					○	有	無	幹に大きな腐朽あり、幹折損の恐れあり。 幹にこぶが多数あり。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-226		イヌツゲ	3.0	3本立	2.0	17,21,46	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	小	大枝に腐朽あり。 フェンスが近接している。 刈り込み剪定されている。 裏枝無く回復不可能、移植不可。	●			B			
N01-229		シダレザクラ	7.0	130	6.0	–	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B			○					○	有	無	梢端衰退により上部枯損あり。	●			B			
N01-232		シダレザクラ	6.5	91	7.0	–	3.0	3.5	3.0	3.0	3.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.60	C		○					○		有	無	骨格となる大枝の枯損による枯枝(大)あり。 幹にこぶが多数あり。 片枝樹形である。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-233		イヌツゲ	3.0	135 (芝付)	2.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.20	B		○		○					有	無	小枝に枯れあり。 刈り込み剪定されている。 裏枝あり、円形刈込み、移植可能。	●			B			
N01-236		トウカエデ	14.0	224	8.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○					○			有	無	フェンス側の大枝が切断され、片枝樹形である。 フェンスが近接している。		●		B			
N01-240		シダレザクラ	5.5	82	4.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	大	上部に骨格となる大枝の枯損による枯枝(大)あり。 樹形特に不良で回復しない。 フェンスと近接し、移植のための適正根鉢の確保困難。	●			B			
N01-243		トウカエデ	12.0	191	8.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	無	フェンス側の大枝が切断されている。 大枝がぶつ切り剪定されている。 照明柱に接触している。	●			B			
N01-245		シダレザクラ	7.5	108	6.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B		○					○		有	中	幹にコブ複数あり。 片枝樹形である。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-247		カラスザンショウ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	–	–	B			
N01-248		トウカエデ	6.5	101	4.0	–	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.45	B			○					○	有	中	双幹の片方が伐採された状態にあり、切断痕からの腐朽(大)あり。 フェンスに近接している。道路際で根鉢が取れない。	●			B			
N01-251		シダレザクラ	5.5	99	3.0	–	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3.10	C			○					○	有	大	根元にコフキタケあり。 根元・幹に樹皮枯死あり。 残された大枝も折損の恐れあり。 フェンスに近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

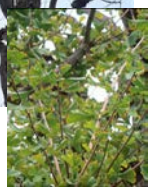
樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	軟式野球場東側						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023年 9月 25日 ～ 2023年 10月 11日	該当に●			ABCD			
N01-252		イヌツゲ	3.0	125(芝付)	2.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.35	B			○					○	有	小	刈り込み剪定されている。 一部枝無く、回復不可。	●			B			
N01-253		シダレザクラ	7.0	118	6.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	小	幹がH4.5mにて断幹されている。 高さH2.5mの上部が枯損している。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-255		イヌツゲ	2.3	110(芝付)	1.8	－	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○						○	有	小	枝にイヌツゲ枝枯病あり。 ひこばえが多数あり。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-256		イヌツゲ	2.6	68(芝付)	1.5	－	2.5	2.5	2.0	2.5	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B		○						○	有	小	枝にイヌツゲ枝枯病あり。 主幹となる大枝に枯れあり。 ひこばえが多数あり。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-259		トウカエデ	15.0	256	9.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○						○	有	無	枝にぶつ切り剪定、こぶあり。 フェンスに近接している。 道路脇で根鉢確保できず。	●			A			
N01-264		トウカエデ	10.0	234	8.0	－	2.0	2.0	3.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○					○	有	無	幹H1.0mに開口空洞 30×6×14あり。 梢端切除痕に腐朽(大)あり。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-265		イヌツゲ	2.8	68(芝付)	2.3	－	2.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○						○	有	小	枝にイヌツゲ枝枯病あり。 フェンスに近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-267		シダレザクラ	8.0	112	8.0	－	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○						○	有	無	フェンスに近接しており、このままでは根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N01-268		イヌツゲ	2.5	2本立	2.0	29,27	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.95	C			○					○	無	無	枯枝が目立つ 枯下がりあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	－			●
N01-269		シダレザクラ	3.5	67	4.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.55	C			○					○	有	無	骨格大枝の枯損あり、背着性の子実体あり。 幹にこぶが多数あり。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-278		ヤマザクラ	8.0	278	10.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.25	B		○					○		有	小	株立の大枝に腐朽、剪定痕あり。 根元にベッコウタケの子実体あり。 ぶつ切り剪定痕に腐朽あり。 巻き根あり。	●			B			
N01-281		カワヅザクラ	6.0	57	6.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○			○					無	中	移植されている。 ヒマラヤスギによる被圧あり(南側の枝が枯れている)。		●		－			

樹木番号	樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		平均評点		総合評価
			東西	南北	先端部（頂部）以外	先端部（頂部）	
西29	31.5	270	10.6	10.1	C	D	D

※樹高、幹周、葉張り、評価については10月調査時の値

撮影日　2023/7/26(調査時)
先端部：完全落葉
中間上部：褐変から落葉
中間下部：褐変

撮影日　2023/8/30(巡回時)
中間部から上部はほぼ落葉



撮影日　2023/9/26(巡回時)
中間部から上は落葉
葉のある中間部以下にも葉の周辺に褐変
夏季の高温・乾燥で多くのイチョウにこの症状が出る

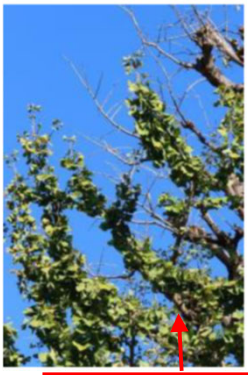
調査時所見(7月)

SHAKE SHACKテラス内に位置。枝の伸長が短く、葉が小さい。
多くの葉に葉縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。
高さ15mより上部が全て落葉。先端部の枯れかどうかは不明。
植栽緑地状況：SHAKE SHACKテラス内。

撮影日　2023/10/24(調査時)

樹幹中央部まで全て落葉
頂部が枯れているかは不明

残るはは小さく、縮れ
褐変が多い、結実量少



多くの葉に葉縁から扇状に
萎凋、褐変症状あり

調査時所見(10月)

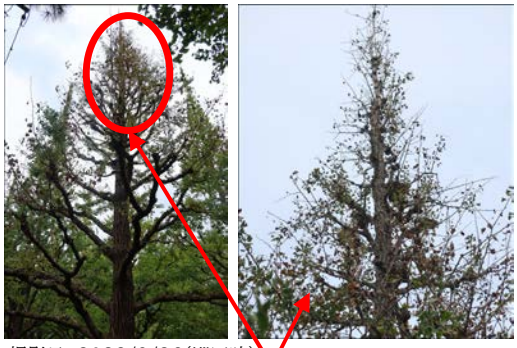
樹幹中央部まで全て落葉。残る葉は小さく、縮れ、褐変が多い。結実量少。
植栽緑地状況：SHAKE SHACKテラス内。

樹木番号	樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		平均評点		総合評価
			東西	南北	先端部（頂部）以外	先端部（頂部）	
西34	27.0	229	11.3	11.0	C	D	C

※樹高、幹周、葉張り、評価については10月調査時の値

撮影日　2023/7/26(調査時)
全体的に褐変が進行

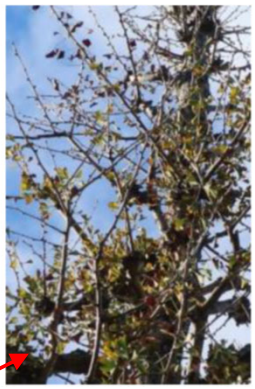
撮影日　2023/8/30(巡回時)
褐変した葉が縮れ落葉寸前
特に上部は縮れが激しい



撮影日　2023/9/26(巡回時)
先端部は縮れた葉のかなりが落葉
かなり下部から縮れ落葉

調査時所見(7月)

枝の伸長が短く、葉が小さい。
多くの葉に葉縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。
西側、葉の黄変多数、落葉あり、上部はほぼ褐変。東側の葉は緑色。
植栽緑地状況：ヘデラ被覆。



撮影日　2023/10/24(調査時)
頂部はほぼ落葉、葉が小さい

調査時所見(10月)

西側に落葉、葉の褐変多数、東側の葉に縮れあり。
植栽緑地状況：ヘデラ被覆(根付近は除去)。根元灌水ホース敷設。

樹木番号	樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		平均評点		総合評価
			東西	南北	先端部（頂部）以外	先端部（頂部）	
西36	27.5	280	9.8	10.3	B	D	D

※樹高、幹周、葉張り、評価については10月調査時の値

撮影日　2023/7/26(調査時)
西側上部と下部褐変
上部は激しい褐変で今後落葉予想

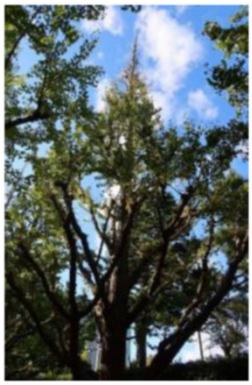
撮影日　2023/8/30(巡回時)
上部に激しく褐変から落葉

撮影日　2023/9/26(巡回時)
上部落葉

先端部は完全落葉
下部の葉も褐変進行

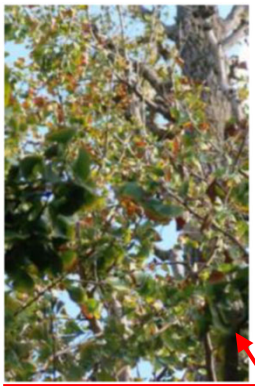
調査時所見(7月)

枝の伸長が短く、葉が小さい。
樹冠全体と特に上部の葉に褐変症状が顕著に見られる。
生理的障害によるものと思われる。
上部約10m落葉。西側、下部にも落葉あり。
植栽緑地状況：ヘデラ被覆。



撮影日　2023/10/24(調査時)
高さ10mより上部は葉が
小さく縮れ多数

上部約10m落葉



縁から扇状に萎凋、褐変症状あり

調査時所見(10月)

高さ約17mまで全て落葉、高さ10mより上部は葉が小さく、縮れ多数。
植栽緑地状況：ヘデラ被覆(根付近は除去)。根元灌水ホース敷設。

樹木番号	樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		平均評点		総合評価
			東西	南北	先端部（頂部）以外	先端部（頂部）	
西40	27.0	214	8.8	7.8	C	D	D

※樹高、幹周、葉張り、評価については10月調査時の値

撮影日　2023/7/26(調査時)
上部褐変著しい
下部・中部は落葉が進む

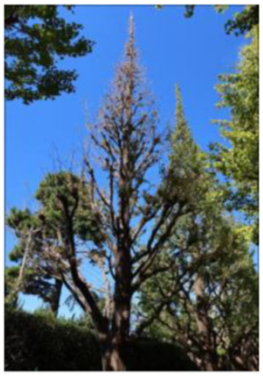
撮影日 2023/8/30(巡回時)
上部の葉の褐変と縮れ
全体的に褐変葉が縮れて落葉が進む

撮影日　2023/9/26(巡回時)
落葉進む

先端部はほぼ落葉・銀杏多い
下部もかなり落葉、残った葉も褐変

調査時所見(7月)

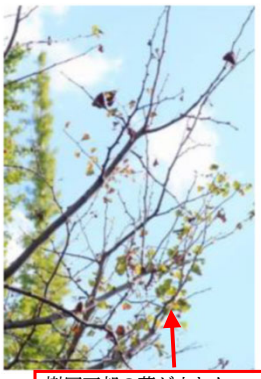
枝の伸長が短く、葉が小さく、葉量が少ない。
ほぼ全葉に葉縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。
東側下部のみ緑の葉を残し、樹冠全体の葉が褐変。
植栽緑地状況：ヘデラ被覆。



撮影日　2023/10/24(調査時)
残る葉は少なく小さい
高さ5～8mに黄変・褐変が多い

結実量多数

残るはは小さく、縮れ
褐変が多い、結実量少



樹冠下部の葉が少なく、
残る葉は小さい

調査時所見(10月)

並木内で最も樹勢が悪い。高さ10mより上部が全て落葉。結実多数。
残る葉は少なく、小さい。高さ5～8mに黄変、褐変が多い。
植栽緑地状況：ヘデラ被覆(根付近は除去)。根元灌水ホース敷設。

樹木番号	樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		平均評点		総合評価
			東西	南北	先端部（頂部）以外	先端部（頂部）	
西43	28.5	259	9.4	9.5	C	D	D

※樹高、幹周、葉張り、評価については10月調査時の値

撮影日　2023/7/26(調査時)
褐変が全体的に進行

撮影日　2023/8/30(巡回時)
上部から中間まで葉が褐変
褐変、葉の縮れ

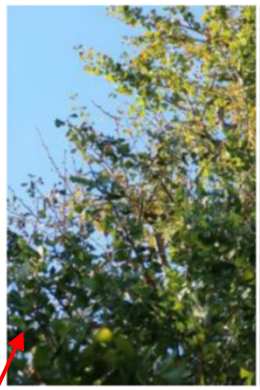
撮影日　2023/9/26(巡回時)
全体に褐変進行

上部は褐変から縮れ
中間部も褐変と縮れ

調査時所見(7月)

樹冠の中央部、南と西側に葉の褐変症状が多い。
上部の葉は緑が多い。
植栽緑地状況：ヘデラ被覆。

撮影日　2023/10/24(調査時)



全葉に縮れ、褐変あり

調査時所見(10月)

全葉に縮れ、褐変あり
植栽緑地状況：ヘデラ被覆(根付近は除去)。

イチョウ 葉の褐変症状調査報告

目　　的：イチョウの葉に生じた褐変症状について病原を調査し、防除対策を検討する。

結　　論：葉の褐変部からは病原菌類は観察されず、褐変症状が全葉の全てに同程度の症状であること、褐変部の葉の組織内容物が萎縮して枯死していることなどから伝染性病害などによるものではなく、寒害や乾燥害などの気象災害など、生理的障害によるものと思われる。
対応策としては特段の処置の必要は無く、樹体は葉の一部の損傷で留まっていることから樹体には異常は生じていないと思われる。

調査方法：採取された調査サンプルをルーペ（x 10)、実体顕微鏡（x 20～x 60)、生物顕微鏡（x 100～x 1000）で観察し、病原菌を調査した。
また、病斑部に病原菌が見られないものについては過湿条件下に保って（湿室培養）病原菌の発生を促がした。

調査結果：(写真記録参照)

被害の様子

・イチョウの樹冠全体において葉の黄化褐変が見られる(写真-1　現地撮影)。
・葉の褐変症状は、各葉において褐変症状に多少の強弱はあるが、ほぼ全葉に葉の周辺部に扇状の褐変が見られる（写真-2　現地撮影)。
・調査用に採集されたサンプル（写真-3)。
・葉の症状は着葉の全てにほぼ同程度の褐変症状が生じている（写真-4)。
・症状は葉の周辺部から脱色が始まり次第に褐変化して拡大する（写真-5)。
・葉の褐変枯死部は平滑で、斑紋などの病斑は見られず病原菌と思われるような標徴も見られない（写真-6)。

病原の確認

・葉の褐変部における組織内の検鏡調査に、褐変部を切片として細胞の状態を確認する（写真-7)。
・なお、症状が進んだ重症葉においても褐変部には病原菌と思われるような標徴は観察されない（写真-8)。
・葉の組織は緑色部(画像右側)では葉の厚みが維持されているが、褐変部(画像左側)では組織が潰れて葉の厚みが薄い（写真-9)。
・葉の褐変部の内部組織は細胞の内容物が萎縮して潰れ枯死している（写真-10)。

・緑色部の組織では柵状組織、海綿状組織に異状は見られない(写真-11)。
・葉の組織内においては褐変部、緑色部共に組織内に菌糸や細菌類は観察されず、病原菌と思われるものは観察されなかった（写真-12～-14)。
・褐変葉を過湿下に置いて病原菌の出現を促した(湿室培養)が、処理 5 日間後において雑菌と思われる菌（*Curvularia* 属 類似菌）以外に菌類の発生は見られなかった（写真-15)。

考　　察：イチョウの褐変葉からは病原菌と思われるものは観察されなかった。
褐変部の組織の調査結果から、
①組織の枯死には病原菌類の関与は見られなかったこと、
②葉における被害の状況が、全葉一律に同様の症状であること、
などから、伝染性病害などによる被害とは異なることが窺がわれる。
褐変症状の原因については不明であるが、原因は伝染性病害などによるものではなく、寒害や乾燥害など気象災害などによる生理的障害の可能性が疑われる。

防除対策：被害は葉の一部であり、樹体には特段の障害にはなっていないと思われることから、樹体の健全維持管理に努めることで回復すると思われる。

以上

令和 5 年 6 月 8 日

イチョウ　褐変症状

1　被害の様子　(現地撮影)

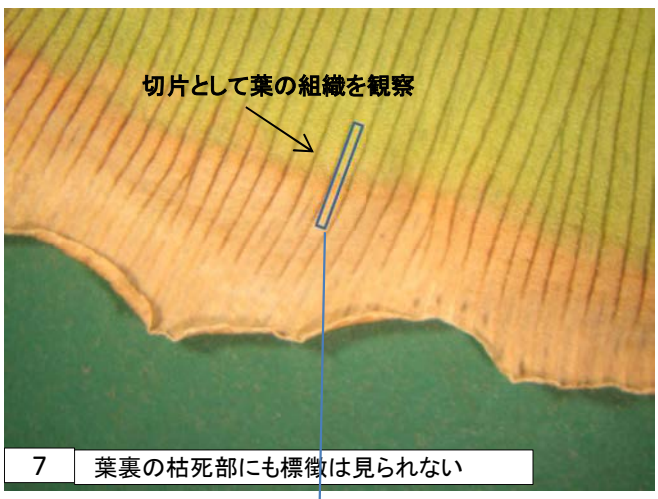
2　褐変症状　(現地撮影)

3　調査用に採集された被害葉

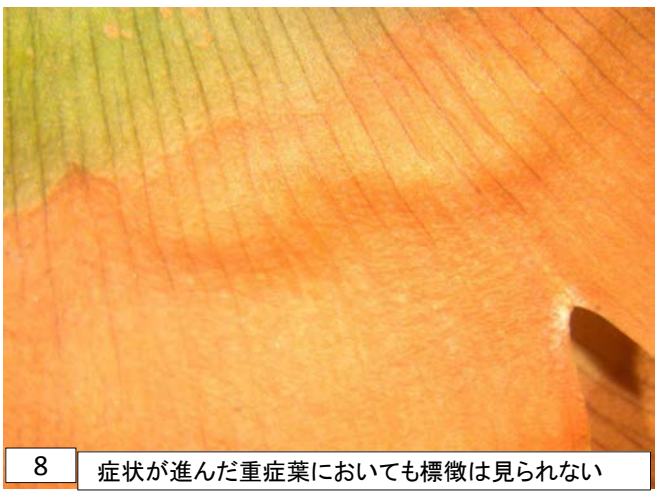
4　褐変症状は全様ほぼ同程度に発症している

5　褐変症状は葉の先端周囲から枯死が進展

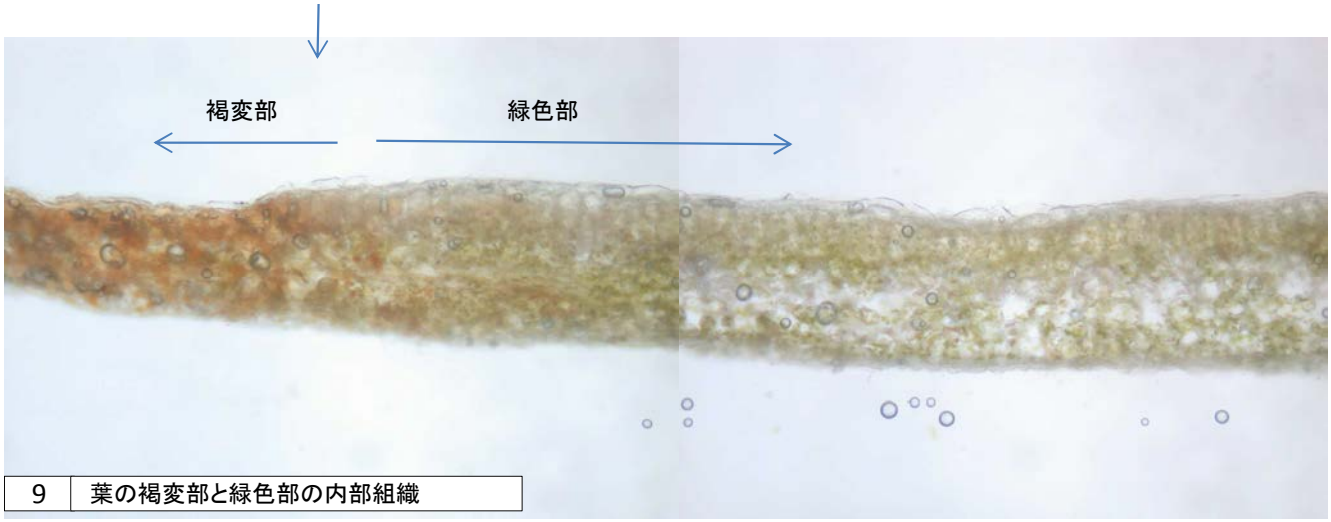
6　枯死部には病原菌と思われる標徴は見られない



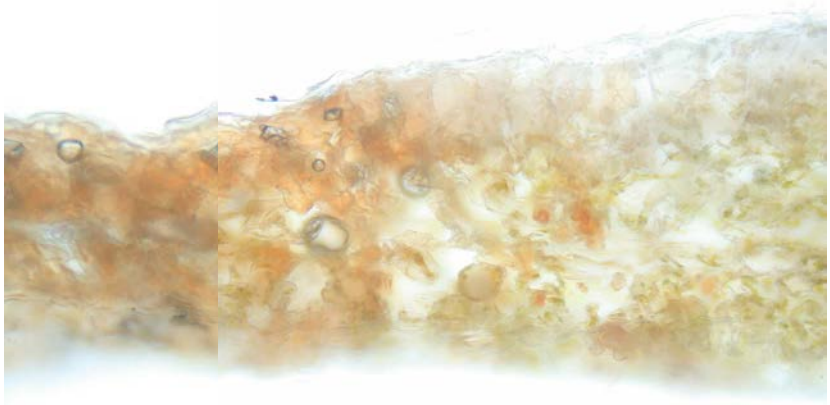
7　葉裏の枯死部にも標徴は見られない



8　症状が進んだ重症葉においても標徴は見られない

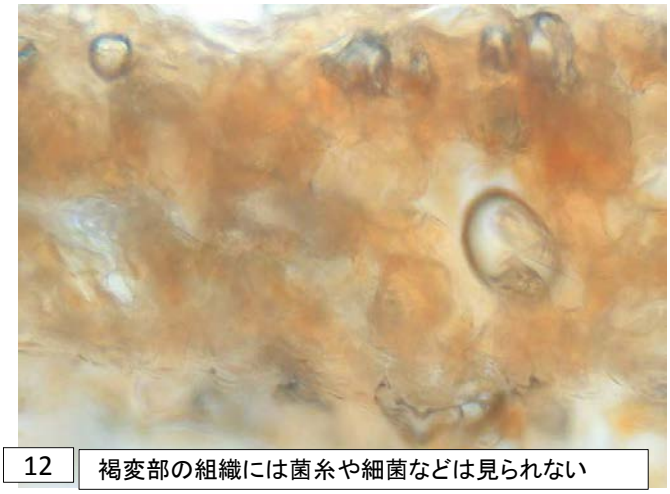


9 葉の褐変部と緑色部の内部組織

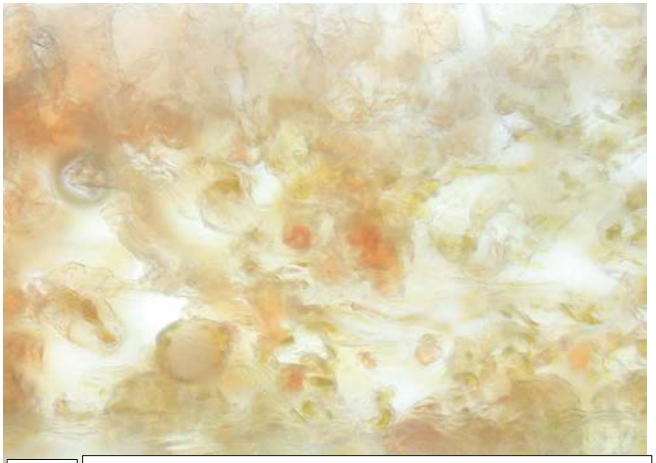


10 褐変部の内部組織　細胞の内容物は萎縮して枯死

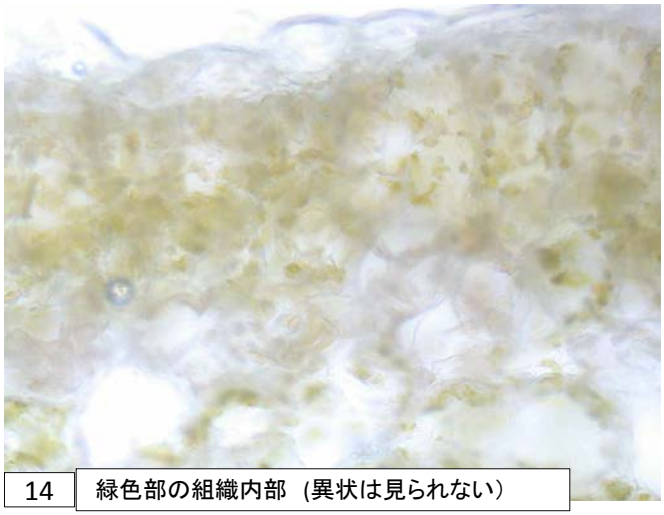
11 緑色部の内部組織



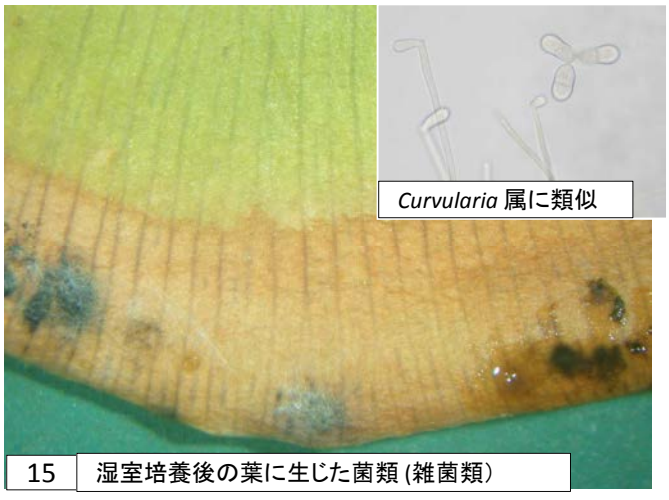
12 褐変部の組織には菌糸や細菌などは見られない



13 褐変初期の組織にも菌糸や細菌などは見られない



14 緑色部の組織内部（異状は見られない）



15 湿室培養後の葉に生じた菌類（雑菌類）

幅 1m×深さ 1mの調査区を 10 分割（10cm ごとに分割）した 1 メッシュを示す。

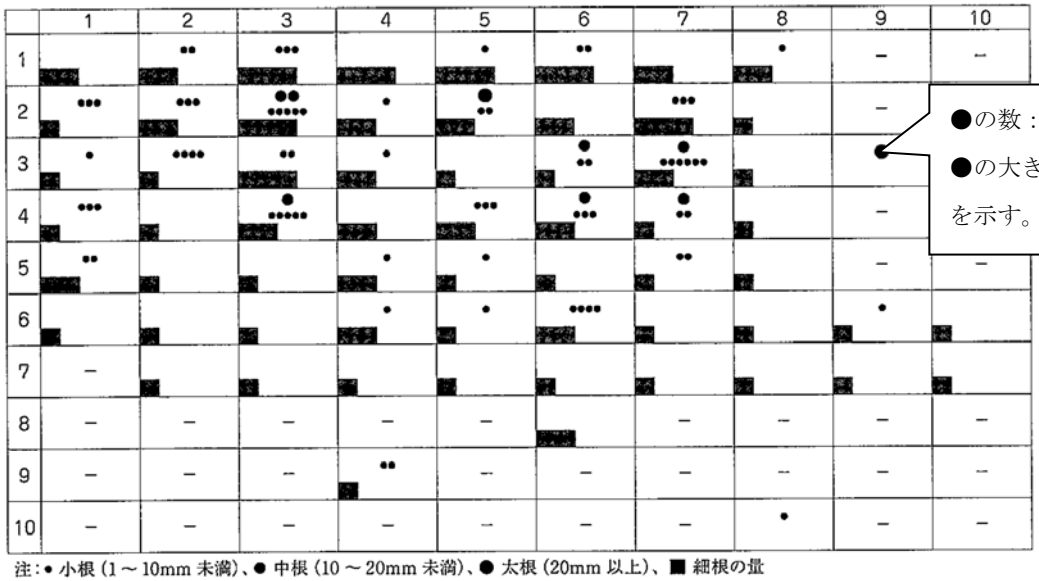
【参考】根系調査樹木診断様式（日本緑化センター樹木診断様式）

表15　根量分布調査票の例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	(2)	1×2 (2)	3×2 2×1 (2)	(3)	2×1 (3)	2×1 1×1 (3)	(2)	1×1 (2)	—	—
2	3×1 2×1 1×1 (1)	4×1 3×1 1×1 (1)	19×1 15×1 13×1 (2)	2×1 (2)	23×1 6×1 1×1 (3)	(2)	2×1 1×2 (3)	(1)	—	—
3	5×1 (1)	3×1 2×1 1×1 (1)	1×2 (2)	1×1 (3)	(1)	12×1 5×1 4×1 (2)	14×1 5×1 4×1 2×2 1×3 (3)	(1)	45×1	—
4	4×1 3×2 (1)	(1)	16×1 9×1 2×1 1×3 (2)	(2)	2×1 1×2 (2)	12×1 9×1 6×1 1×1 (2)	15×1 4×1 1×1 (1)	(1)	—	
5	5×1 1×1 (2)	(1)	(1)	1×1 (2)	1×1 (1)	(1)	1×2	(1)	—	—
6	(1)	(1)	(1)	3×1 (2)	1×1 (1)	2×1 1×3 (2)	(1)	(1)	3×1 (1)	(1)
7	—	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
8	—	—	—	—	—	(2)	—	—	—	—
9	—	—	—	3×1 2×1 (1)	—	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—	—	—	3×1	—	—

注：直径 1mm 以上の根の直径（mm）×本数、（　）内は直径 1mm 未満の細根量の区分。
1：ごくわずかにあり、2：少ない、3：普通にある、4：多い、5：極めて多い

根の直径(mm)×本数を示す。



注：• 小根（1～10mm 未満）、● 中根（10～20mm 未満）、● 太根（20mm 以上）、■ 細根の量

●の数：根の数
●の大きさ：根の太さ
を示す。

図 17　根量分布図の例

■根量分布表（令和 6 年調査）

表-1　根量分布表（地点 1 （樹木 No. 6）

2024 年 1 月 10 日

根量分布調査　樹木No. 6　　調査位置:　緑地内断面、縁石離隔8.20m

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	5×1 2×1 (2)	5×1、3×1 2×1、1×1 (4)	4×1 2×1、1×1 (1)	4×1 2×1、1×1 (3)	7×1 2×2 (3)	 (3)	 7×1 (2)	 2×1 (2)	 (2)	 8×1 (1)
2	 (2)	3×1 2×1、1×1 (2)	 1×2 (2)	 (1)	 4×1 (2)	3×1 1×1 (2)	 1×2 (4)	 (2)	 (3)	 2×1 (2)
3	 1×1 (2)	 (1)	4×1、3×1 2×1、1×1 (1)	4×1 1×1 (1)	30×1 3×1 (1)	 2×1 (1)	 (1)	10×1 1×1 (1)	4×1 1×2 (2)	2×1 1×1 (2)
4	 (1)	7×1 2×1 (1)	 (1)	 (1)	3×1 1×2 (1)	 (1)	 (2)	9×1、6×1 3×1、1×1 (2)	2×1 1×2 (2)	 (2)
5	 (2)	 (1)	 2×1 (1)	 (1)	 1×2 (1)	3×1 2×1 (3)	 (1)	 (1)	 (1)	 (1)
6	 (1)	 (2)	 (1)	 (1)	 (1)	3×1 (−)	 (1)	 (1)	2×1 (1)	2×1 (1)
7	 2×1 (2)	2×1 1×1 (1)	26×1 2×1 (2)	3×1 2×2 (3)	 1×1 (2)			2×1 1×2 (1)	 (1)	14×1 2×1 (2)
8	19×1 4×1 (1)	2×1 1×1 (1)	 3×1 (1)	 4×1 (2)	 (1)			3×1 (−)	 (1)	 (2)
9	 (1)	 (1)	 (1)	2×2 1×1 (1)	 8×1 (1)			 (−)	5×1 (1)	 (2)
10	 (2)	 (1)	 (2)	 (2)	 (1)			 (−)	 (1)	 (1)

コンクリート基礎梁

直径1mm以上の根の直径(mm)×本数,（ ）は直径1mm未満の細根の量, 1:ごくわずかにあり, 2:少ない, 3:普通にある, 4:多い, 5:極めて多い

注）10cm×10cm メッシュごとに、根の直径と本数を示したものである。

表-2　根量分布表（地点２（樹木No.7 と 8 の間）

2024 年 1 月 24 日

根量分布調査　樹木No. 7-8間　　調査位置:　車道上断面、縁石離隔10.05m

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	 (1)	 (1)	 (1)	 (1)	 (1)	 (1)	 (1)	 (1)	 (1)	−
2	 1×2 (1)	 (2)	 1×1 (2)	 1×1 (3)	 1×1 (3)	 (2)	 (2)	 (3)	 (2)	 (3)
3	 (2)	 (2)	 1×1 (2)	 1×1 (1)	 3×1 (1)	2×1 1×1 (2)	 (1)	 (2)	 (3)	 (3)
4	 (2)	 (1)	 (2)	 (2)	 (1)	2×1 1×1 (1)	 (1)	 (3)	 (1)	 (1)
5	 1×1 (1)	3×1 1×1 (1)	− 	 (1)	 (1)	 2×1 (1)	 (2)	− 	− 	 3×1 (1)
6	−	−	−	−	 (1)	 (1)	 (1)	−	 (2)	 (1)
7	 (1)	 (1)	−	−	−	 (1)	−	−	4×1 (2)	 (1)
8	2×1 (1)	−	−	1×1 (2)	 (1)	 (1)	 (2)	 (1)	−	 (1)
9	 (1)	 (1)	 (1)	−	29×1 (−)	 (3)	 (1)	−	−	 (1)
10	−	4×1 (−)	−	10×1 (−)	−	 (1)	−	 (1)	 (1)	 (1)

直径1mm以上の根の直径(mm)×本数,（ ）は直径1mm未満の細根の量, 1:ごくわずかにあり, 2:少ない, 3:普通にある, 4:多い, 5:極めて多い

注）10cm×10cm メッシュごとに、根の直径と本数を示したものである。

表-3　根量分布表（地点３（樹木№9）

2024 年 1 月 23 日

根量分布調査　樹木No.9　　調査位置:　車道上断面、縁石離隔10.00m

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	1×1		−	−		−	−	−	−	−
	(1)	(1)			(1)					
2	−	−	−	1×1	−				1×1	
				(−)		(1)	(3)	(2)	(1)	(2)
3	1×1	1×1	1×1			1×1				1×2
	(1)	(2)	(−)	(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(1)
4				14×1、4×1				4×1		
	6×1		1×1	3×1、2×1		2×1	1×1	2×1、1×2		4×1
	(1)	(2)	(1)	1×2 (2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
5	3×1	2×1					5×1	6×1		
	1×2	1×2			2×1	1×1	4×2	1×2	1×1	3×1
	(2)	(3)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)
6				4×1						5×1
				1×2		4×1			2×1	3×1
	(3)	(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)
7										
	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)
8		9×1	3×1	13×1	1×1		8×1			6×1
	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(1)	(2)
9	4×1	3×1					7×1			
	3×2	1×1	6×1			29×1	4×1			1×1
	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)
10			3×2		19×1					
		4×1	2×1	3×2	3×1	−	3×1	−	−	
	(1)	(1)	(1)	(2)	(3)		(1)			(1)

直径1mm以上の根の直径(mm)×本数, ( )は直径1mm未満の細根の量, 1:ごくわずかにあり, 2:少ない, 3:普通にある, 4:多い, 5:極めて多い

注）10cm×10cm メッシュごとに、根の直径と本数を示したものである。

表-4　根量分布表（地点４（樹木№32 と 33 の間）

2024 年 1 月 15 日

根量分布調査　樹木No.32-33間　　調査位置:　テニスコート内、縁石離隔11.21m

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
2	−	枯死根あり	枯死根あり	枯死根あり	−	−	−	−	−	−
3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
4				−					枯死根あり	
	(1)	(1)	(2)		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
5		枯死根あり				1×2	1×1	1×1	1×1	
	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(1)	(2)	(1)
6						2×1	2×1			
			枯死根あり			1×2	1×2			
	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(1)
7							4×1			
		1×1			−		1×1		−	
	(1)	(2)	(1)	(1)		(1)	(1)	(3)		(1)
8	8×1、4×1					5×1				
	3×1、2×1					3×1、1×1	2×1		−	−
	1×2 (3)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(1)		
9						2×1				
		2×1		1×1	1×1	1×1			−	
	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)		(1)
10										
		−	−	−	−			−	−	−
	(1)					(1)	(1)			

直径1mm以上の根の直径(mm)×本数, ( )は直径1mm未満の細根の量, 1:ごくわずかにあり, 2:少ない, 3:普通にある, 4:多い, 5:極めて多い

注）10cm×10cm メッシュごとに、根の直径と本数を示したものである。

表-5　根量分布表（地点５（樹木№34）

2024 年 1 月 15 日

根量分布調査　樹木№34　　調査位置:　テニスコート内、縁石離隔11.13m

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2	－	－	－	－	(1)	(1)	－	－	－	－
3	(1)	－	1×1 (－)	－	2×1 1×1 (1)	(2)	1×1 (－)	(2)	－	(1)
4	(1)	(1)	2×1 1×1 (1)	(2)	3×1 (2)	1×1 (2)	3×2 2×1 (2)	3×2 1×2 (2)	－	(1)
5	(2)	5×1 2×1、1×1 (2)	(2)	－	1×1 (2)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)
6	(1)	(2)	2×1 (3)	(1)	(1)	(1)	1×1 (1)	(1)	(1)	－
7	(2)	(2)	2×1 1×1 (2)	2×1 1×1 (2)	2×3 (2)	(3)	(2)	7×1 2×1、1×1 (2)	7×1 4×1、2×1 (3)	34×1 5×1 (2)
8	(2)	(2)	(3)	3×1 (2)	(1)	1×1 (1)	5×1 (2)	(3)	25×1、4×1 3×2、2×1 1×2、(3)	70×1 10×1 (3)
9	(1)	(1)	(2)	(2)	(1)	(2)	(1)	(1)	(3)	(2)
10	(2)	(2)	(3)	1×1 (3)	(3)	(2)	(2)	4×1 (3)	5×4 4×1、3×4 (3)	(3)

直径1mm以上の根の直径(mm)×本数,（ ）は直径1mm未満の細根の量, 1:ごくわずかにあり, 2:少ない, 3:普通にある, 4:多い, 5:極めて多い

注）10cm×10cm メッシュごとに、根の直径と本数を示したものである。

表-6　根量分布表（地点６（樹木№35）

2024 年 1 月 15 日

根量分布調査　樹木No.35　　調査位置:　テニスコート内、縁石離隔11.10m

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2	－	－	(1)	(1)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	－
3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
4	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	太い枯死根 (1)	－	(1)	(1)
5	－	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	2×1 1×1 (1)
6	－	(1)	(1)	5×1 (2)	(1)	(1)	(1)	－	3×1 2×1、1×1 (1)	(1)
7	1×2 (1)	1×1 (1)	－	(1)	－	2×2 1×2 (3)	(1)	－	－	－
8	(1)	－	－	－	－	(2)	－	－	－	－
9	－	(1)	－	(1)	(1)	－	－	－	－	－
10	－	－	－	1×1 (－)	(1)	1×1 (2)	－	－	－	－

直径1mm以上の根の直径(mm)×本数,（ ）は直径1mm未満の細根の量, 1:ごくわずかにあり, 2:少ない, 3:普通にある, 4:多い, 5:極めて多い

注）10cm×10cm メッシュごとに、根の直径と本数を示したものである。

表-7　根量分布表（地点７（樹木No.37）

2024 年 1 月 11 日

根量分布調査　樹木No. 37　　調査位置:　テニスコート内、縁石離隔10.98m

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2	－	1×1 (1)	(1)	16×1 (4)	1×1 (2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(3)
3	－	－	(1)	2×1 (2)	－	－	(1)	(1)	－	1×2 (2)
4	1×1 (2)	(4)	(3)	(1)	2×2 (1)	1×2 (2)	1×1 (1)	(1)	(1)	1×1 (1)
5	(2)	3×1 2×1、1×1 (1)	1×1 (2)	1×3 (2)	6×1 1×1 (1)	(1)	1×1 (2)	(1)	(2)	(1)
6	1×1 (1)	1×1 (1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	1×1 (3)	(2)
7	1×2 (1)	3×1 1×2 (2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)
8	2×1 (2)	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)
9	(1)	(1)	(2)	(2)	(1)	1×1 (1)	26×1 (2)	(3)	3×1 1×1 (1)	(2)
10	－	(1)	－	(1)	－	－	(1)	(1)	(2)	(2)

直径1mm以上の根の直径(mm)×本数,（ ）は直径1mm未満の細根の量, 1:ごくわずかにあり, 2:少ない, 3:普通にある, 4:多い, 5:極めて多い
注）10cm×10cm メッシュごとに、根の直径と本数を示したものである。

表-8　根量分布表（地点８（樹木 No. 39）

2024 年 1 月 11 日

根量分布調査　樹木No.39　　調査位置:　テニスコート内、縁石離隔10.92m

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	－	(1)	－	－	－	－	－	－ 枯死根あり	－	－
2	(1)	1×2 (1)	(1)	－	(1)	(1)	(1)	1×1 (1)	－ 枯死根あり	－
3	(1)	(1)	－	－	－	－	－	(1)	－	－
4	1×2 (1)	－	－	－	－	－	(1)	11×1 2×1 (3)	(1)	(1)
5	3×1 (1)	(1)	3×1 2×1 (2)	1×1 (2)	(2)	1×1 (1)	1×1 (1)	2×1 (1)	－	(1)
6	(1)	(2)	－	1×2 (1)	(1)	1×1 (2)	(2)	2×1 (2)	(1)	2×1 (2)
7	1×1 (2)	2×1 (1)	(2)	(1)	(1)	3×1 2×1 (2)	2×1 1×1 (1)	(1)	(1)	(2)
8	(3)	(1)	2×1 1×1 (2)	1×1 (2)	1×1 (1)	1×1 (2)	1×2 (2)	(2)	(2)	1×2 (3)
9	←				塩 ビ 管					→
10	1×2 (－)	－	－	－	－	－	－	－	－	－

直径1mm以上の根の直径(mm)×本数,（ ）は直径1mm未満の細根の量, 1:ごくわずかにあり, 2:少ない, 3:普通にある, 4:多い, 5:極めて多い
注）10cm×10cm メッシュごとに、根の直径と本数を示したものである。

表-9　根量分布表（地点９（樹木No.41）

2024 年 1 月 10 日

根量分布調査 樹木No. 41　　調査位置：　テニスコート内、縁石離隔10.80m

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1		1×1	－	－	－	－	－	－	2×1	－
	(2)	(2)							(1)	
2					3×1		3×1			
	1×1	2×2	2×2	1×1	2×1	1×1	2×1、1×2		－	
	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)		(1)
3			2×1	6×1						2×1
	1×1	2×1	1×2	2×1、1×1	1×1	1×2	1×1		1×2	1×4
	(1)	(1)	(3)	(2)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(3)
4									2×1	
				1×2			2×1	1×3	1×2	2×1
	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
5										6×1
	1×1					1×1				2×2
	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
6		－								
	(1)		(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)
7										
				2×1		3×1				7×1
	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	(2)
8				5×1						
				4×1、3×1						
	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)
9			7×1							
		8×1	3×1	1×1	3×1	2×1				
	(2)	(1)	(3)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)
10										
	(2)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)

直径1mm以上の根の直径(mm)×本数,（ ）は直径1mm未満の細根の量, 1:ごくわずかにあり, 2:少ない, 3:普通にある, 4:多い, 5:極めて多い

注）10cm×10cm メッシュごとに、根の直径と本数を示したものである。

表-10　根量分布表（地点 10（樹木 No. 43）

2024 年 1 月 9 日

根量分布調査 樹木No.43　　調査位置：　テニスコート内、縁石離隔10.80m

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
3	－	－	－	－		－	1×2			7×1
					(1)		(2)	(1)	(1)	(1)
4			－			－				
	(1)	(1)		(1)	(1)		(1)	(1)	(1)	(2)
5								3×1		
								1×2		
	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)
6								2×1	2×1	
				1×2				1×1	1×1、枯死根	1×1
	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)
7						9×1				2×1
						3×1、枯死根		2×1	1×1	1×1
	(1)	(1)	(1)	(2)	(3)	(3)	(3)	(4)	(3)	(2)
8		9×1、7×1								
	77×1、1×2	5×1、2×1		1×1		5×1				
	(2)	1×4 (2)	(2)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)
9					4×1					
	6×1			1×2	3×1	2×1		3×1	1×1	
	(2)	(3)	(4)	(4)	(3)	(3)	(3)	(2)	(2)	(1)
10										3×1
	6×1	1×1				2×1			1×2	2×2
	(1)	(2)	(2)	(2)	(1)	(3)	(2)	(2)	(2)	(2)

直径1mm以上の根の直径(mm)×本数,（ ）は直径1mm未満の細根の量, 1:ごくわずかにあり, 2:少ない, 3:普通にある, 4:多い, 5:極めて多い

注）10cm×10cm メッシュごとに、根の直径と本数を示したものである。

表-11　根量分布表（地点 11（樹木 No. 44）

2024 年 1 月 9 日

根量分布調査　樹木No.44　　調査位置:　テニスコート内、縁石離隔10.78m

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	－	－	(1)	－	－	－	－	－	－	－
2	－	1×2 (1)	1×3 (1)	(1)	(2)	(1)	3×1 1×1 (1)	(1)	2×1 (1)	1×1 (1)
3	(1)	1×1 (1)	2×1 1×1 (2)	(1)	(1)	1×1 (2)	(2)	(2)	(1)	1×1 (1)
4	2×1 (1)	(1)	(1)	(1)	(3)	3×1 1×1 (1)	(1)	(1)	(1)	(1)
5	1×1 (2)	(2)	(2)	5×1 (1)	1×1 (1)	1×1 (2)	(3)	3×1 1×1 (2)	(2)	(2)
6	(1)	(1)	(2)	(2)	(3)	4×1 (1)	(2)	(1)	(2)	1×1 (2)
7	(2)	(2)	1×1 (2)	－ 	(1)	(3)	(2)	(2)	1×1 (2)	1×1 (3)
8	(1)	(1)	1×1 (1)	1×2 (2)	1×1 (1)	(1)	(2)	2×1 1×2 (3)	(2)	3×1 2×2 (2)
9	3×1 (1)	(1)	－	－	－	－	(1)	20×1 4×1 (1)	(1)	(1)
10	－	－	－	(1)	－	－	－	(2)	1×1 (1)	3×1 (1)

直径1mm以上の根の直径(mm)×本数, ( )は直径1mm未満の細根の量, 1:ごくわずかにあり, 2:少ない, 3:普通にある, 4:多い, 5:極めて多い

注）10cm×10cm メッシュごとに、根の直径と本数を示したものである。

表-12　根量分布表（地点 12（樹木No.47）

2024 年 1 月 9 日

根量分布調査　樹木No.47　　調査位置:　No.47 テニスコート内、縁石離隔10.60m

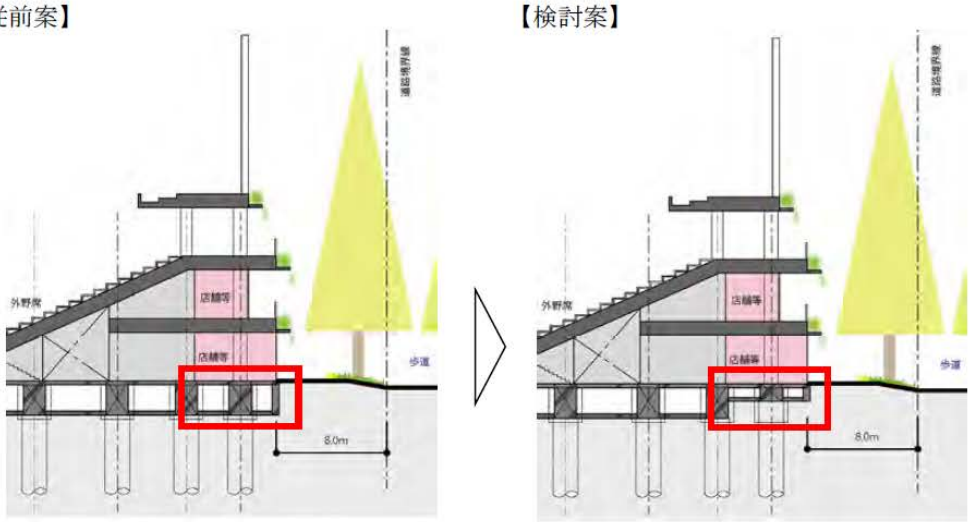
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	－	－	－	－	2×1 (1)	－	－	－	2×1 1×3 (1)	－
2	(1)	1×4 (2)	(1)	(1)	1×2 (1)	8×1 3×1、1×3 (1)	(1)	(1)	(1)	1×1 (－)
3	－	3×1 1×2 (1)	2×1 (1)	1×2 (1)	(2)	1×1 (1)	5×1 1×3 (1)	1×1 (2)	(1)	(1)
4	1×1 (2)	(1)	(1)	2×1 1×1 (1)	(1)	(1)	－	－	1×1 (1)	(1)
5	－	－	6×1 4×2、1×1 (3)	(1)	(1)	(1)	1×1 (1)	(2)	1×1 (1)	(1)
6	(2)	(1)	1×1 (2)	(2)	1×1 (2)	(2)	1×1 (2)	(2)	(1)	(2)
7	(1)	6×1 (2)	φ5cm腐朽の 進んだ根あり (2)	5×1 2×1 (1)	1×1 (1)	－ 	5×1 (2)	(3)	(1)	1×1 (1)
8	－	1×2 (3)	－	(1)	(1)	(1)	2×1 (3)	(2)	1×2 (3)	(1)
9	←				塩 ビ 管					→
10	(2)	(1)	13×1 4×1、3×3 (－)	16×1 3×1 (1)	6×1、5×1 4×1、1×2 (2)	(2)	2×1 (3)	(1)	－ 	(2)

直径1mm以上の根の直径(mm)×本数, ( )は直径1mm未満の細根の量, 1:ごくわずかにあり, 2:少ない, 3:普通にある, 4:多い, 5:極めて多い

注）10cm×10cm メッシュごとに、根の直径と本数を示したものである。

【参考】評価書より抜粋

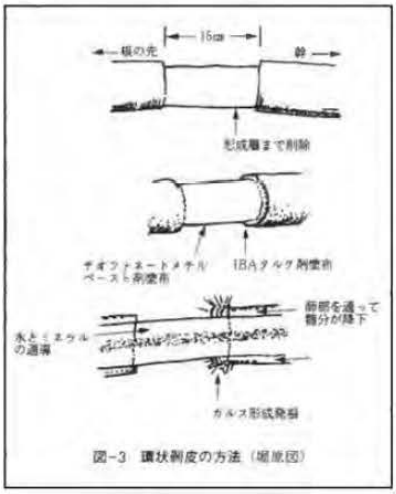
表 8.6-35(1)　4 列いちょう並木の保全に向けた根系に対する配慮について（1/3）

根系の切断を避けるための対応	■設計・施工計画段階における配慮事項 ・4 列のいちょう並木の西側 1 列については、根系調査の段階から、設計者、樹木医、事業者が一体となり、根系の状態に応じた基礎構造、施工方法等を精査する。 ・扁平基礎やピットの一部縮小などの構造上の対応により、計画建物の工事において杭工事を除き掘り返す深さは、4 列いちょう並木沿いについては 2 メートル程度に抑えられることから、2 メートルより深い部分にある根は保全することができる。ただし、既存施設の基礎は深さ 1.5 メートル程度となっており、また既存施設がない区域もあることから、1.5 メートルより浅い箇所に根が張っている可能性もある。この場合においては、樹木医等の見解を踏まえ、地下部への影響を最小限に抑えるため設計の深度化に際して構造について精査し、4 列のいちょう並木を確実に保全する。 ・外野スタンドの外周部の主要な杭については現時点では約 9m 間隔程度を想定しているが、杭基礎の位置・間隔、形状、種別については、根系調査等の結果を受けて、設計、施工計画に反映し柔軟に対応する。 ・いちょうの健全な生育へ影響を与えるような根が複数確認され、環状剥皮処理が不適当な場合は、根を避けるため該当箇所の壁面を後退させる等の施設計画の工夫等を行い、いちょうを保全する。 【従前案】　【検討案】  いちょう並木側の基礎梁については、扁平化する等考慮し、掘削範囲の低減に配慮して継続検討 ・基礎梁をプレキャスト化※、杭は既成杭等を検討する。 ※「基礎梁をプレキャスト化」：工事現場でコンクリート打設等により作成するのではなく、あらかじめ工場で作成し現場で組み充てる部材のこと。プレキャスト資材、既成杭を利用することで、施工現場での作業工程（鉄筋組立、コンクリートを現場で打つ等々の湿式作業）を減らし、根系への影響を低減。

注 1）本資料は現時点での検討中の内容であり今後変更される可能性がある。
注 2）建築設計、構造設計及び施工計画の専門家へのヒアリング結果に基づき、上記環境保全のための措置を記載。
注 3）一部「街路樹管理マニュアル」（令和 4 年 2 月　国土交通省関東地方整備局、東京国道事務所）等を参考に記載。

【参考】評価書より抜粋

表8.6-35(2)　4列いちょう並木の保全に向けた根系に対する配慮について（2/3）

やむを得ず一部根系の切断が必要となる場合の対応	■環状剥皮施工における配慮事項 調査結果を踏まえ、やむを得ず一部根系の切断が必要となり環状剥皮施工が必要な場合には、以下のとおり処置を行う。 ・支持根などの根が長く伸びている場合は、環状剥皮処理の対象となる支持根等の直径について、詳細な調査結果を踏まえ複数の樹木医等の専門家の指示を仰ぎながら精査し環状剥皮処理を行う。 ・環状剥皮処理を行う場合は、夏季期間を確実に避けられるよう、施工適期までに余裕を持った調査及び処理工程とする。 「樹木医の手引」を参考に、根系調査をもとに樹木医がイチョウの根を診断の上、下記のとおり状況に応じて対応するとされている。 ・ 10cm メッシュ内にφ3cm 以上の根が 3 本以内ある場合 環状剥皮せず鋭利に切断する。 ・ 10cm メッシュ内にφ3cm 以上の根が 4 本以上ある場合 環状剥皮施工[注2)] を行う（当該箇所の施工時期から約 1 年以上前に実施）。 ・ 調査の結果、イチョウの健全な生育へ影響を与えるような根が複数確認されたと樹木医が判断する場合には、樹木医の見解を踏まえ、根を避けるため該当箇所の壁面を後退させる等の施設計画の工夫等を行い、いちょうを保全する。 【参考】「樹木医の手引」より引用 根回し時の根鉢よりも外に出る根のうち、概ね直径 5cm 以上の太い根は切断せずに環状剥皮を行い、それより細い根は切断するが、可能であれば直径 3cm 以上の根は環状剥皮をした方が良い（下図参照）。これより細い根は環状剥皮をしてもすぐに死んでしまうことが多いので剥皮の意味は少ない。  図-3　環状剥皮の方法（堀旅図） ■その他の配慮事項 ・根切りにおいては、樹木医、造園施工管理技士（1 級）、植栽基盤診断士のいずれかの立ち会いの下で鋭利な刃物で切断し、切断面に防菌癒合剤塗布を行う。 ・埋戻し箇所の土壌は、根系の発育を促進させるため、バーク堆肥等を含む改良土を埋め戻すことを検討する。 ・埋戻し完了後は十分に水極めを行う。

注 1）本資料は現時点での検討中の内容であり今後変更される可能性がある。
注 2）根の周りの皮を剥ぐことにより一時的に根まで栄養が回らなくなるようにして、剥いだ部分より上に栄養を蓄積させる処理。
注 3）建築設計、構造設計及び施工計画の専門家へのヒアリング結果に基づき、上記環境保全のための措置を記載。
注 4）一部「街路樹管理マニュアル」（令和 4 年 2 月　国土交通省関東地方整備局、東京国道事務所）等を参考に記載。

【参考】評価書より抜粋

表8.6-35(3)　4列いちょう並木の保全に向けた根系に対する配慮について（3/3）

根系を保護するための方法	■設計・施工計画段階における配慮事項 ・樹木の状態を把握しながら、適切な時期に施行できるよう、工程に余裕をもって対応する。 ・施工計画書に、地下掘削等の工事を実施するに際し、根系の保護に留意することを明記する。 ・根系調査の結果を踏まえ根を守るゾーンを設定し、この範囲内の根系を保護する。 ・根を守るゾーンとそれ以外のゾーンとの境界については、いちょうの根系の太さ、密度などを基に樹木医、設計者、施工者等により判断する。 ・樹木の周辺の舗装は根を守るゾーンにおいて浮き床方式※を採用し、支持基礎についても最小限で検討する。 ※「舗装の浮き床方式」：地面に直接舗装板・ブロックを敷設するのではなく、舗装ブロックを支持する束上の基礎に地面から浮かせる形式の舗装床。支持基礎を最小限にすることで、基礎以外の範囲は客土を敷設することが可能となり、根系の領域を最大限確保することが可能。 ■施工段階における配慮事項 ・工事中においても適宜、樹木医等の立ち会い指導を受ける。 ・調査によって根が把握された範囲を明示し、その上に重機を通さないように配慮することで、根への負担を軽減する。 ・工事用車両の出入りに際しても、4列のいちょう並木沿いの歩道を跨がないよう出入口を配置し、施工は球場の内側から行うことで、根への負担を軽減する。 ・仮囲いは置基礎タイプとして打ち込まず根に配慮する。 ・根系範囲内の掘削は、人力施工等により行い、根の切断を防ぐよう配慮する。なお、露出した根は乾燥しないように適宜散水を行うか、マルチングシート材等で保護する。

注1）本資料は現時点での検討中の内容であり今後変更される可能性がある。
注2）建築設計、構造設計及び施工計画の専門家へのヒアリング結果に基づき、上記環境保全のための措置を記載。
注3）一部「街路樹管理マニュアル」（令和4年2月　国土交通省関東地方整備局、東京国道事務所）等を参考に記載。

【参考】事後調査報告書（工事の施行中その１）より抜粋

(3) 土壌環境調査結果（仮移植先）

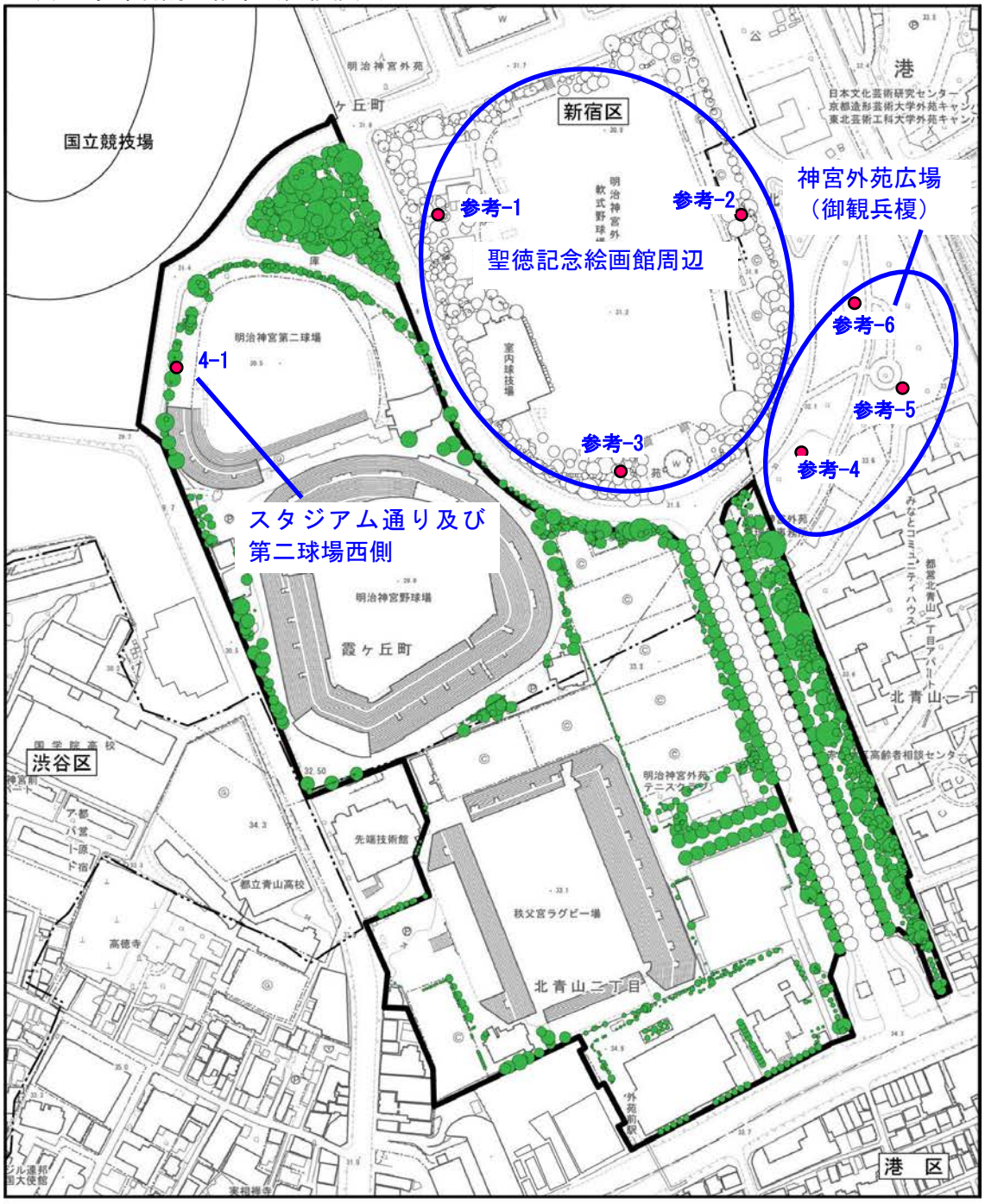


図 3-1　土壌環境調査地点

【参考】事後調査報告書（工事の施行中その１）より抜粋

現地調査による仮移植先の透水及び硬度試験の結果は、表3-1、3-2に示すとおりである。また、土壌分析結果は、表3-3、3-4に示すとおりである。

現場の透水については良好であり、土壌硬度に関しては、可（締まった）、不良（固結）である。透水性は良いが締められ、硬い土壌となっている。

室内分析においてpHは中性域にあり、ほぼ良好である。電気伝導率は0.1ds/m以下が多く、貧栄養といえる。腐植は多く含まれ分解は進んでいる。陽イオン交換容量は高く、肥料成分を多く保持できる土壌である。交換性カルシウムは非常に多く含まれ、塩化カルシウムや石灰改良、セメント改良、砕石等の過去における添加が行われた結果と推測される。有効態リン酸は非常に少ない。有効水分は地点により変化するが、極不良の40L/m^{3}未満はない。粒径組成は判断基準では不良に当る軽埴土（LiC）・シルト質埴土（SiC）、良の砂質埴壌土（SCL）である。

表 3-1　土壌環境調査判定基準（透水及び硬度試験）

透水性の判定基準（長谷川式簡易現場透水試験器による）

減水速度（最終減水能）（mm/hr）	10 以下	10～36	36～100	100 以上
土壌の排水性判定	不良	やや不良	可	良好

土壌硬度の判定基準（長谷川式土壌貫入計による）

長谷川式土壌貫入計 S 値(cm/drop)	根の伸長の可否	土壌硬さの表現	(参考:山中式硬度計)(mm)
0.7 以下	多くの根が伸長困難	××（固結/不良）	27 以上
0.7～1.0	根系発達に障害有り	×（硬い/不良）	24～27
1.0～1.5	樹種によっては多少阻害される	△（締まった/可）	20～24
1.5～4.0	根系発達に障害なし	○(柔らかい/良好)	11～20
4.0 以上	膨軟過ぎ・支持力不足	△（軟らかすぎ）	11 以下

注）評価書 p.321 より抜粋

表 3-2　土壌環境調査結果（透水及び硬度試験）

透水試験及び硬度判定結果

エリア	地点	透水試験結果	貫入試験による硬度判定結果
スタジアム通り及び第二球場西側	4-1	良好	××(固結)
聖徳記念絵画館周辺	参考-1	良好	△(締まった)
	参考-2	良好	△(締まった)
	参考-3	良好	××(固結)
神宮外苑広場(御観兵榎)	参考-4	良好	××(固結)
	参考-5	良好	××(固結)
	参考-6	良好	××(固結)

注）地点 4-1 及び聖徳記念絵画館周辺については評価書 p.322 より抜粋。
神宮外苑広場（御観兵榎）については 2022 年 10 月上旬に調査を実施。

【参考】事後調査報告書（工事の施行中その１）より抜粋

表 3-3　土壌環境調査結果（土壌分析結果・化学性）

地点名	分析項目 試料名	pH(H_2O) [液温℃]	電気伝導率 (EC) dS/m	有機炭素 C g/kg*	腐植 g/kg*	全窒素 N g/kg*	C/N	陽イオン交換容量 (CEC) $cmol_c/kg$*	交換性カルシウム CaO mg/kg*	 ($cmol_c/kg$*)	可給態リン酸 P_2O_5 mg/kg*
スタジアム通り及び第二球場西側	4-1　上層	8.1　[21]	0.09	14.7	25.3	1.25	12	21.5	7740	27.6	71
聖徳記念絵画館周辺	参考-1　上層	6.1　[21]	0.09	107	184	6.96	15	51.7	7480	26.7	15
	参考-2　上層	6.4　[21]	0.06	55.7	96.0	4.38	13	35.2	5890	21.0	93
	参考-3　上層	7.1　[21]	0.08	30.3	52.2	3.19	9	27.5	6940	24.7	767
	参考-2　下層	7.0　[21]	0.16	17.2	29.7	1.78	10	37.4	6290	22.4	10
神宮外苑広場（御観兵榎）	参考-4　上層	6.6　[21]	0.09	99.2	171	7.61	13	49.7	8750	31.2	14
	参考-5　上層	6.5　[21]	0.08	119	206	9.82	12	58.5	11600	41.3	16
	参考-6　上層	6.8　[21]	0.13	113	194	8.64	13	60.4	13600	48.4	23
	参考-5　下層	6.2　[21]	0.04	18.6	32.1	1.72	11	34.5	1670	6.0	9>

【特記事項】
(1)　単位はSI単位を基本に表示（但し、組成割合を示す項目は％表示）。単位の*印は乾土あたり。
(2)　腐植は、有機炭素×1.724で算出。
(3)　C/Nは、有機炭素／全窒素で算出。
(4)　>は、定量下限値未満。

注）地点 4-1 及び聖徳記念絵画館周辺については評価書資料編 p. 474 より抜粋。神宮外苑広場（御観兵榎）については 2022 年 10 月上旬に調査を実施。

表 3-4　土壌環境調査結果（土壌分析結果・物理性）

地点名	分析項目 試料名	体積含水率 vol% pF1.8	 pF3.0	有効水分 (pF1.8-3.0) L/m^3	仮比重 Mg/m^3*	礫含有量 wt%*	粒径組成 wt%* 粗砂 2.0-0.20mm	 細砂 0.20-0.02mm	 シルト 0.02-0.002mm	 粘土 0.002mm未満	土性 (国際土壌学会法)
スタジアム通り及び第二球場西側	4-1　上層	40.9	33.1	78	0.95	3.7	40.4	21.9	16.1	21.6	SCL
聖徳記念絵画館周辺	参考-1　上層	60.7	54.7	60	0.55	0.4	10.6	37.8	26.1	25.5	LiC
	参考-2　上層	45.6	37.6	80	0.78	7.5	34.5	27.7	15.4	22.4	SCL
	参考-3　上層	39.4	29.1	103	0.91	1.7	42.7	21.7	16.5	19.1	SCL
	参考-2　下層	46.3	35.7	106	0.68	2.9	5.0	7.4	47.4	40.2	SiC
神宮外苑広場（御観兵榎）	参考-4　上層	49.4	44.2	52	0.55	5.6	9.1	66.6	5.7	18.6	SCL
	参考-5　上層	52.1	41.6	105	0.53	1.6	12.6	47.5	19.6	20.3	SCL
	参考-6　上層	45.7	38.7	70	0.53	2.9	13.9	52.7	15.2	18.2	SCL
	参考-5　下層	61.4	55.0	64	0.59	1.3	4.9	18.1	39.7	37.3	LiC

【特記事項】
(1)　単位はSI単位を基本に表示（但し、組成割合を示す項目は％表示）。単位の*印は乾土あたり。
(2)　有効水分pF1.8-3.0は、（体積含水率pF1.8－体積含水率pF3.0）×10で表示。仮比重は有効水分測定検体における測定値。
(3)　粒径組成は、粒径加積曲線から国際土壌学会による粒径区分で表示し、土性は、土性三角図表（国際土壌学会法）から求めた（ SCL ：砂質埴壌土、CL ：埴壌土、LiC：軽埴土、SiC：シルト質埴土）。

注）地点 4-1 及び聖徳記念絵画館周辺については評価書資料編 p. 475 より抜粋。神宮外苑広場（御観兵榎）については 2022 年 10 月上旬に調査を実施。